

特267-13



1200501125606

544
191

特267

13



祝奉典大御

報

會

號念記

會秋千

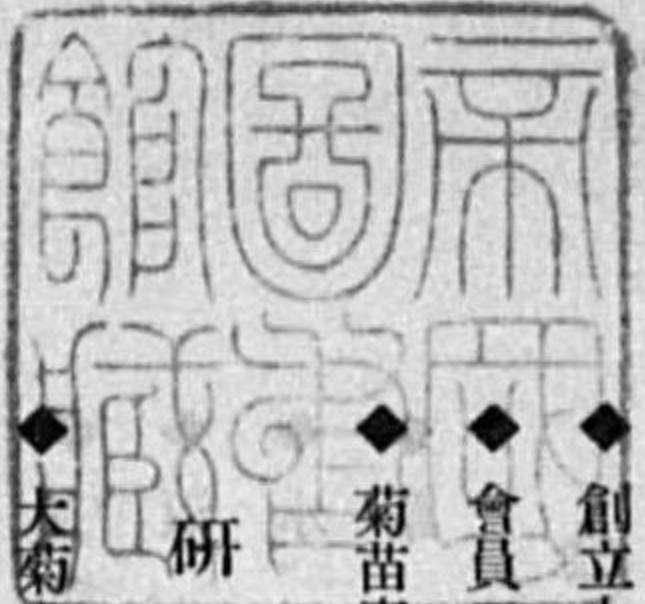
始



目次

報告欄

- ◆ 第十一回會務報告……………一
- ◆ 品評會出品報告……………三
 - ◎ 御大典奉祝出品……………三
 - ◎ 鉢植一本仕立……………四
 - ◎ 鉢植三本仕立……………四
 - ◎ 第一回切花會……………五
 - ◎ 第二回切花會……………六
 - ◎ 第三回切花會……………七
- ◆ 明治神宮例祭奉納出品報告……………七
- ◆ 昭和二年度收支決算報告……………八
- ◆ 昭和三年度寄附金品報告……………八
- ◆ 創立十週年記念寄附金品報告……………九
- ◆ 會員異動報告……………九
- ◆ 菊苗寄贈者芳名……………九
- ◆ 大菊の栽培要領……………一〇
- ◆ 大菊實生の要領……………一五
- ◆ 觀賞植物の殺菌劑……………一六

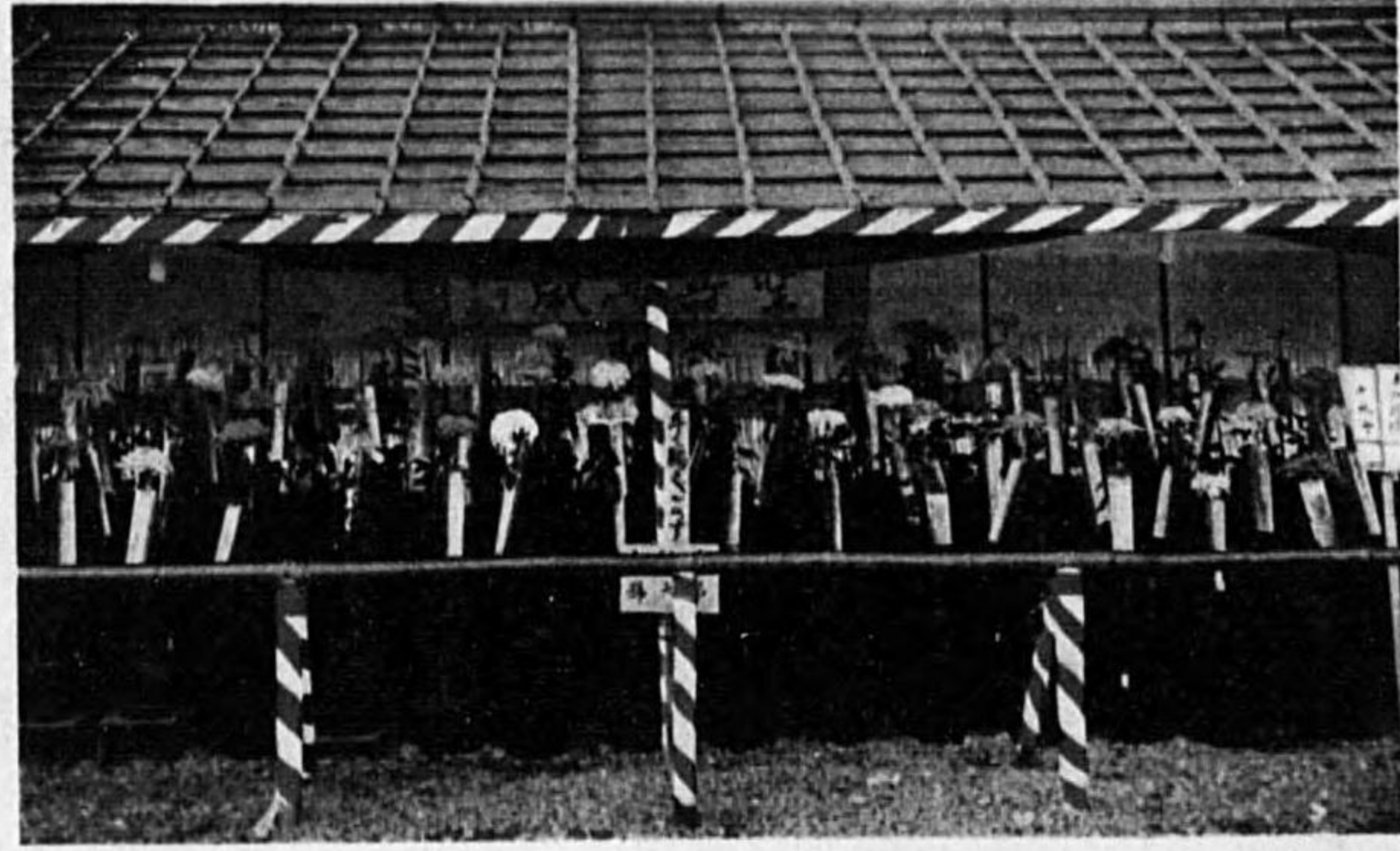


温交欄

- ◎ 横濱市の菊花大會に就て……………(東海生)……………一八
- ◎ 湯本支部へ出張の所感……………(隈部末應)……………一八
- ◎ 鹿沼支部出張の所感……………(竹内榮太郎)……………一九
- ◎ 通信……………(小泉見藏)……………一九
- ◎ 趣味としての菊作り……………(中根秀次郎)……………二〇
- ◎ 菊詩……………(田中貞三郎)……………二〇
- ◎ 和歌……………(市島貞三、近藤金彌、中根秀次郎)……………二二
- ◎ 養老天盃……………(笠羽清吉)……………二二

御大典奉祝花壇

(昭和三年十一月十日)



支部報告欄

- ◆ 大井支部 二二
- ◆ 湯本支部 二四
- ◆ 小金井支部 二四
- ◆ 横濱支部 二六
- ◆ 鎌倉支部 二七
- ◆ 高知支部 二八
- ◆ 福岡支部 二九
- ◆ 新發田支部 三〇
- ◆ 鹿沼支部 三〇
- ◆ 宇都宮支部 三三
- ◆ 浪華支部 三三
- ◆ 水戸支部 三三
- ◆ 藤澤支部 三三

公告欄

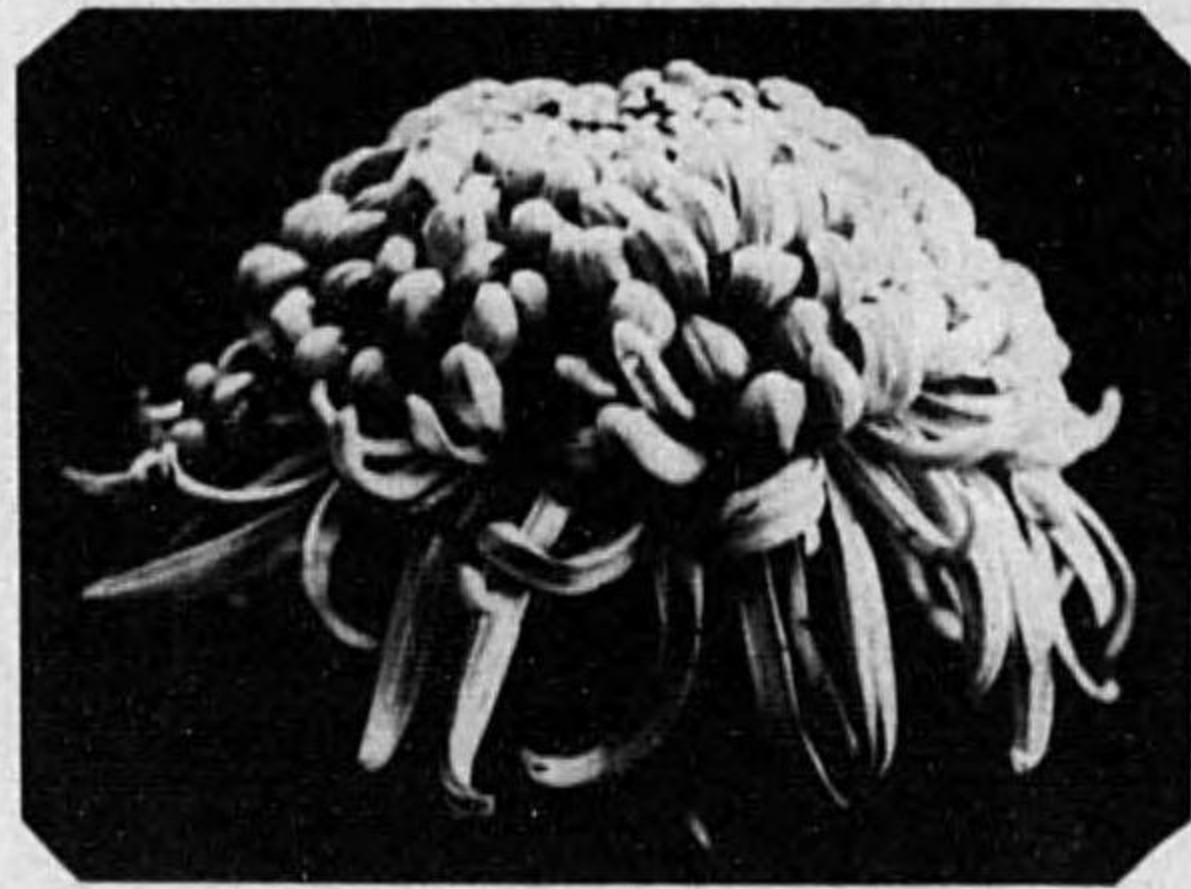
- ◎ 特別奨励賞廣告 三三
- ◎ 栽培用品の購入 三三
- ◎ 希望通りの苗を得るには 三四
- ◎ 殺虫劑 三四

附録會則及名簿

- ◎ 會則 一
- ◎ 審査細則 二
- ◎ 支部設立規約 二
- ◎ 地方支部 三
- ◎ 役員 三
- ◎ 會員 五

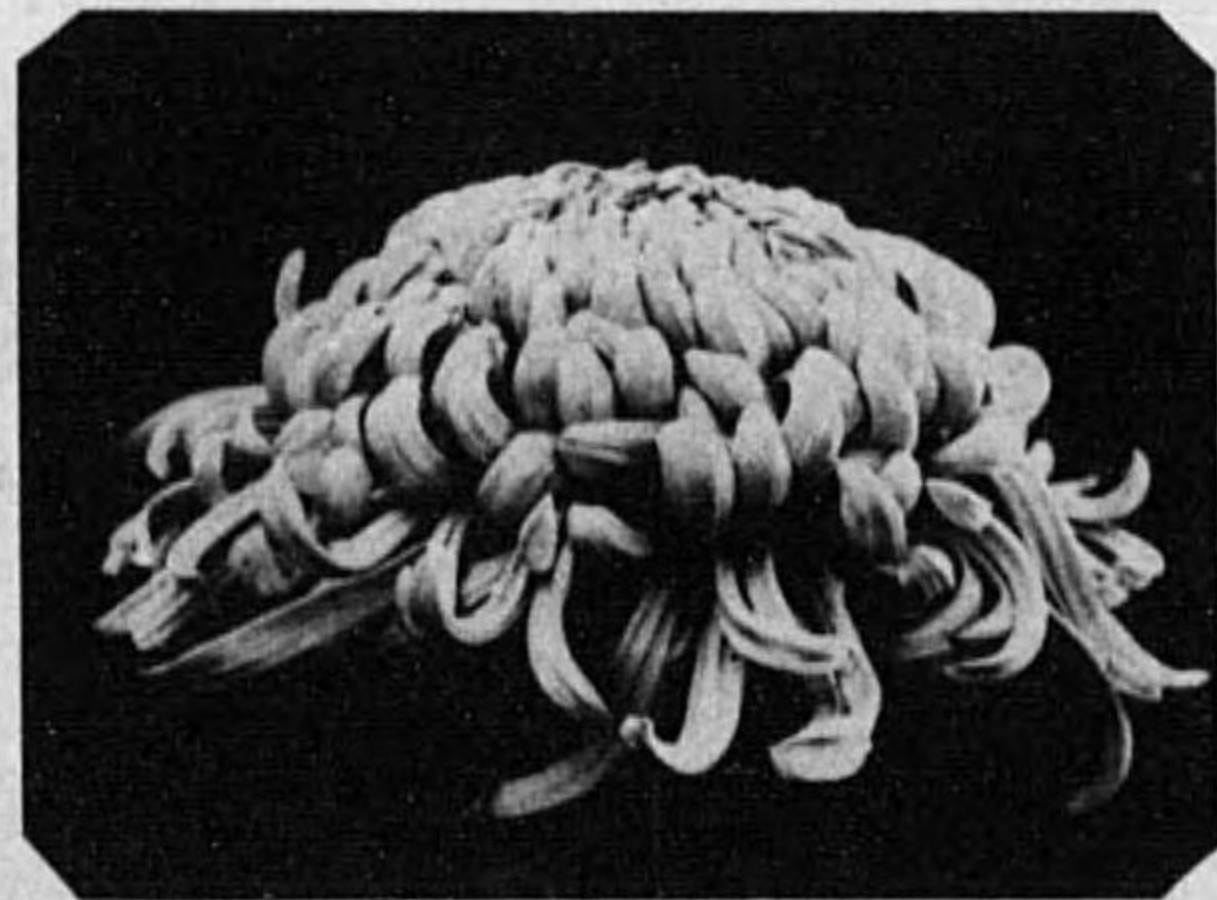
目次

御大典奉祝切花特別競技花 (十一月三日)

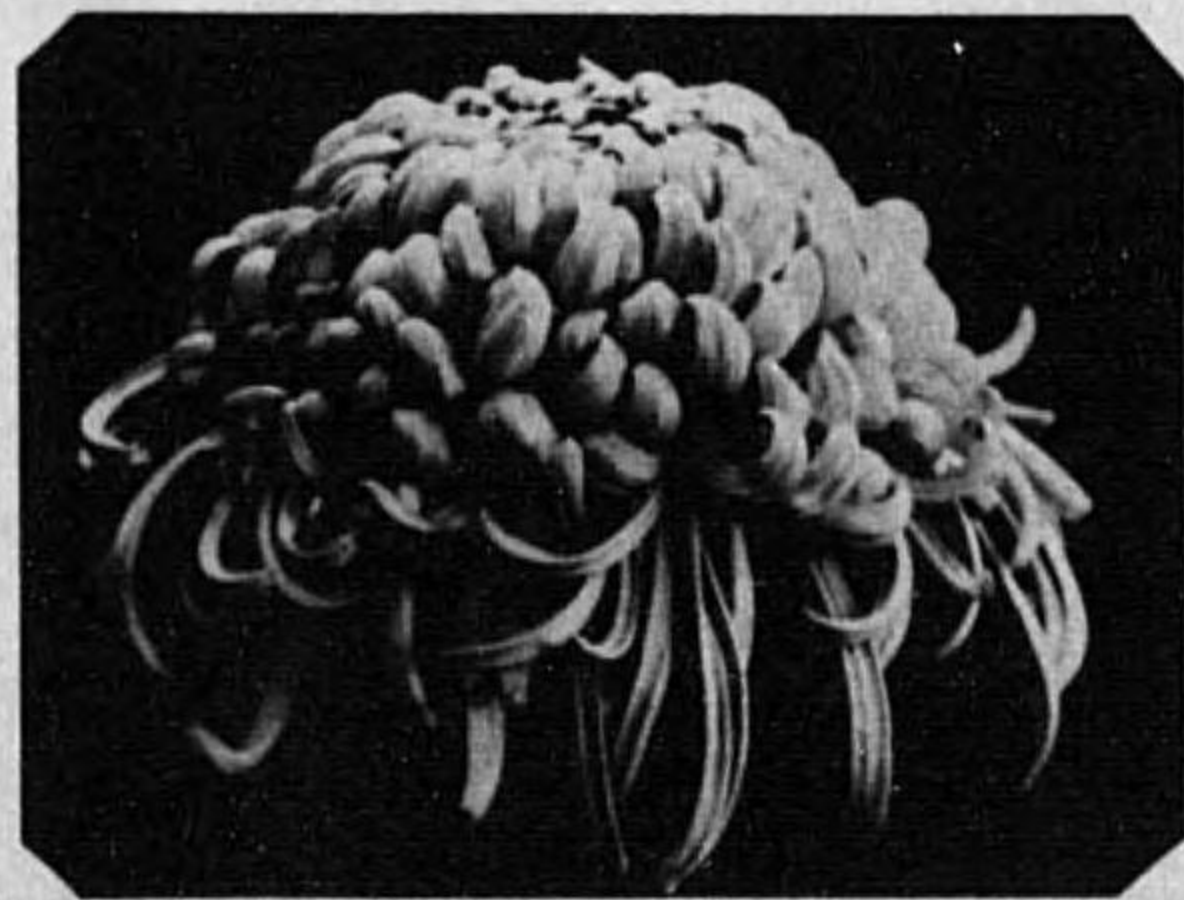


天位 日南田七

歸
去
來

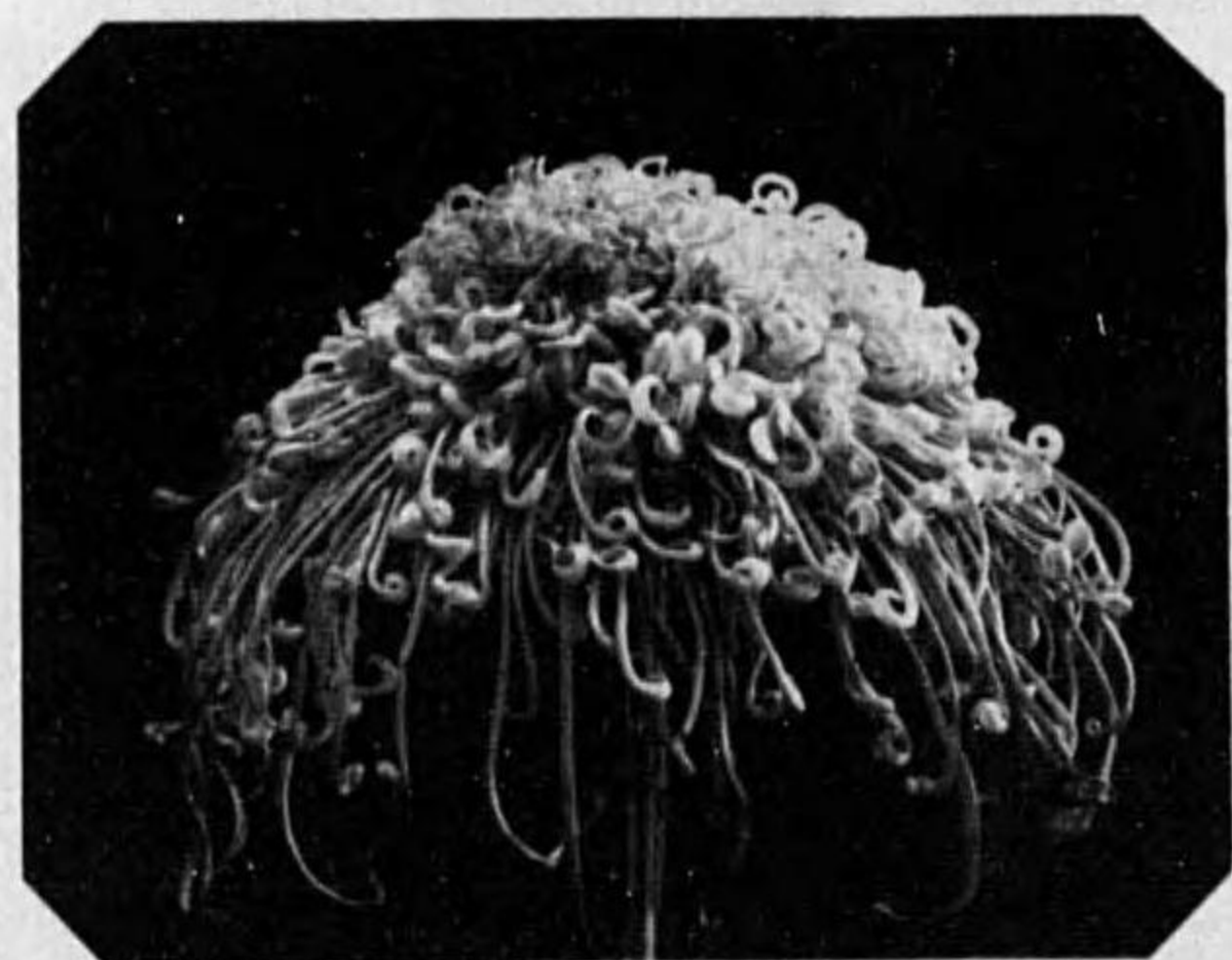


人位 石塚讓



地位 佐々木榮次郎

切花特別競枝花 (十一月一日)



天位 中山 清

十六夜

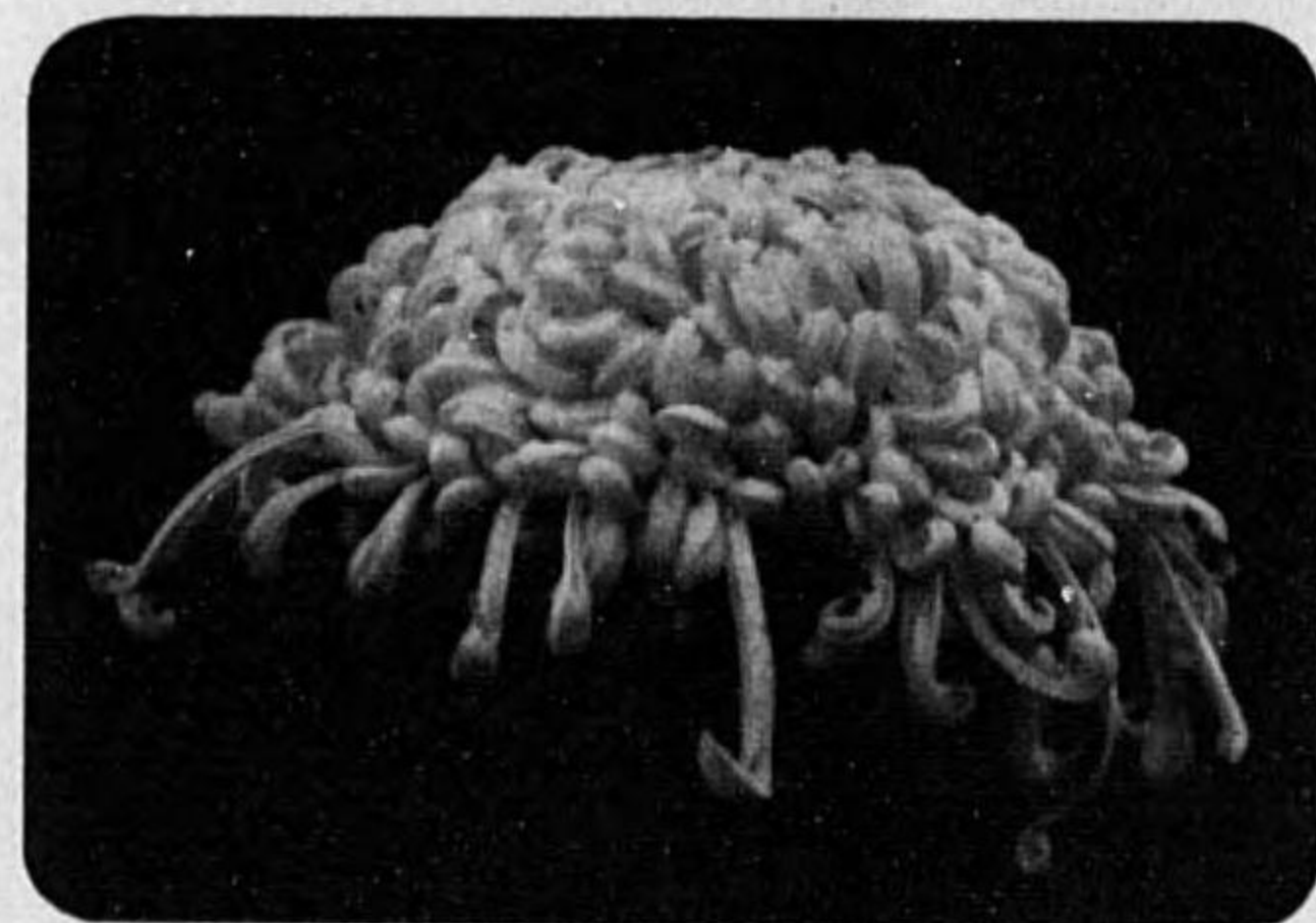


人位 鈴木 次郎



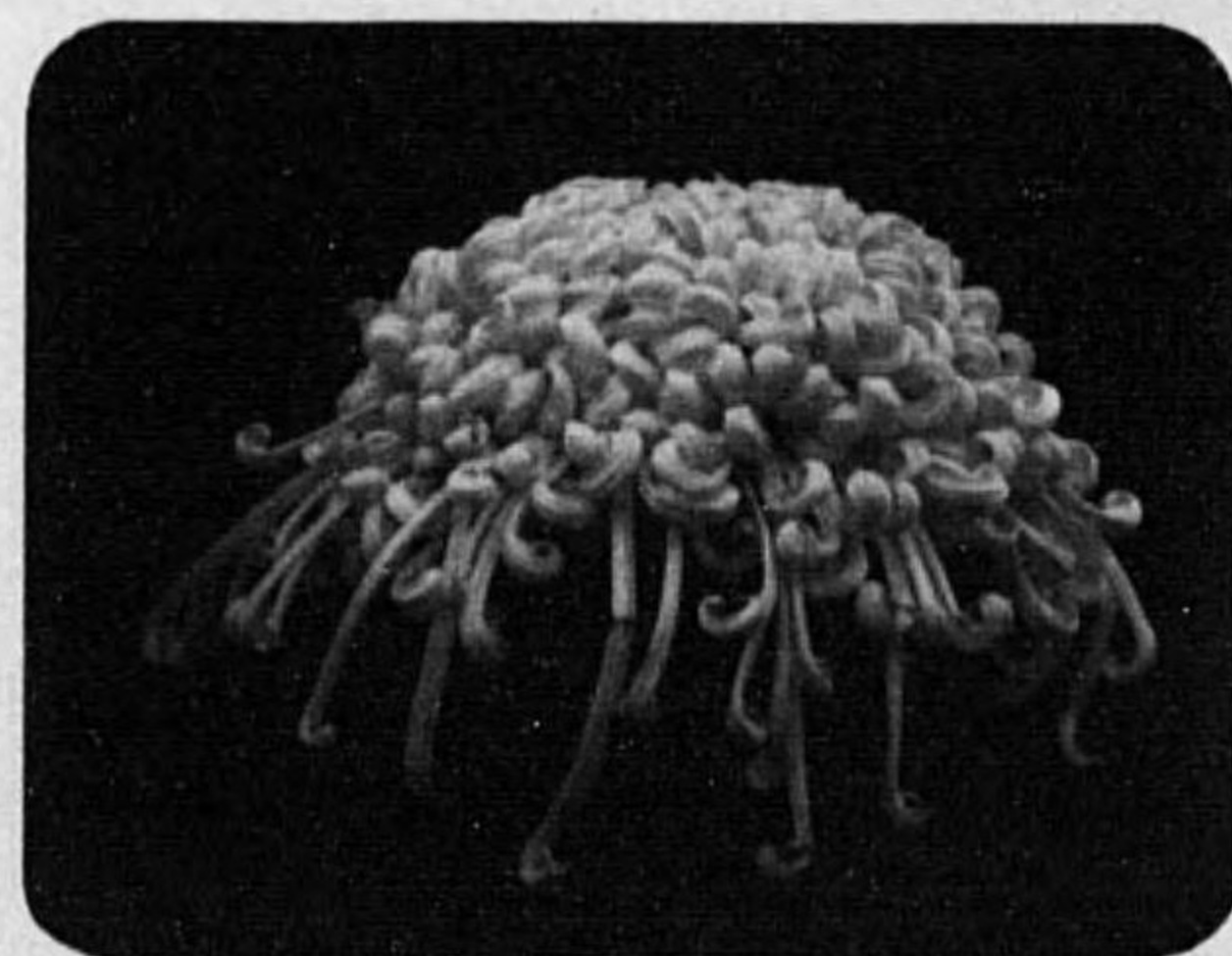
地位 西川 寛

（日八十月一十） 花 枝 競 別 特 花 切



吉又黒石 位 天

春
の
海



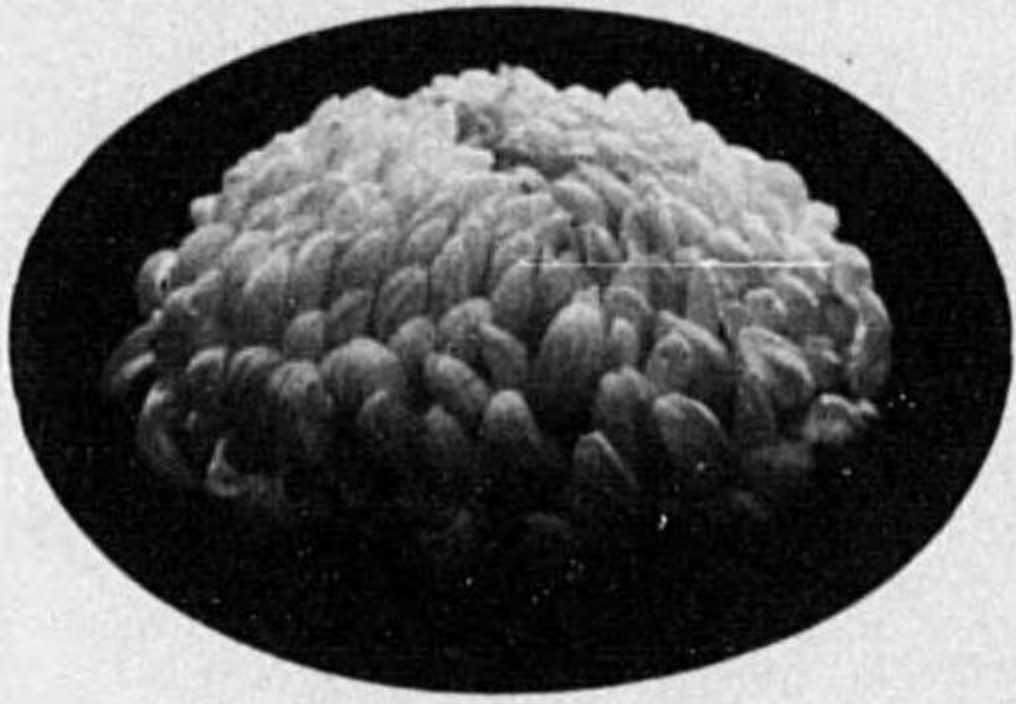
耶太吉村今 位 人



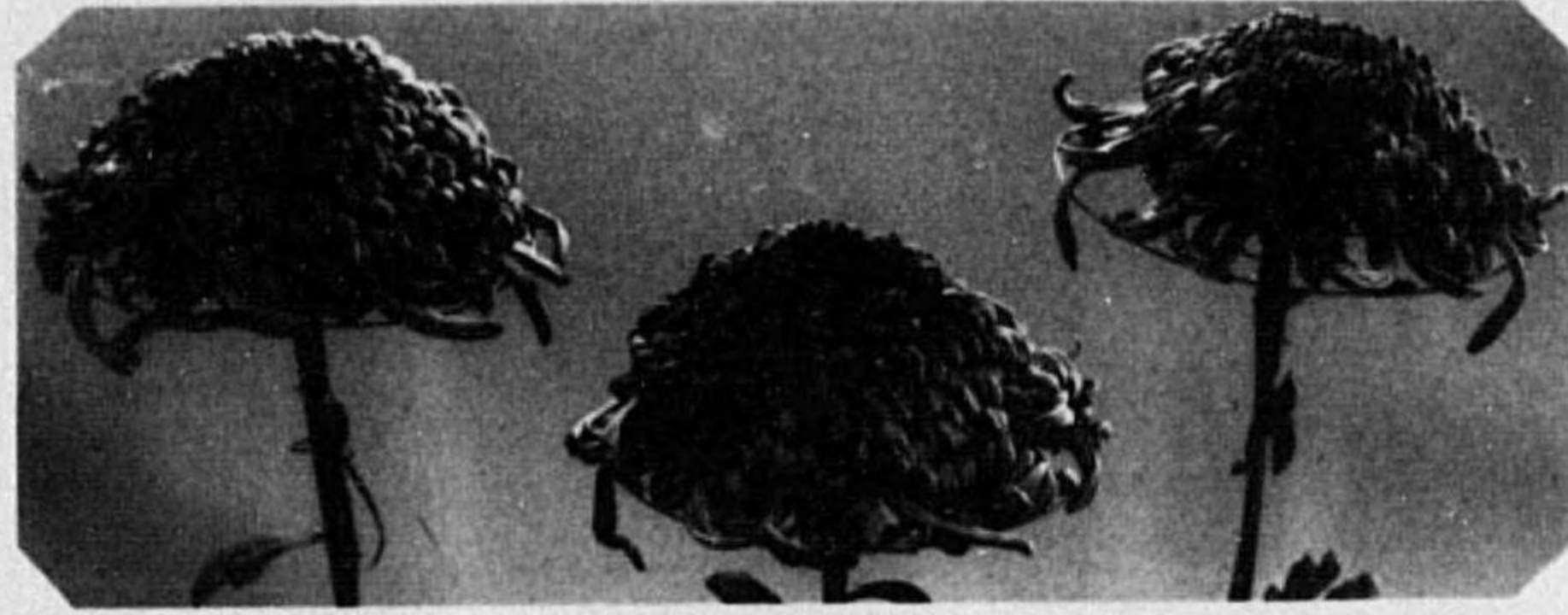
造菊林平 位 地

花考參養盆會大花菊谷比日

真如月
深井清博



地球寶
深井清博



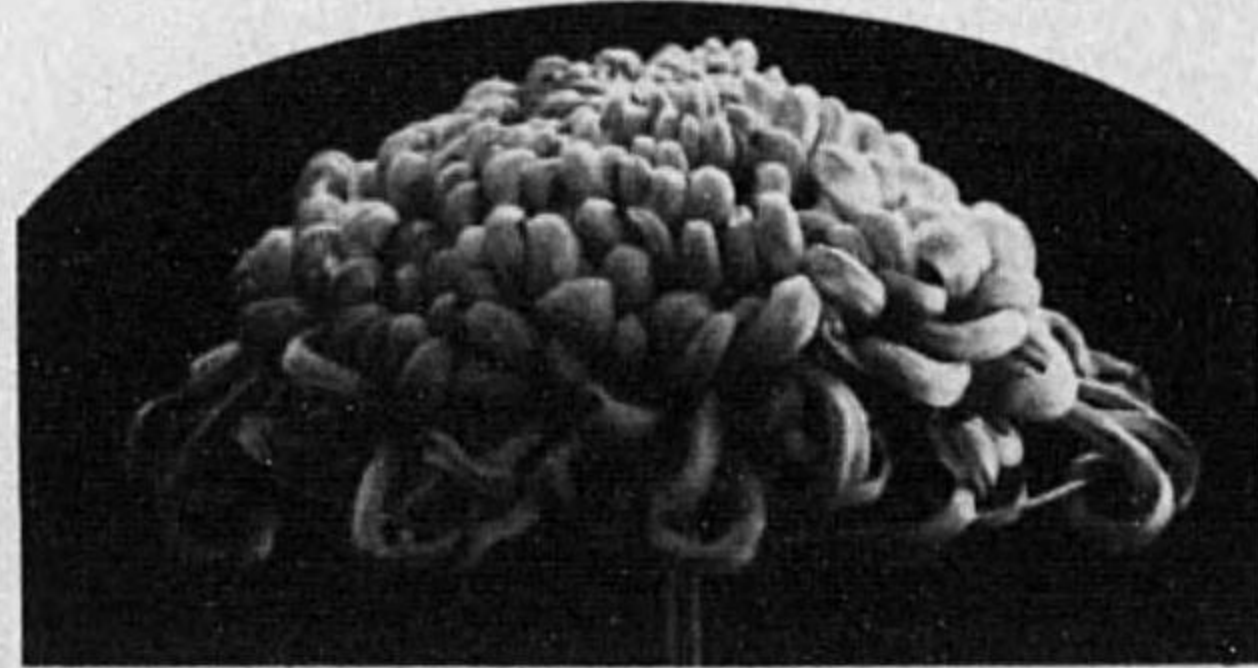
孔雀戲
泉川信之助



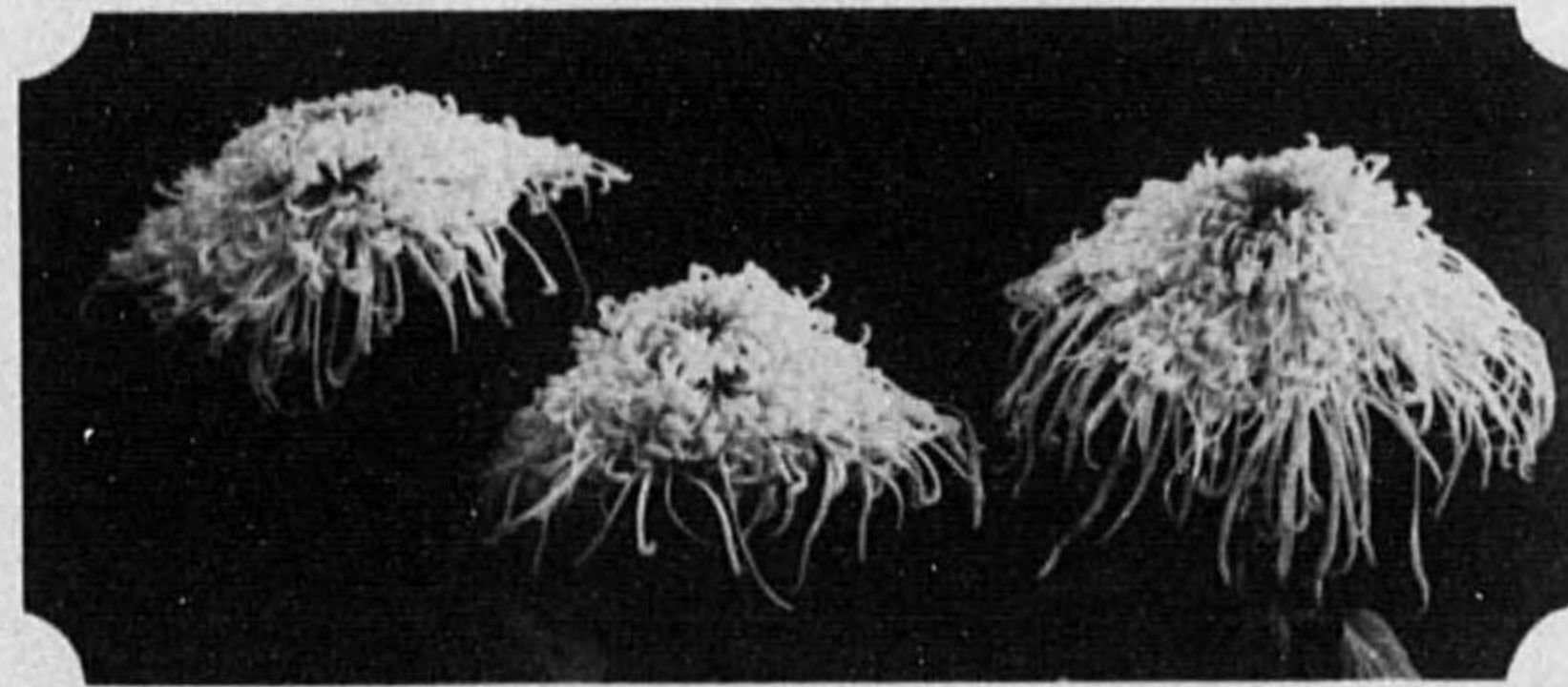
金紅龍
外紅黃
吉田庄次郎



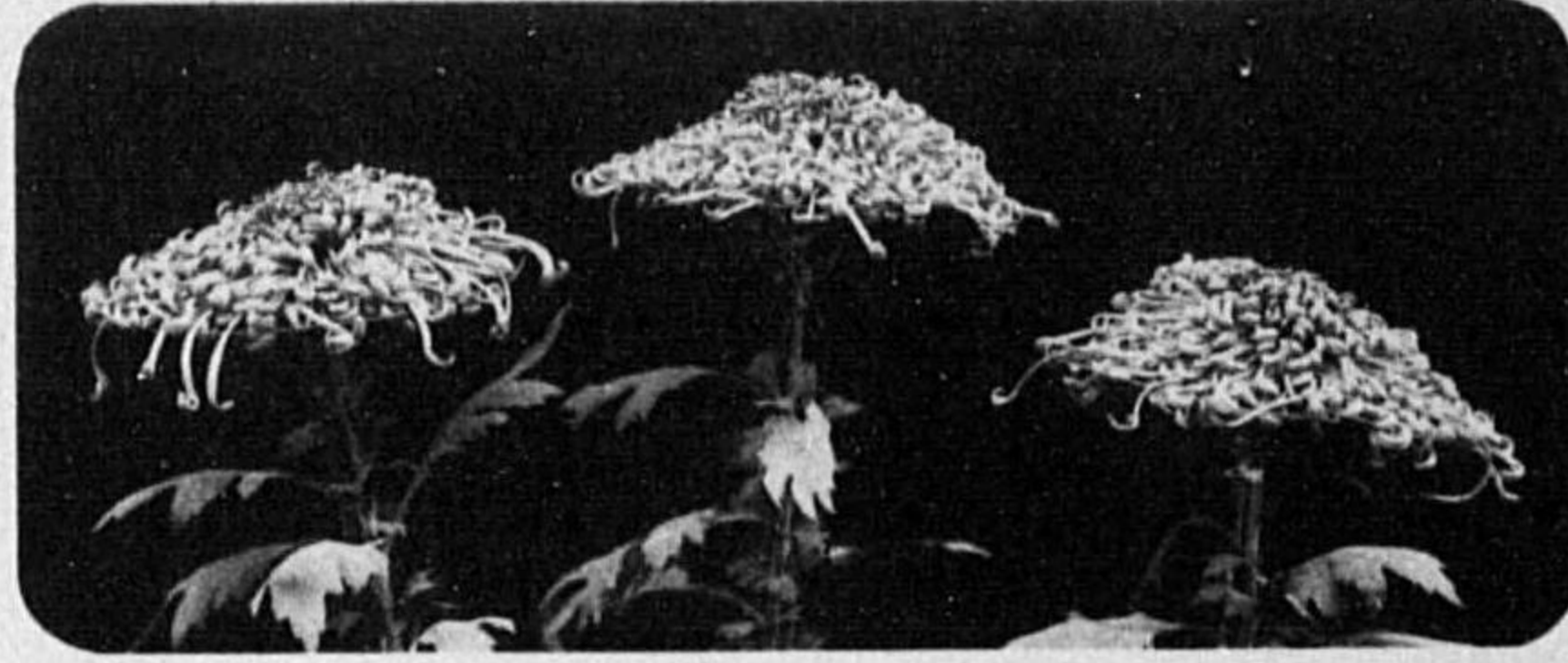
源氏供養
深井清博



福壽前
竹内榮太郎

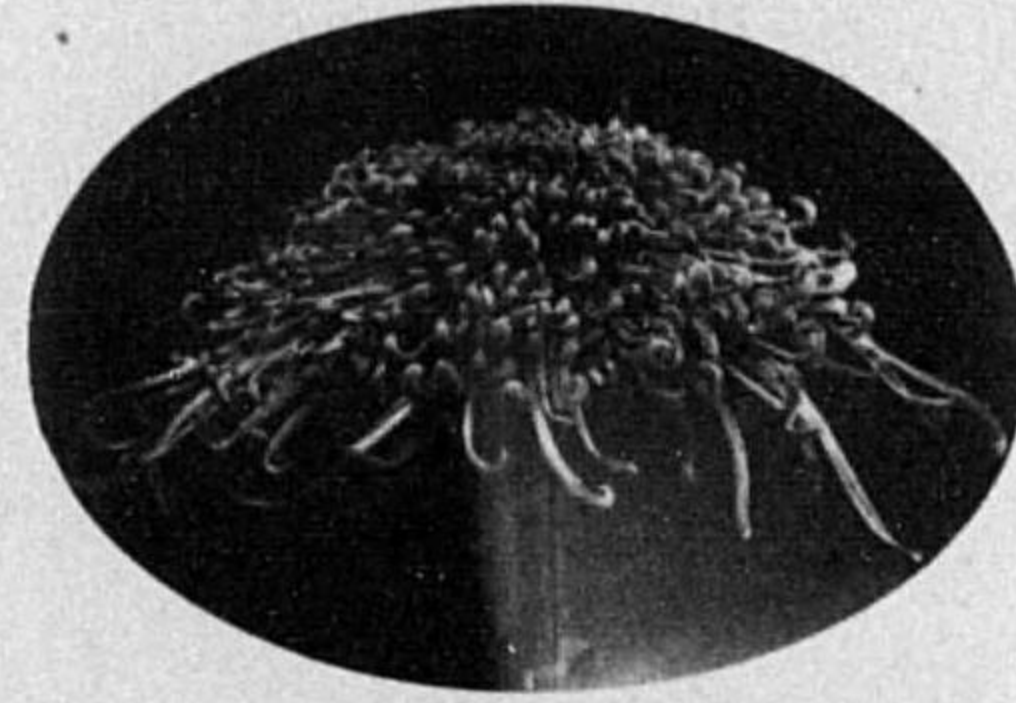


花考參會大花菊谷比日



精
興
光

深
井
清
徳



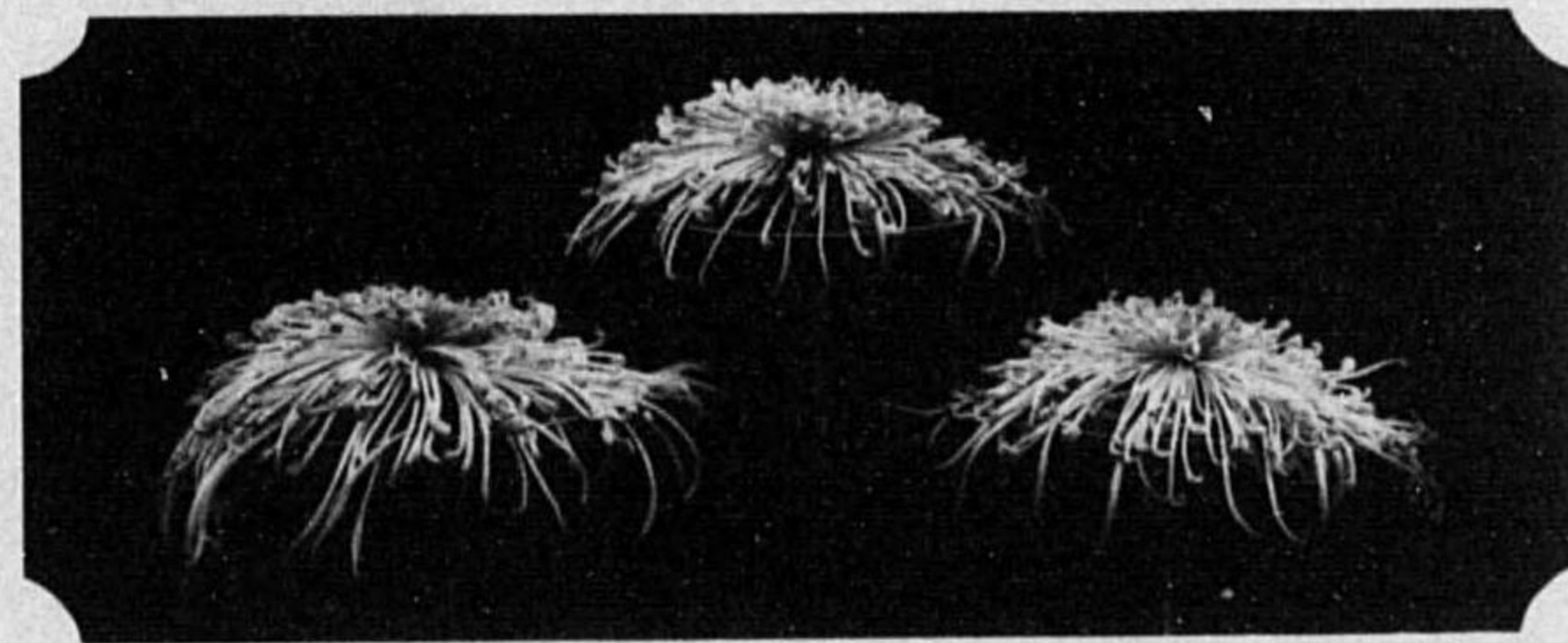
曉
照
間
黄

竹
内
榮
太
郎



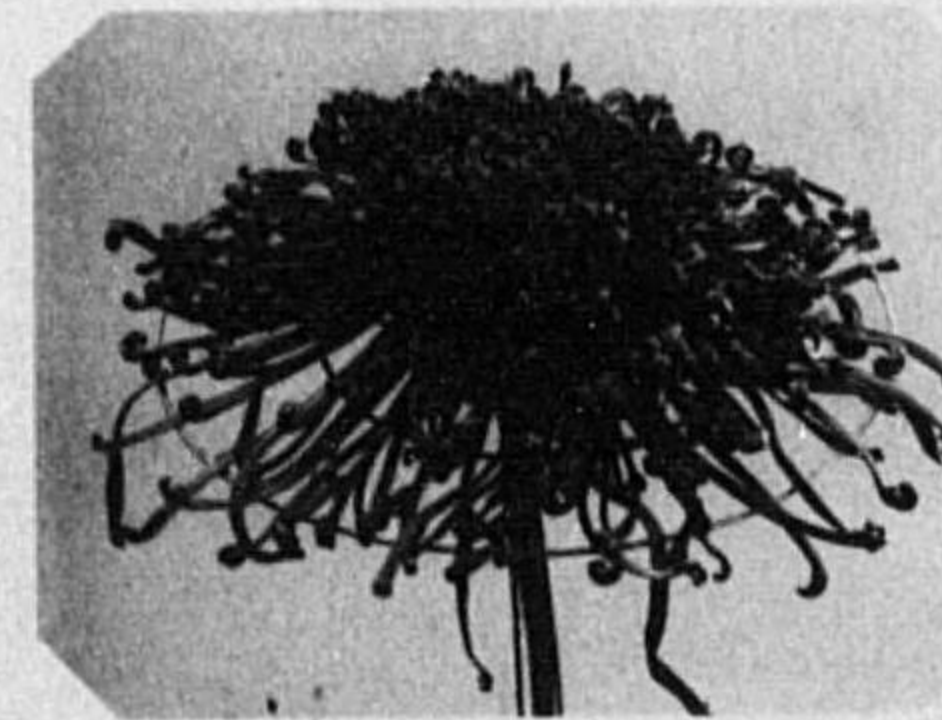
金
鷄
細
金
棒

竹
内
榮
太
郎



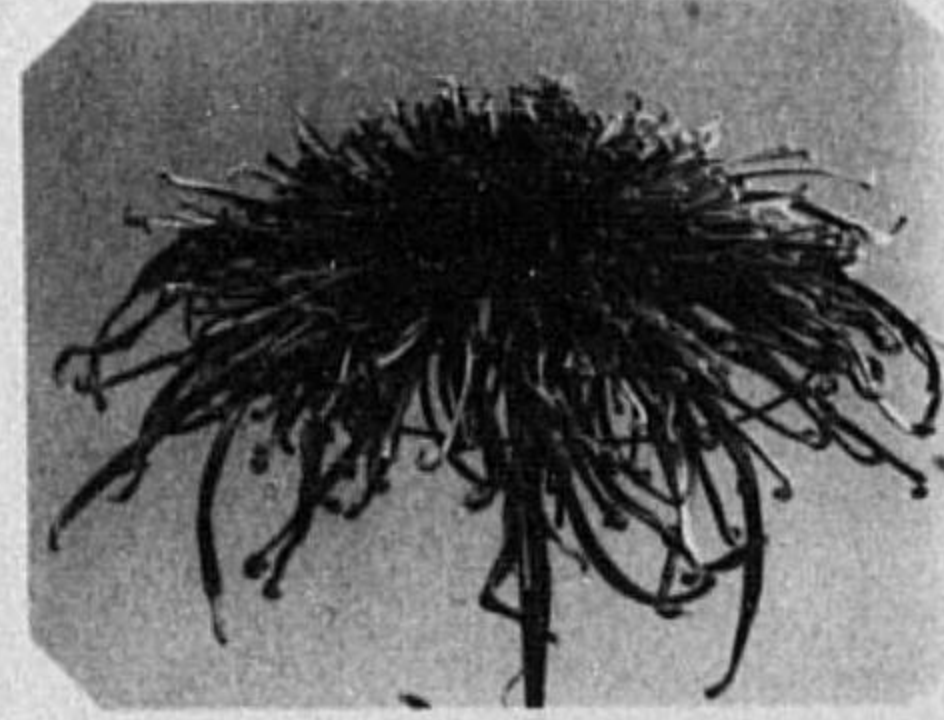
紫
雲
峰

竹
内
榮
太
郎



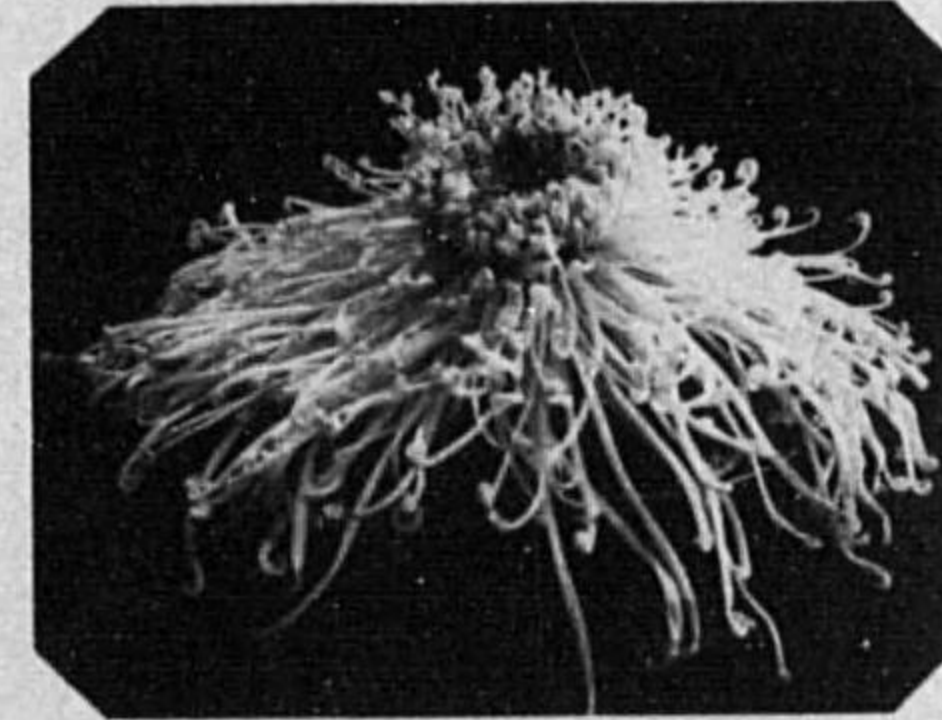
輝
鳳
の
舞
細
黄

山
手
義
則



神
殿
の
舞
細
紫

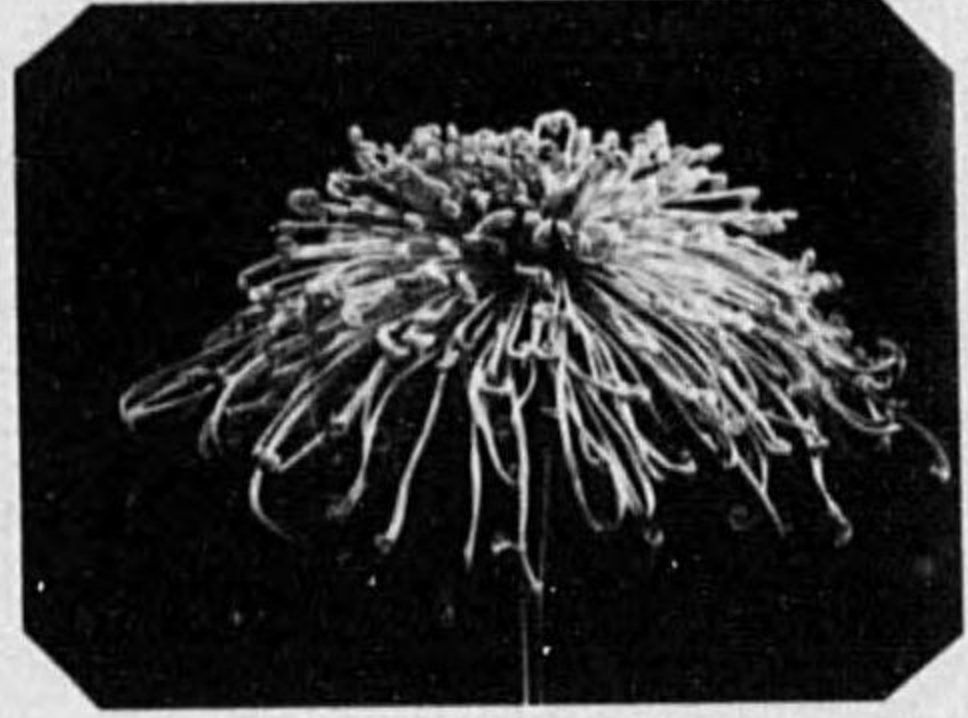
山
手
義
則



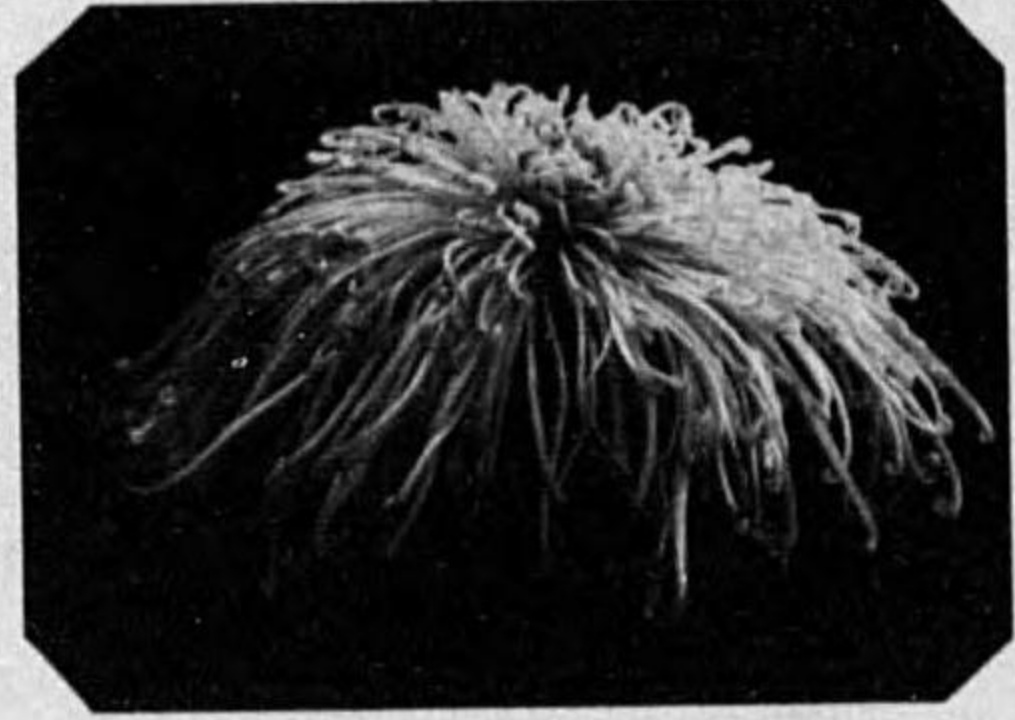
菊
の
玉
露
細
白

山
手
義
則

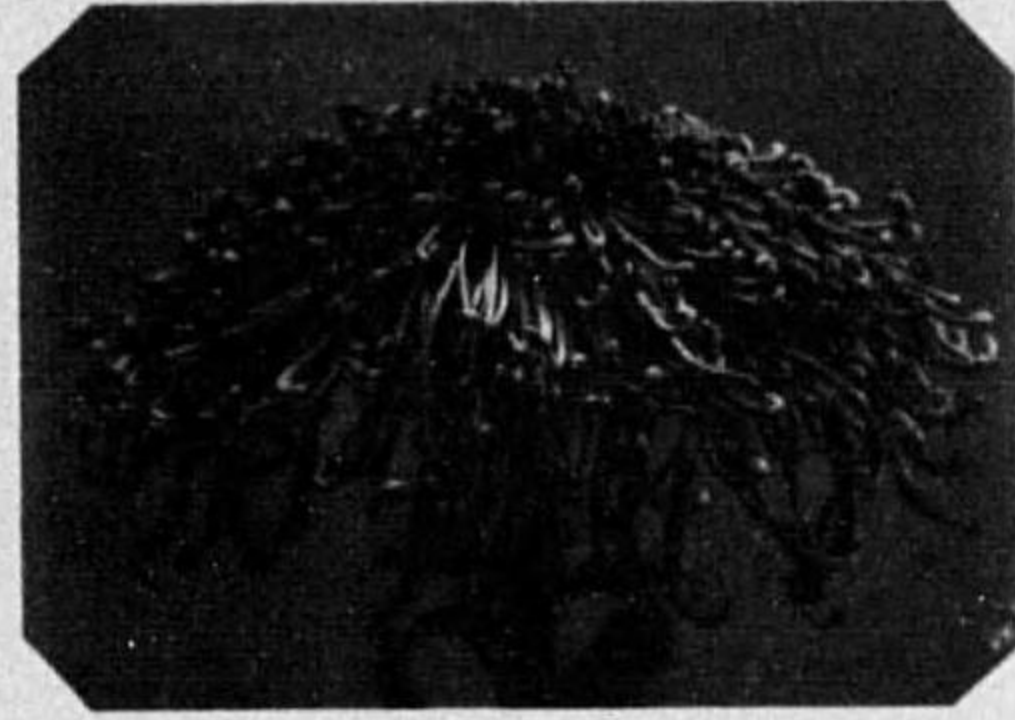
日比谷菊花大會新花(實生)



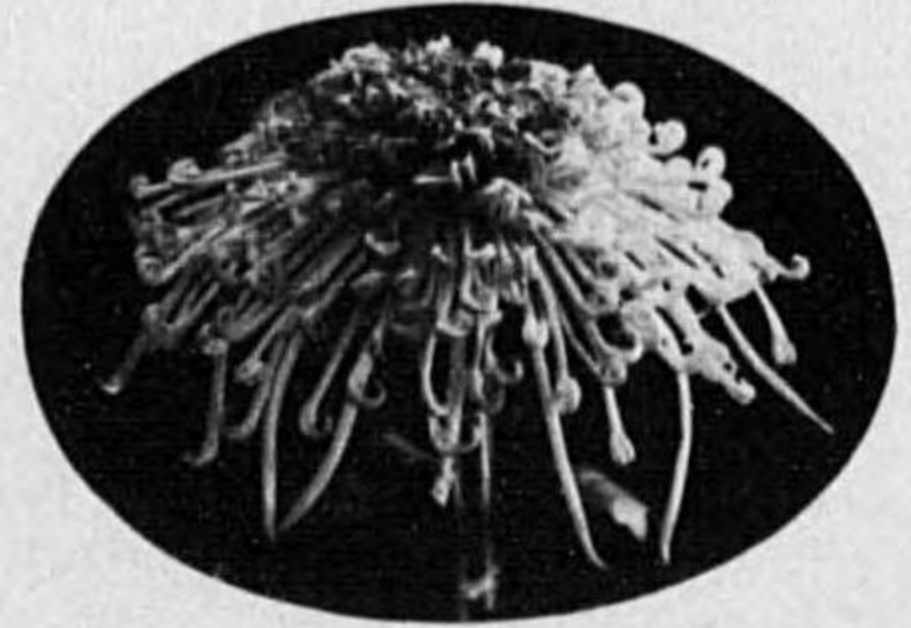
一等ノ一 八ツ房
黄竹内正修



優等ノ二 雪衣白
伊藤榮一郎



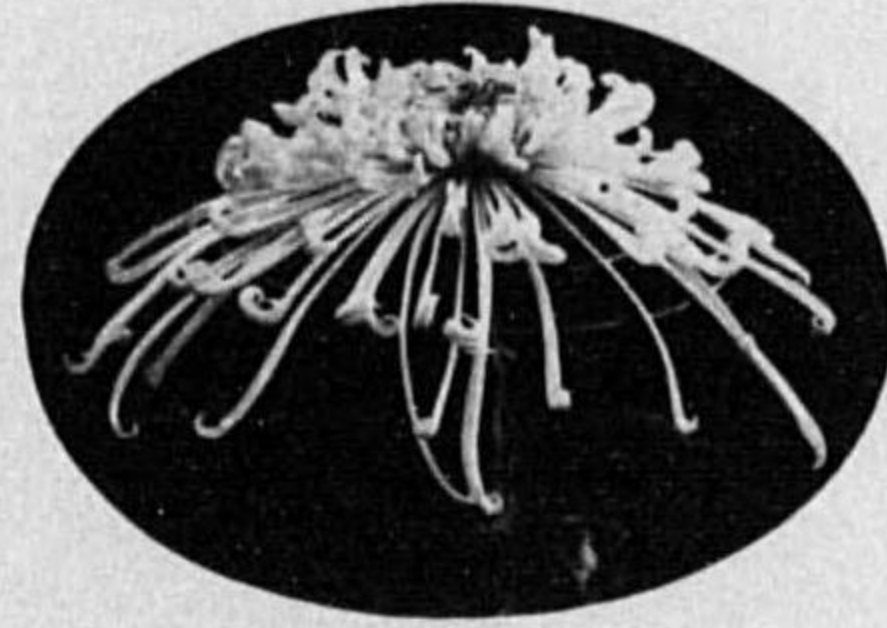
第一回切花
優等ノ一 天地壽
伊藤榮一郎



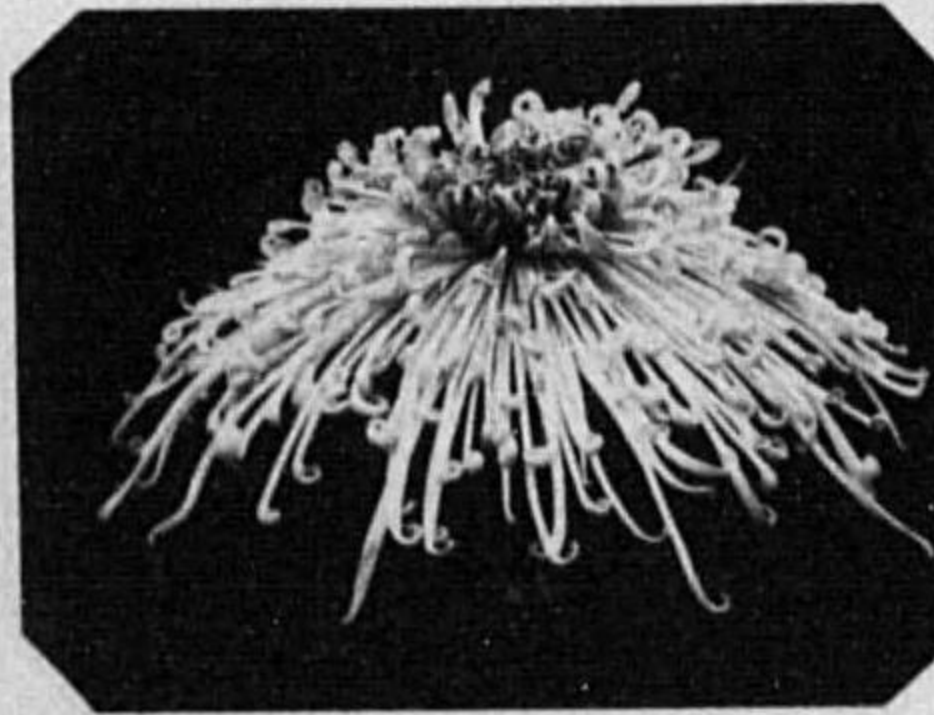
優等ノ三 無名
赤津小崎道



優等ノ二 神代の司
厚志 吉田庄次郎



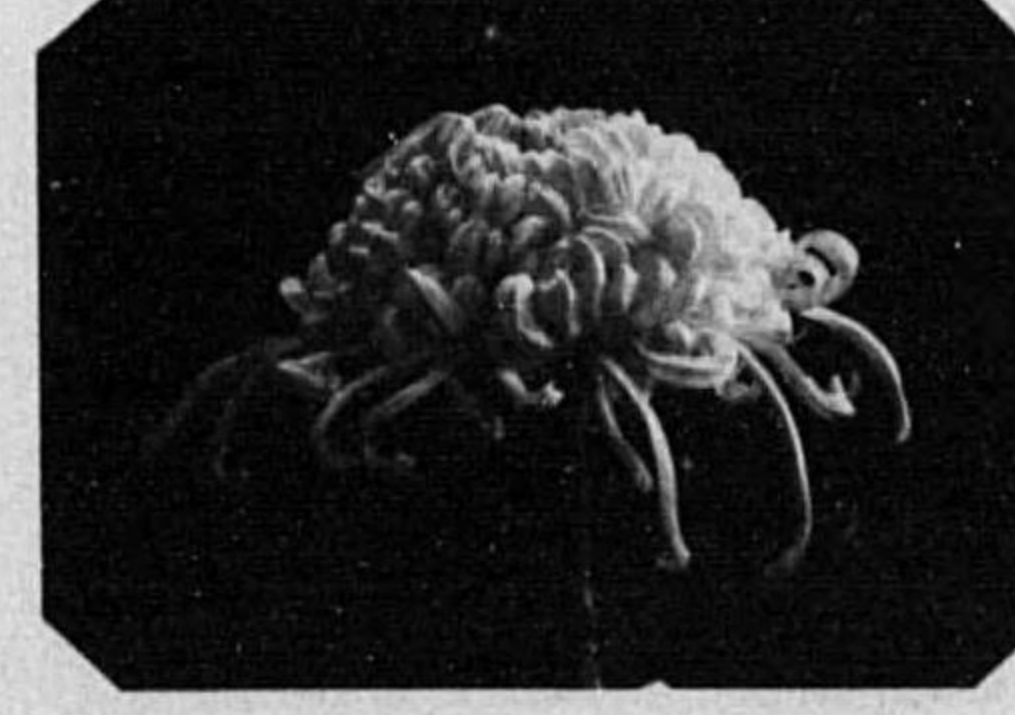
第二回切花
優等ノ一 清輝白
伊藤榮一郎



第三回切花
優等ノ一 月下水人
白横堀辰男

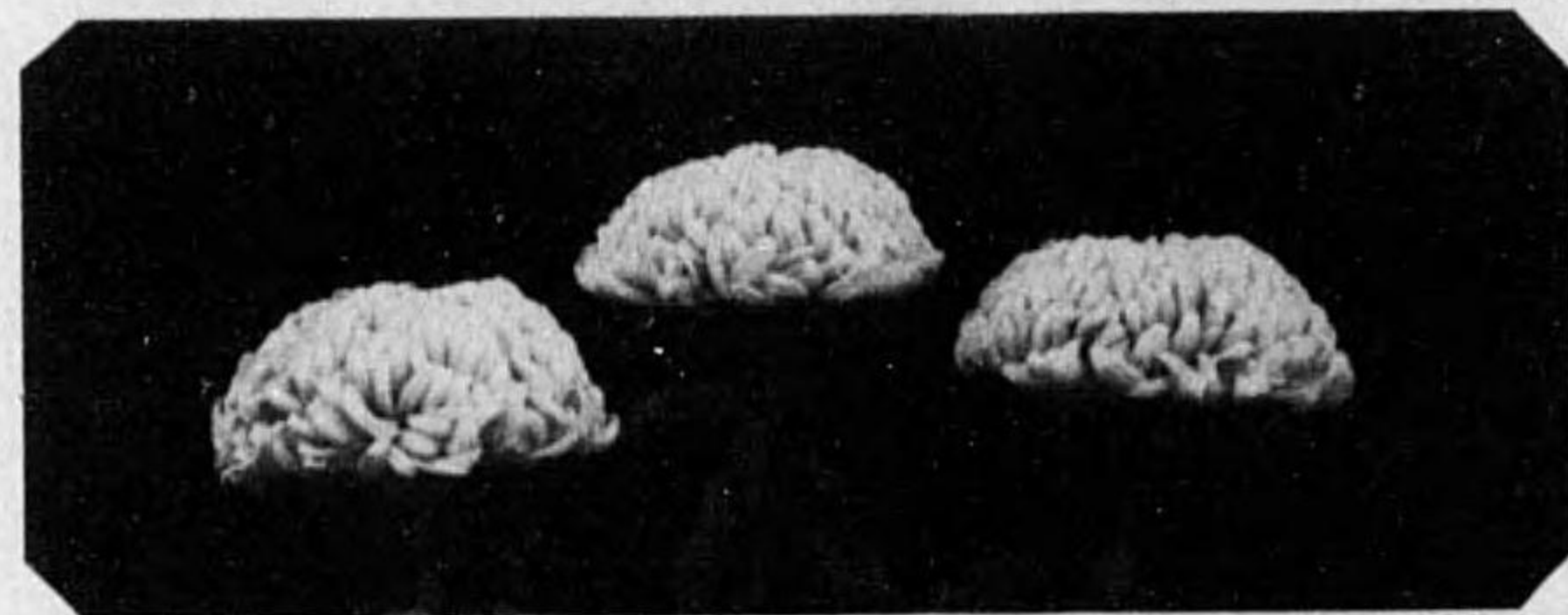


一等ノ二 高御座
白豊田賢造

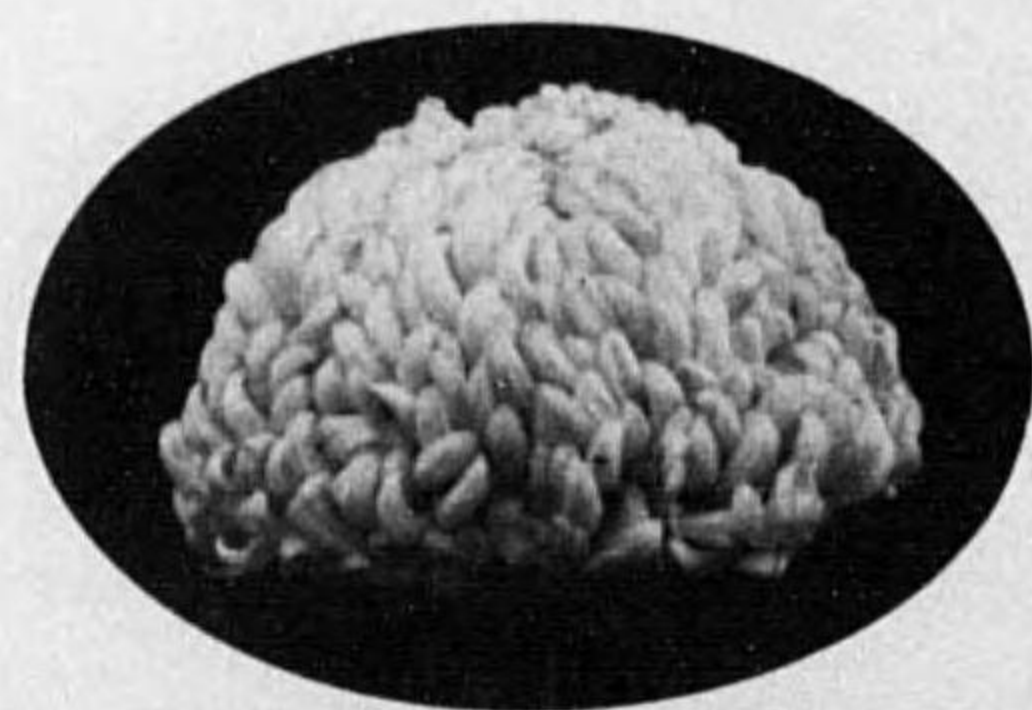


第二回切花
一等ノ二 千代茶
厚志 渡邊忠次

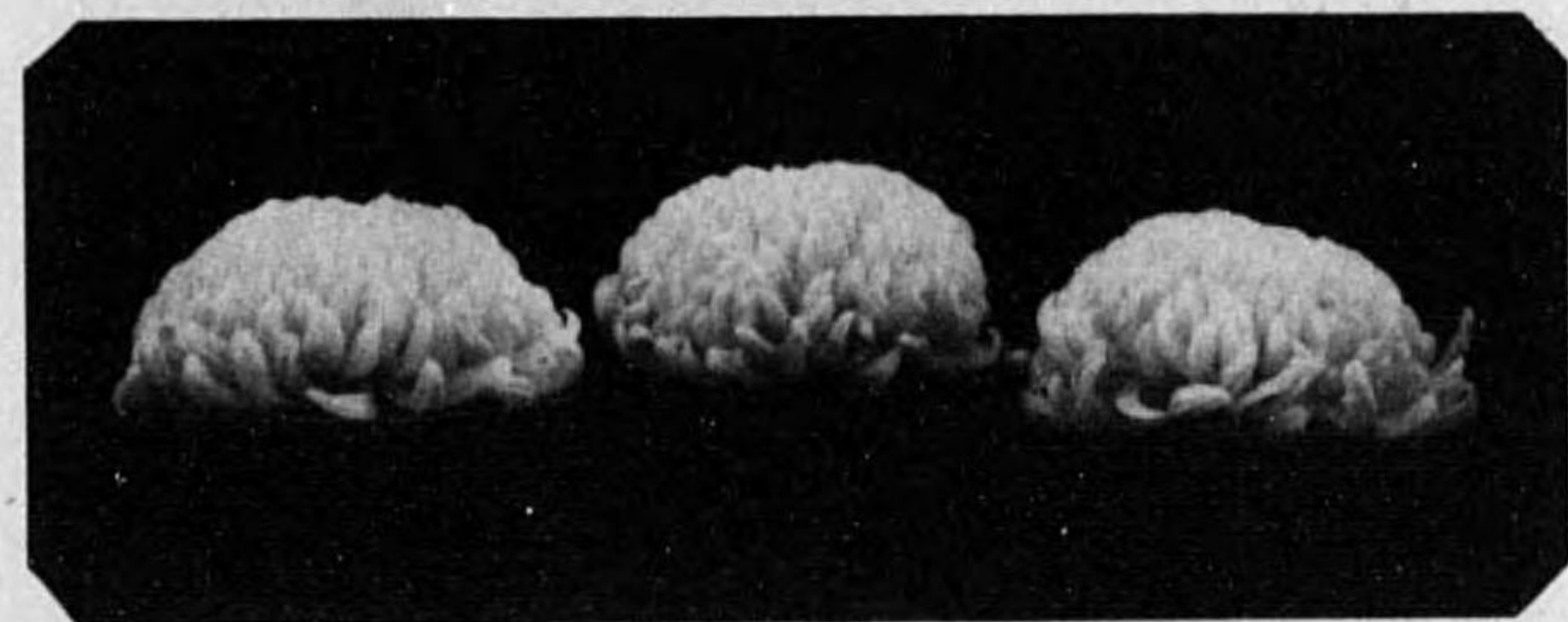
（咲物厚） 花養盆會大花菊谷比日



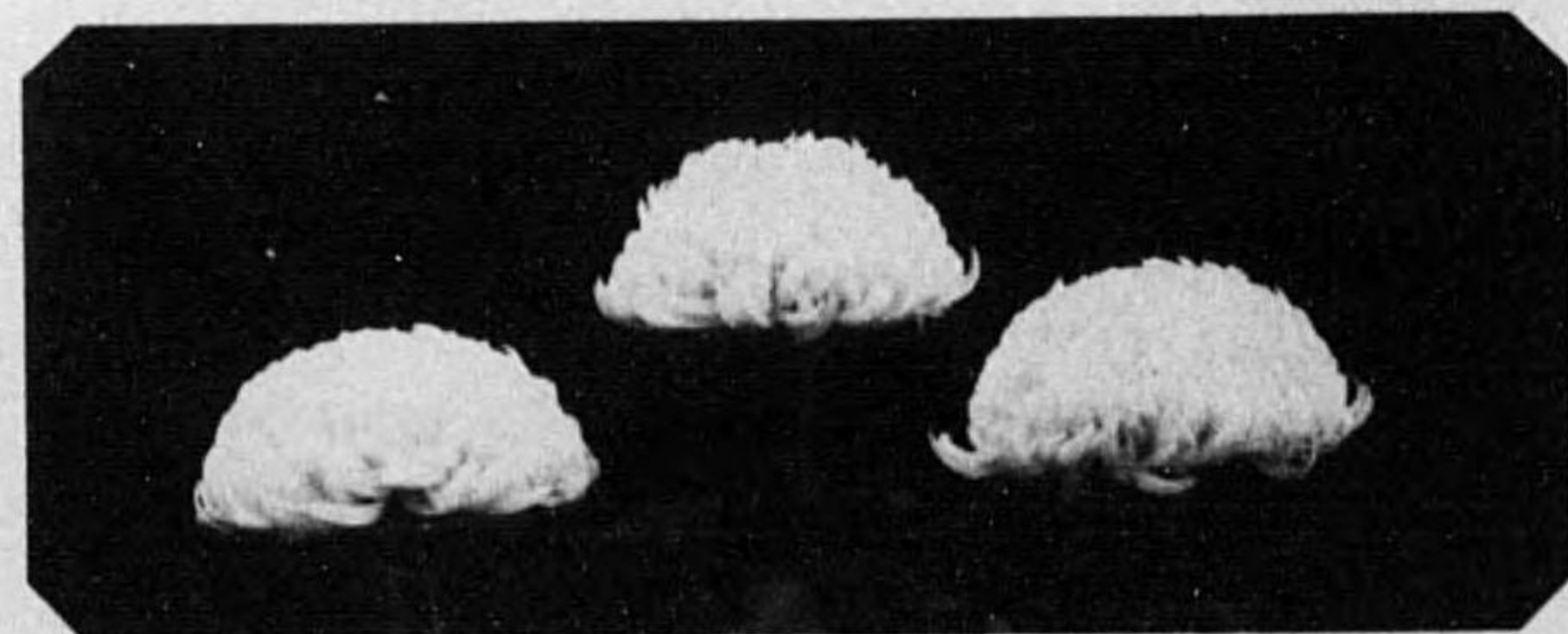
天位 黃美玉王 岡三次郎



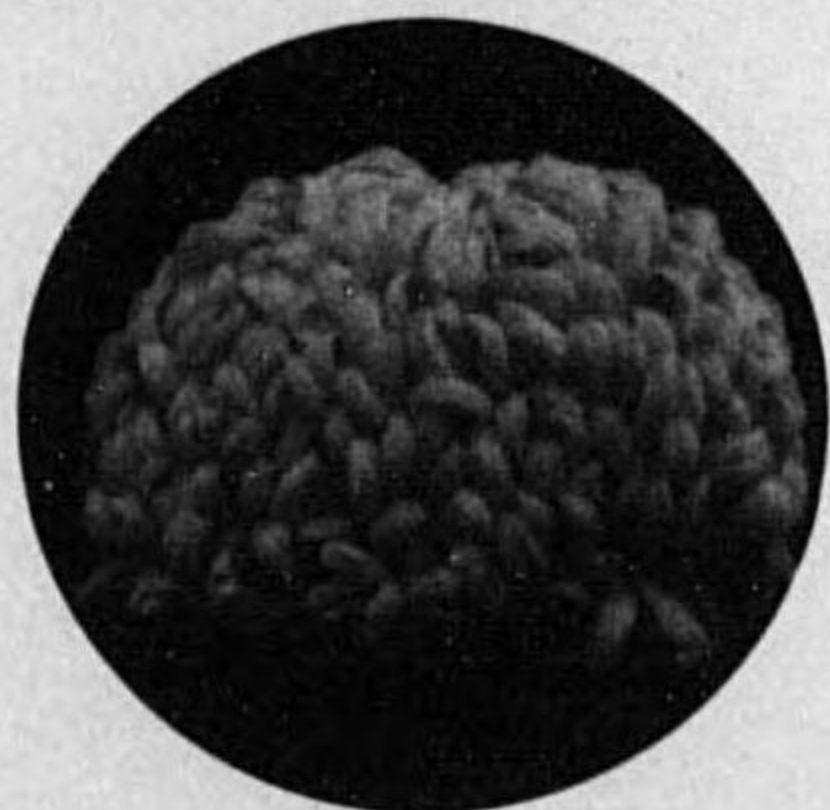
地位 桃美玉王 鈴木藤次郎



地位 孤村月 池田 重

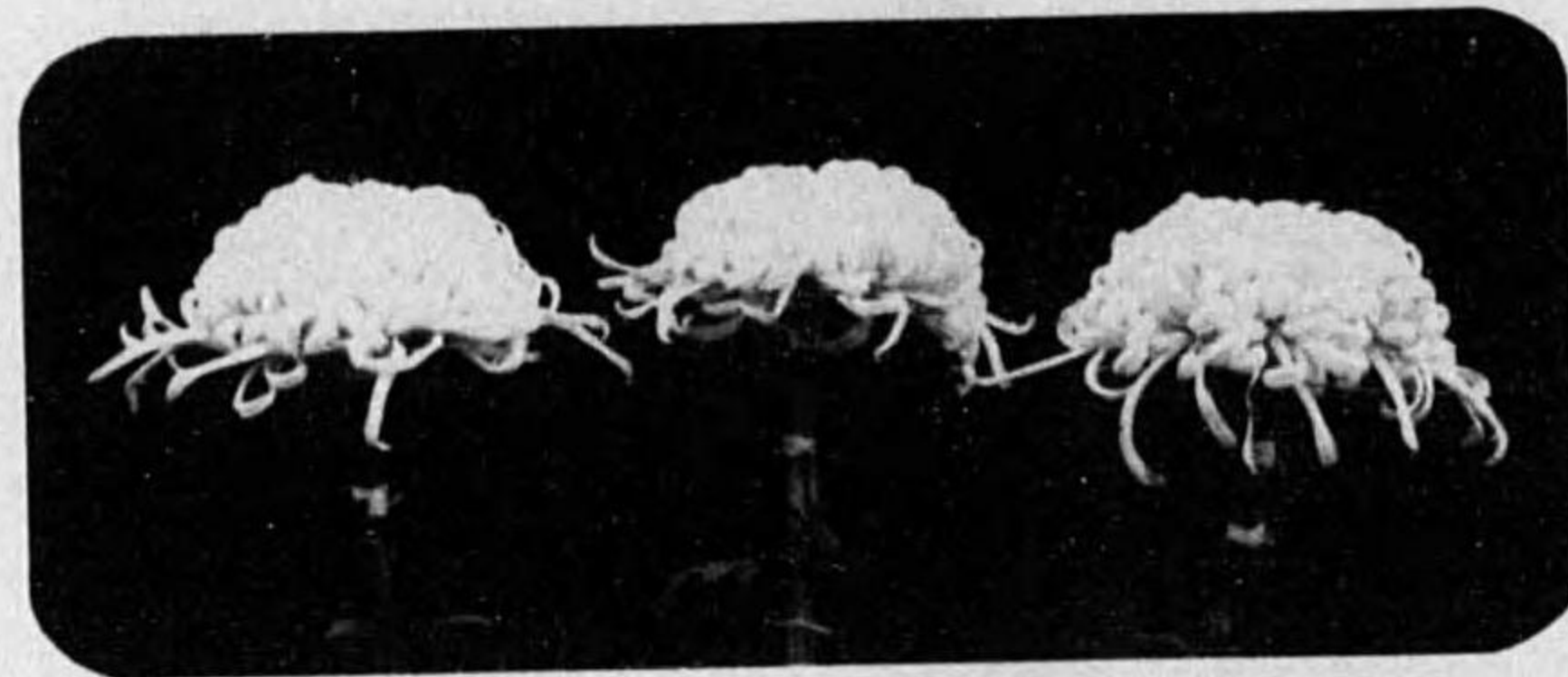


人位 花冠 濱中六藏

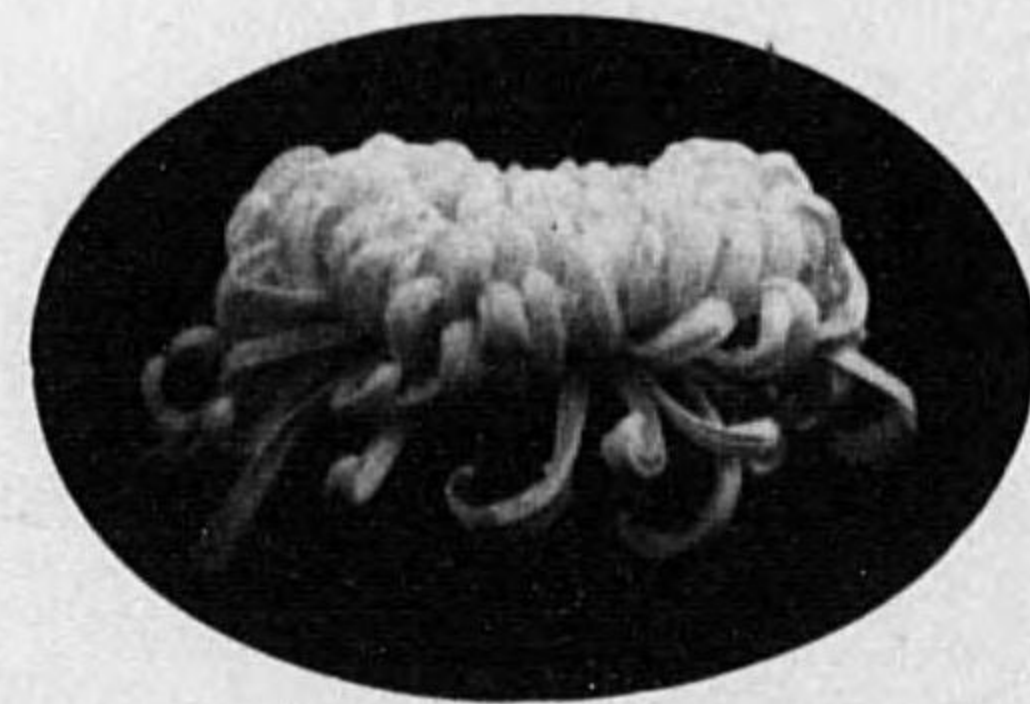


人位 桃美玉王 今井彌七

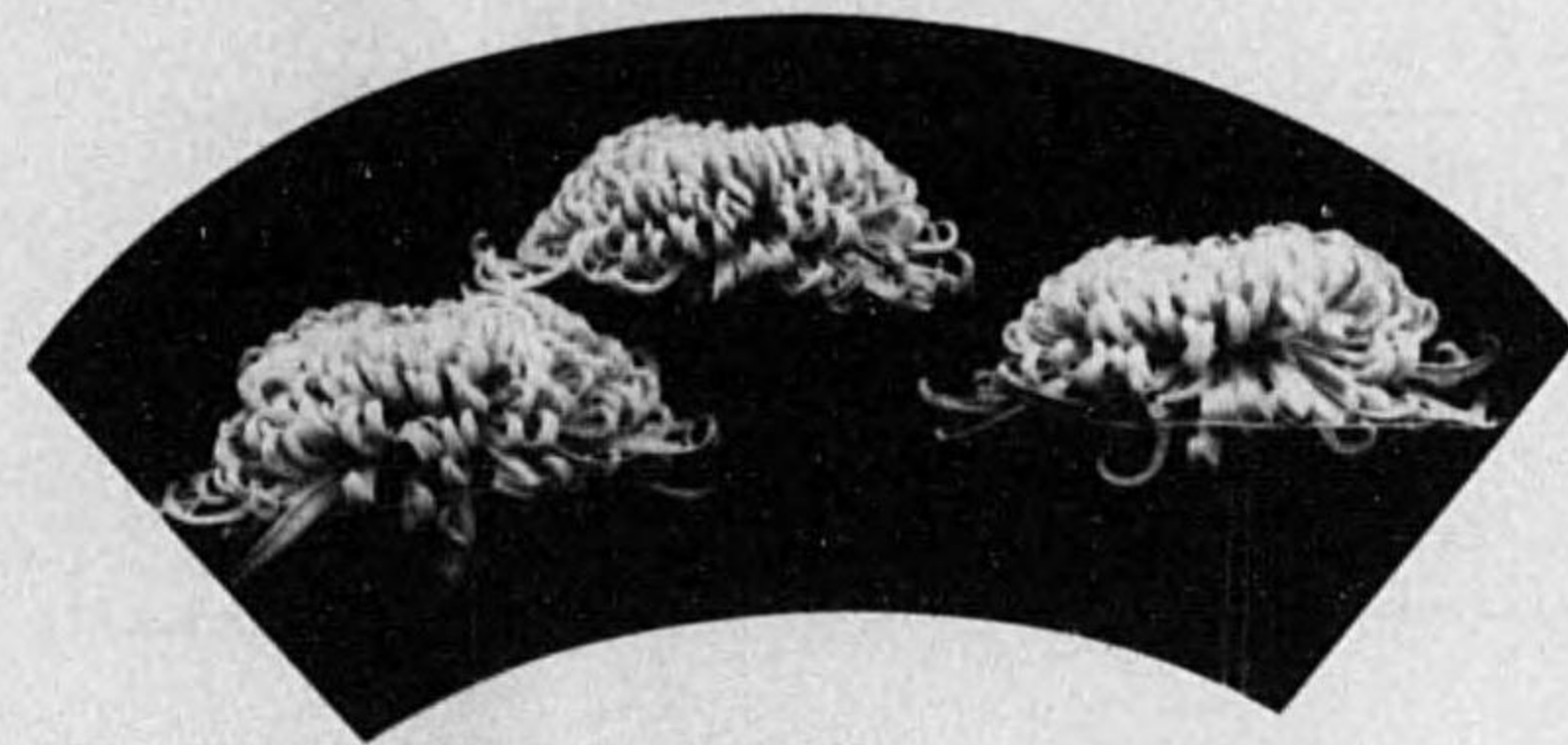
（付走喚物厚） 花養盆會大花菊谷比日



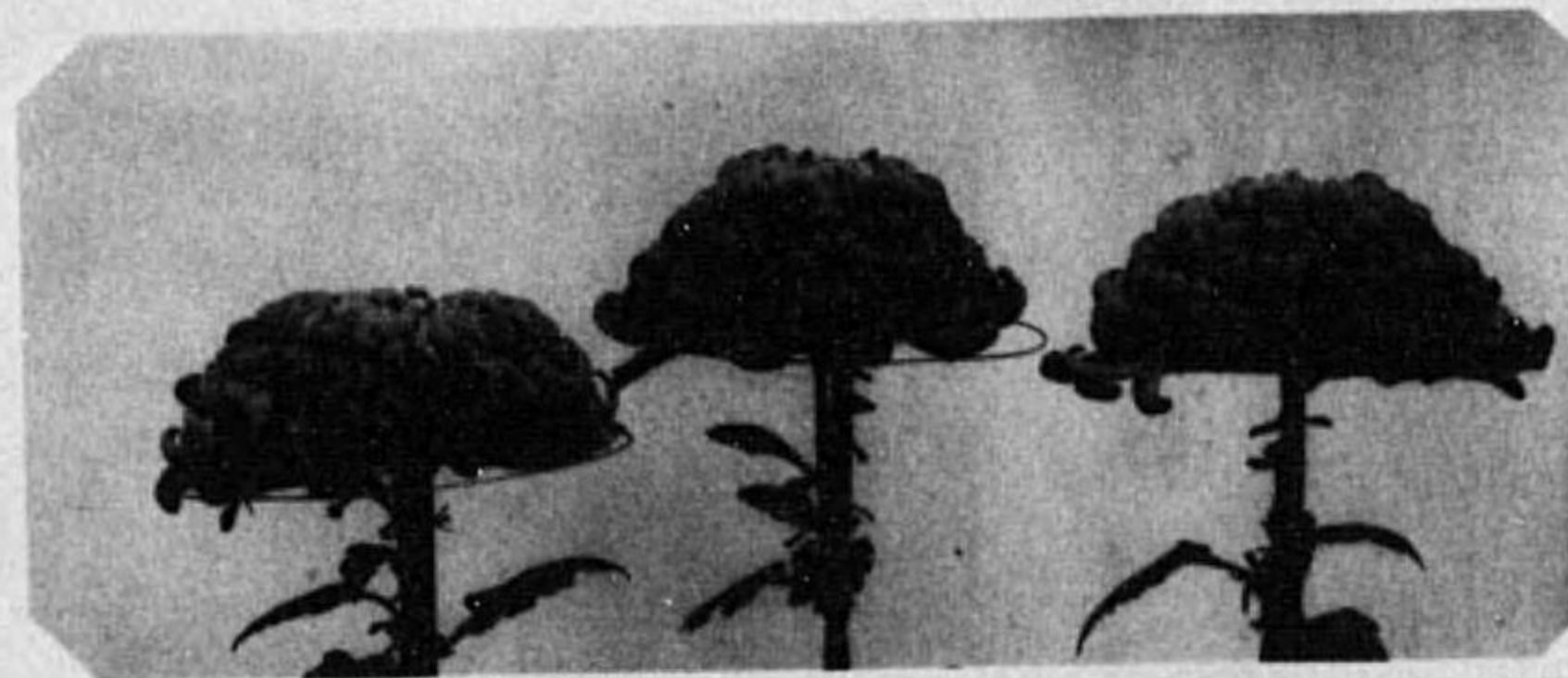
天位 都の錦 生頼吉太郎



地位 業平 佐々木榮次郎

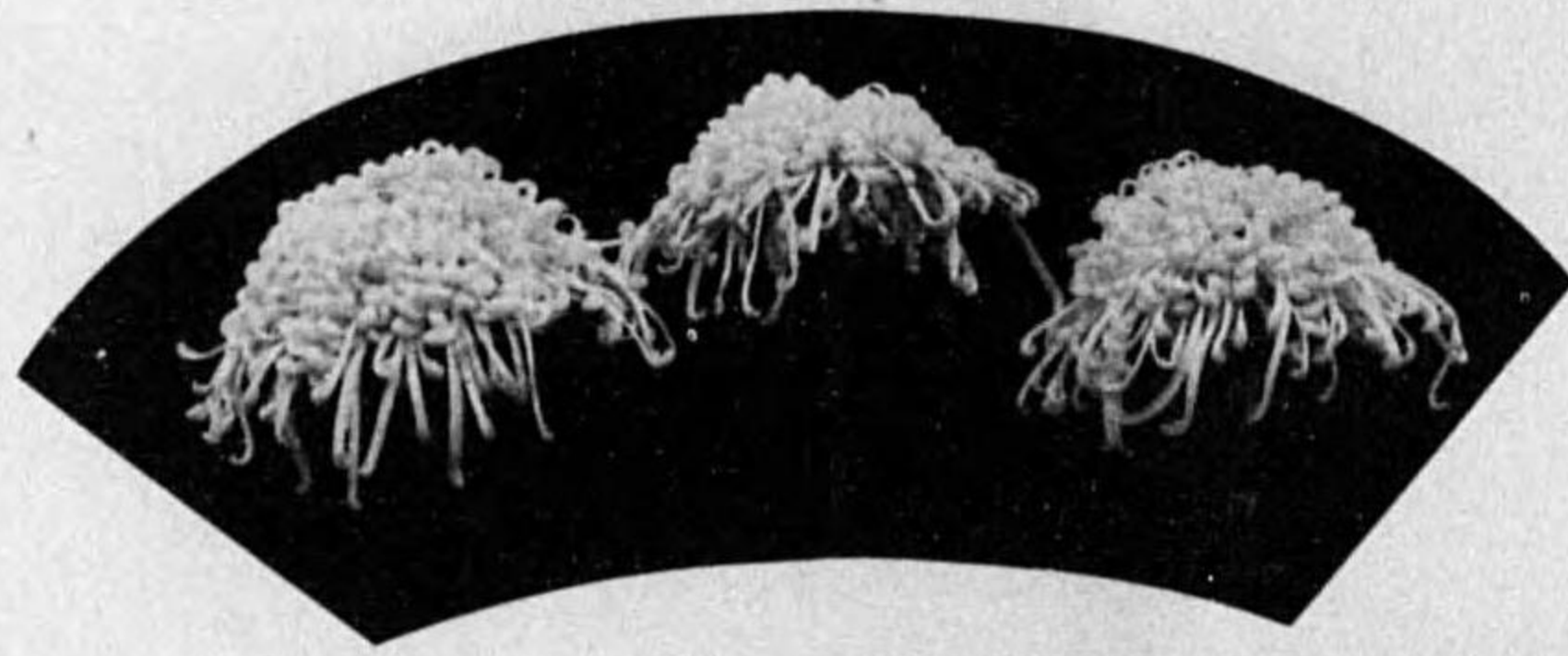


地位 朱雀臺 富澤保之助



人位 半菀 西島喜太郎

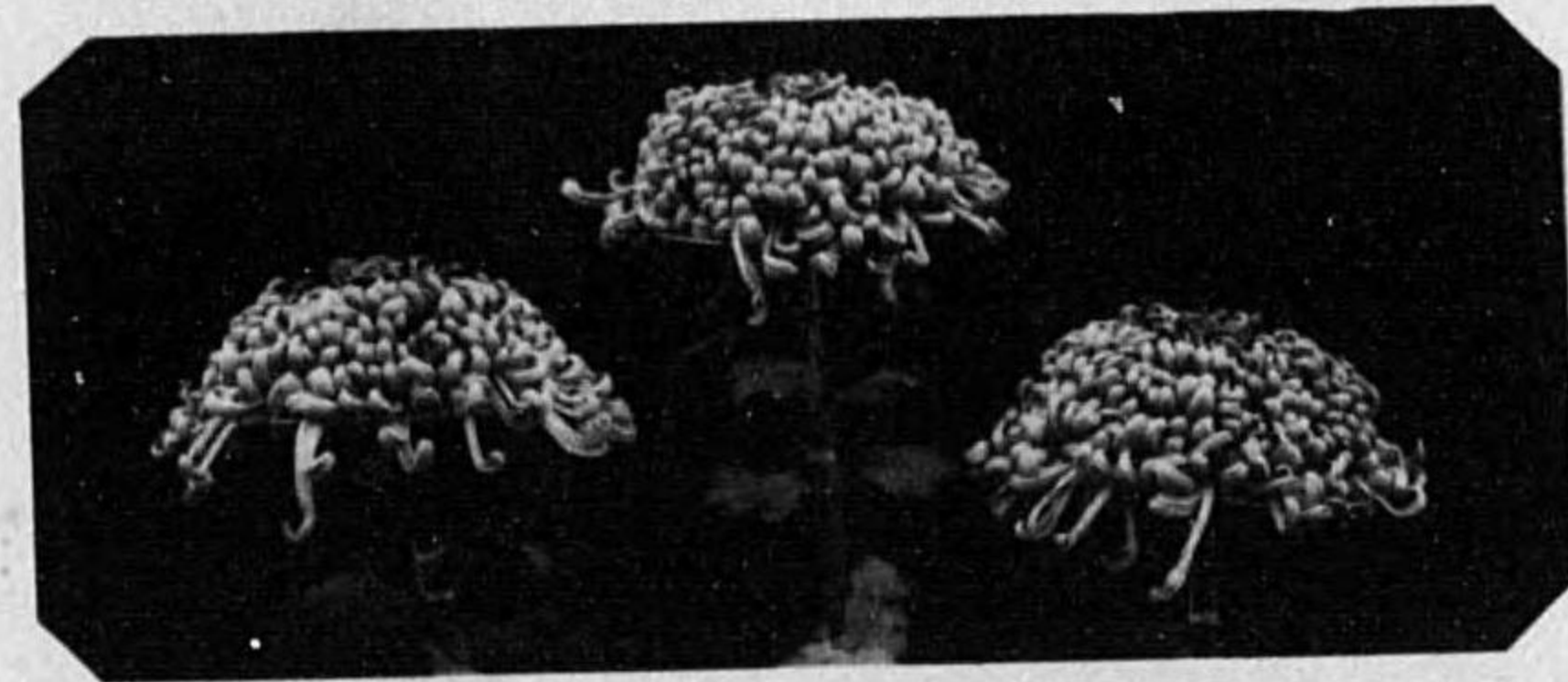
日比谷菊花大會盆養花 (太管咲)



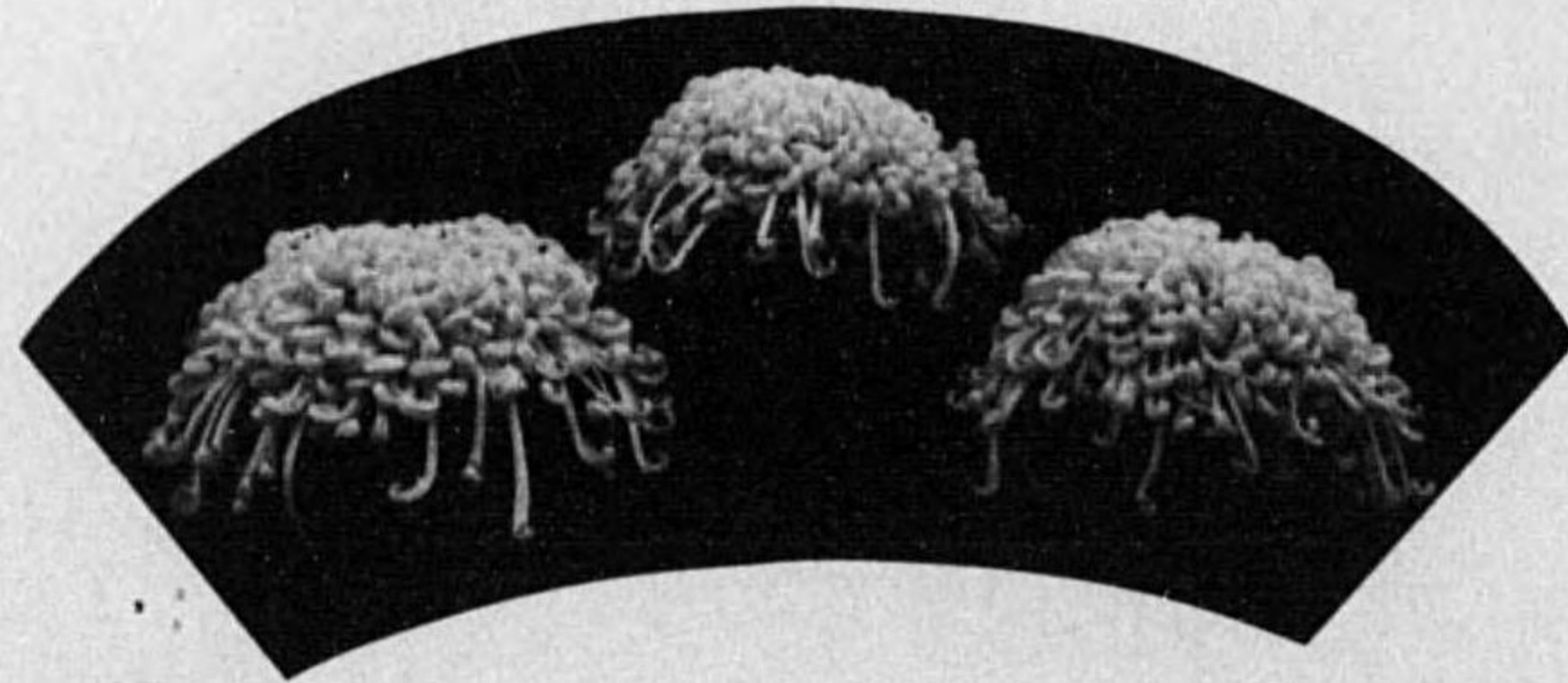
天位 春の海 佐々木榮次郎



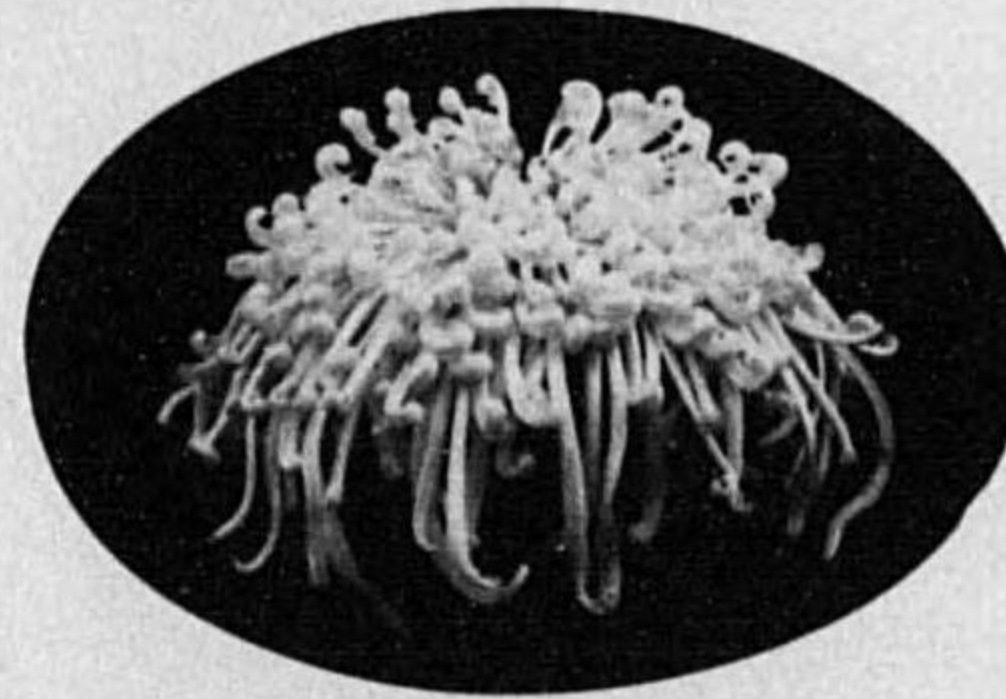
地位 春の海 池田董



地位 珠の光 西川邦留



人位 春の海 久保嘉代



人位 菊水の嬰 露木卯之助

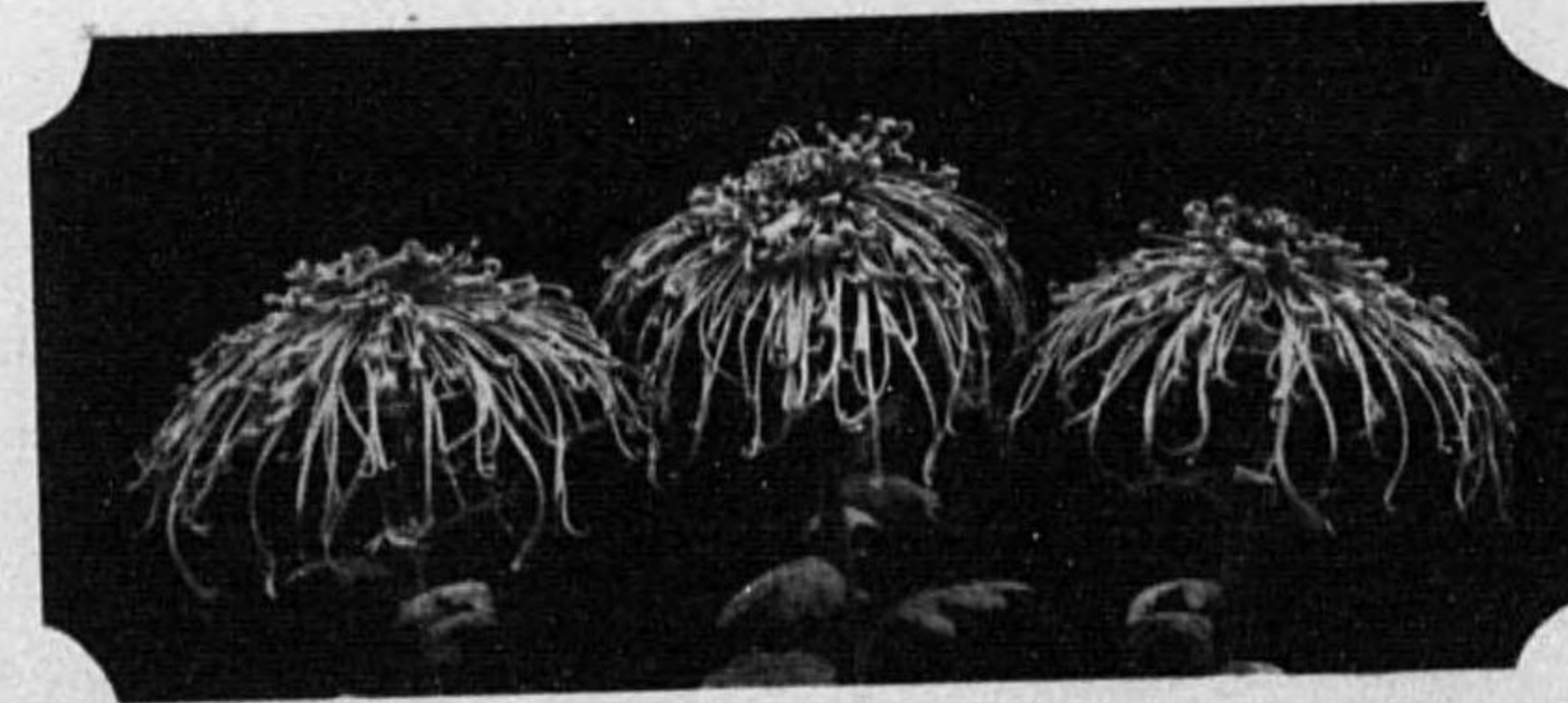
（咲管間） 花養盆會大花菊谷比日



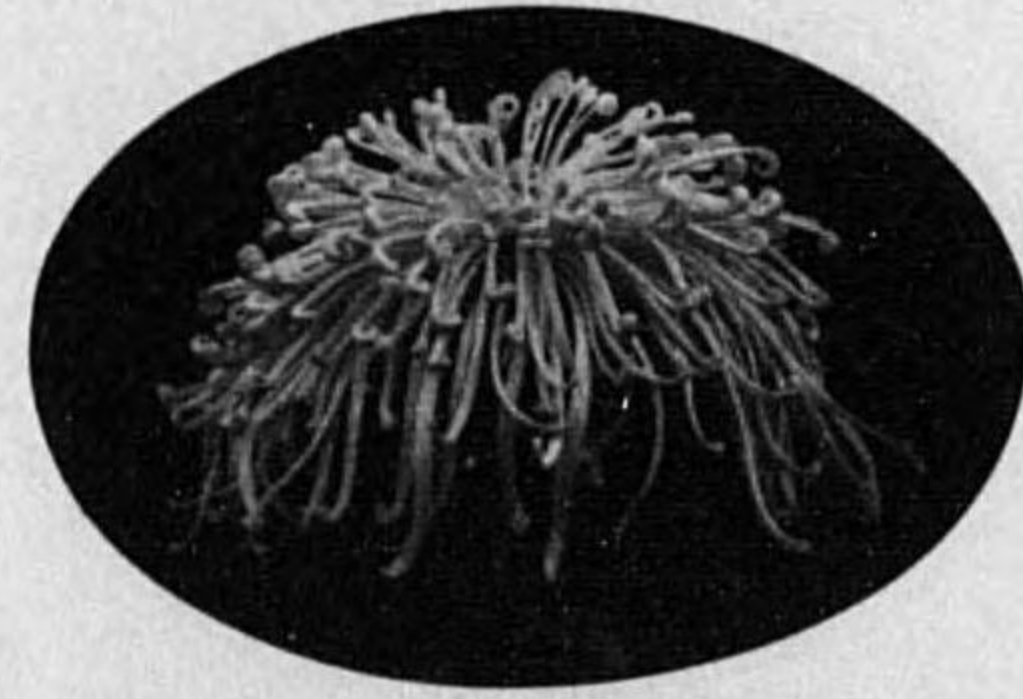
天位
田村
中村美代



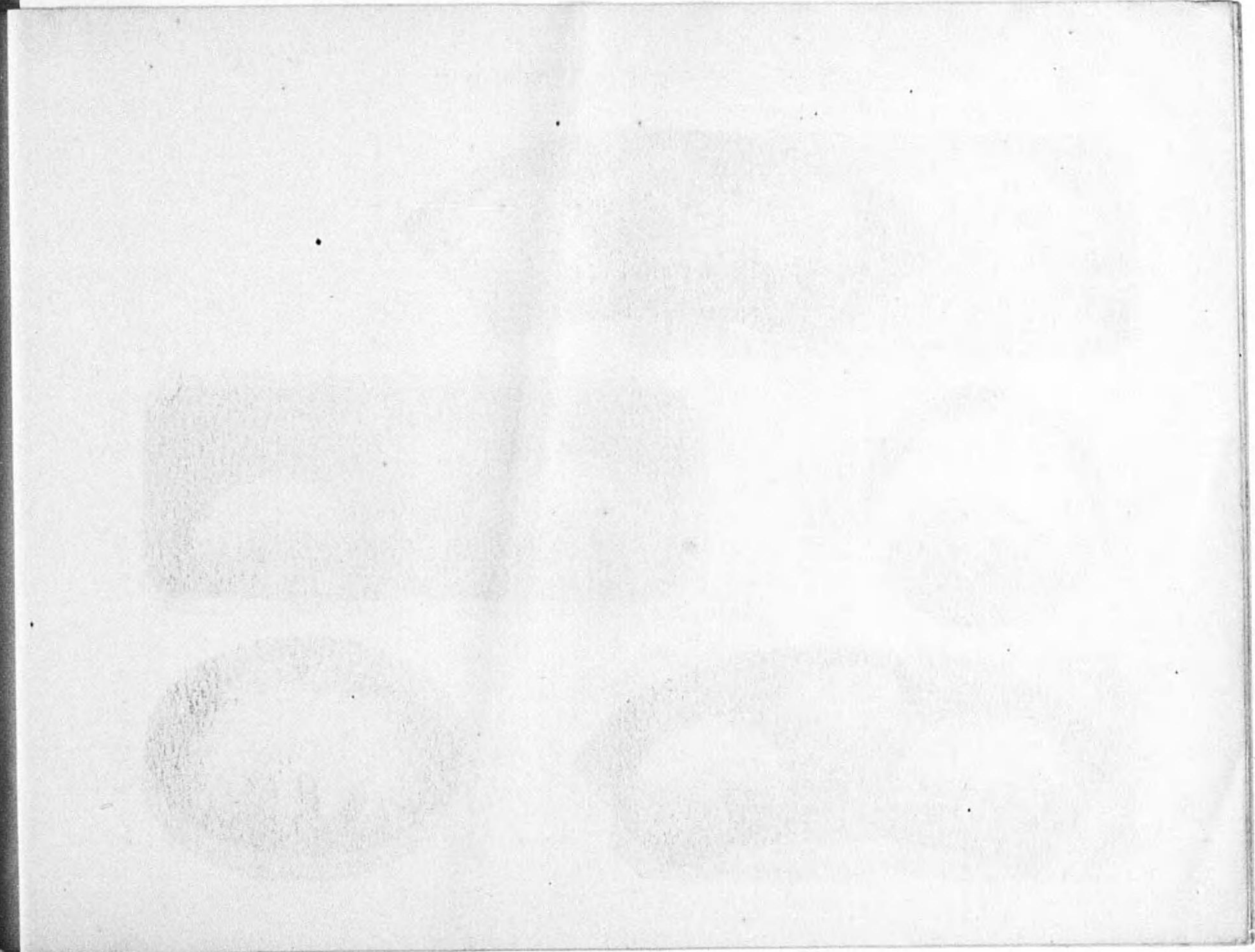
地位
精興光
泉川信之助



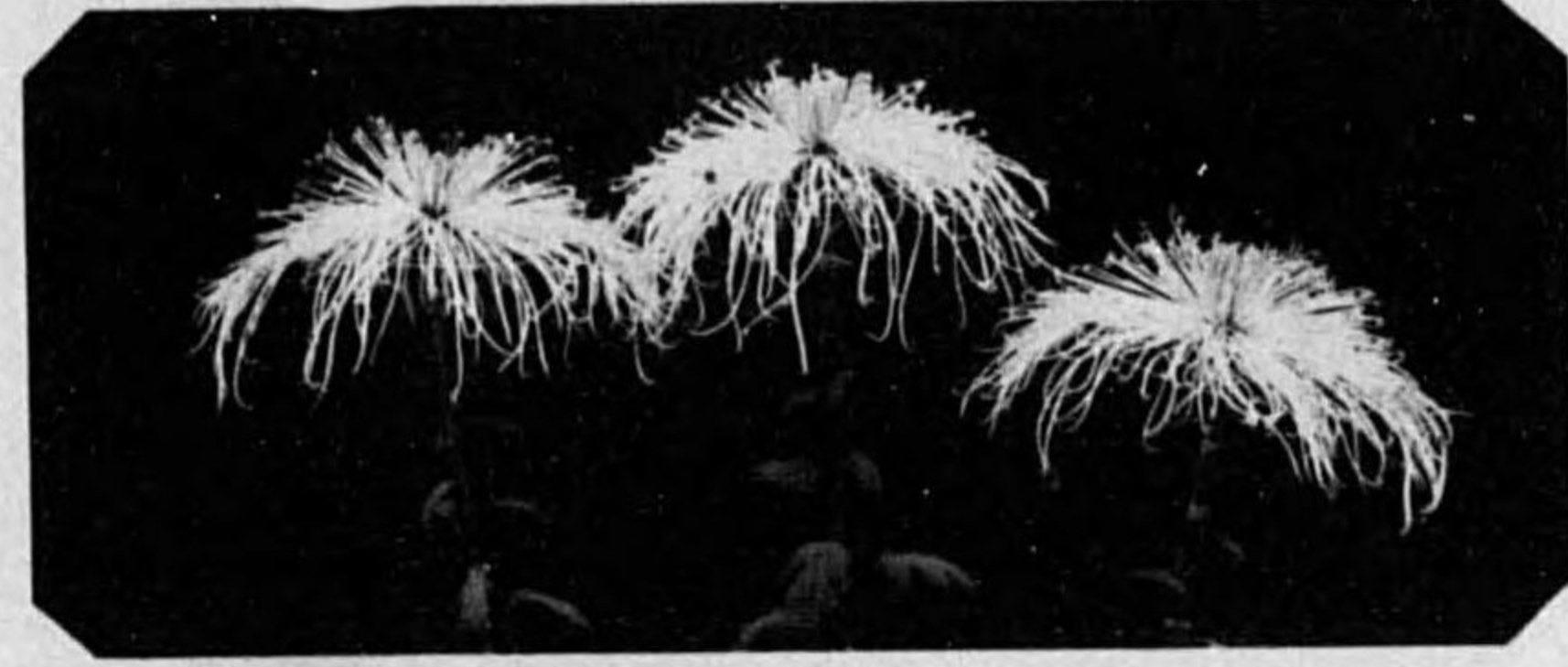
人位
田村
生稻吉太郎



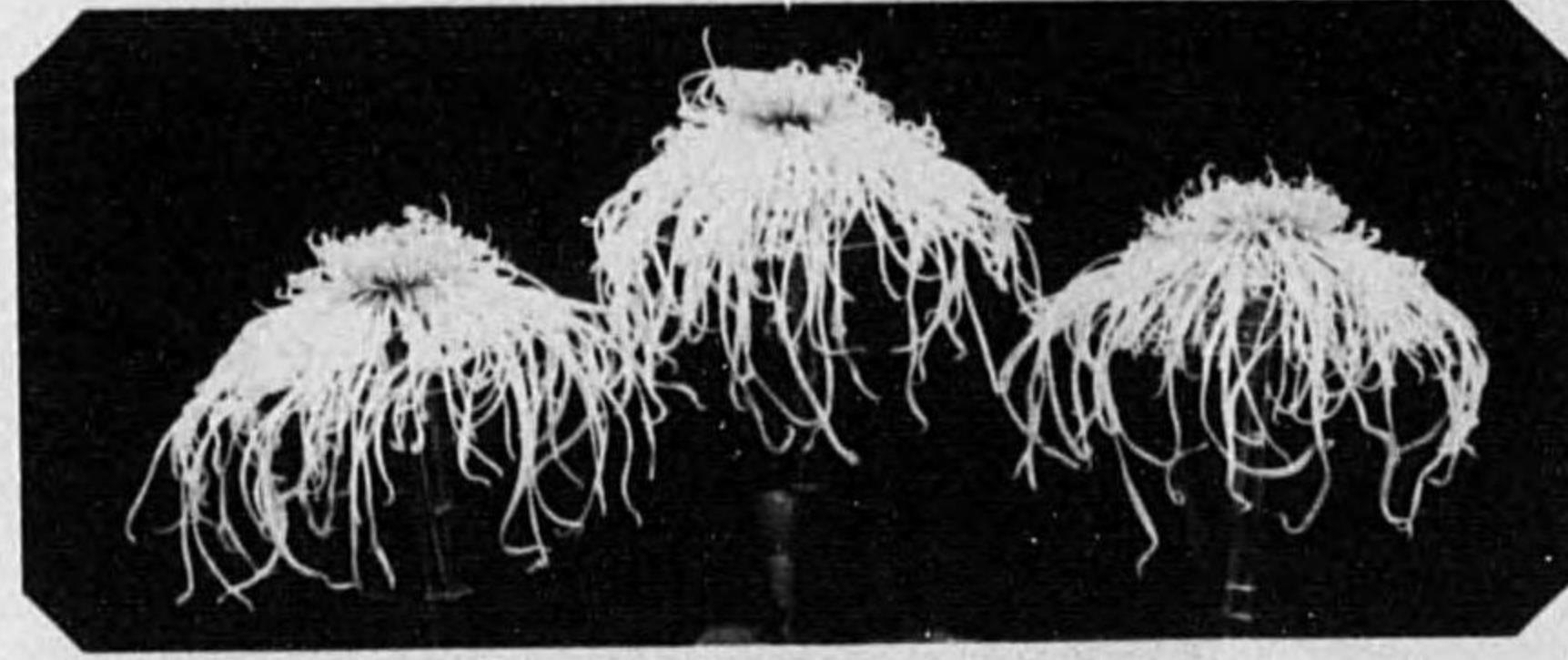
人位
玉芙蓉
泉川美恵



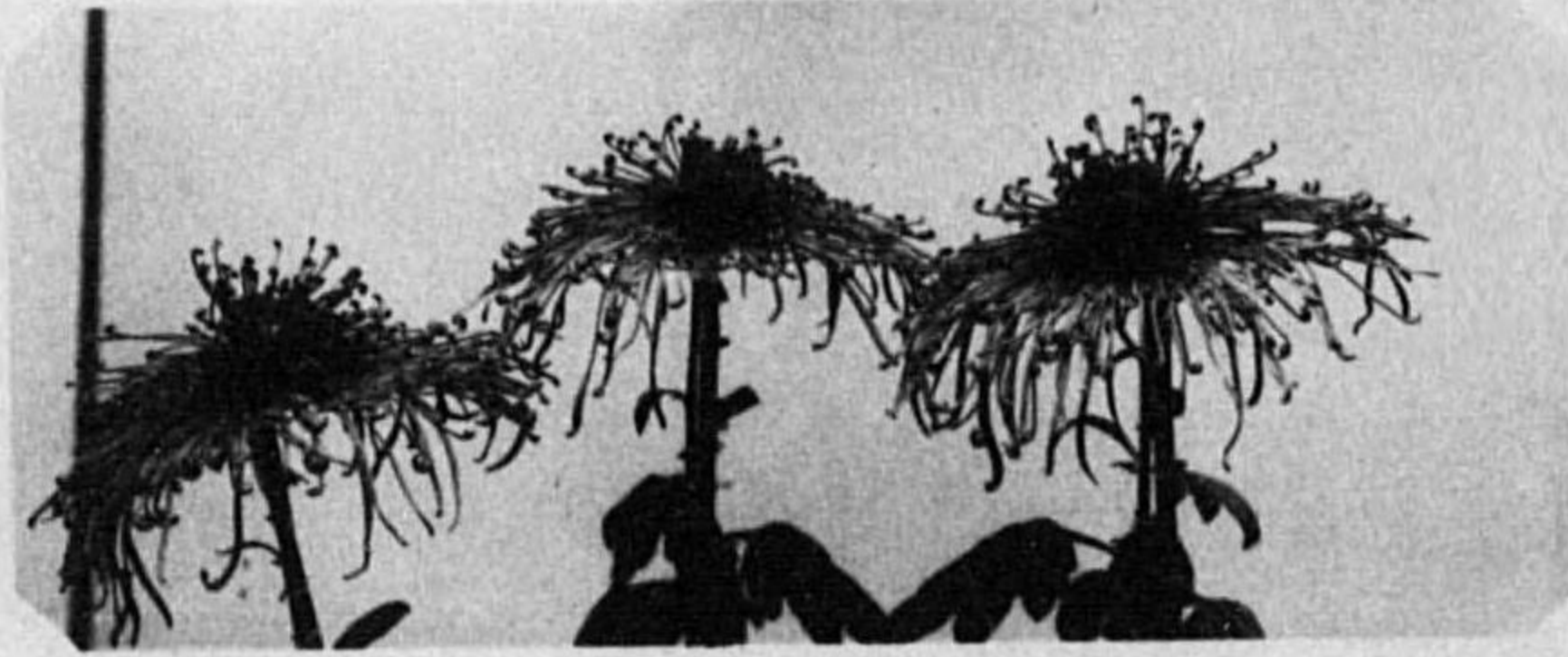
日比谷菊花大會盆養花 (細管咲)



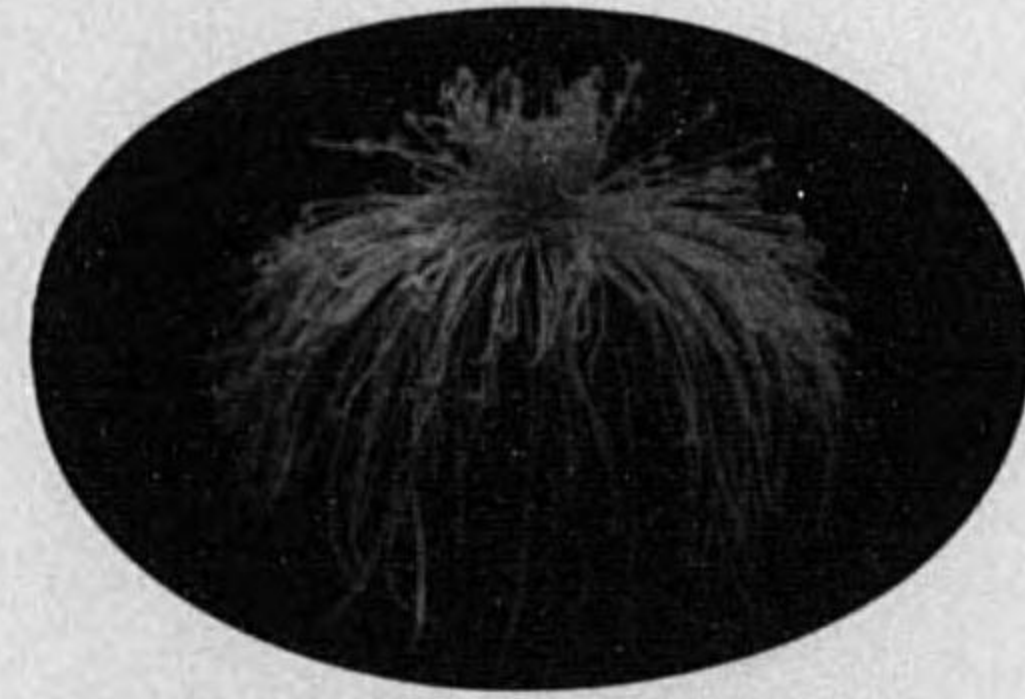
天位 松の聲 中川長七
最優等 (純金牌受賞)



地位 谷間響 宮川國太郎

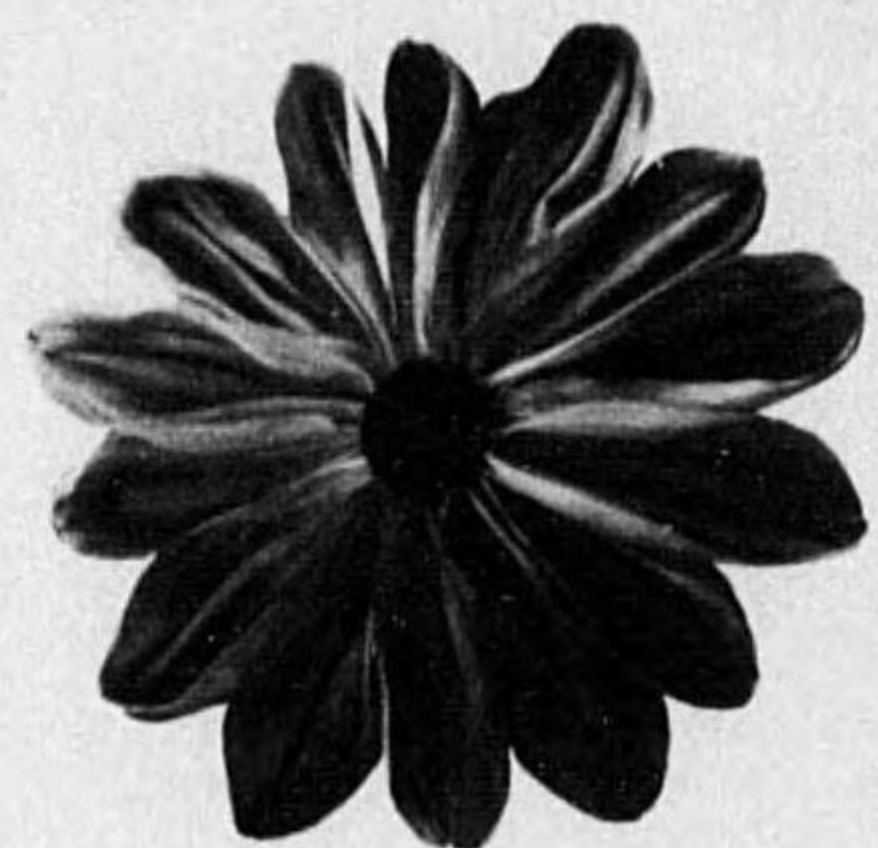


人位 獅子頭 中村眞妙

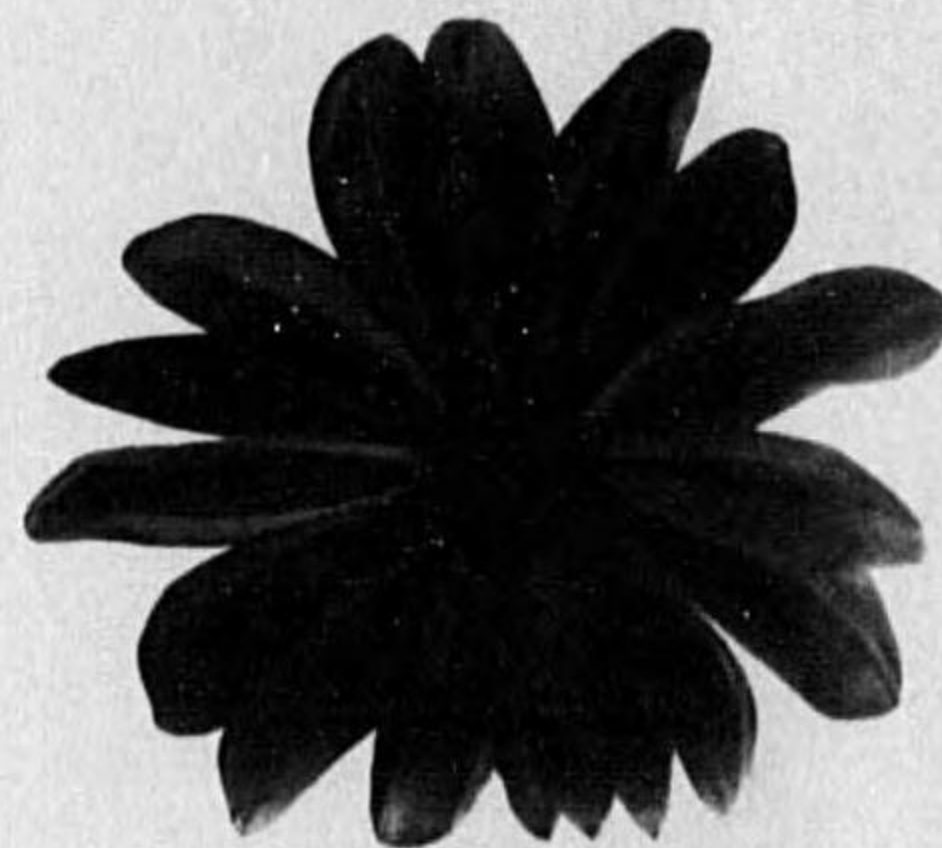


人位 櫻初雨 東川美恵

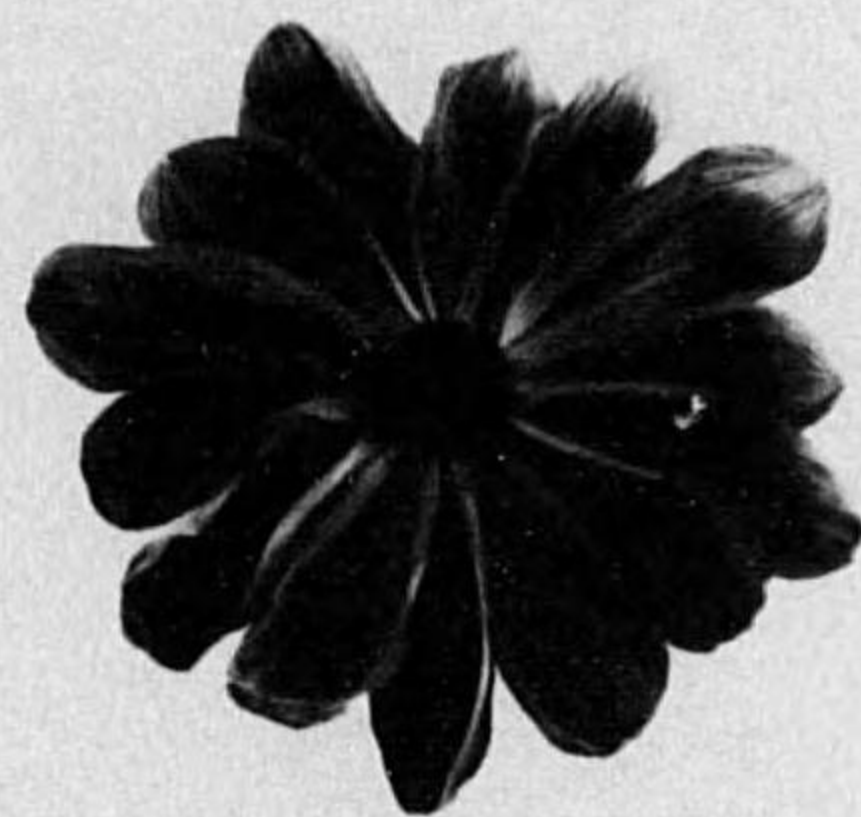
（日三月一十） 會花切回一第會大花菊谷比日



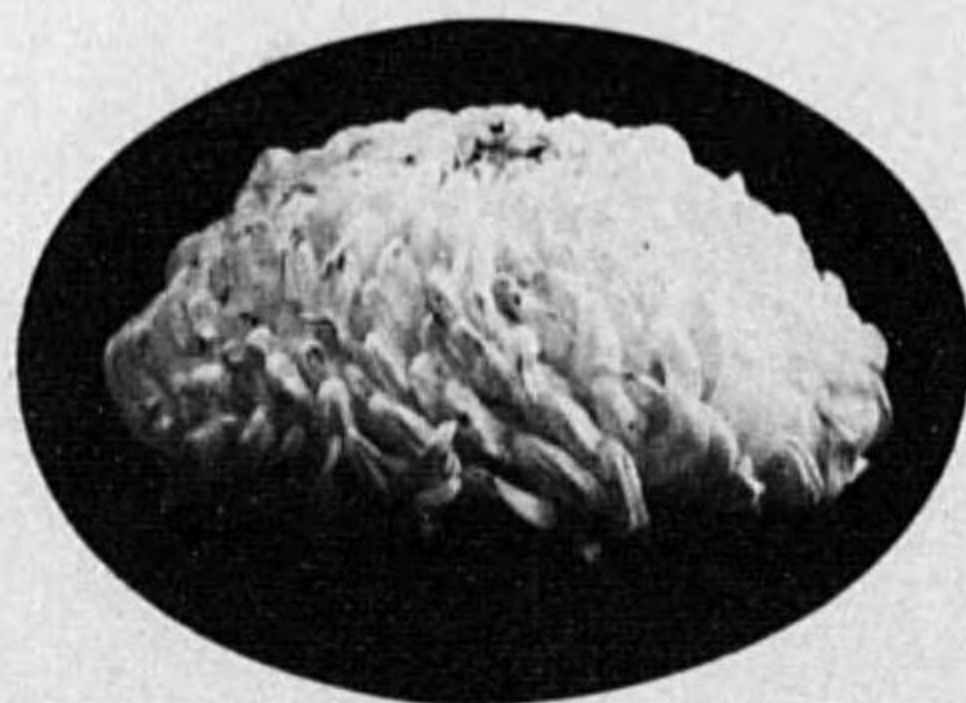
人位 星の海 大森 甚作



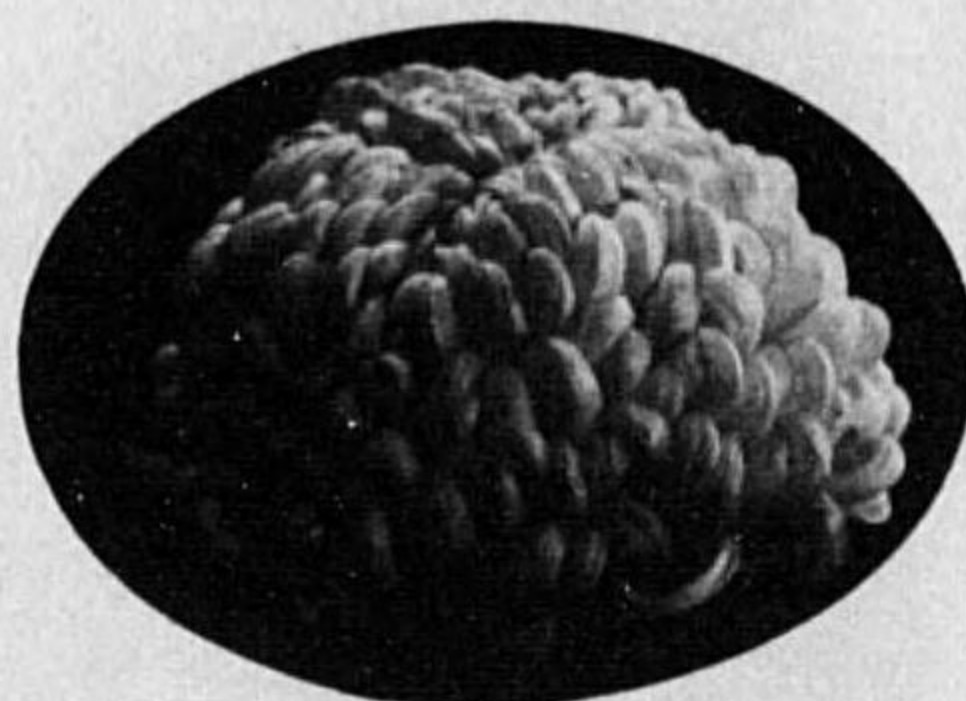
地位 鶴齡 今井 正次



天位 星の海 中山 清



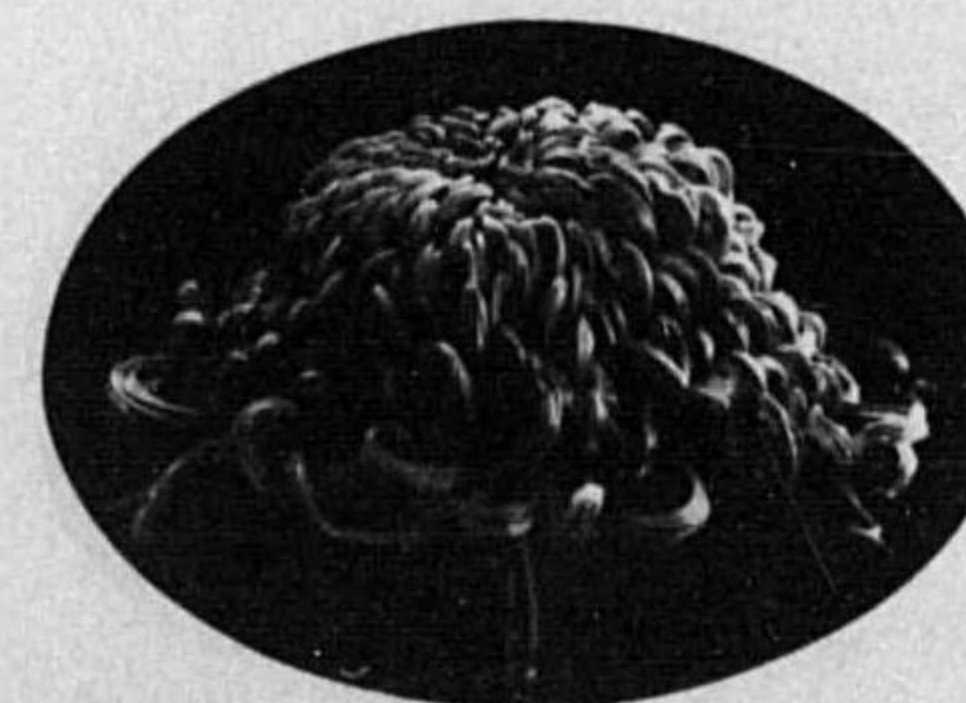
人位 花の都 村田 清次郎



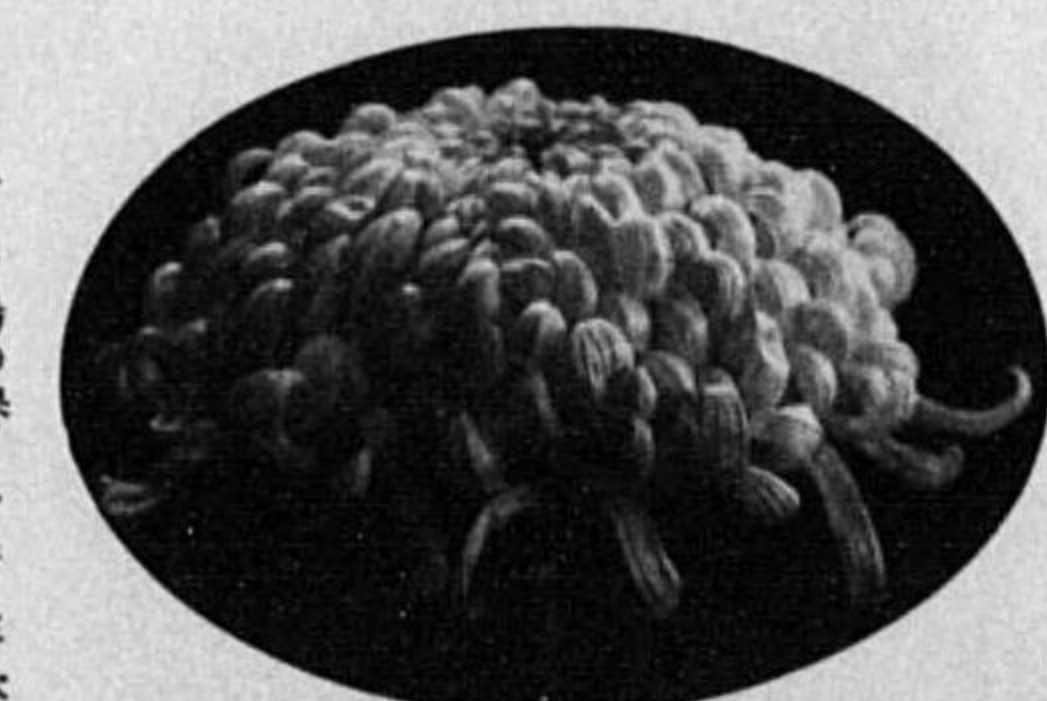
地位 林間の月 西川 都留



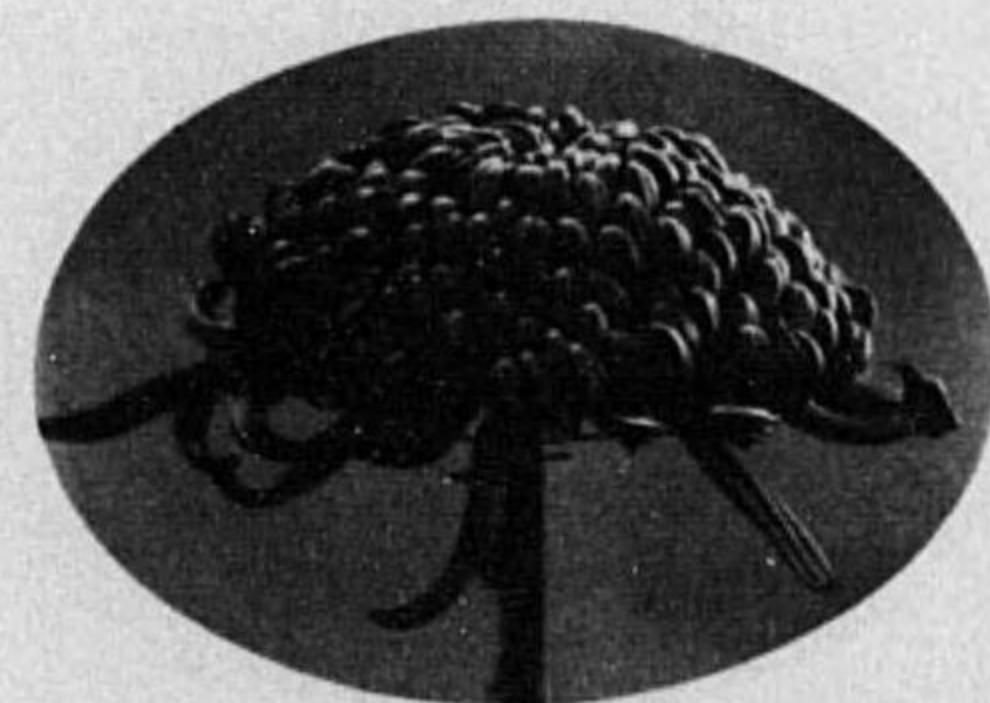
天位 孤村の月 鈴木 吉次



人位 甲陽の譽 今井 正次



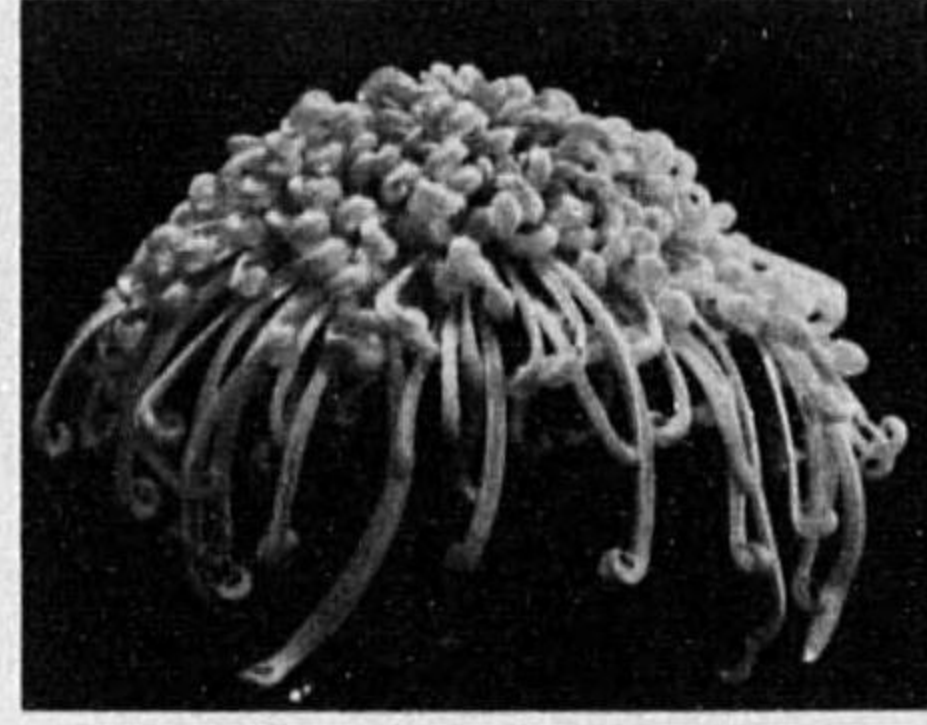
地位 白鳳の冠 吉田 庄次郎



天位 東洋の司 吉田 庄次郎

(日三月一十)

會花切回一第會大花菊谷比日



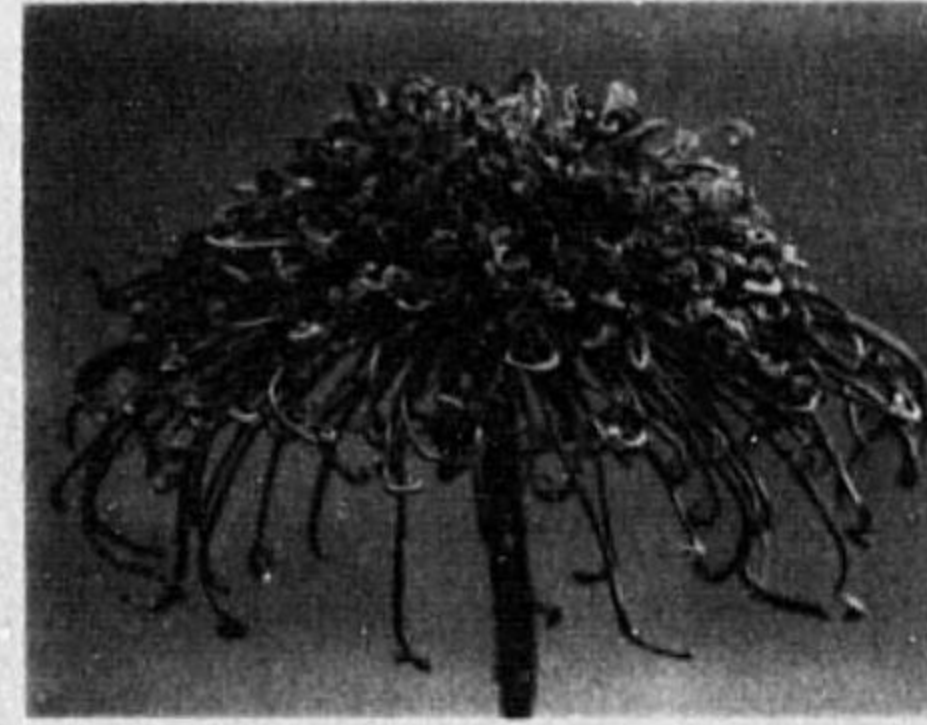
人位 春の海 佐々木榮次郎



地位 月ヶ瀬 鈴木吉次



天位 春の海 伊藤榮一郎



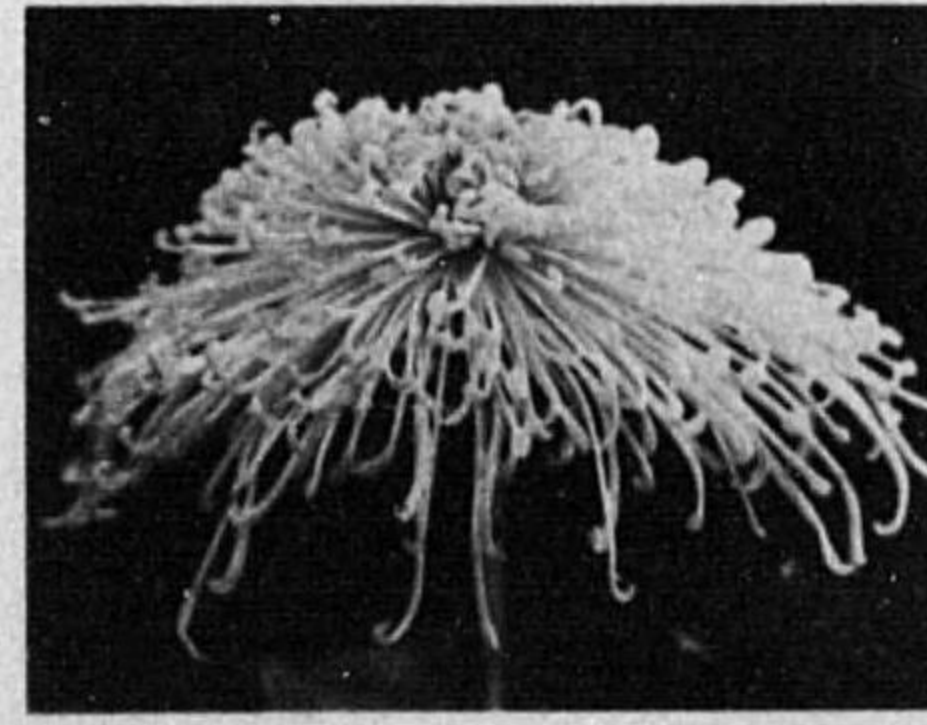
人位 十六夜 田村清次郎



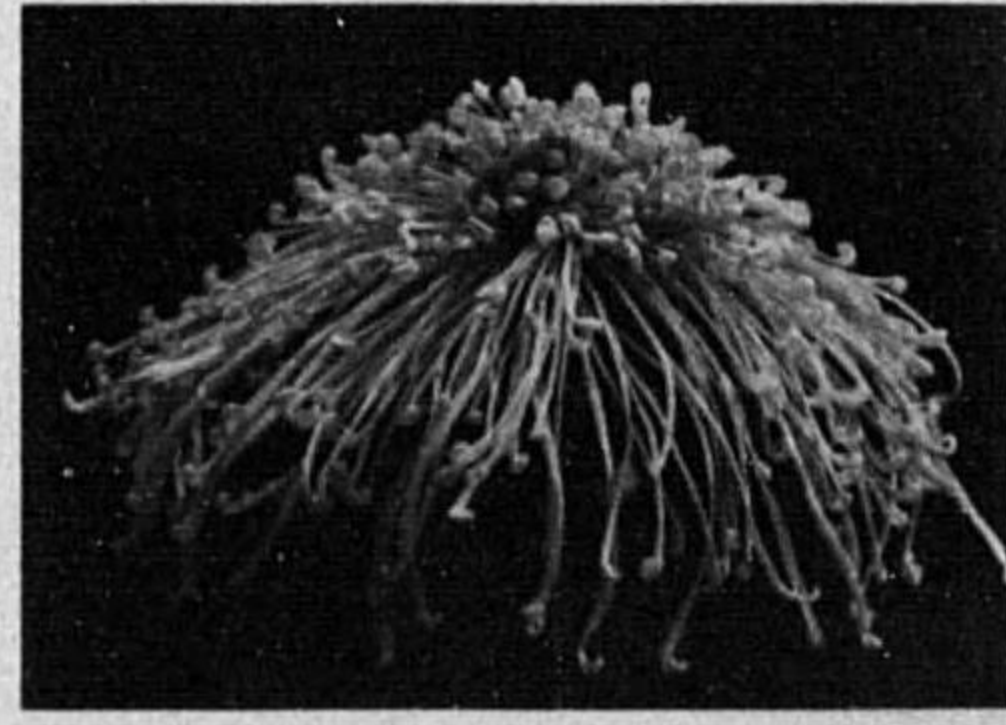
地位 夕紅葉 西川寛



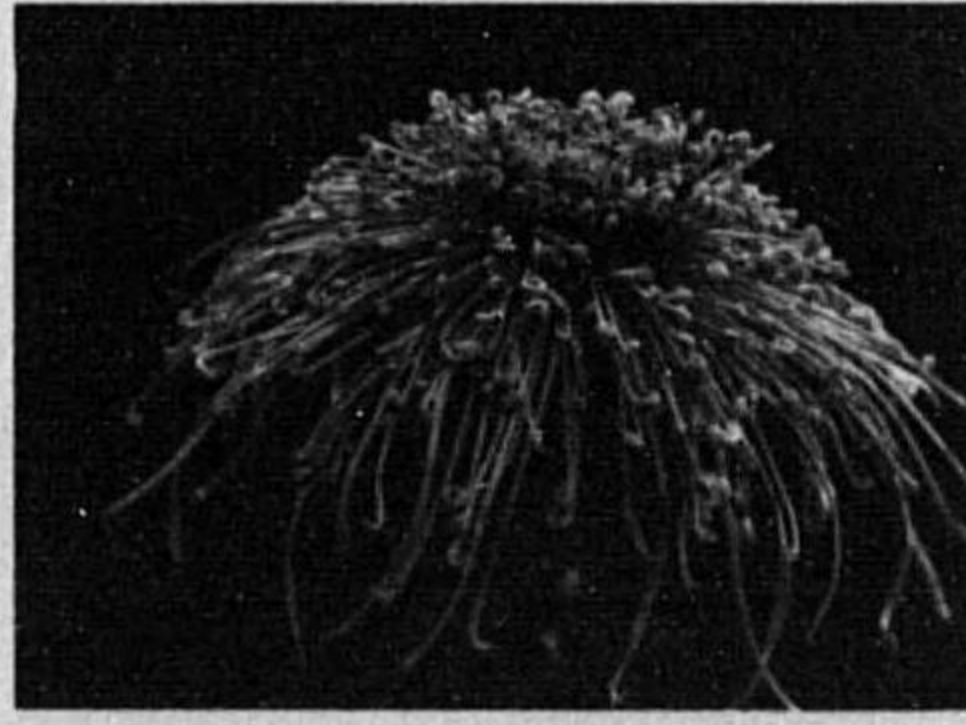
天位 紅葉の錦 中山清



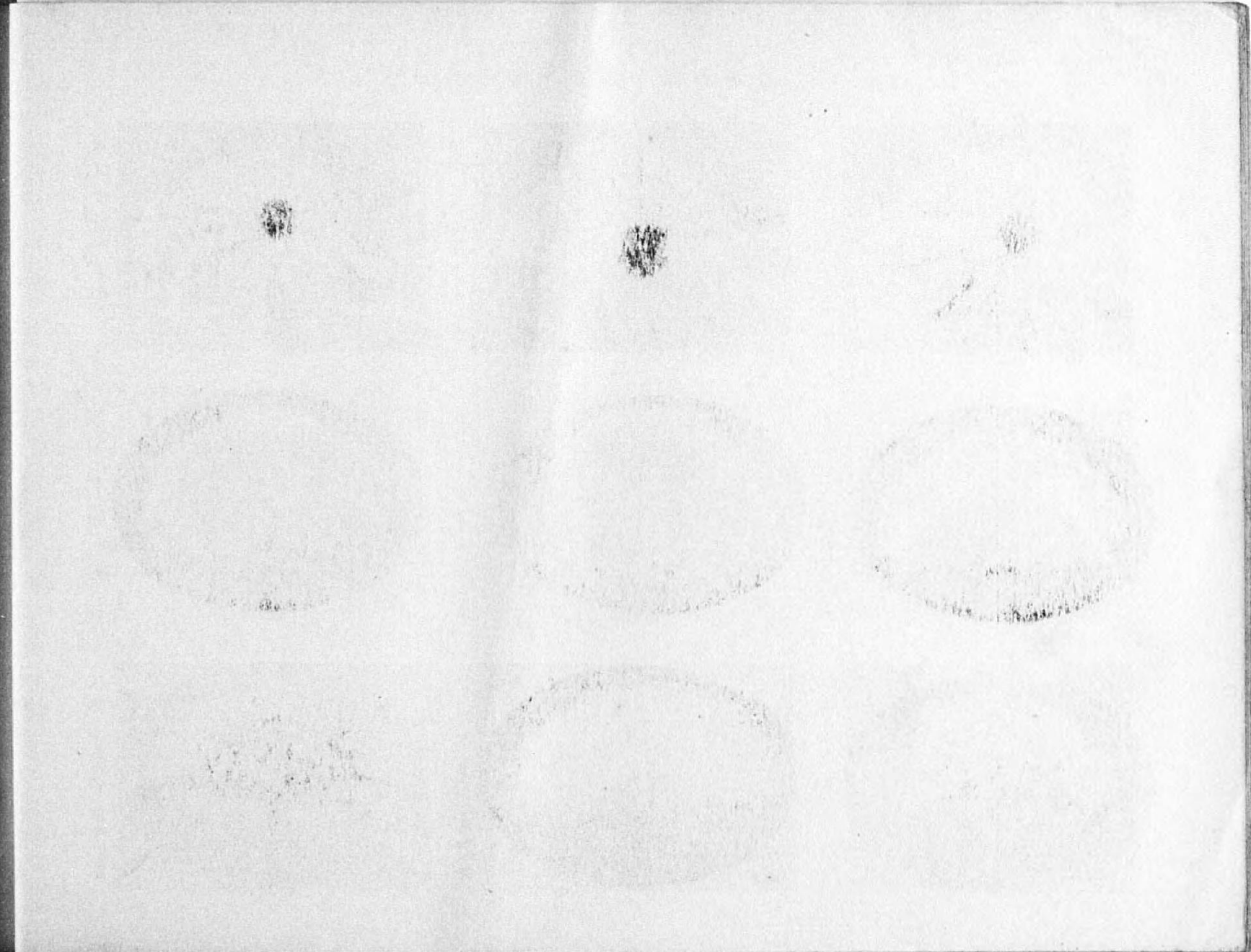
人位 水晶閣 小倉三郎



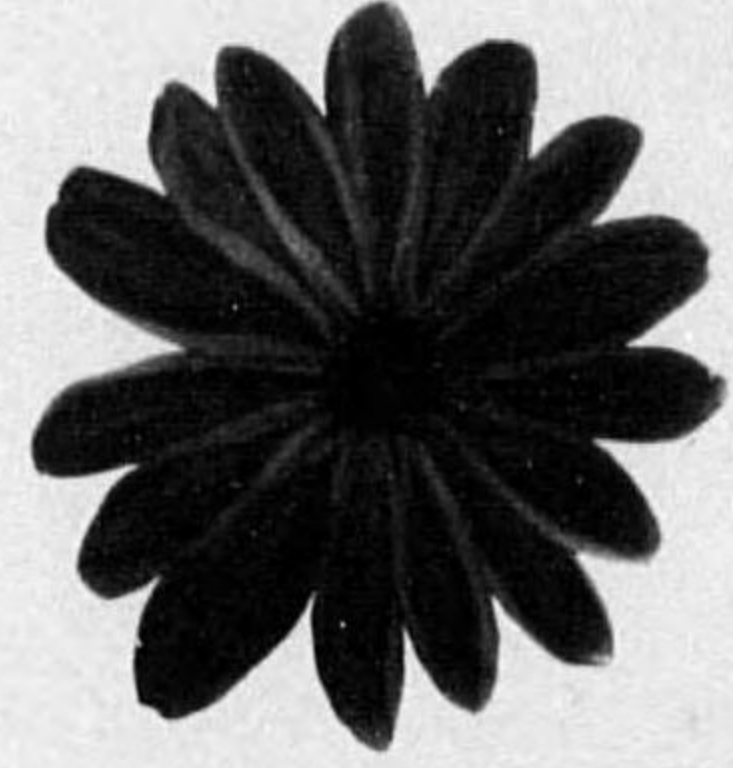
地位 微芳 伊藤榮一郎



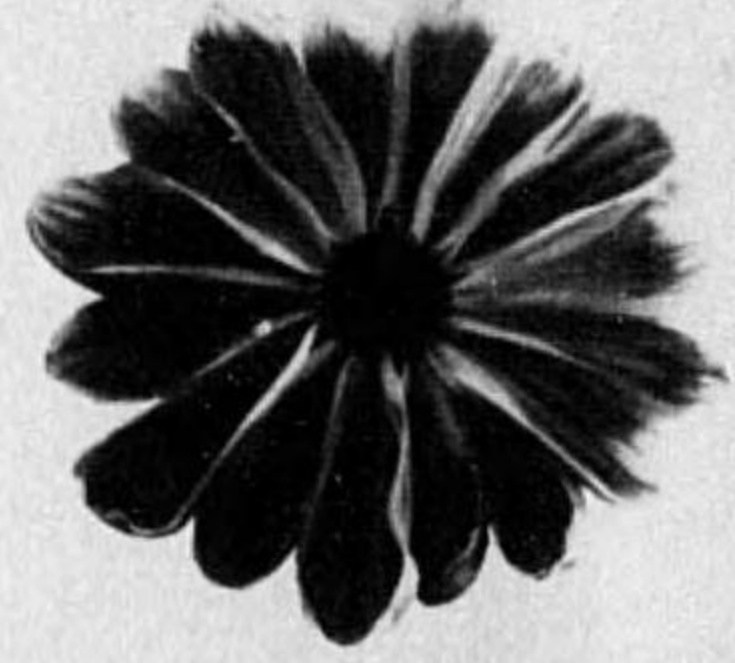
天位 越後獅子 西郷早平



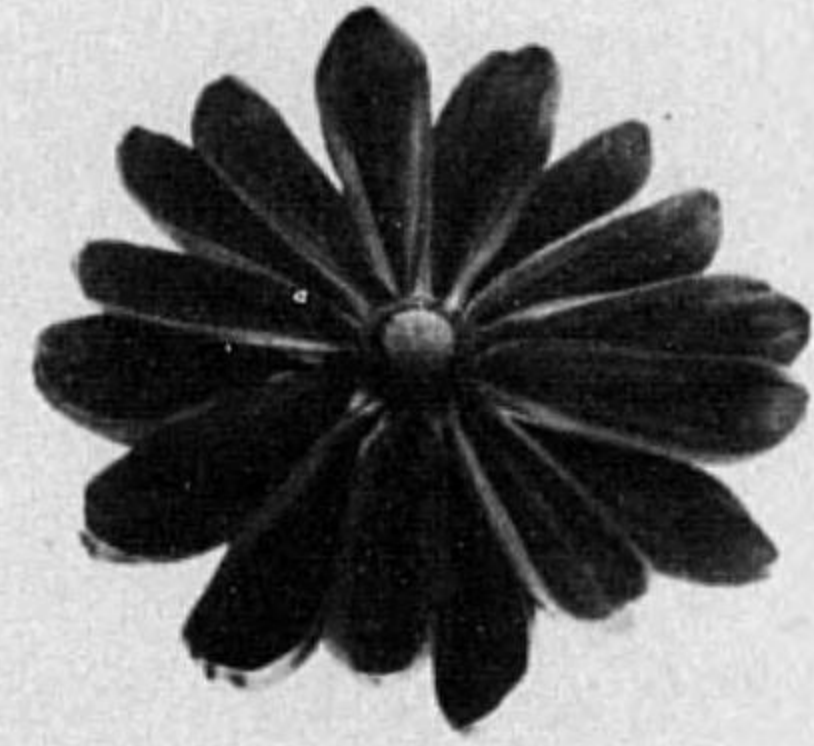
（日一十月一十） 會花切回二第會大花菊谷比日



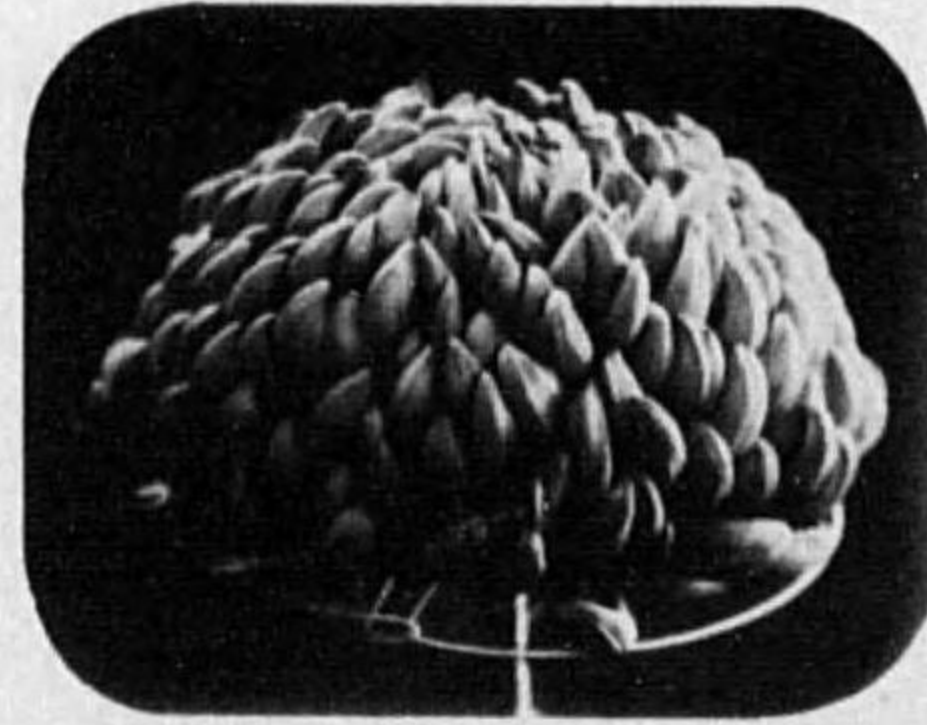
人位 國旗 小崎 道



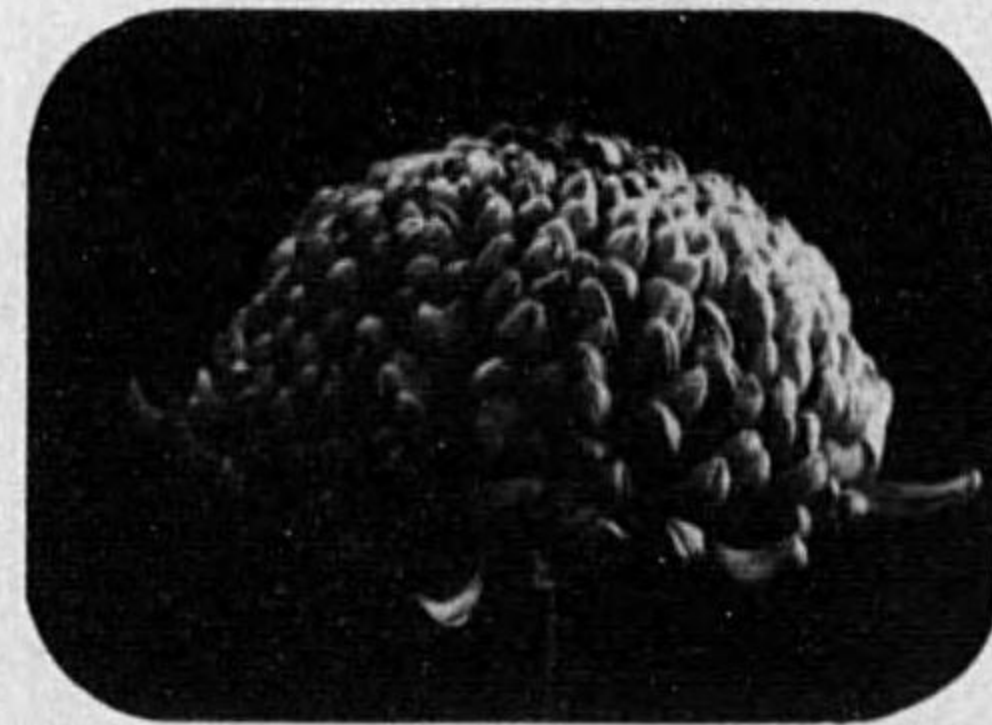
地位 星の海 中山 清



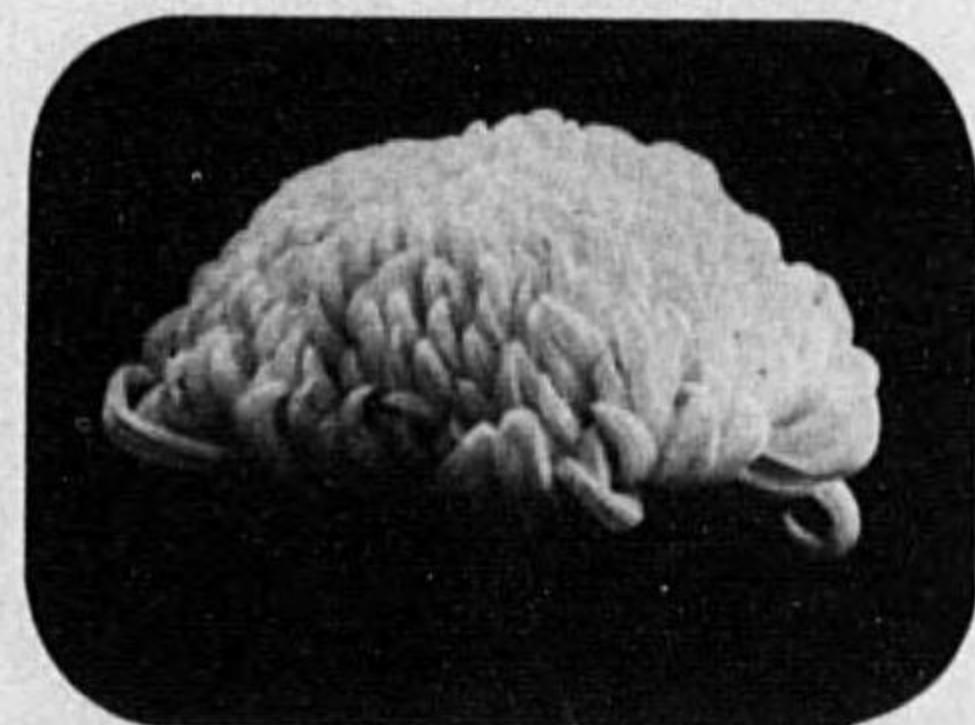
天位 國晃 中山 清



人位 祇王 田中清五郎



地位 日東光 豊田賢造



天位 八重霞 中山 清



人位 長生殿 村田清次郎

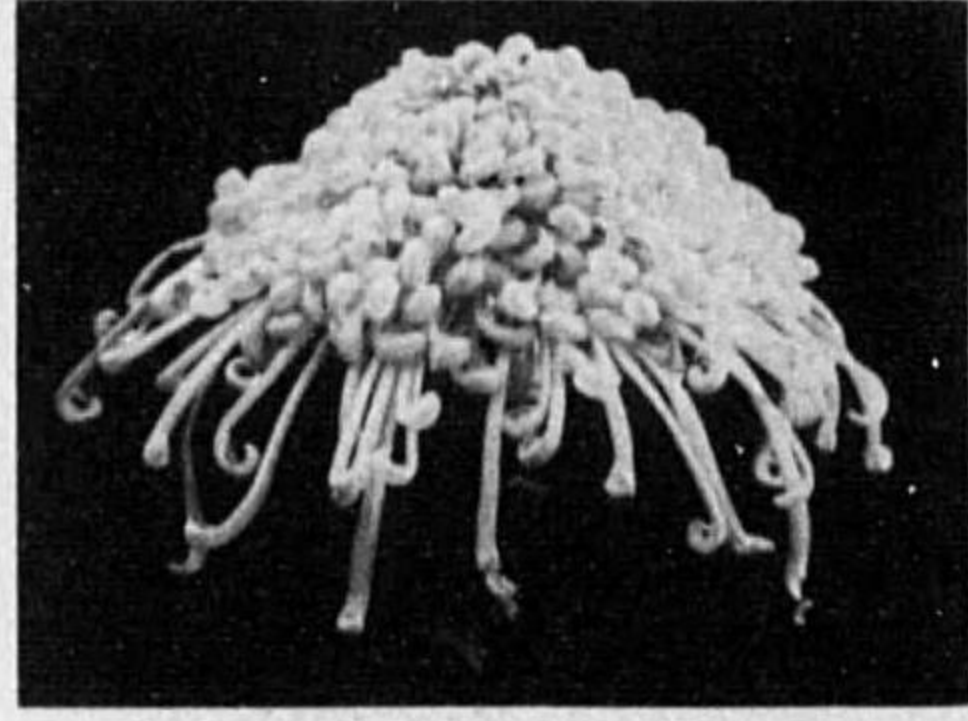


地位 業平 吉田庄次郎

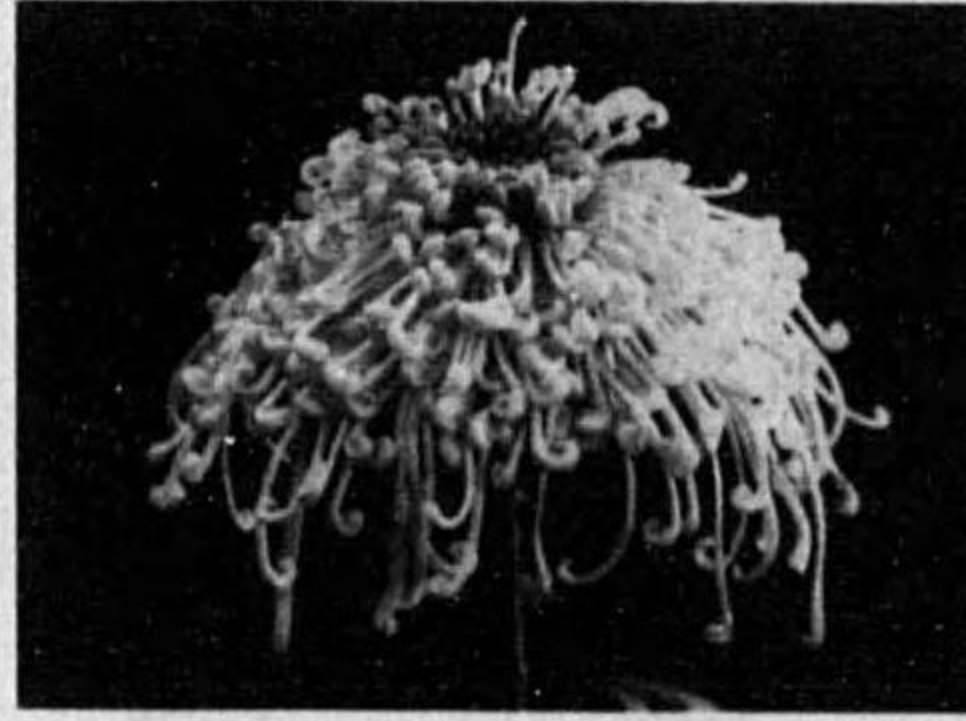


天位 光輝 黒木 俊

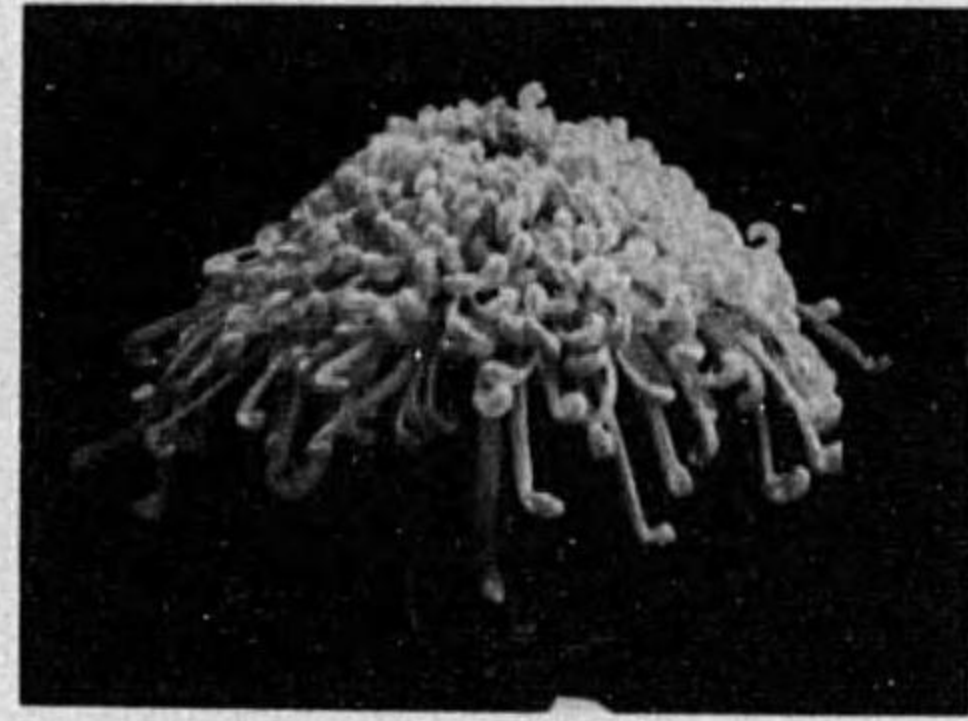
（日一十月一十）會花切回二第會大花菊谷比日



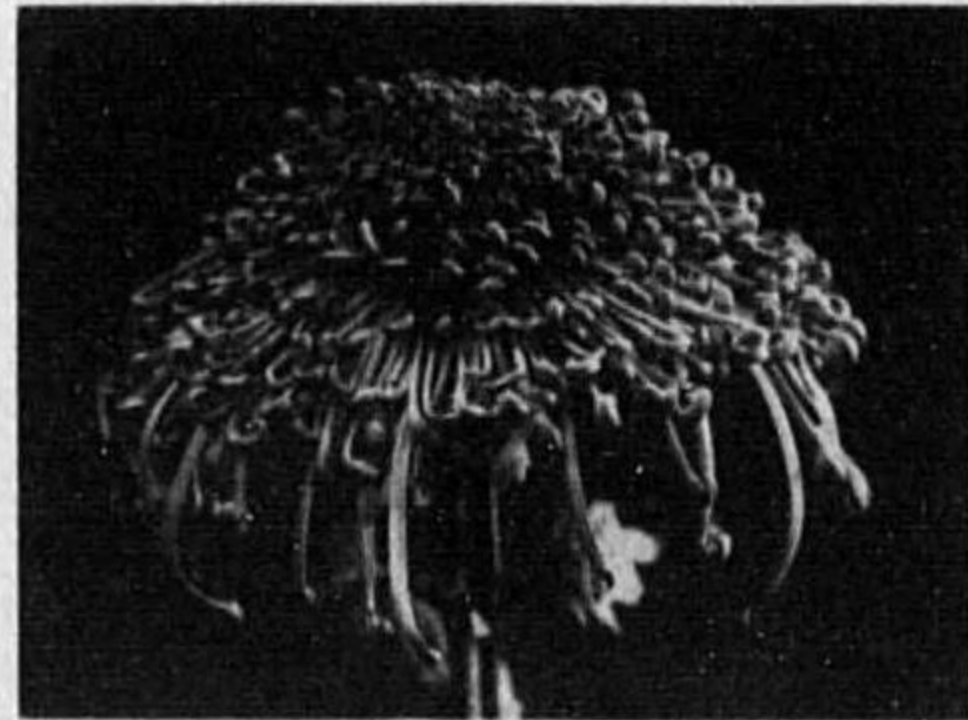
人位 春の海 村田清次郎



地位 月ヶ瀬 渡邊忠次



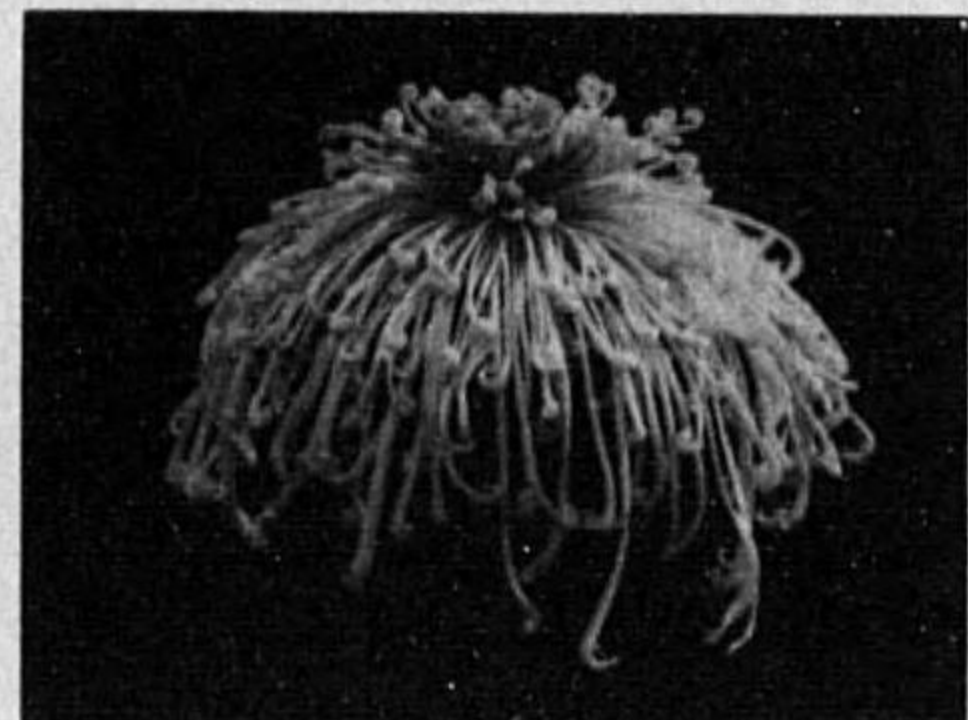
天位 春の海 渡邊忠次



人位 精興の光 武村儀平



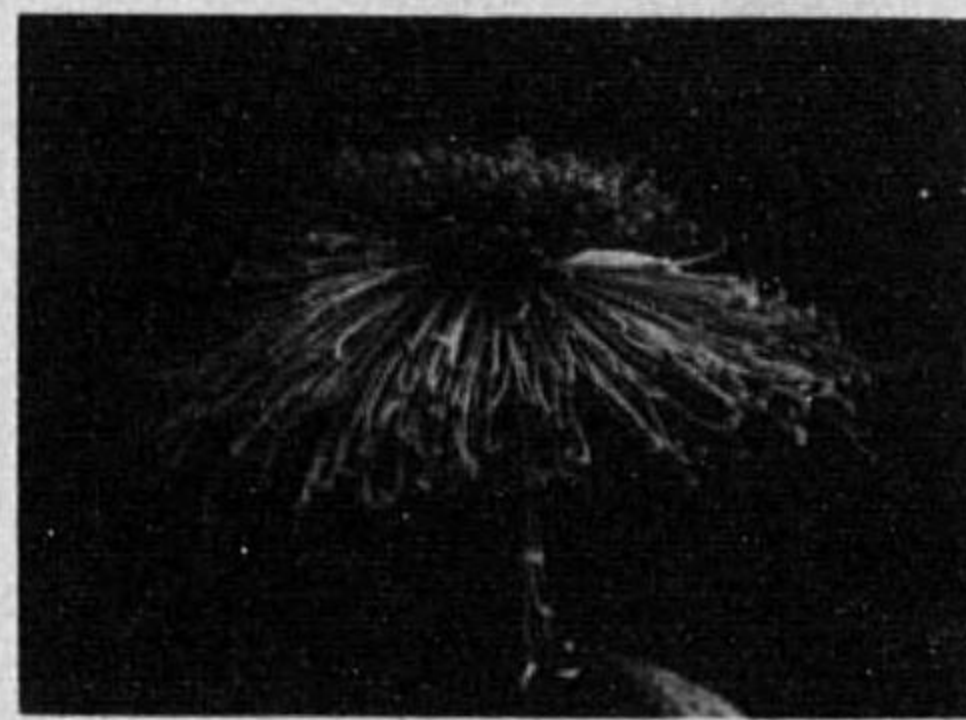
地位 精興の光 武村儀平



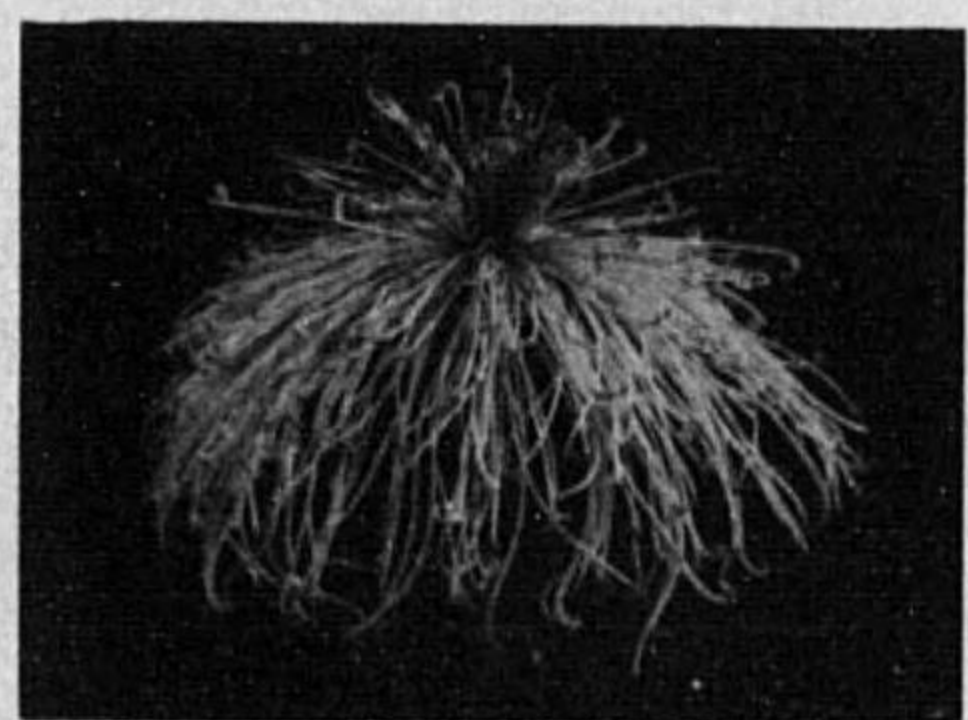
天位 白梅光 伊藤榮一郎



人位 紫光星 田中清五郎

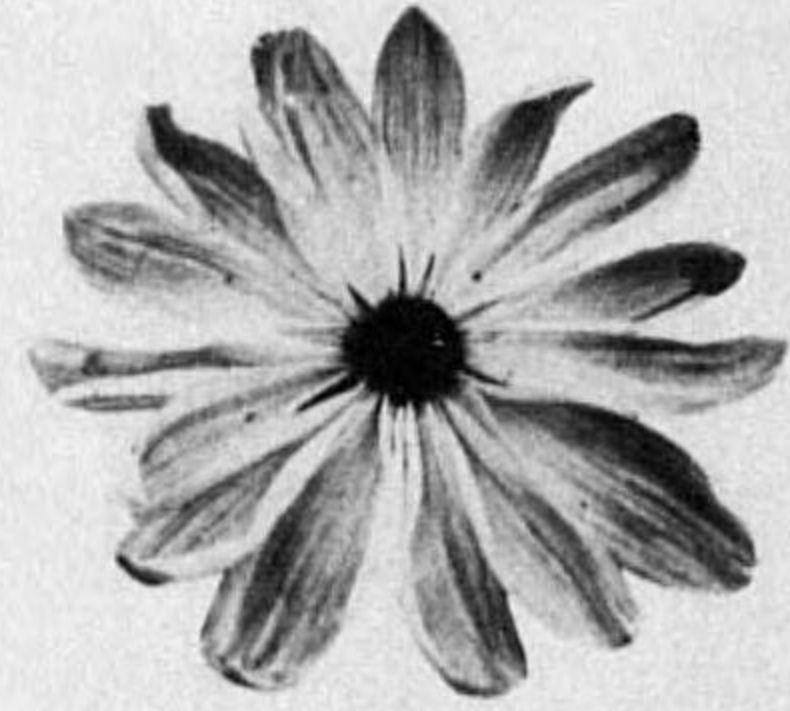


地位 忠勇玉 村田清次郎

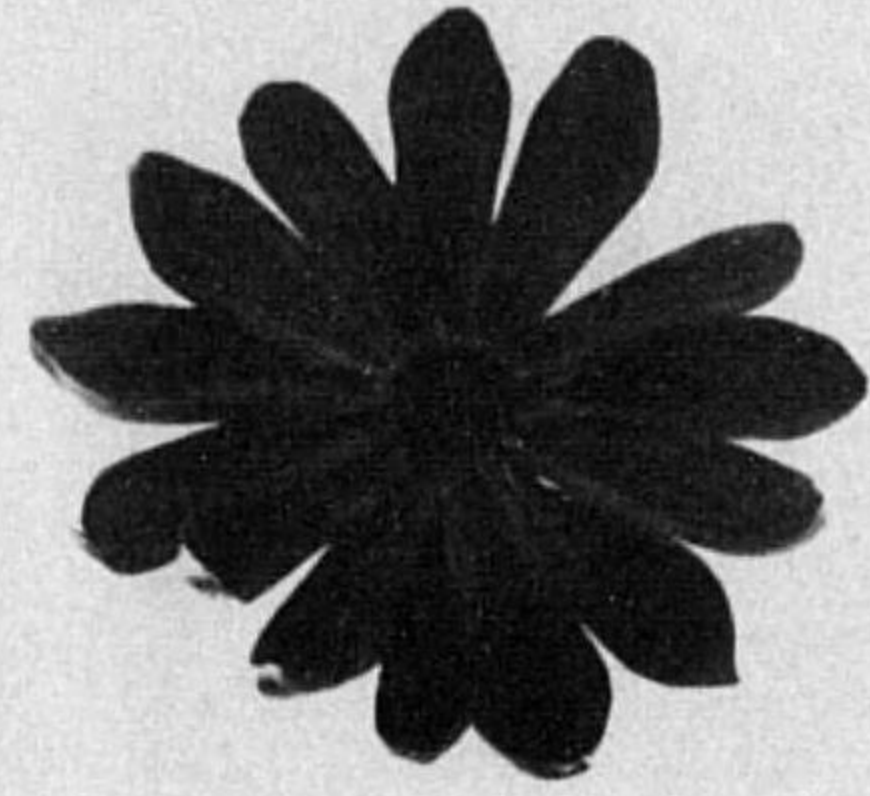


天位 松の聲 東海三郎

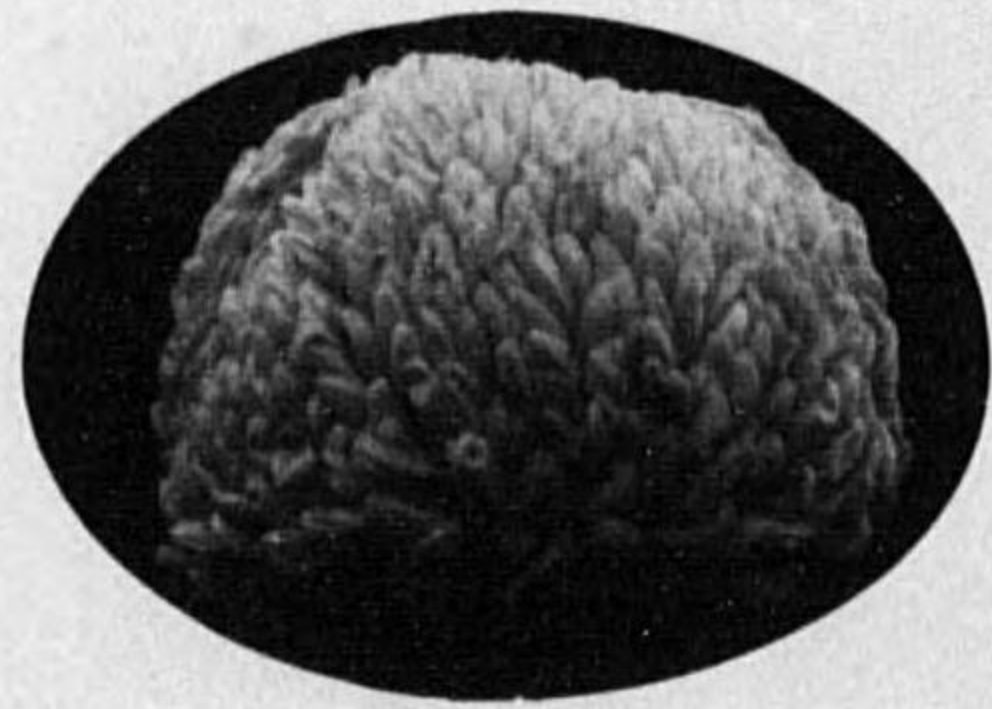
（日八十月一十） 會花切回三第會大花菊谷比日



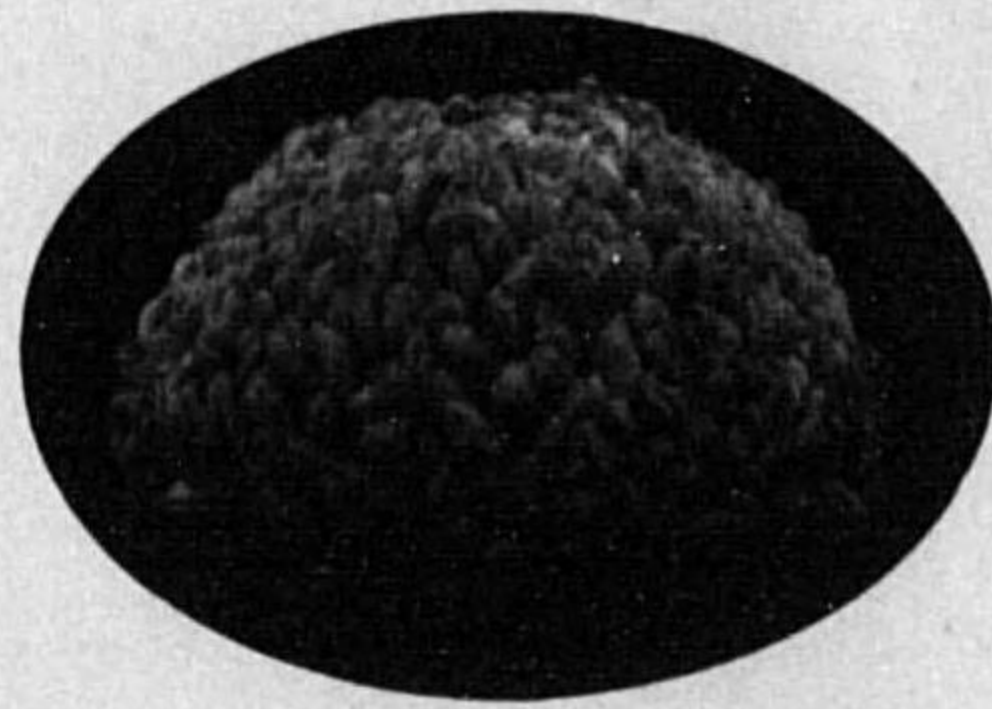
地位 國旗
宮川國太郎



天位 國晃
中山清



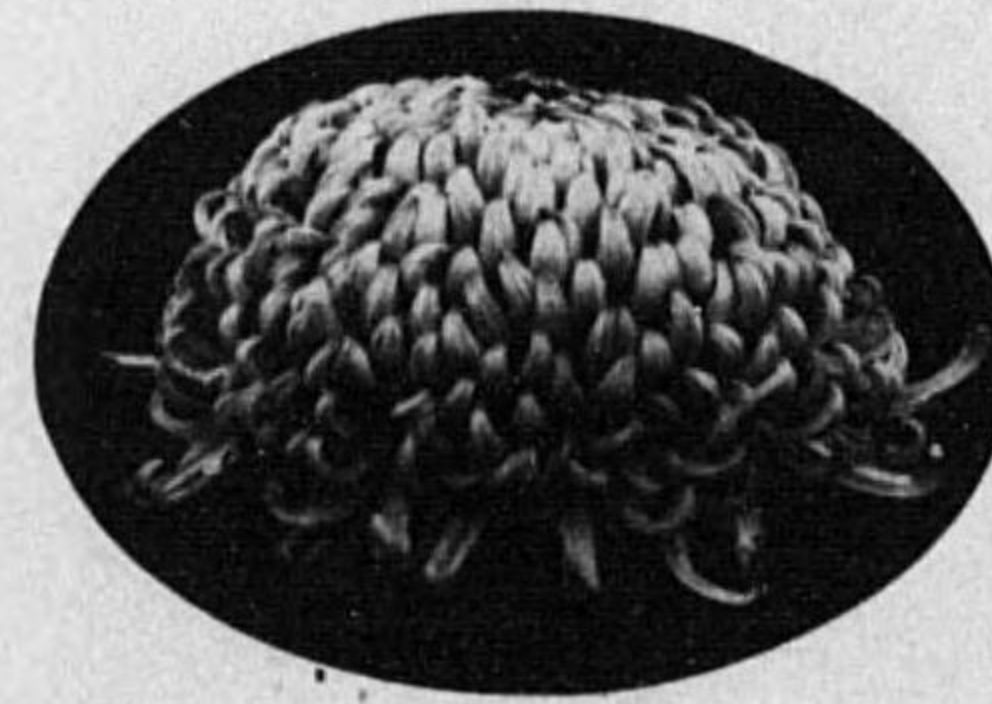
人位 桃美玉王
吉田庄次郎



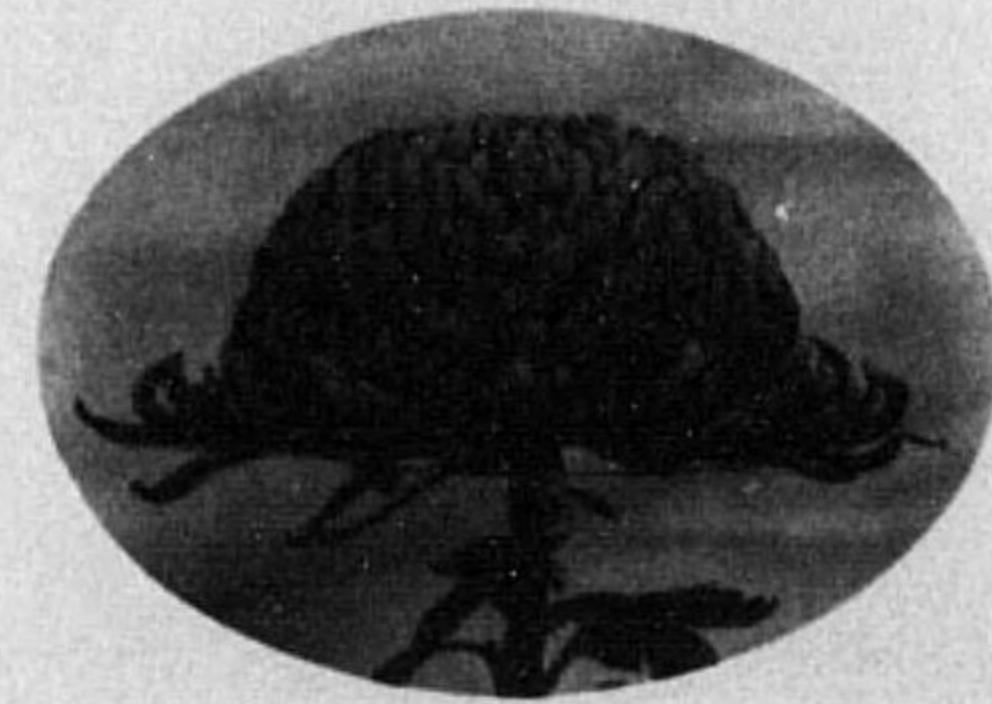
地位 勝閑
岡部輝治



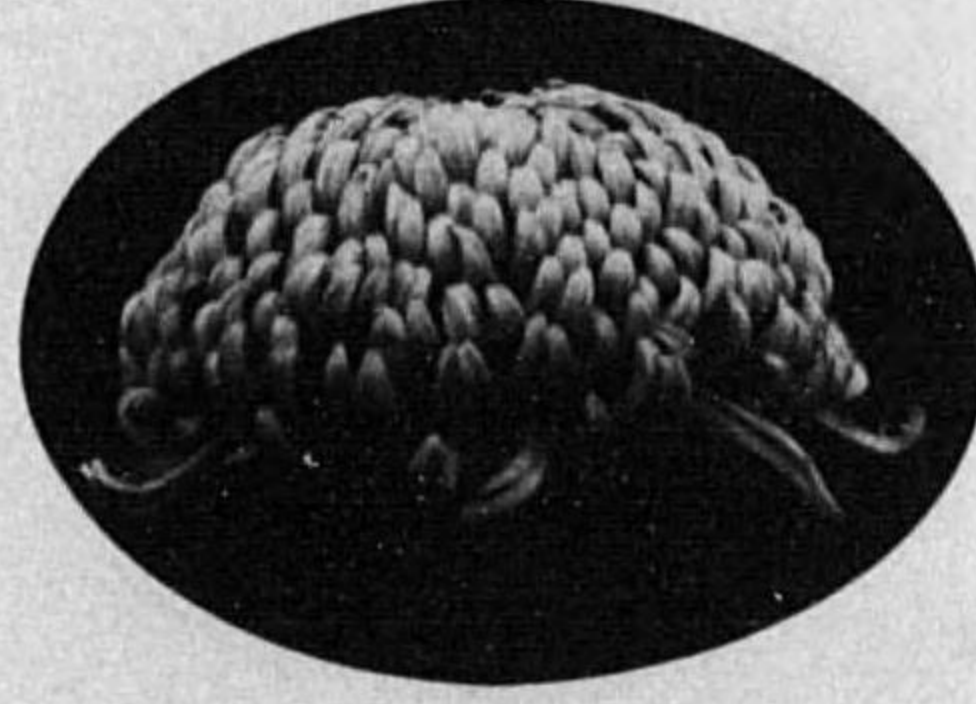
天位 日東光
岡部輝治



人位 半葩
岡部輝治

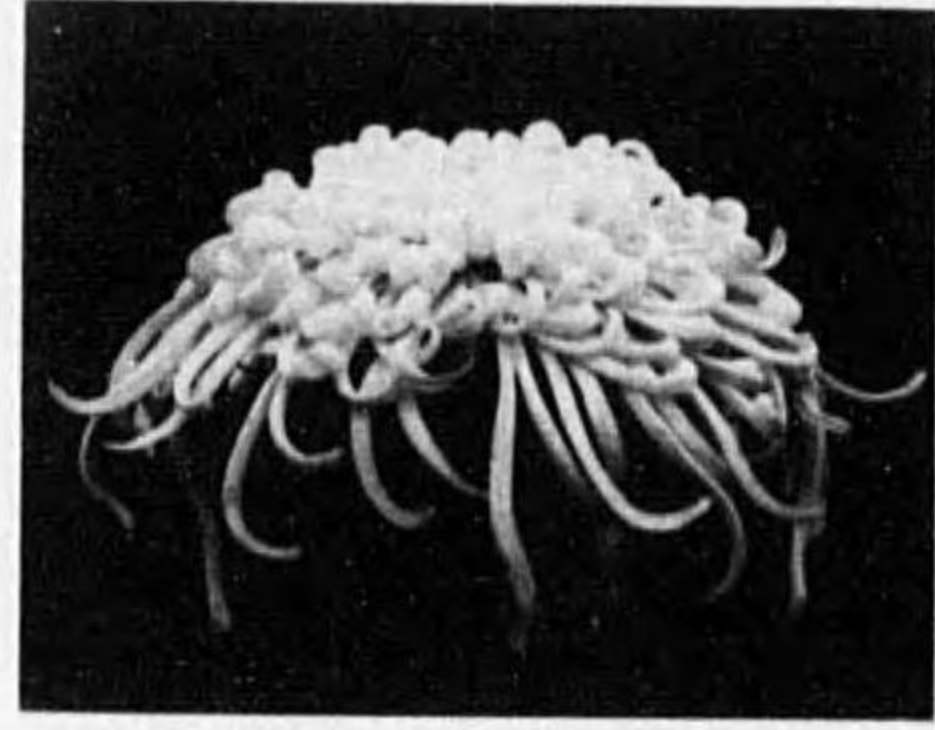


地位 光輝
武木爲綱

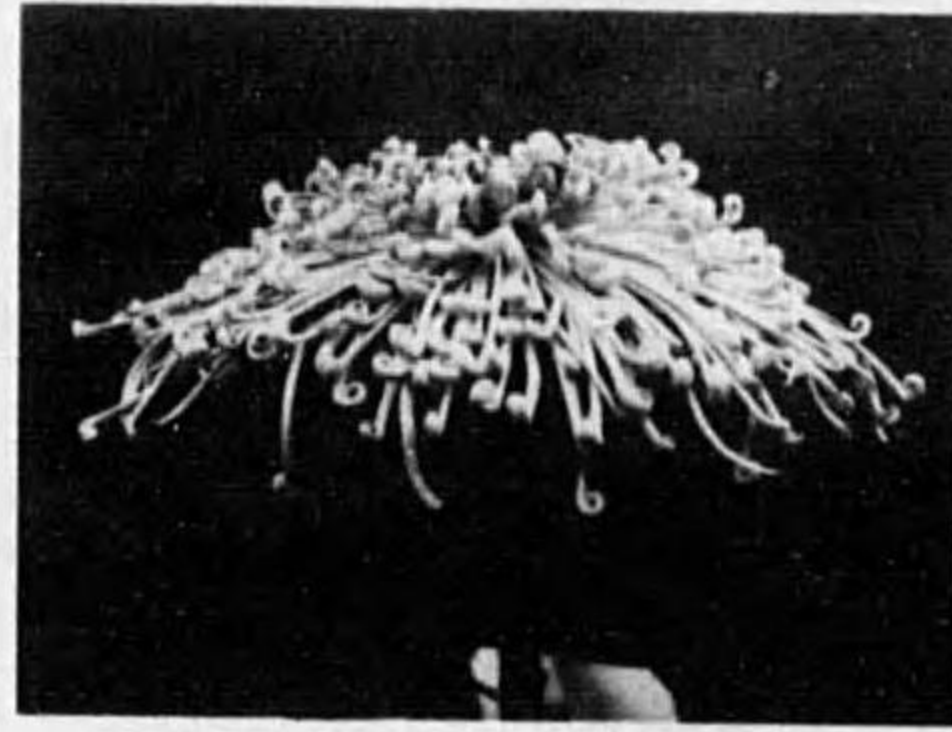


天位 半葩
西川寛

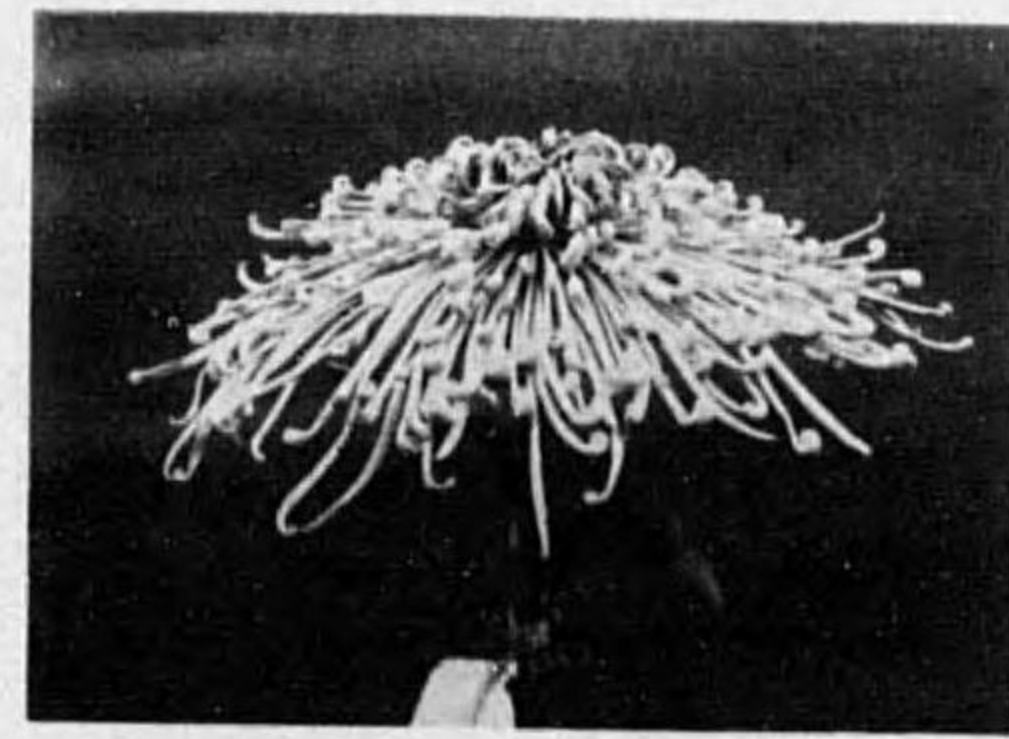
（日八十月一十）會花切回三第會大花菊谷比日



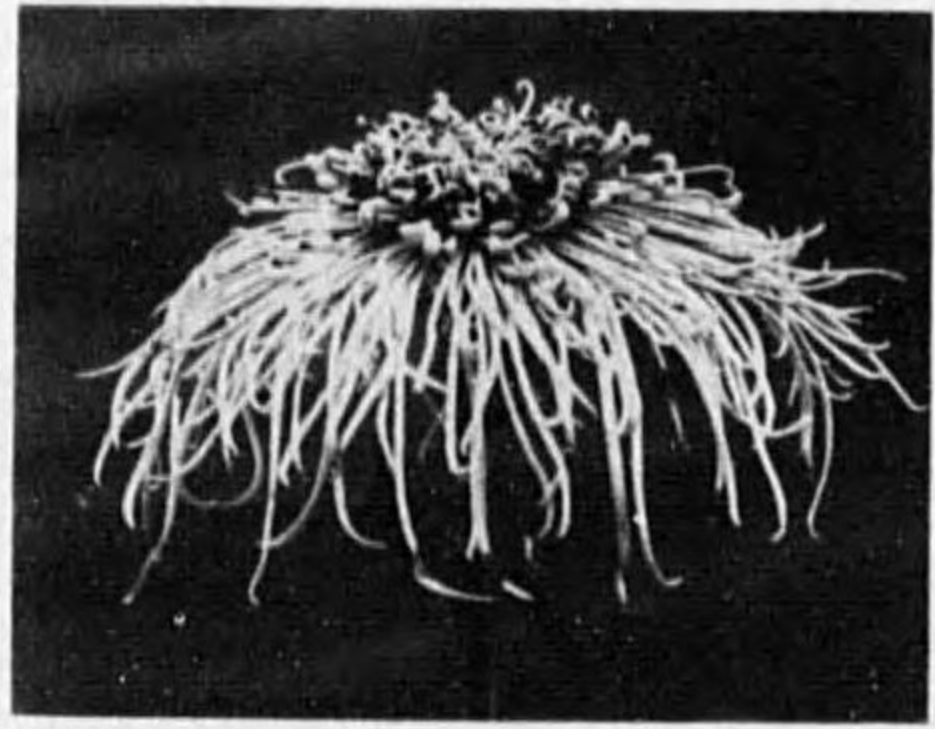
人位 養老 唐澤萬平



地位 松竹梅 市村金藏



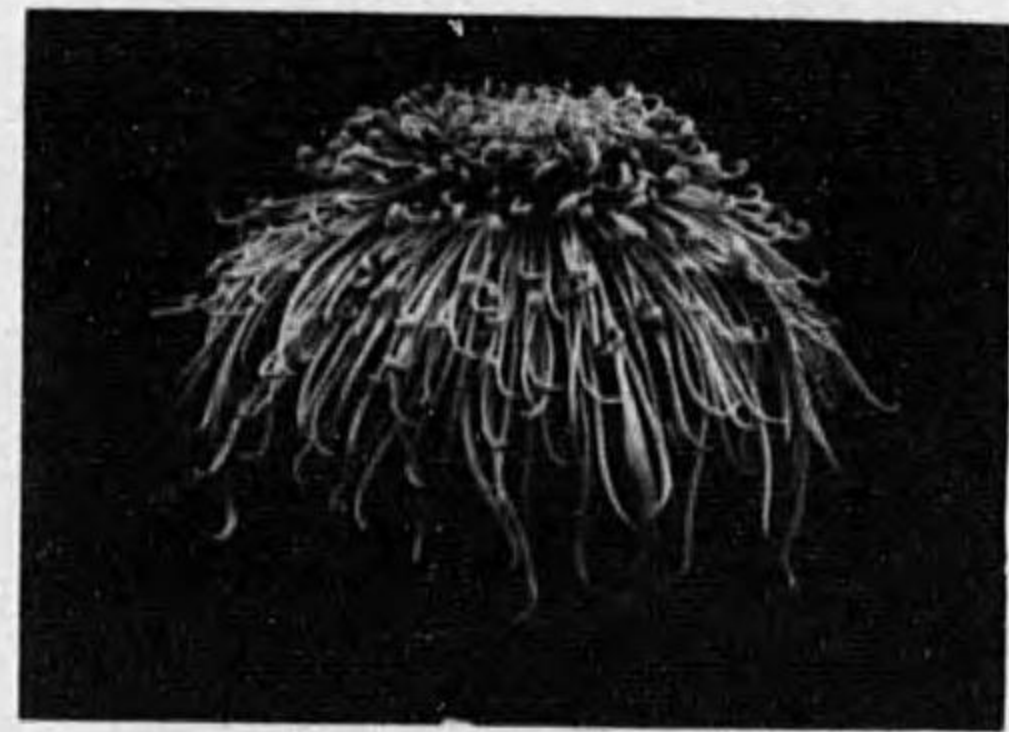
天位 松竹梅 北條滋吉



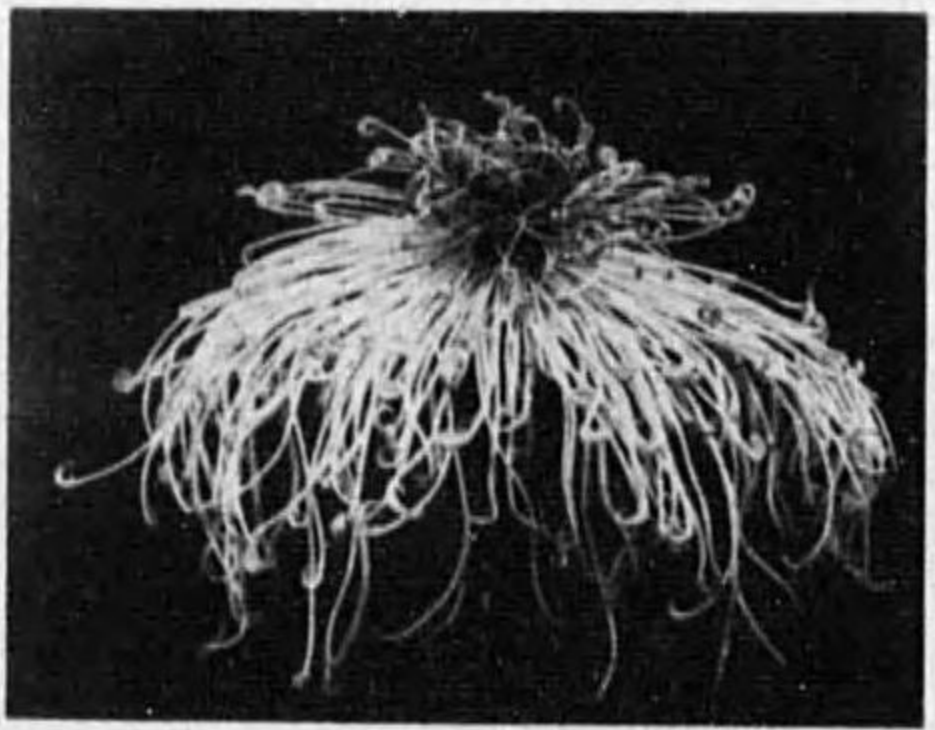
人位 紫式部 井芹忠雄



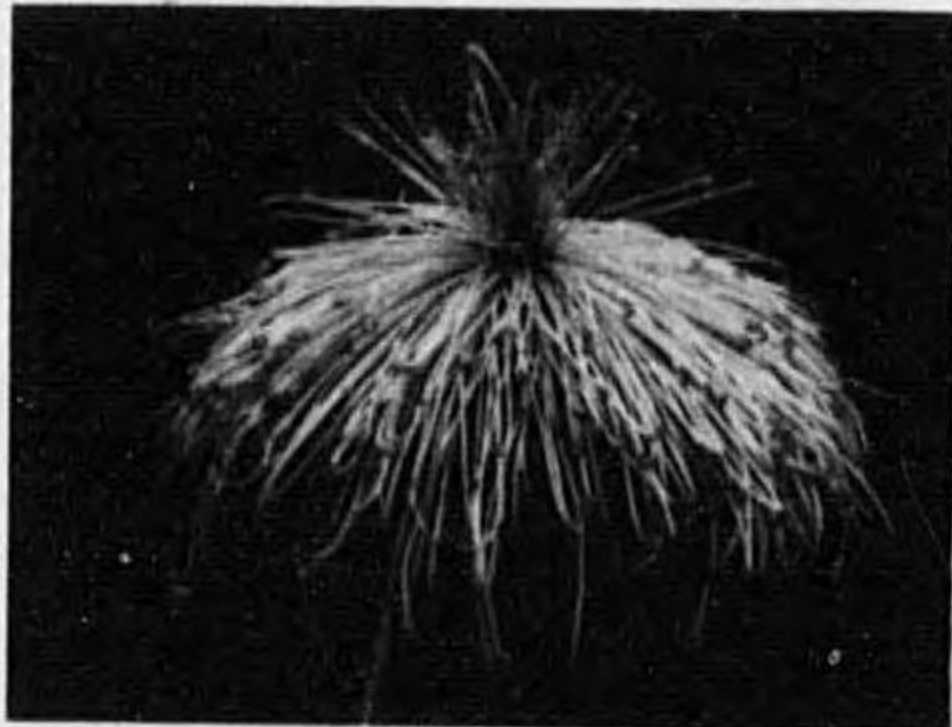
地位 こぼれ錦 細野元次郎



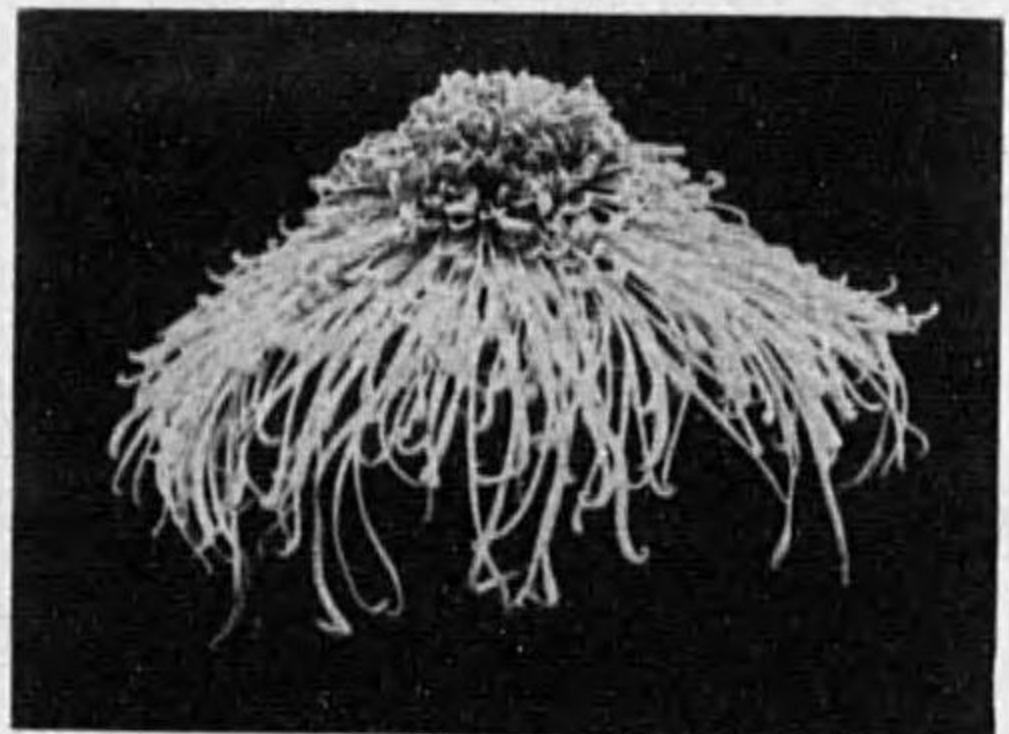
天位 紫式部 西川都留



人位 緑の露 寶蘭善教



地位 松の聲 高橋節夫



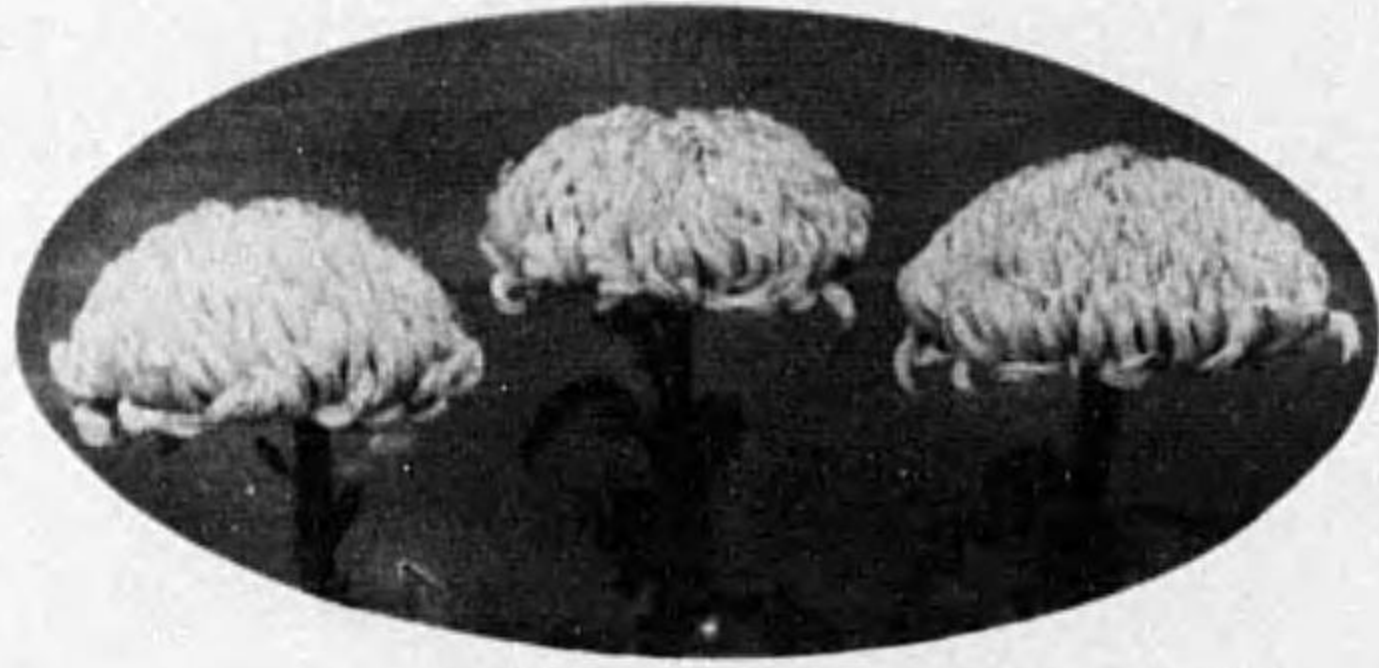
天位 玉葛 荒松五郎

大井支部評會競技花及盆養花

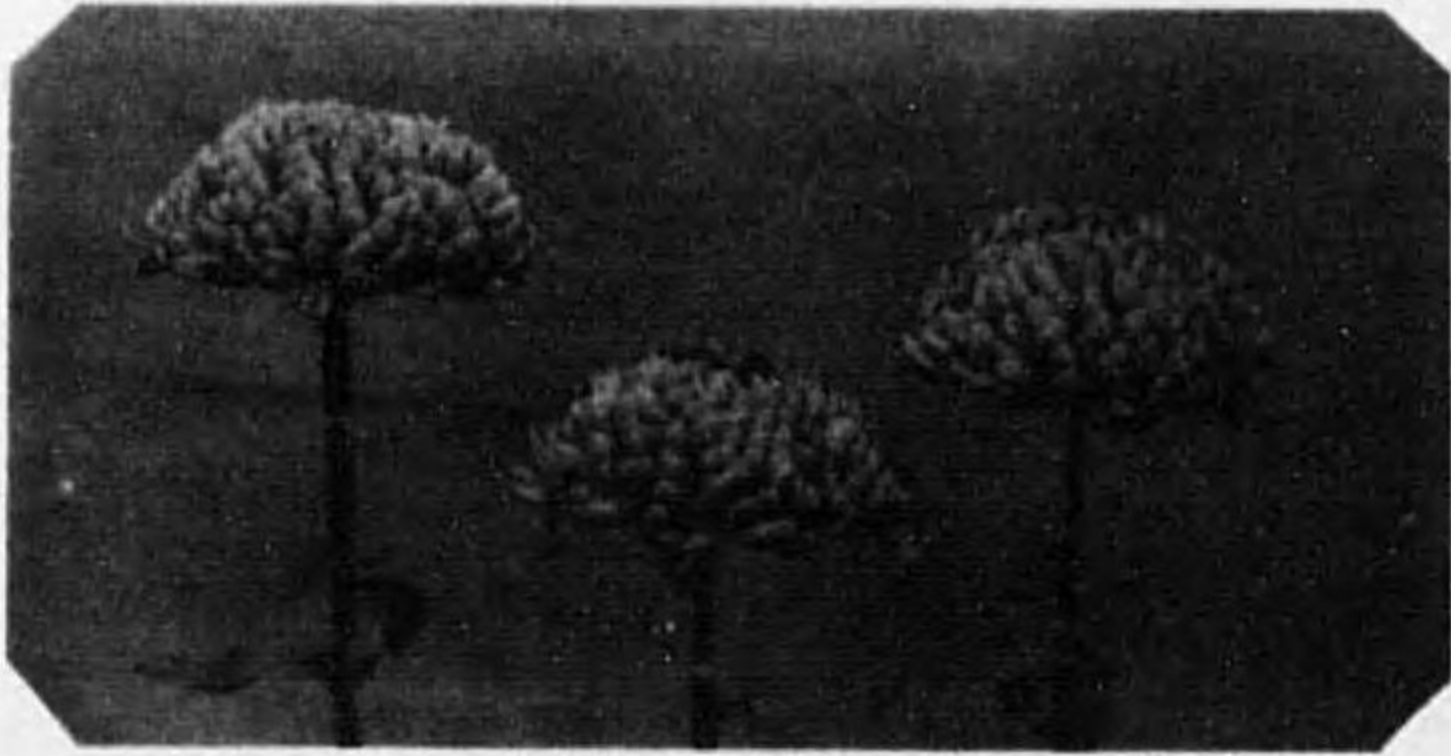
厚物咲

切花特別競技月ヶ瀬

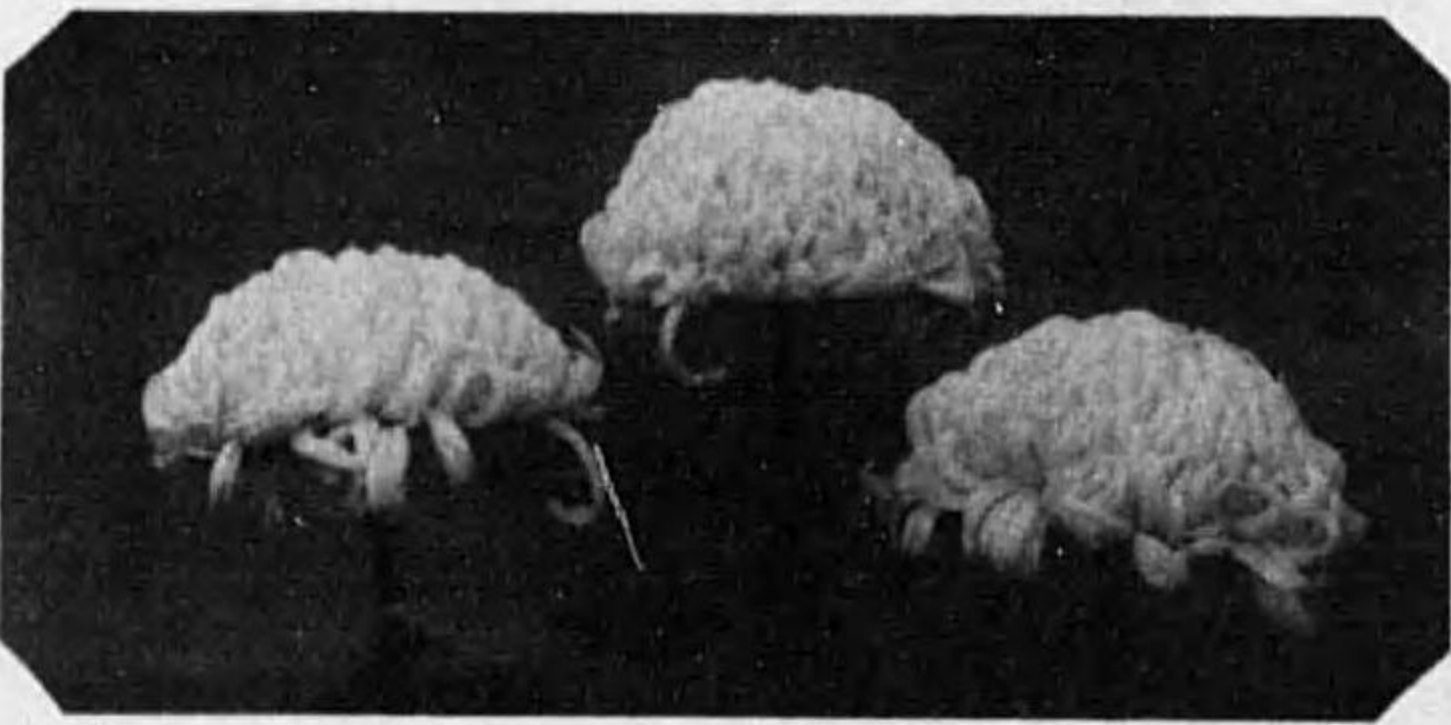
天位
黃美玉王
小倉三郎



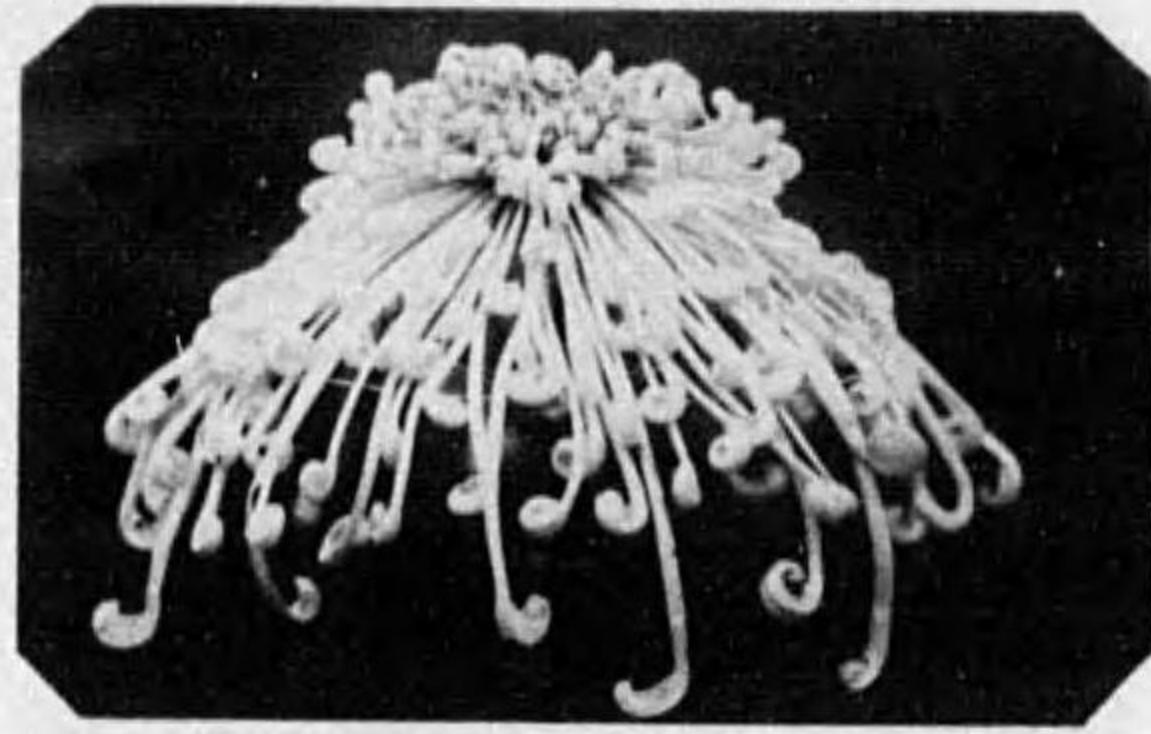
地位
日東光
小倉三郎



人位
八重霞
平林菊造



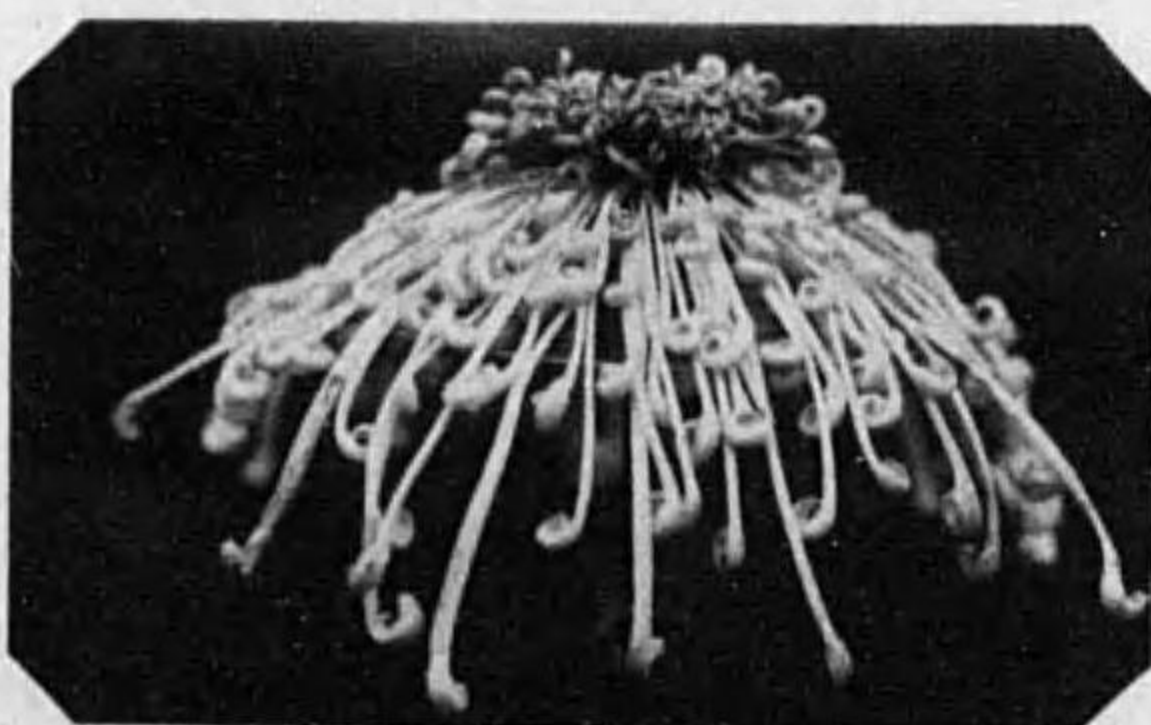
天位
最優等
(本部寄贈品を受賞)
秋元爲吉



地位
平林菊造



人位
村田清次郎

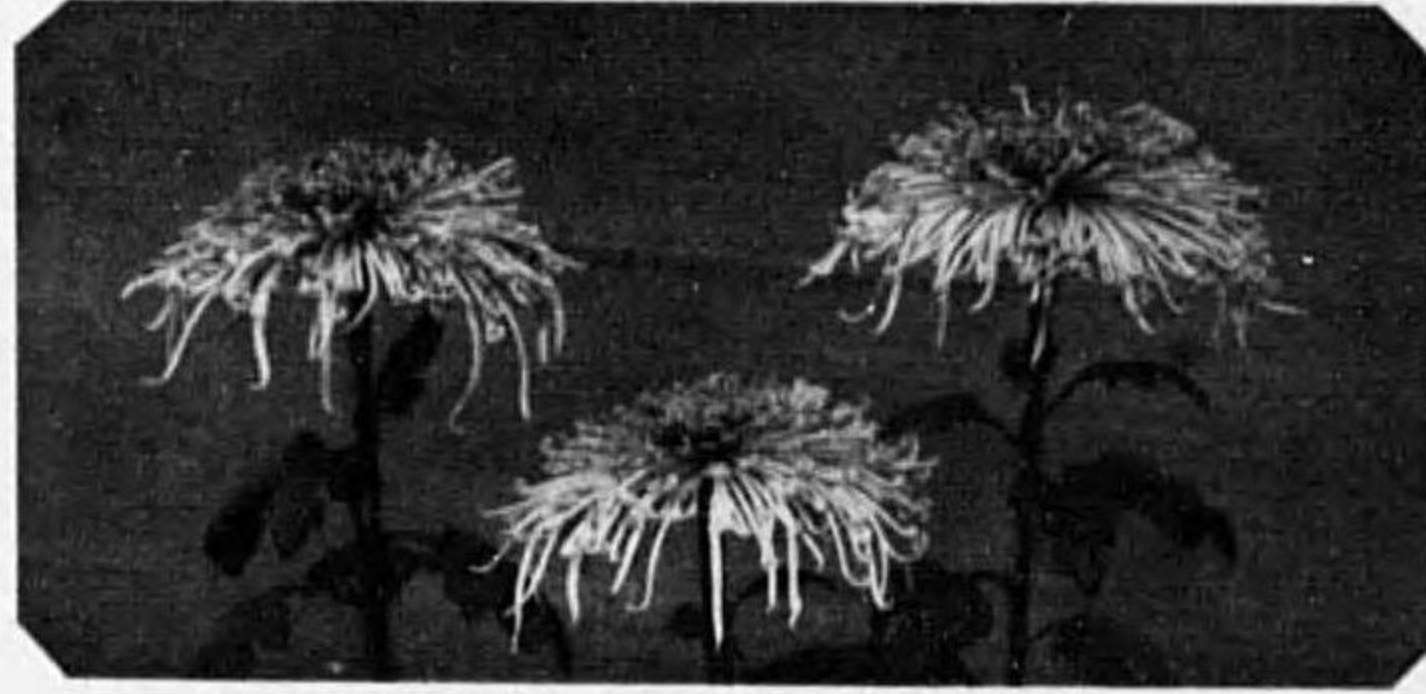


大井支部品評會盆養花

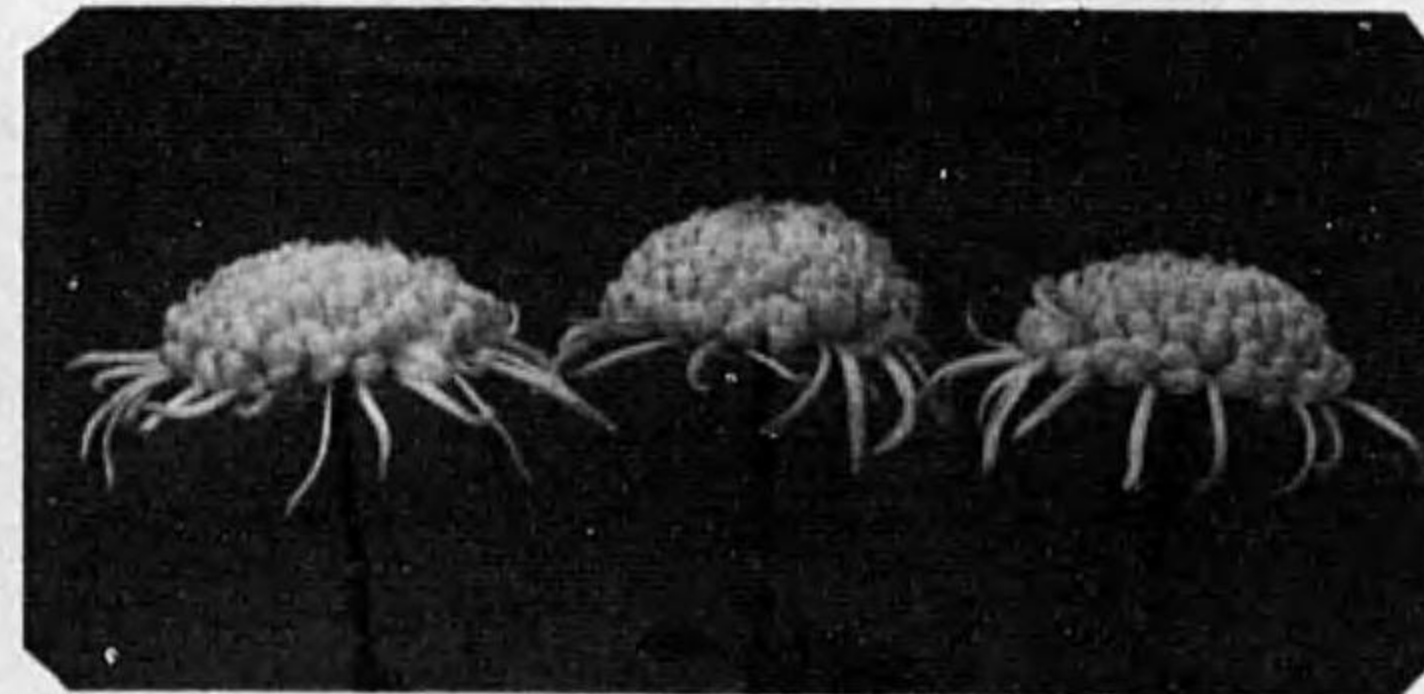
太管咲

厚物咲走付

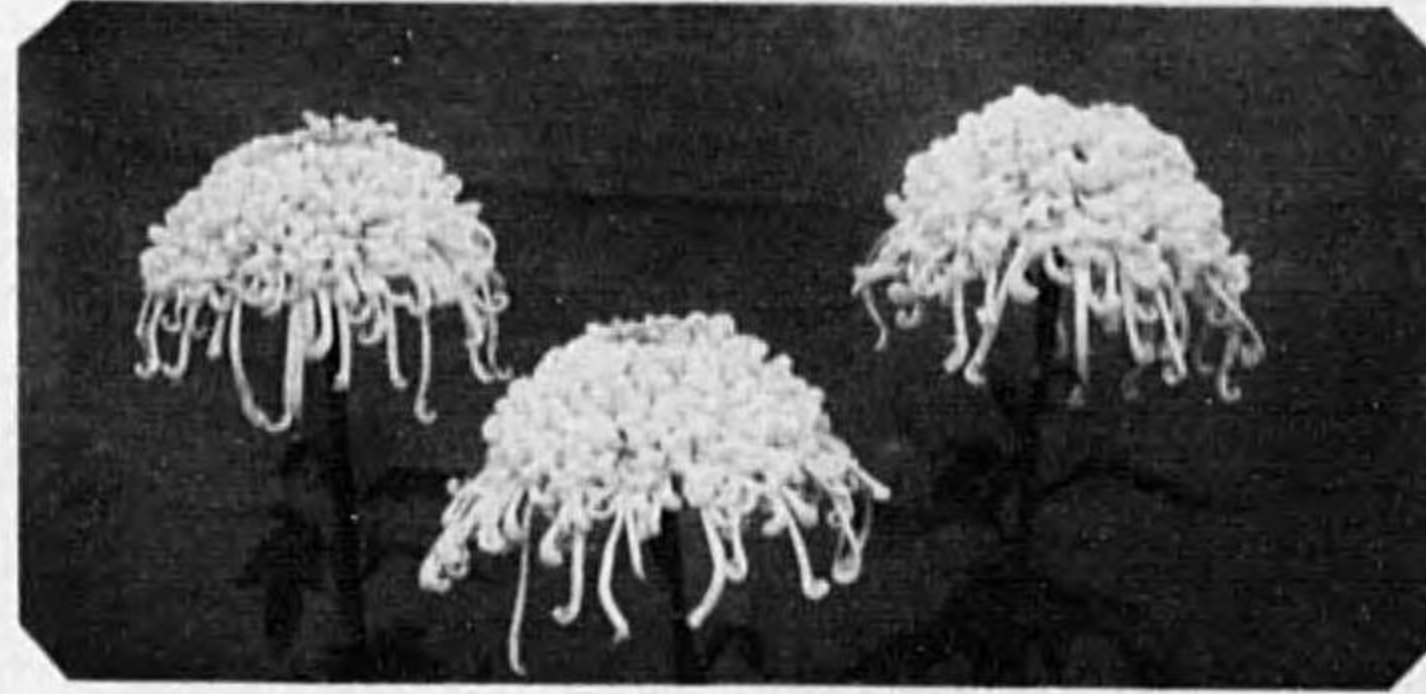
天位
最優等
松竹梅
原田謙芳



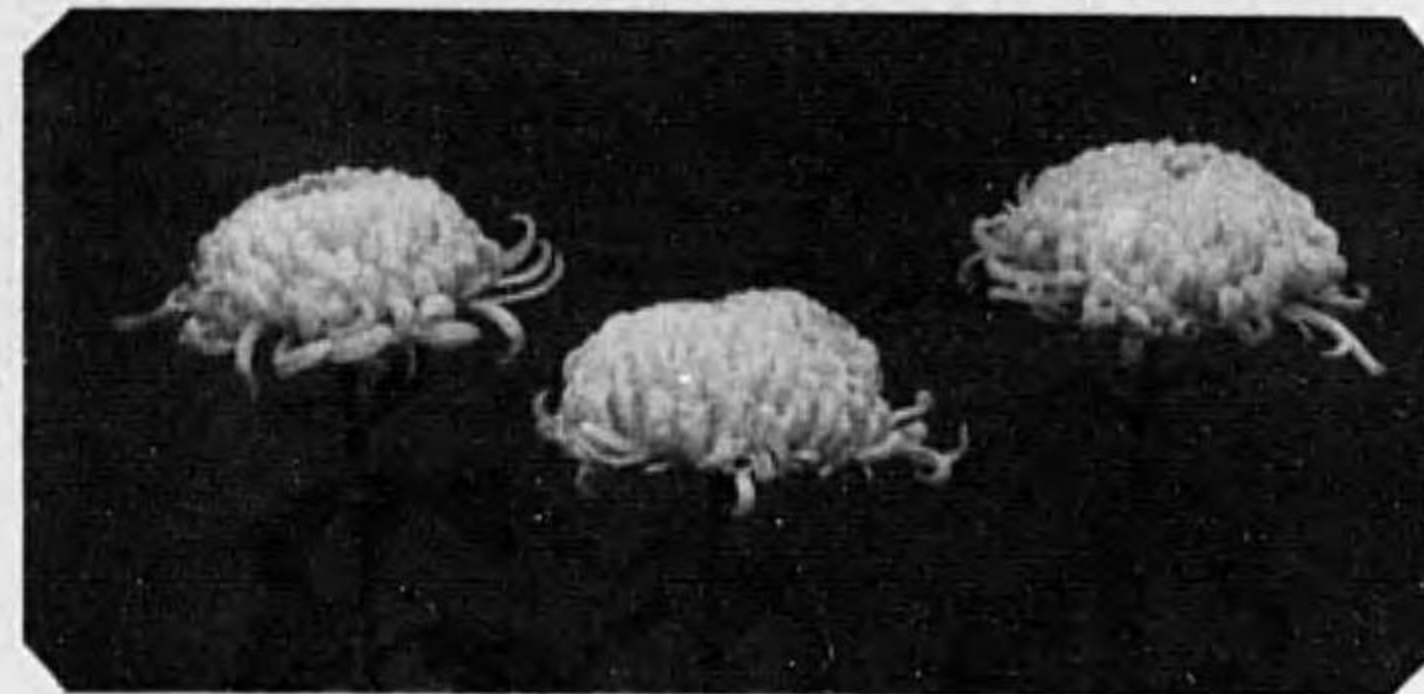
天位
平和
平林菊造



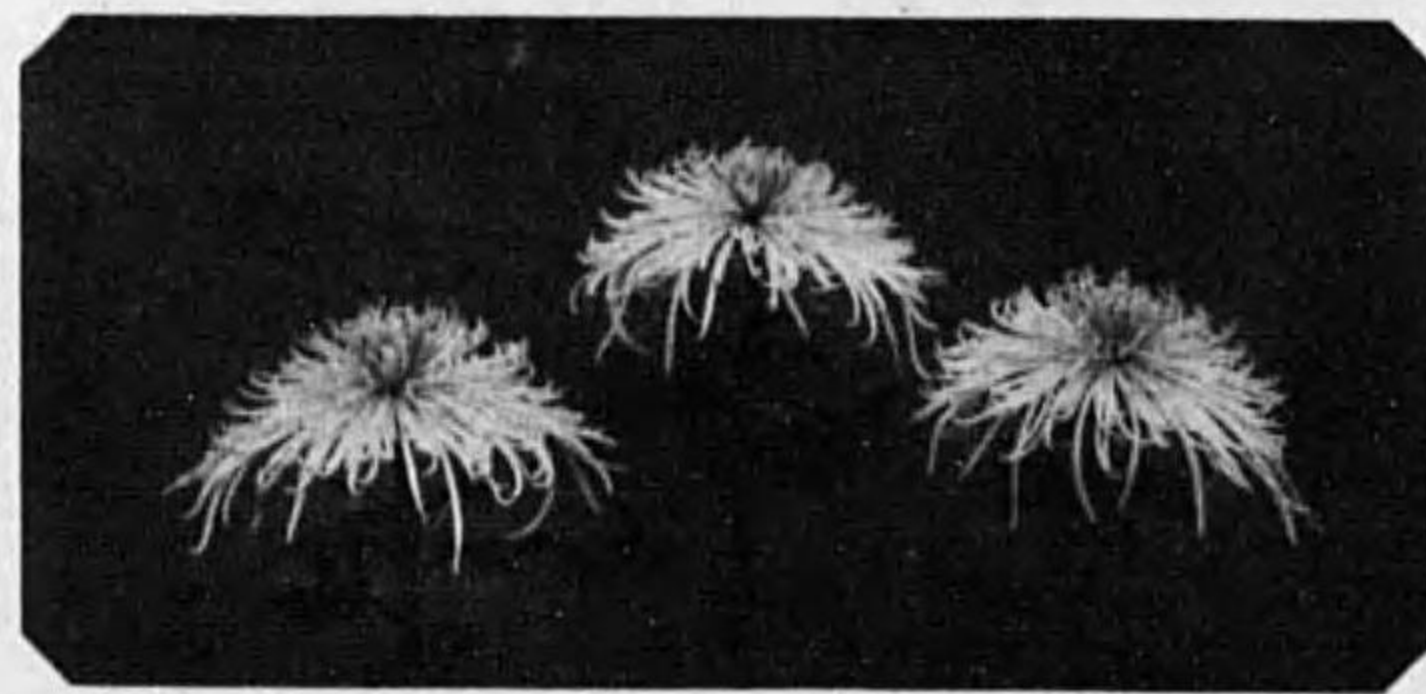
地位
春の海
村田熊太郎



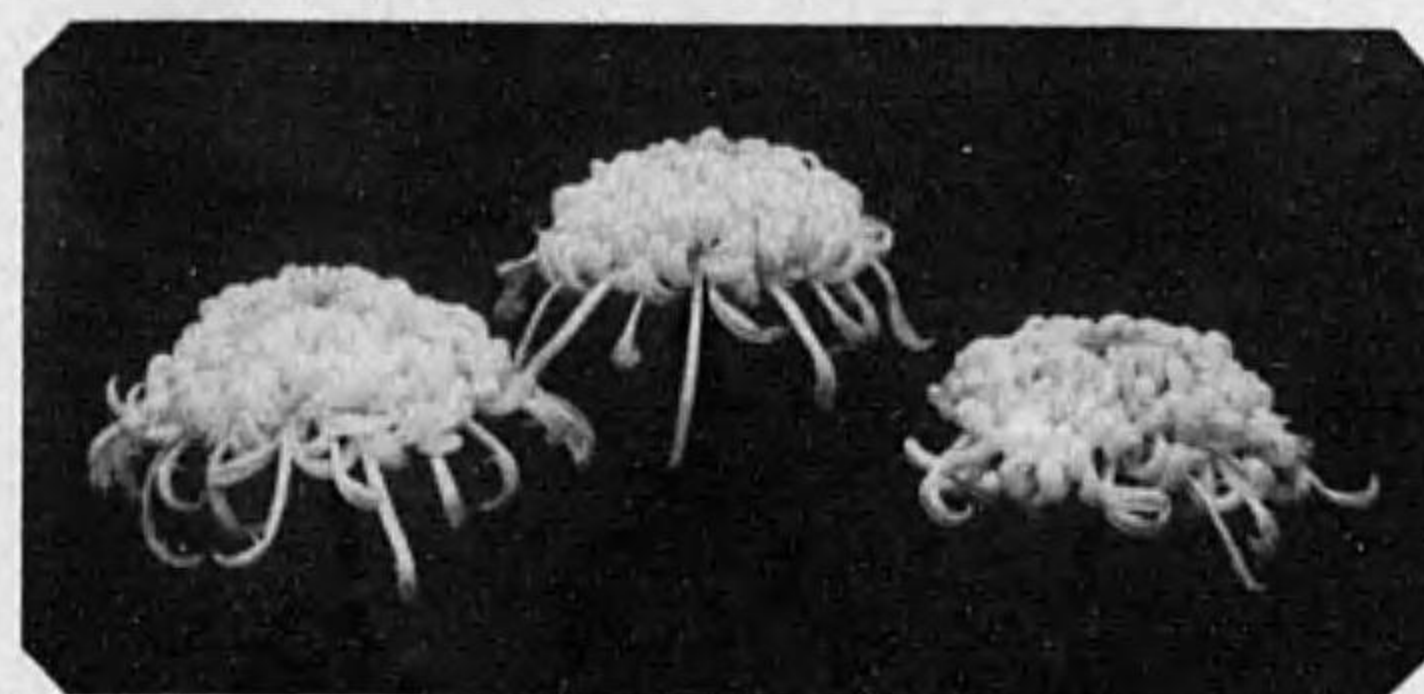
地位
白鳳冠
石黒又吉



人位
秋光
村田熊太郎



人位
群山雪
村田謙太郎

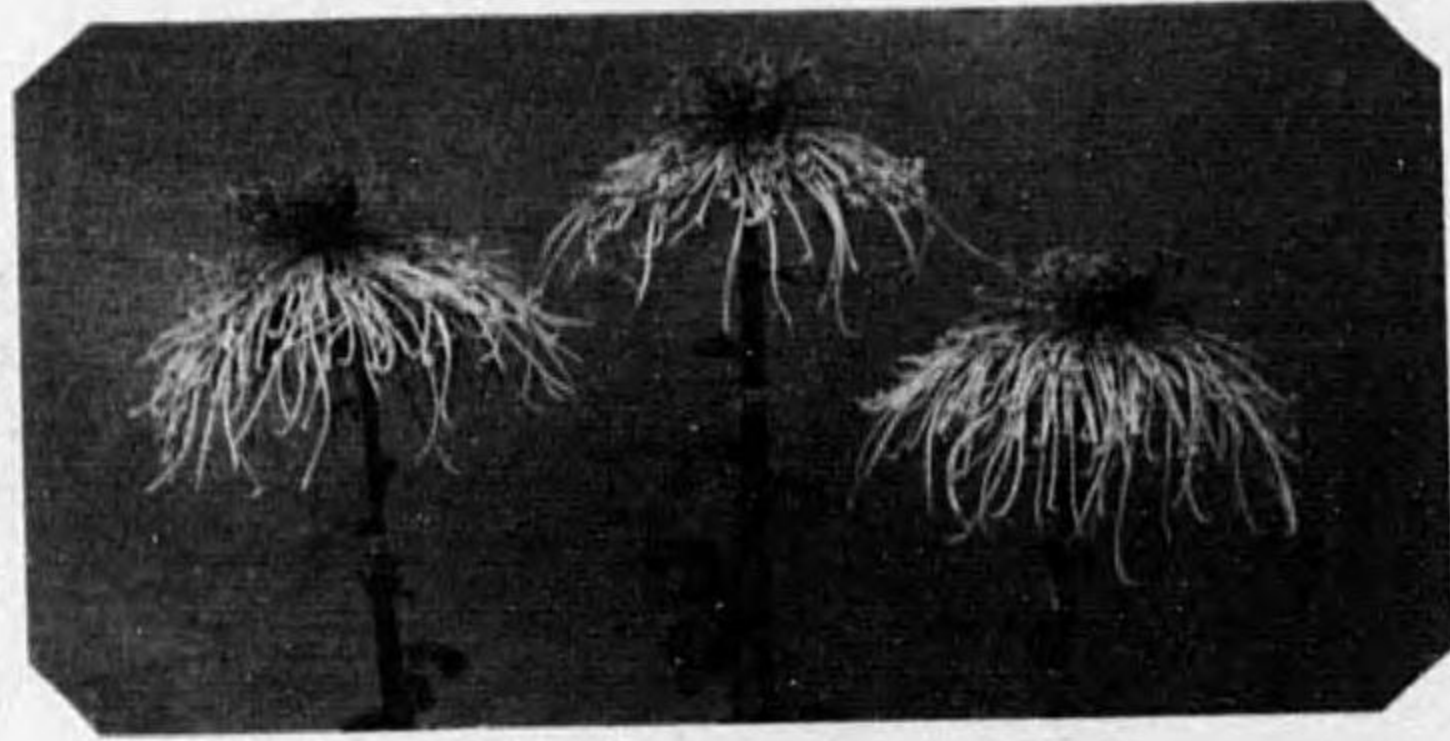


大井支部品評會盆養花

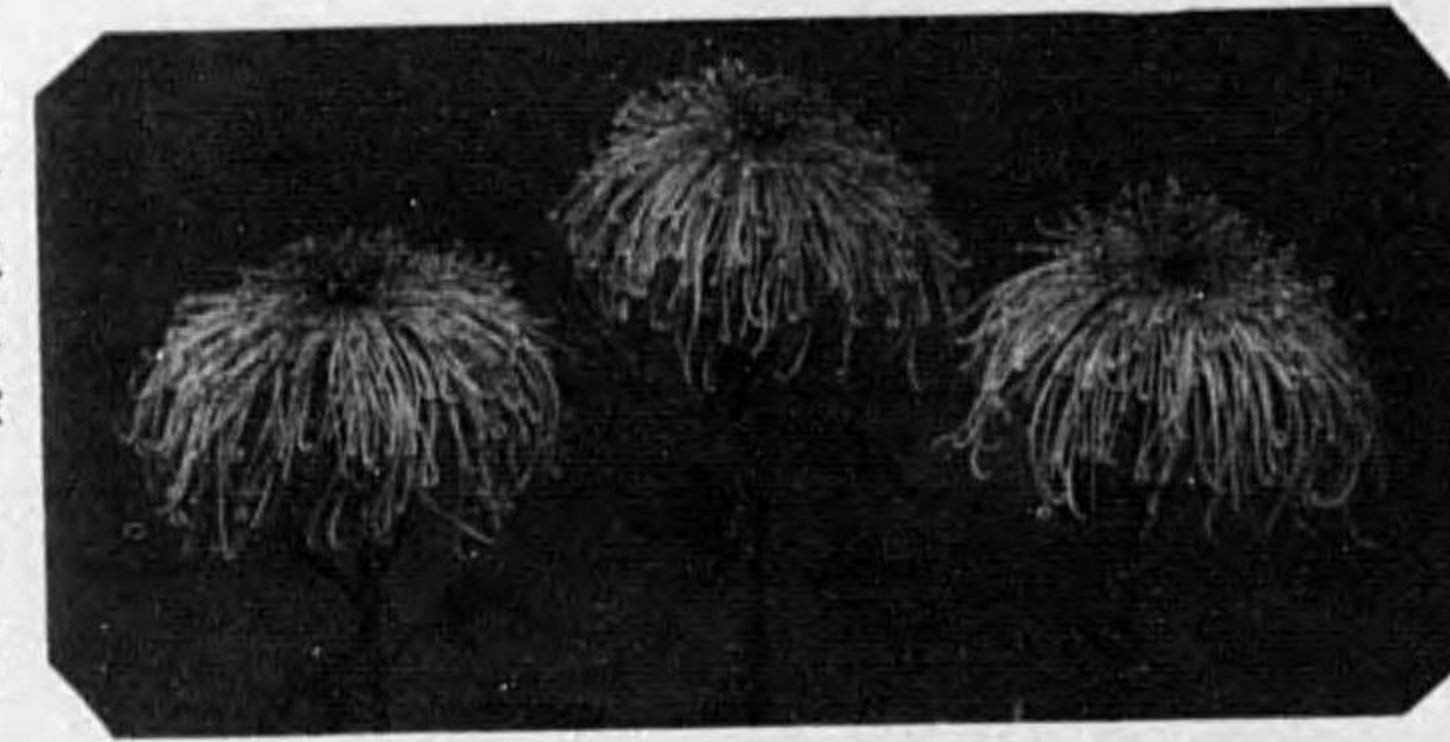
細管咲

間管咲

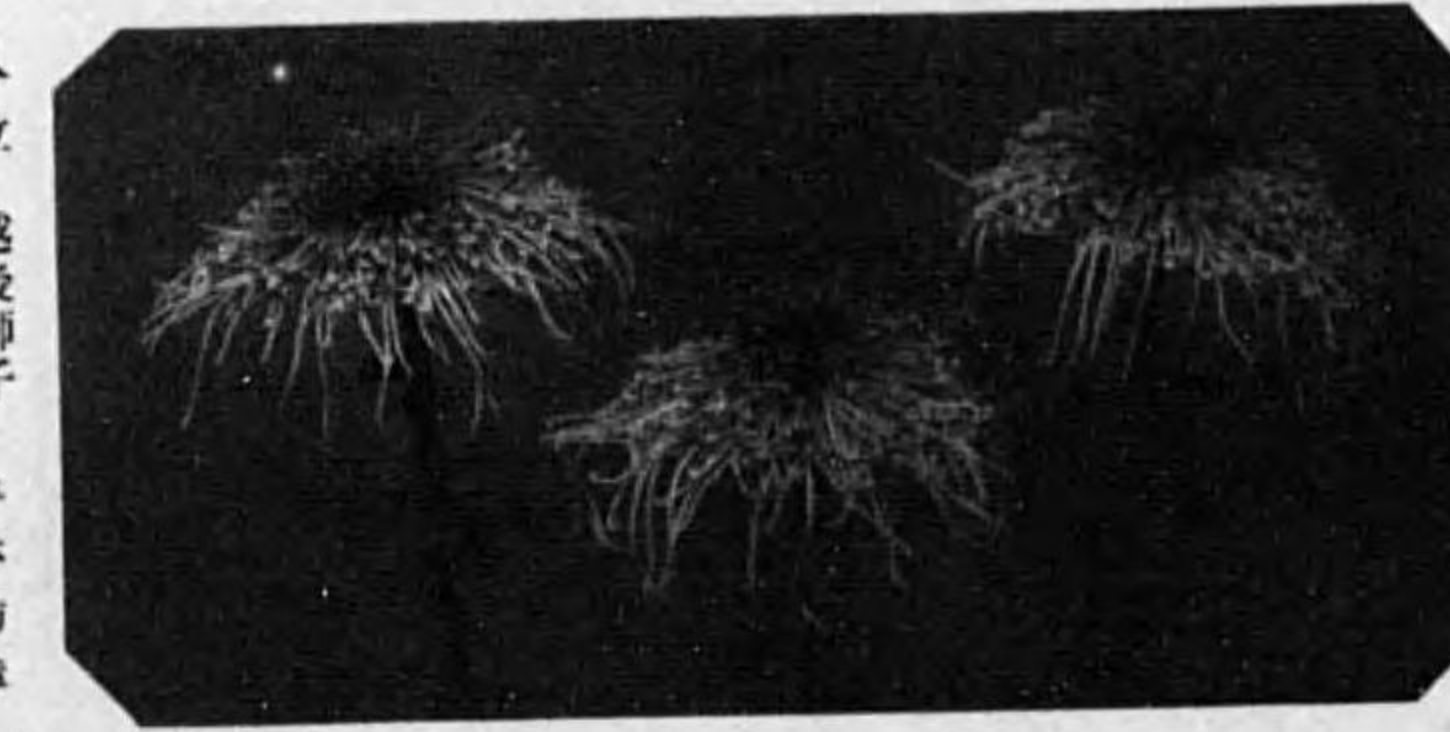
天位
越後獅子
馬島奉世



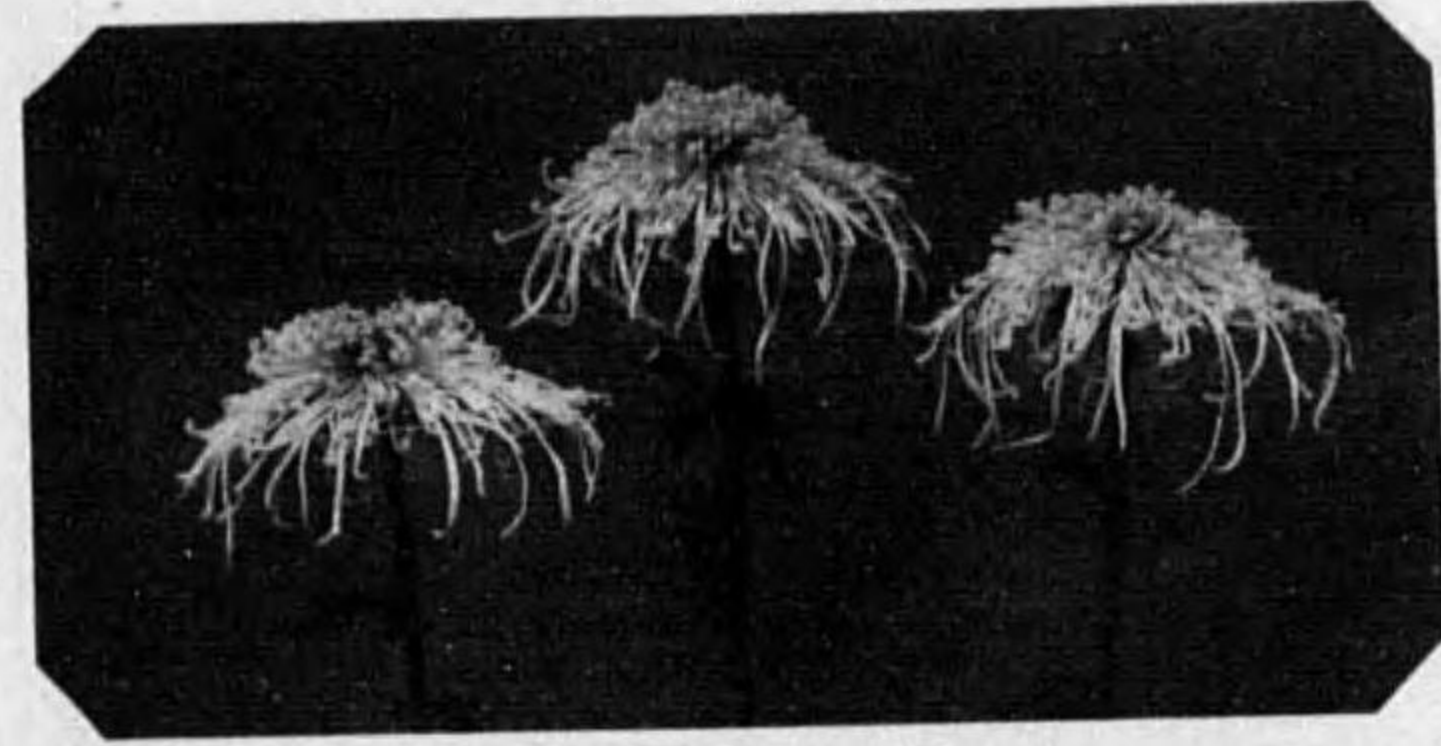
地位
紅玉殿
龍山祐秀



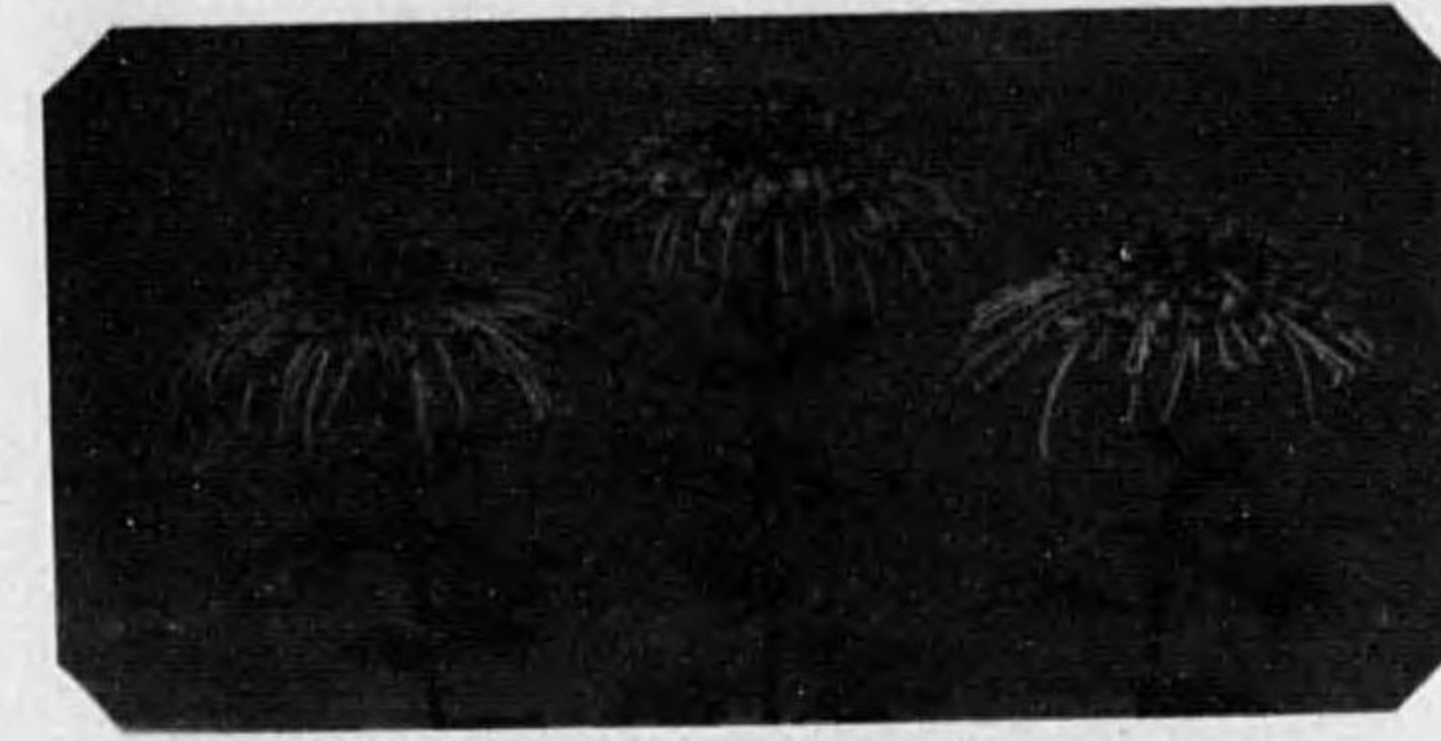
人位
越後獅子
平林菊造



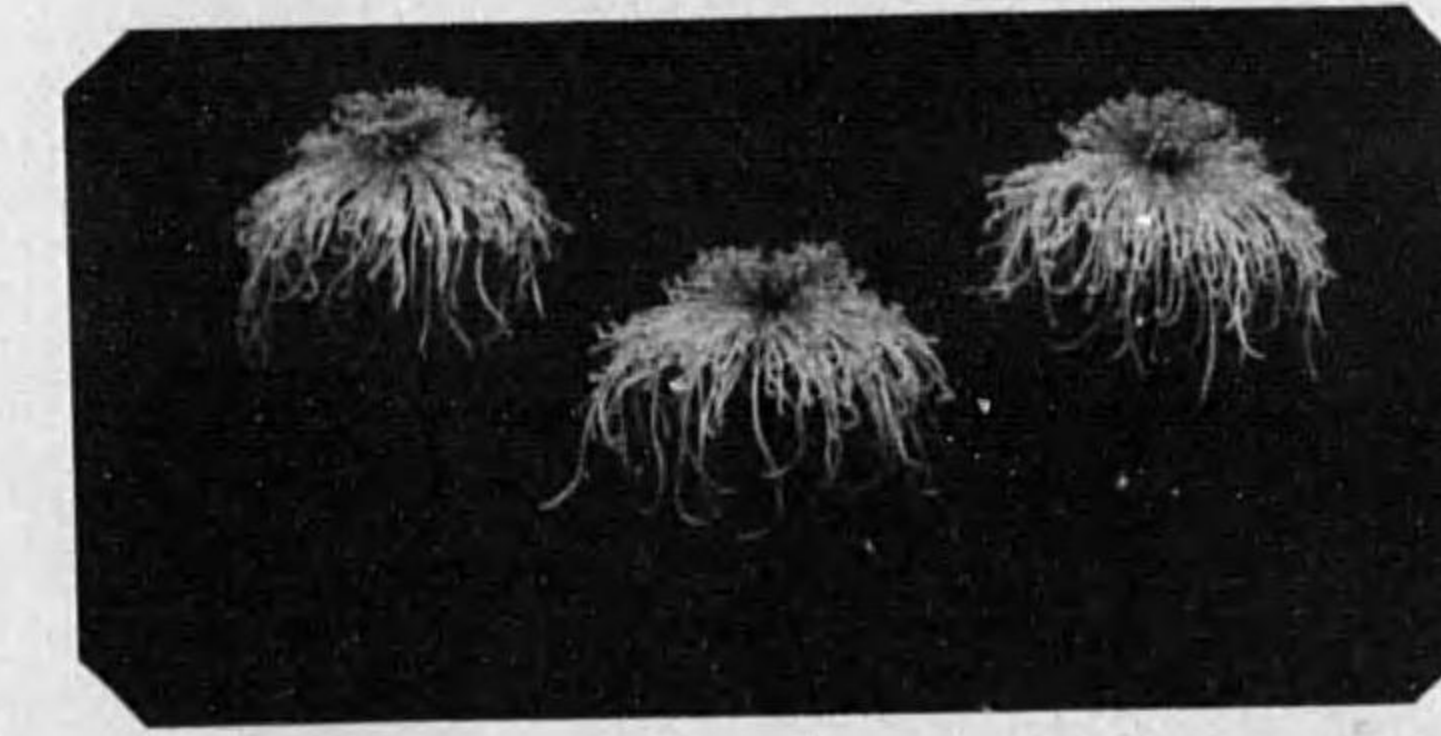
天位
帝王冠
村田清次郎



地位
田村
平林菊造

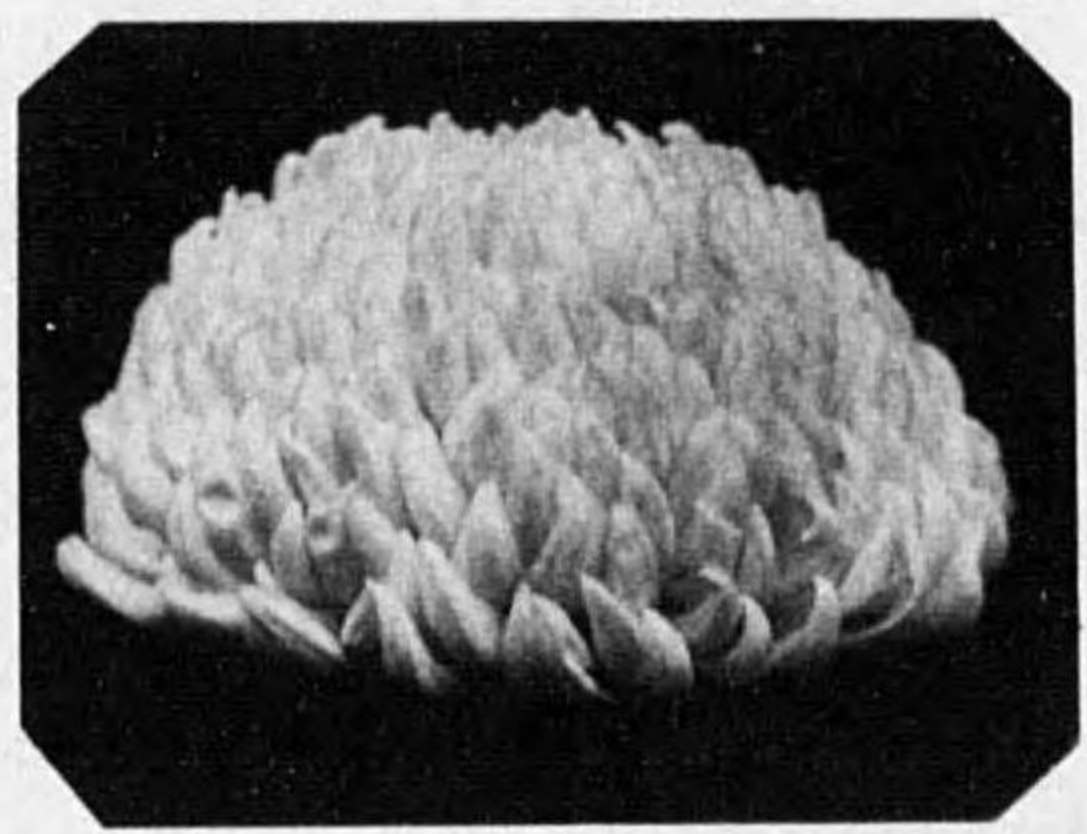


人位
帝王冠
石黒又吉



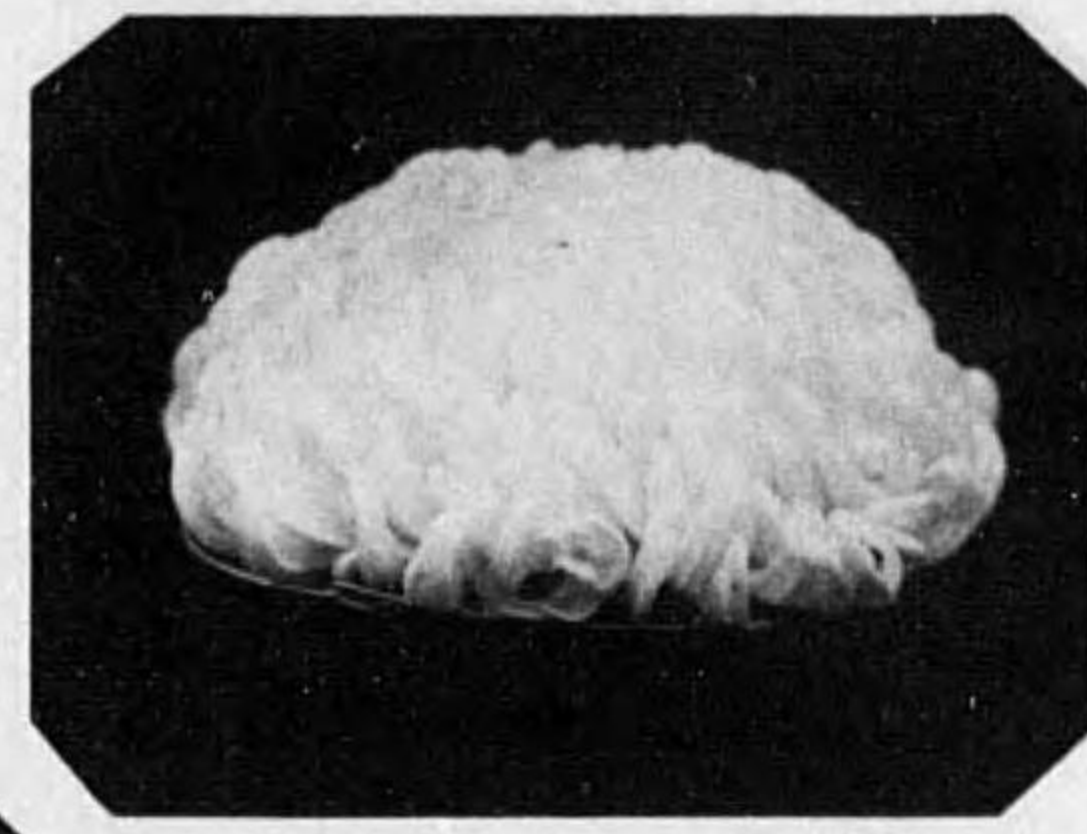
大井支部品評會第一回切花會 (十一月三日)

人位
ベトサイロス
石黒文吉



厚物咲

地位
孤村月
村田清太郎

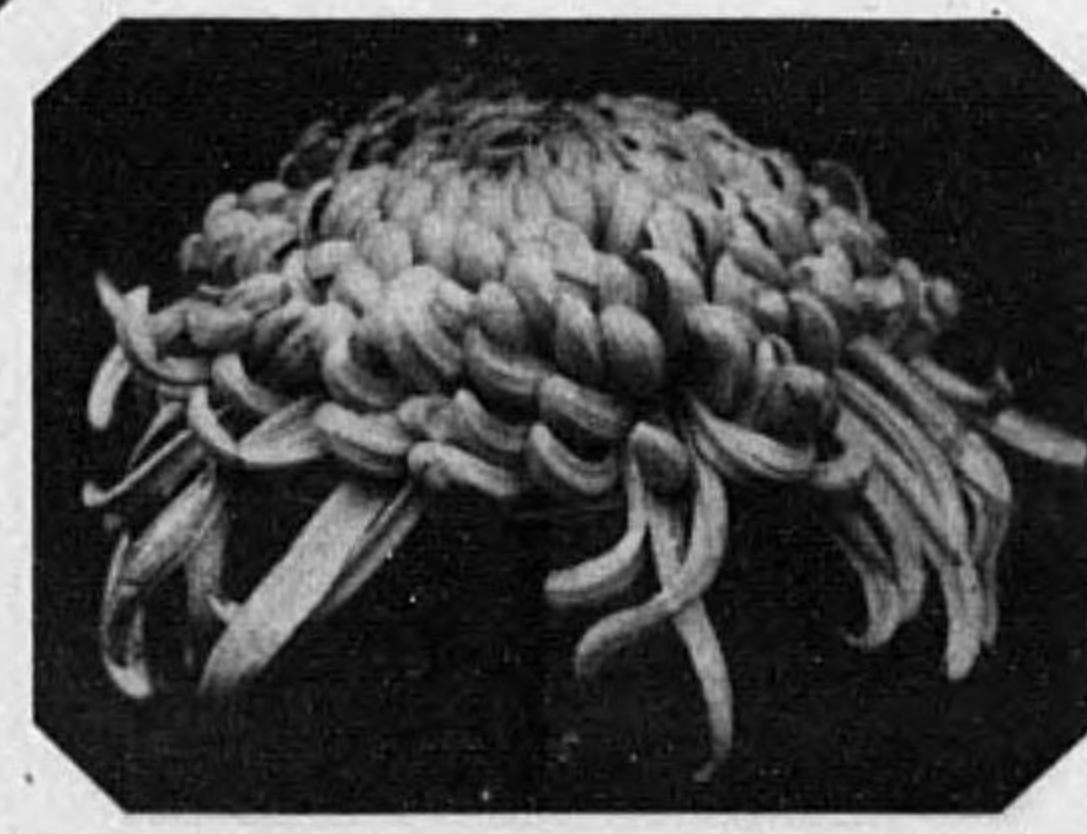


天位
東洋司
市野福太郎

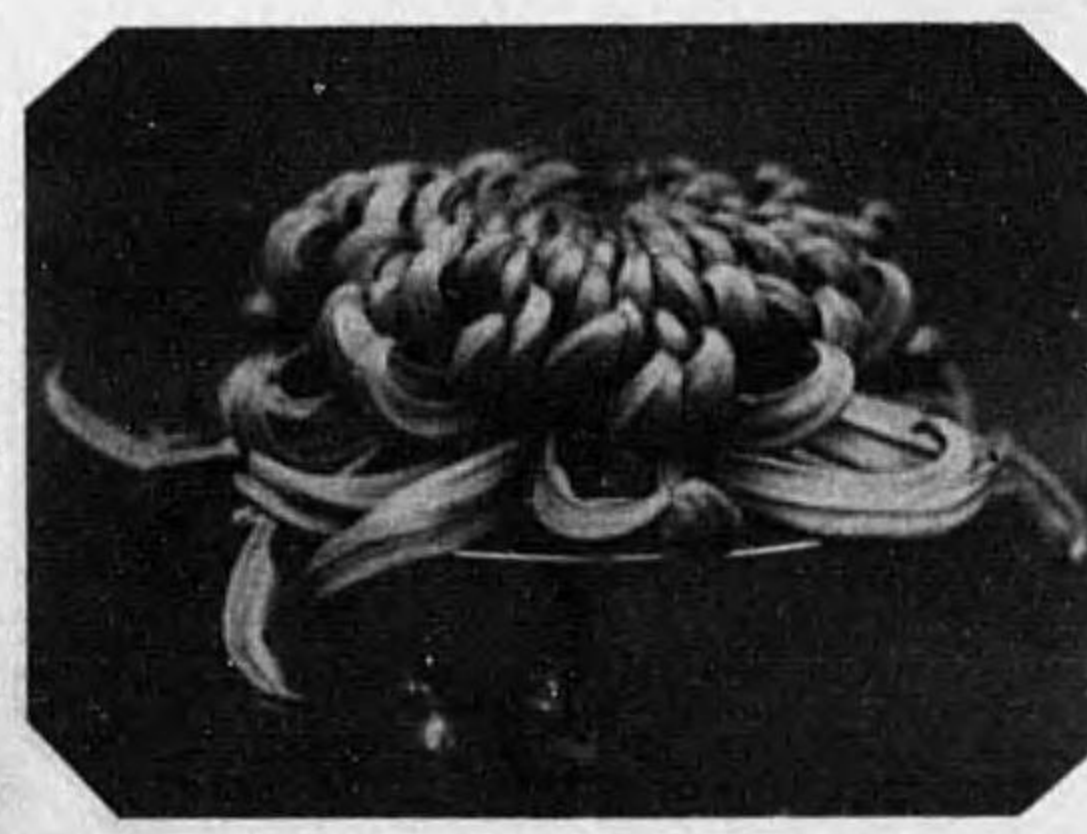


厚物咲走付

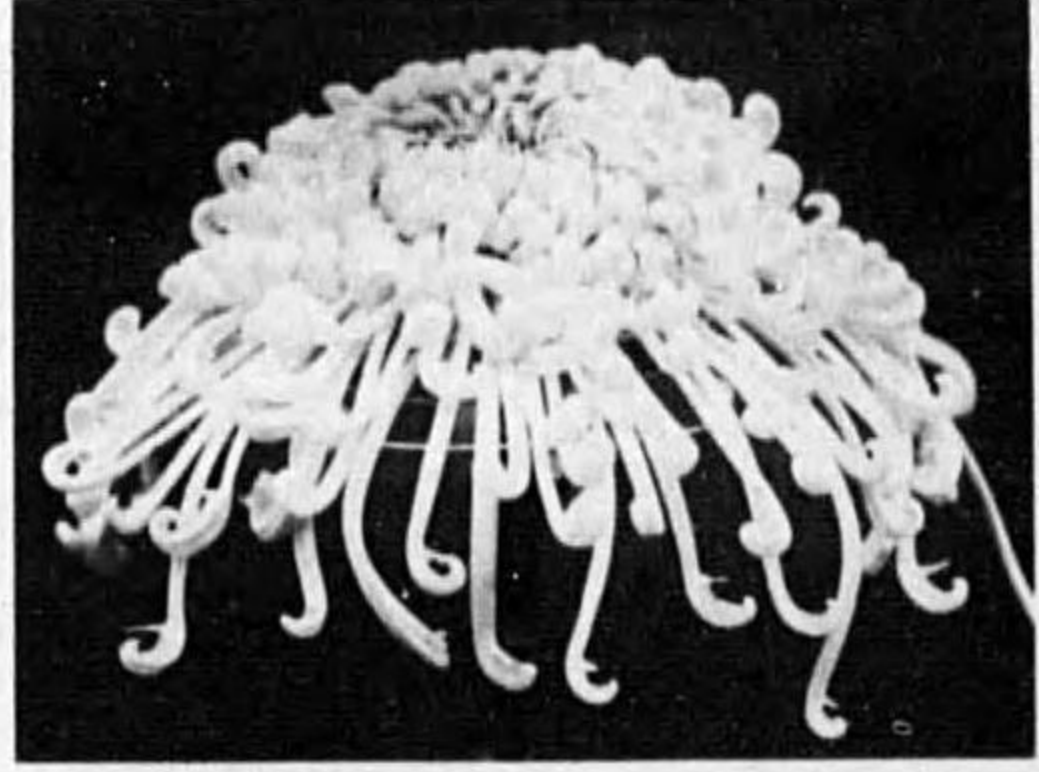
地位
歸去來
日南田清七



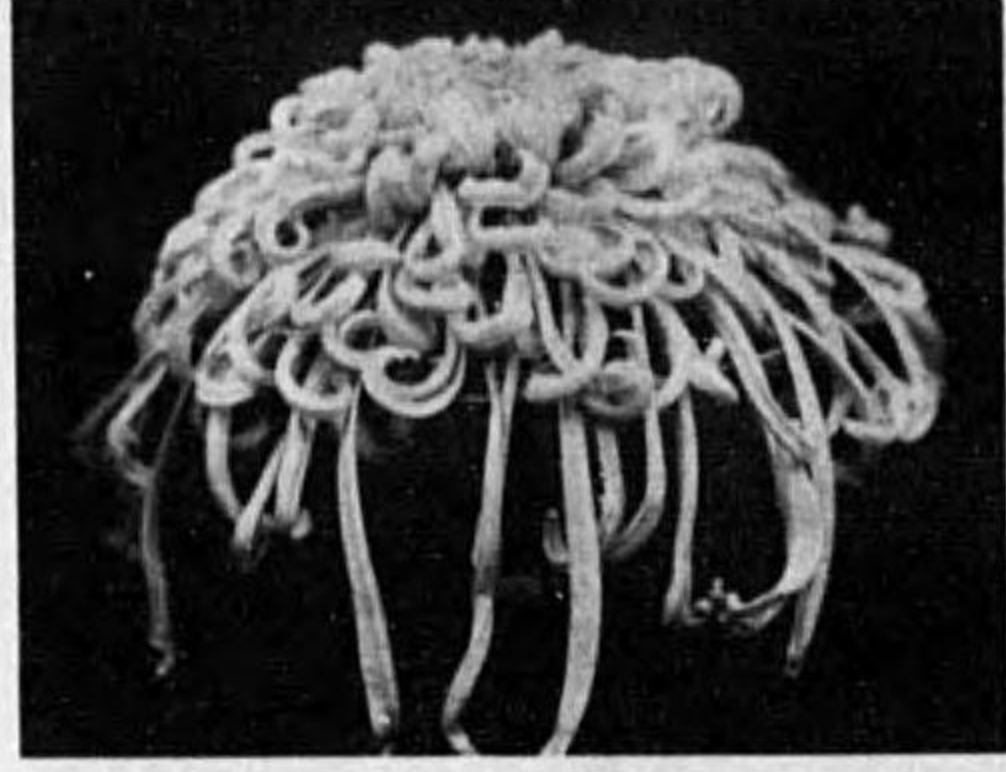
人位
朱雀臺
四川寛



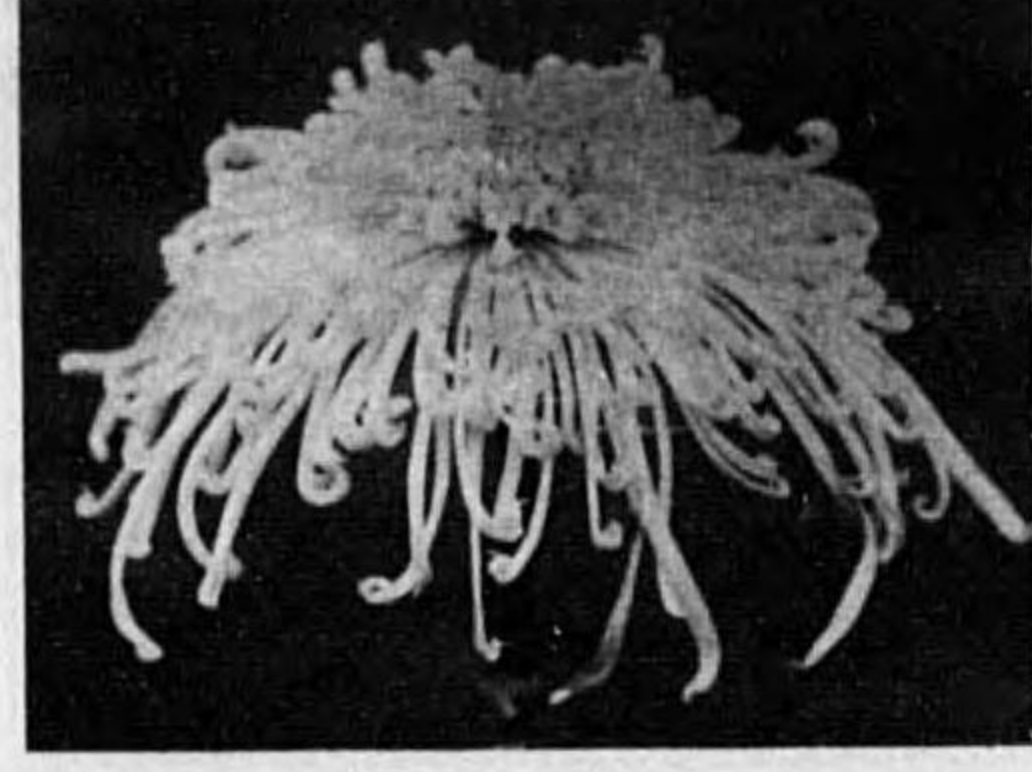
(日三月一十) 會花切回一第會評品部支井大



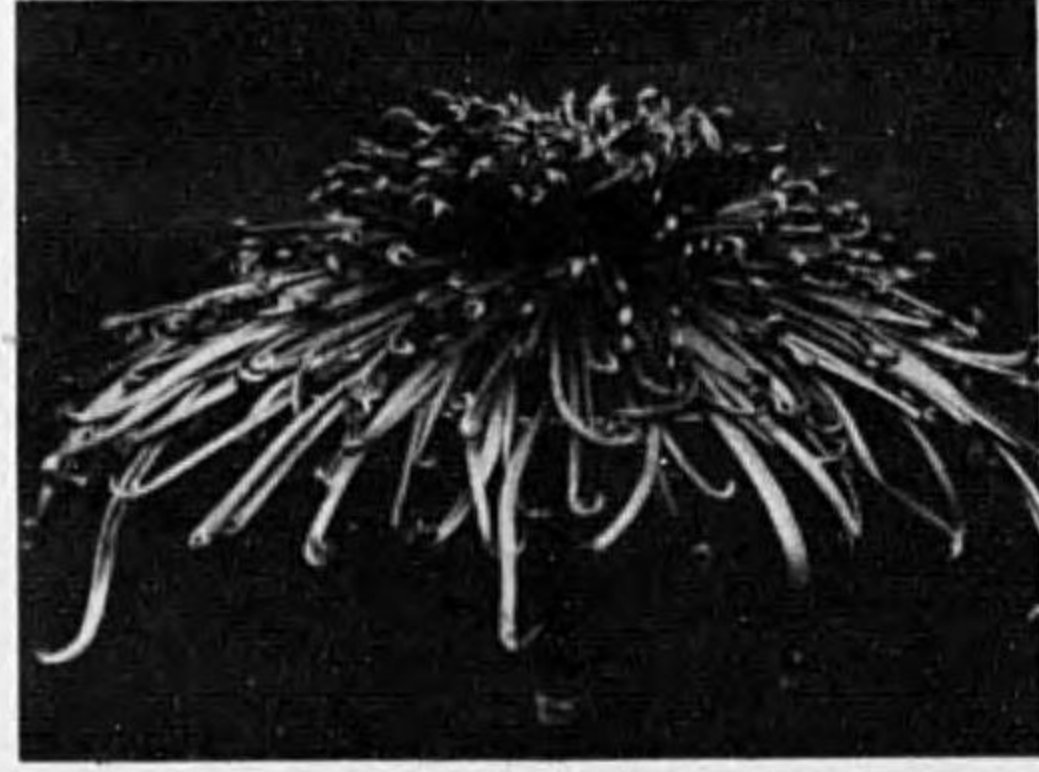
人位 春の海 原田勝芳



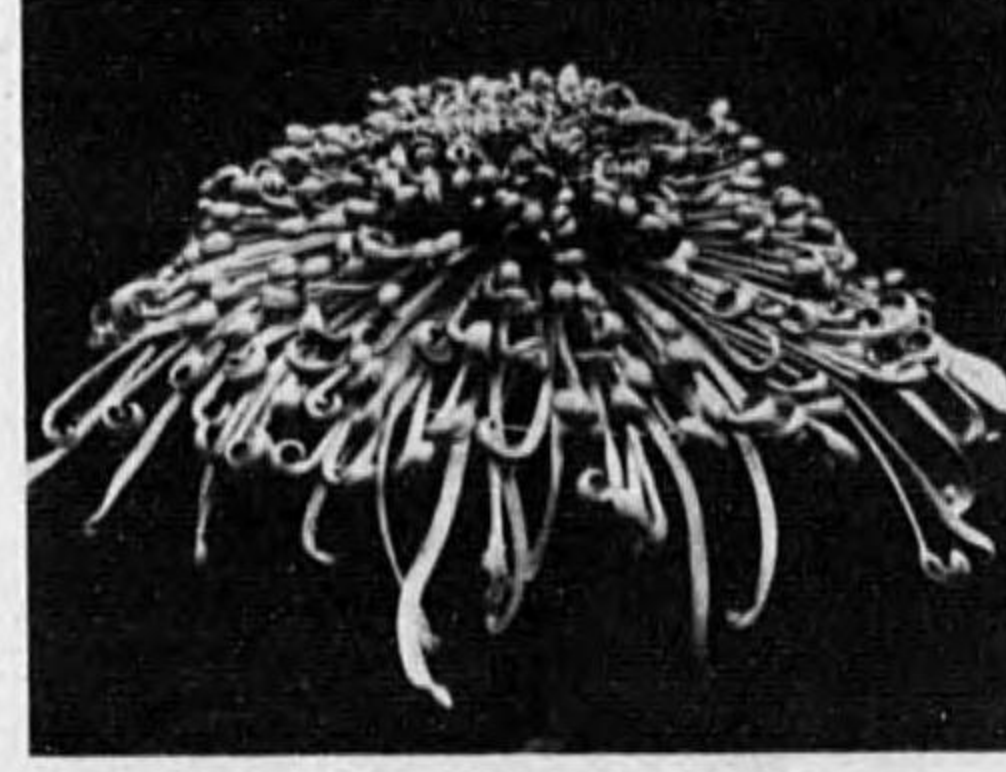
地位 佳人姿 西川寛



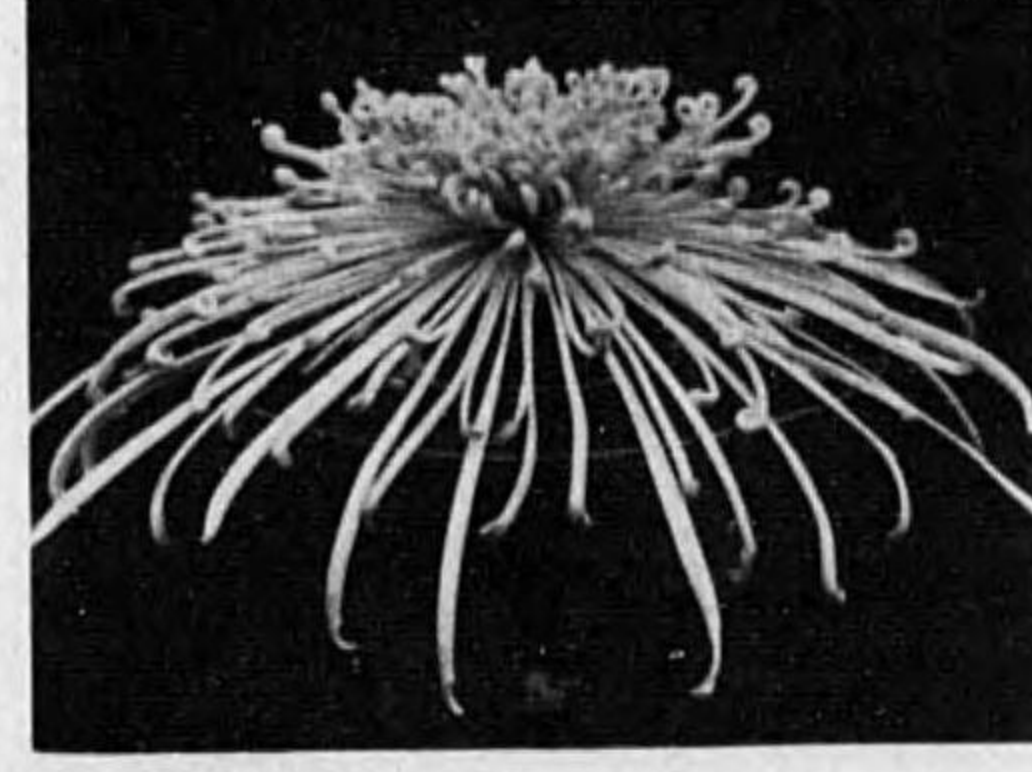
天位 高根雪 村田清次郎



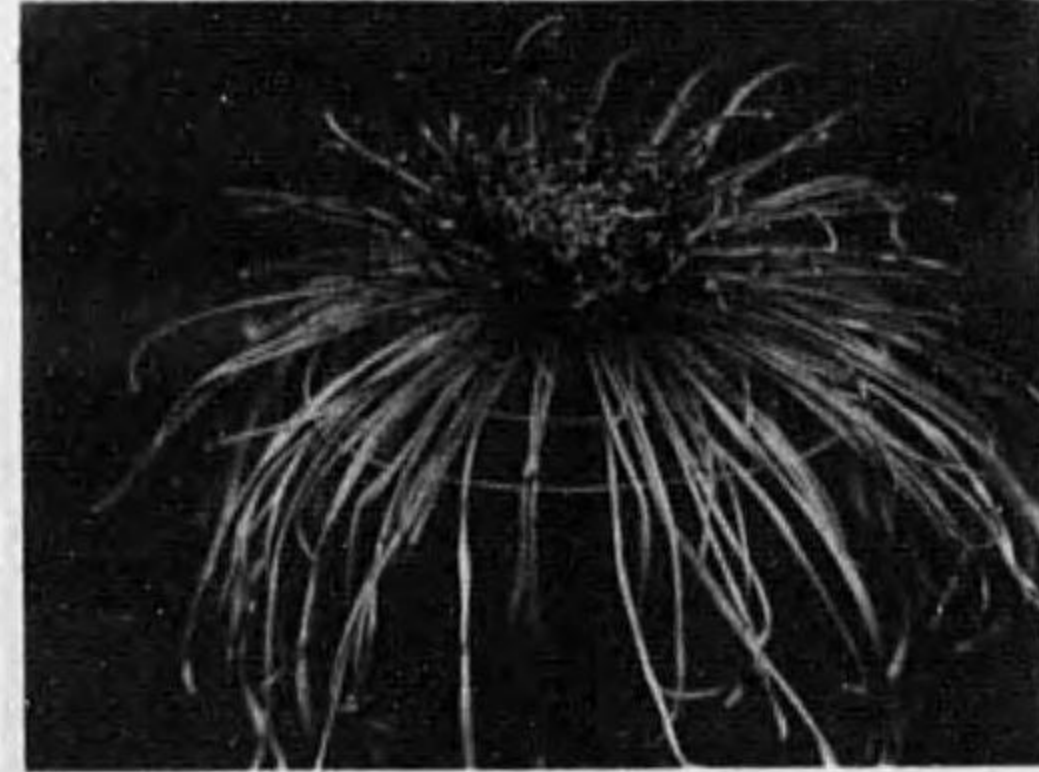
人位 小忌衣 平林菊造



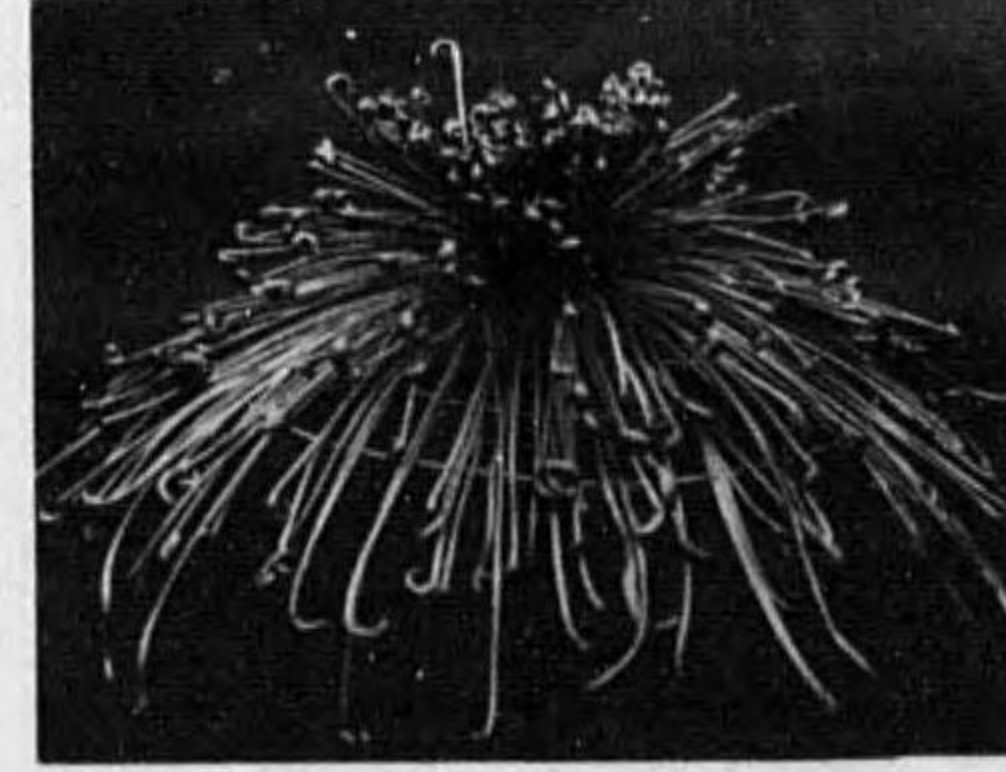
地位 昭和の光 石黒又吉



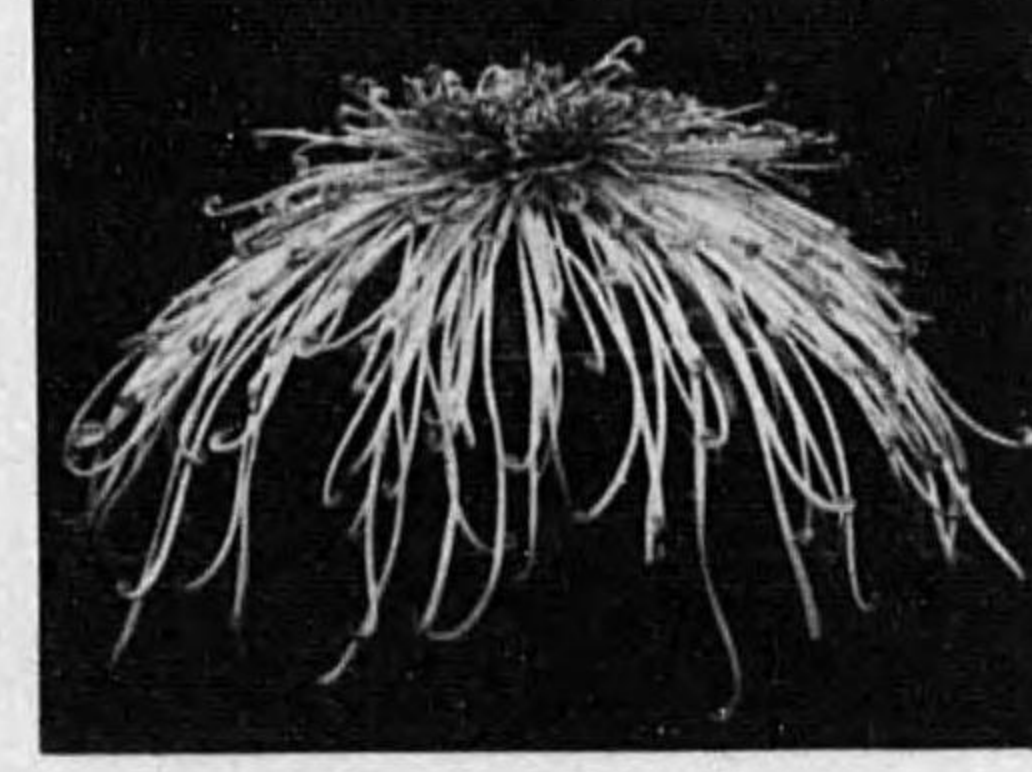
最優等 間管咲 天位 玉芙蓉 石黒又吉



人位 不夜城 鈴木善治



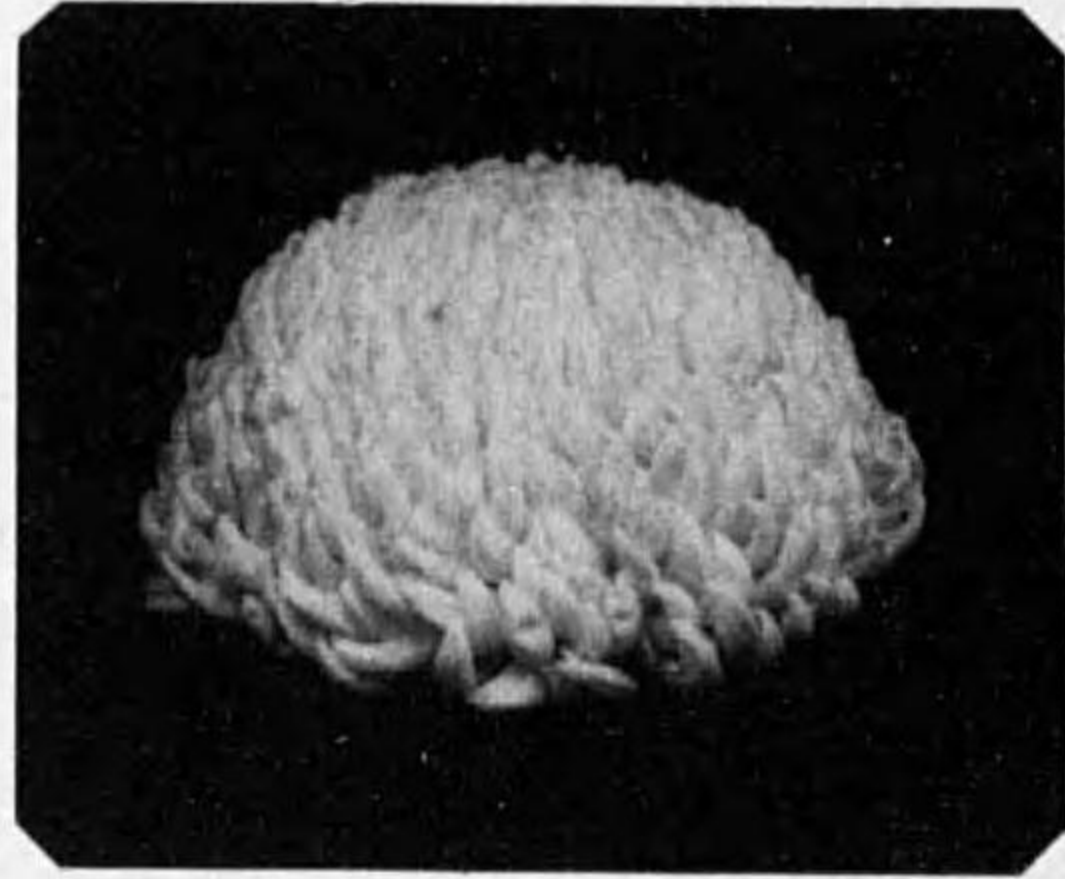
地位 村雨 原田勝芳



天位 細管咲 松の聲 西川寛

(日十月一十) 會花切回二第會評品部支井大

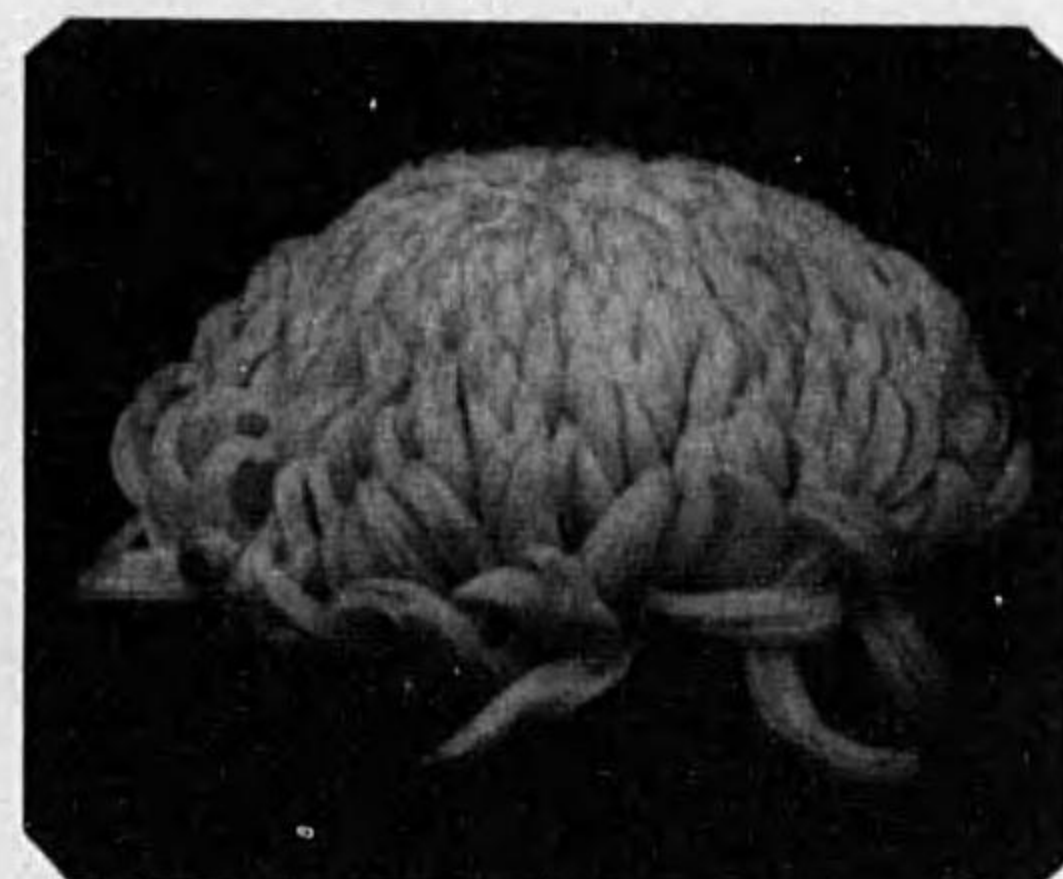
咲物厚



郎太福野市 スロイサトベ 位人

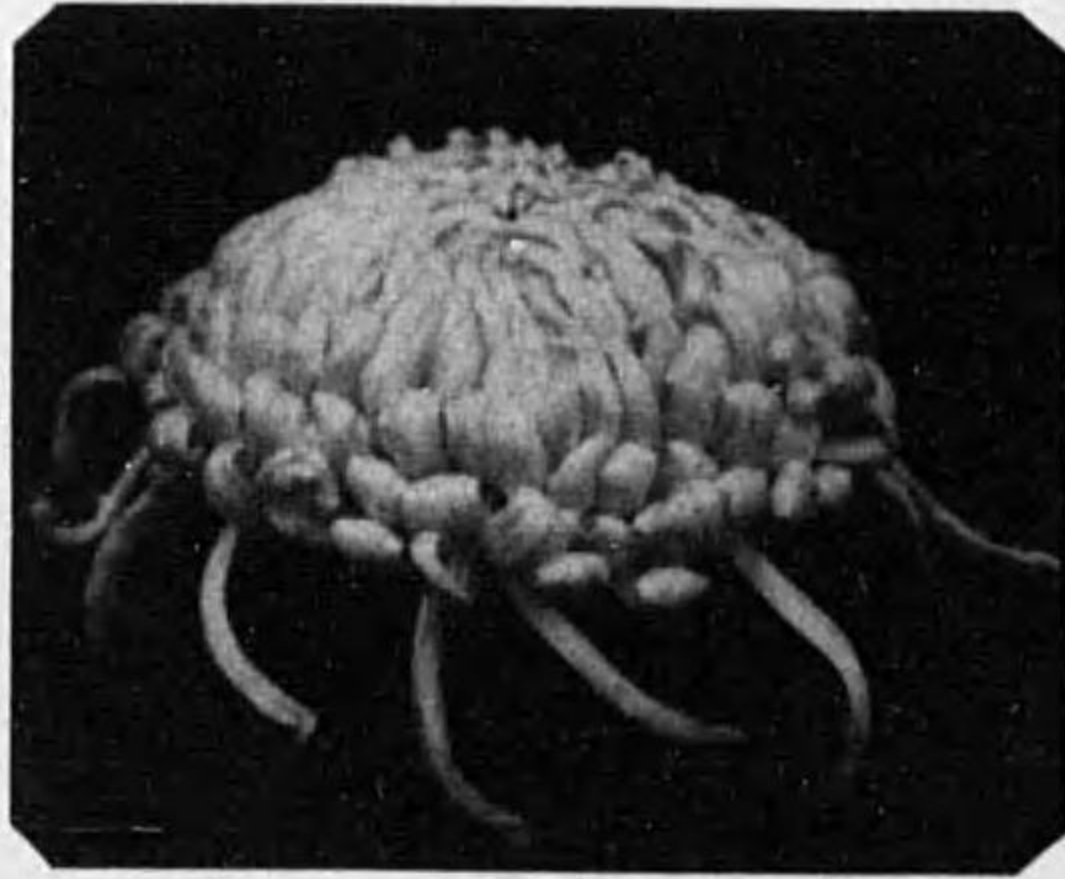


吉爲元秋 霞重八 位地



造菊林平 霞重八 位天

付走咲物厚



吉爲元秋 和平 位人

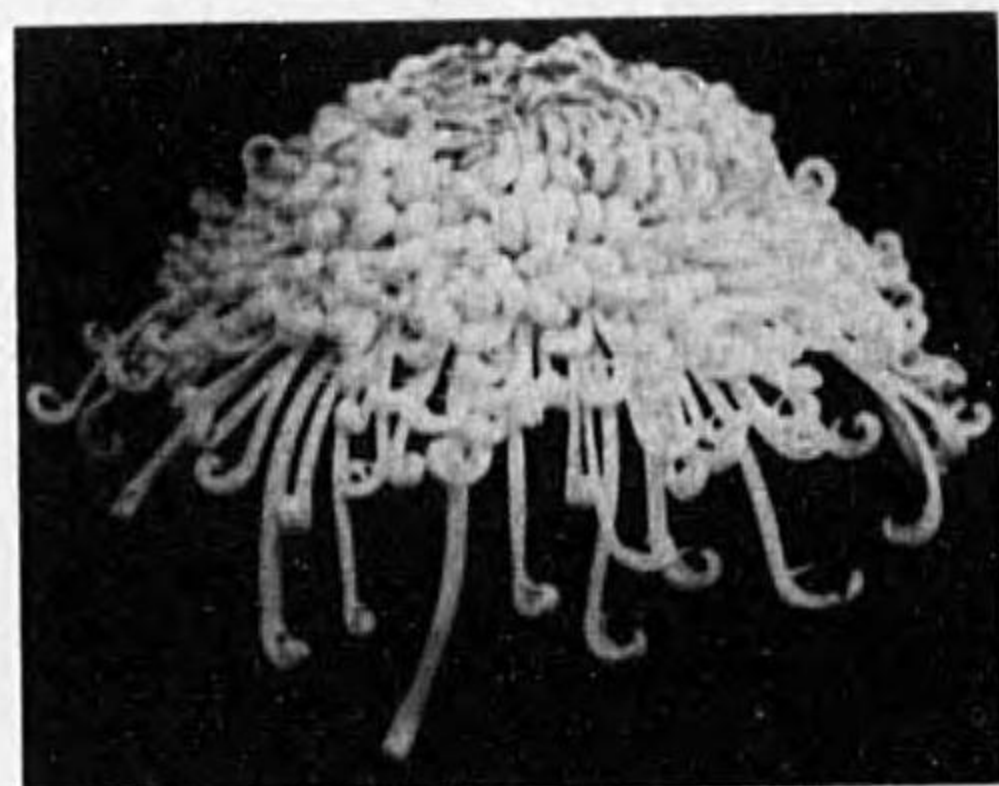


郎次清田村 殿生長 位地

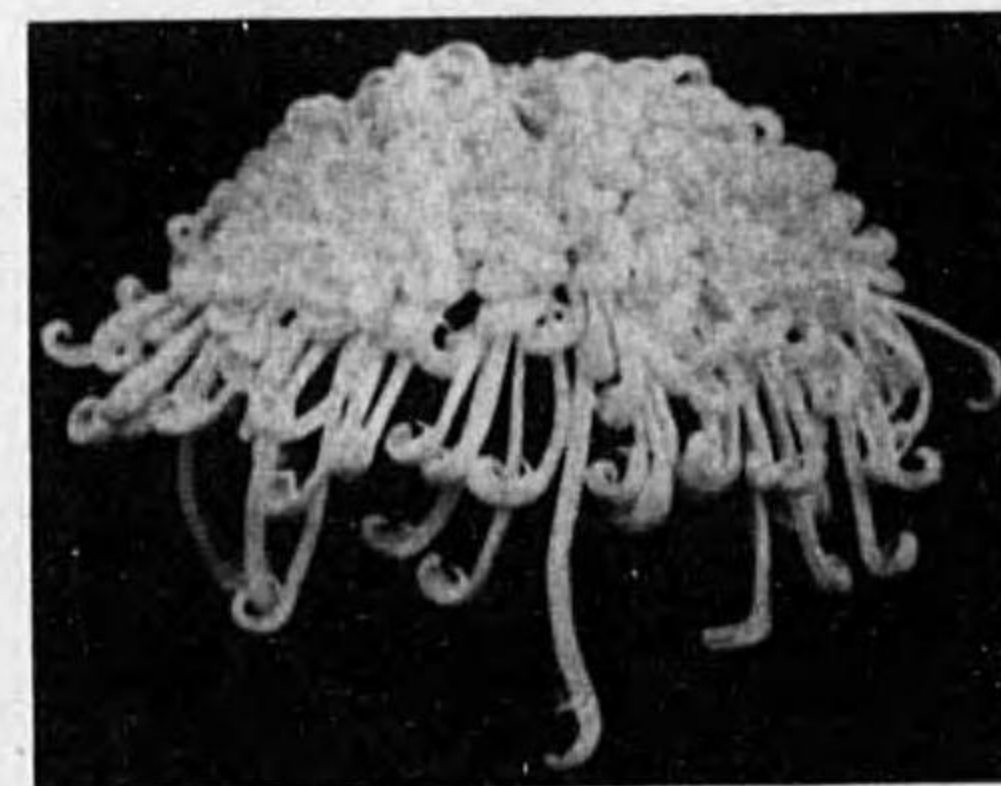


次銀田増 殿生長 位天

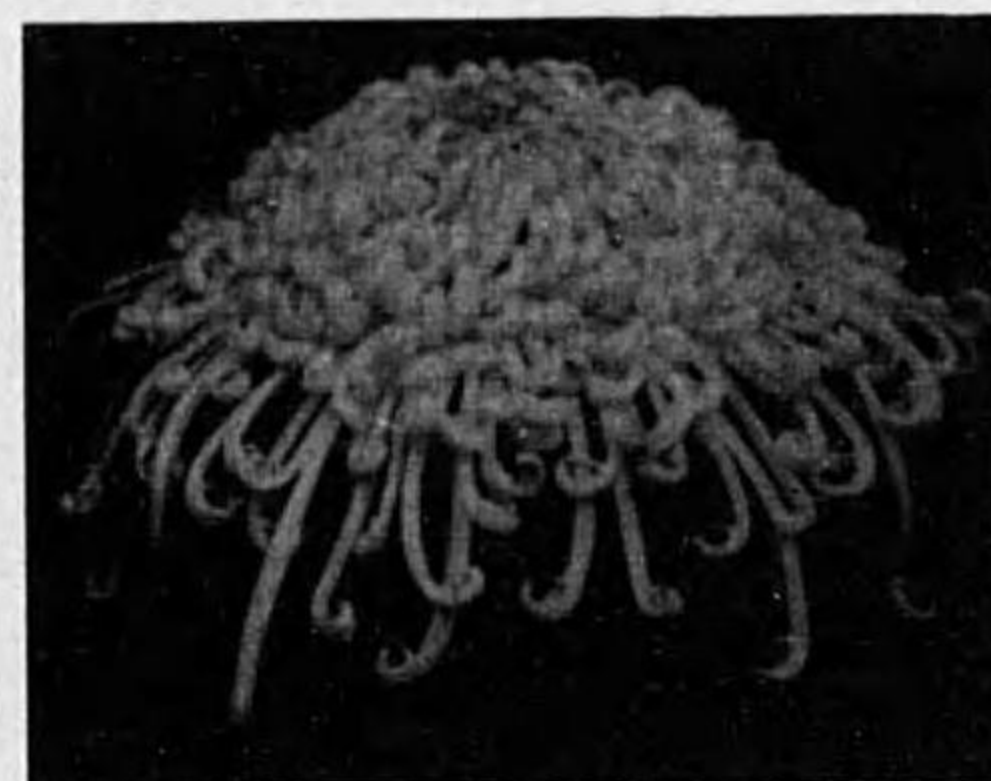
大井支部品評會第二回切花會 (十一月十日)



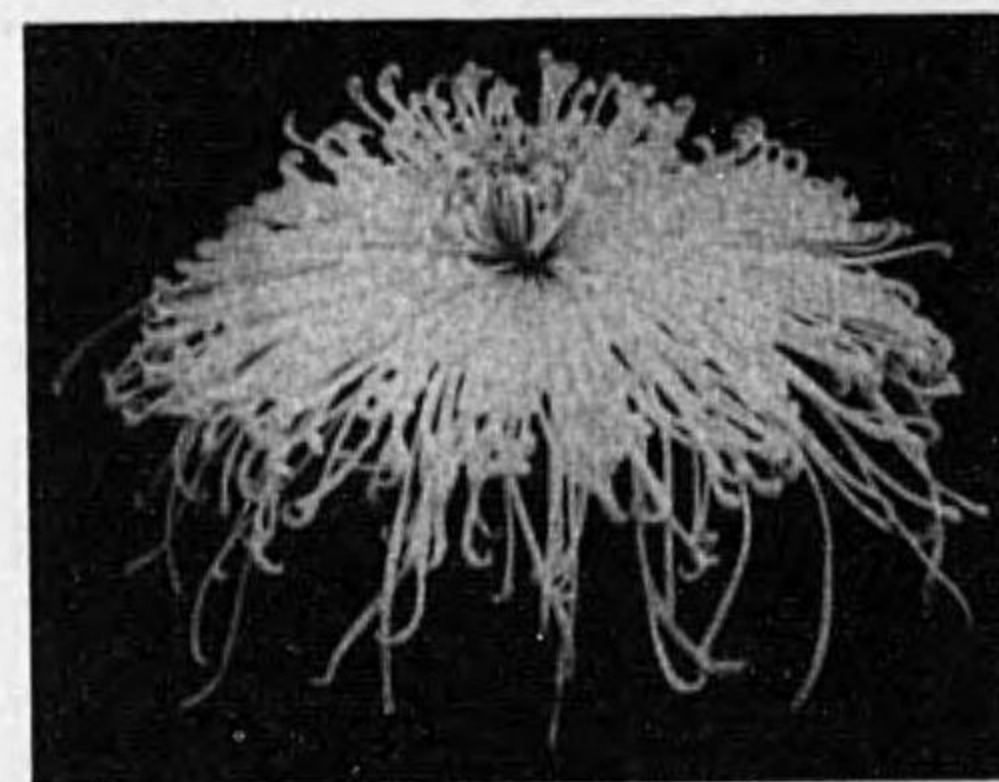
人位 春の海 石黒又吉



地位 春の海 秋元其平



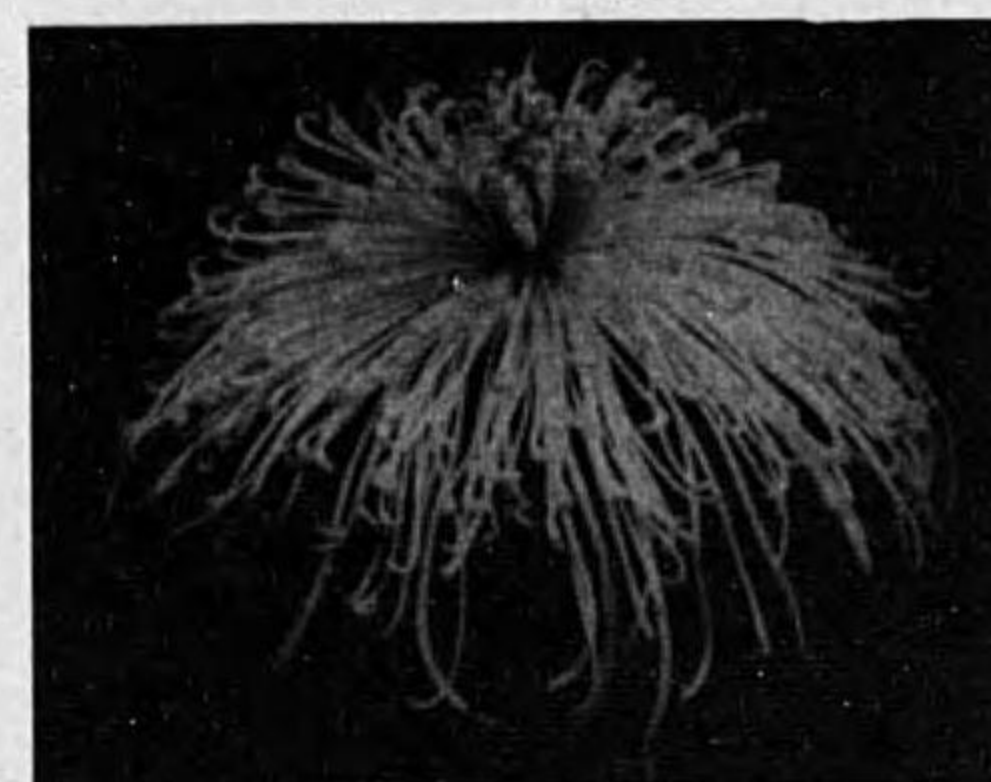
天位 春の海 秋元爲吉



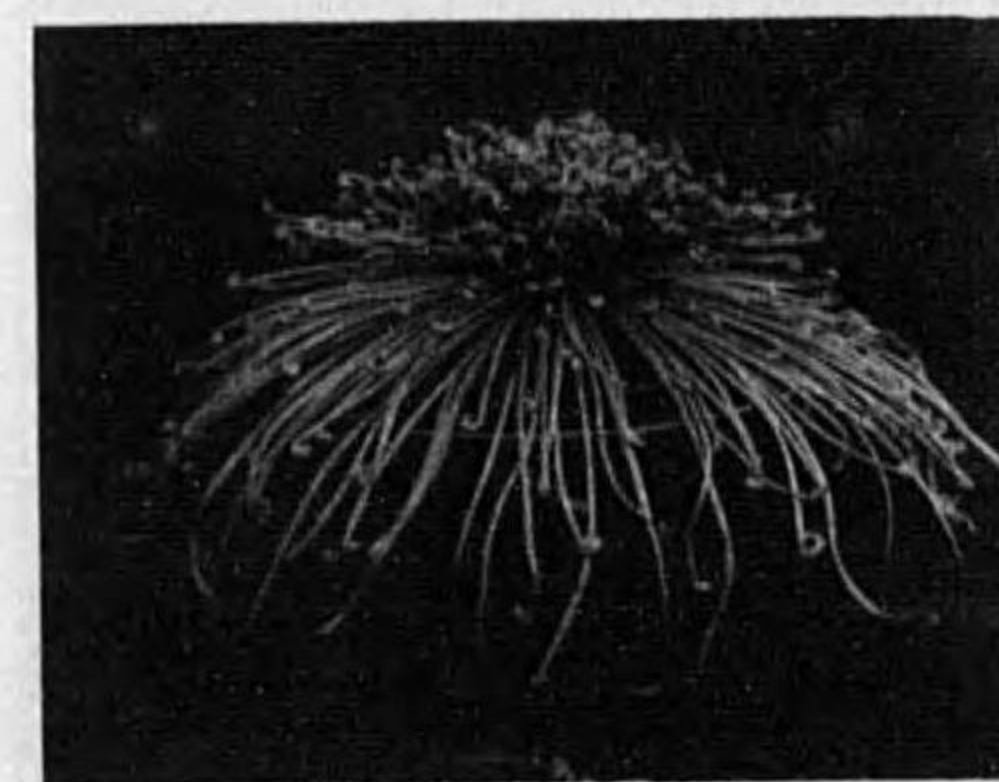
人位 水晶閣 村田廣次郎



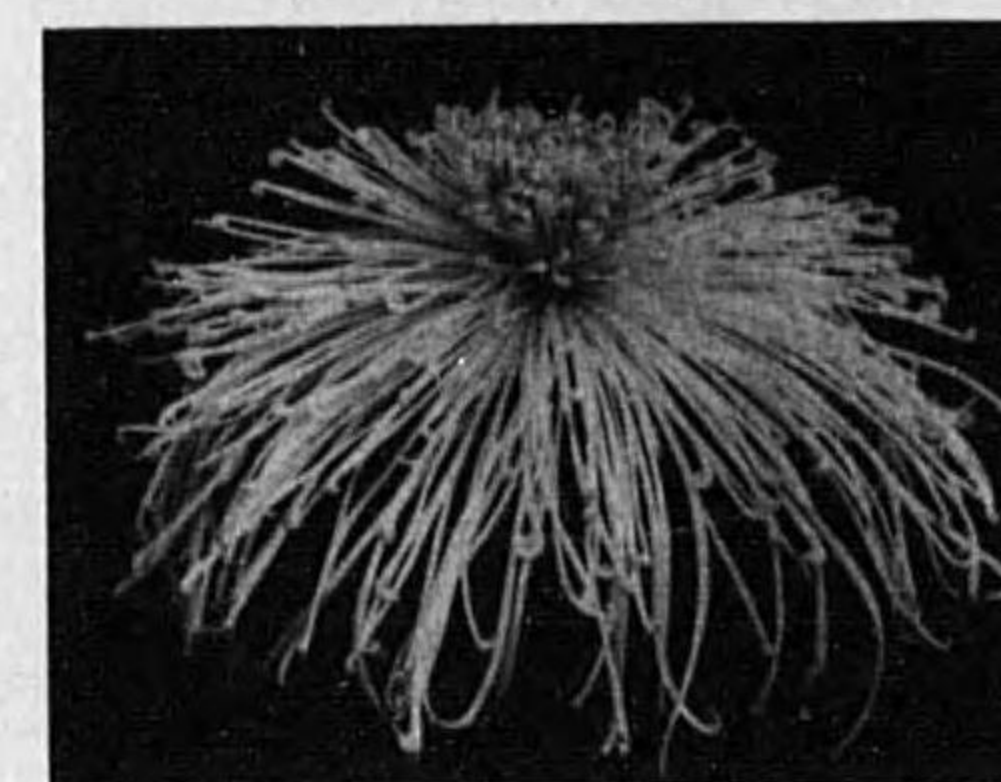
地位 夕紅葉 此田富之助



天位 水晶閣 秋元爲吉



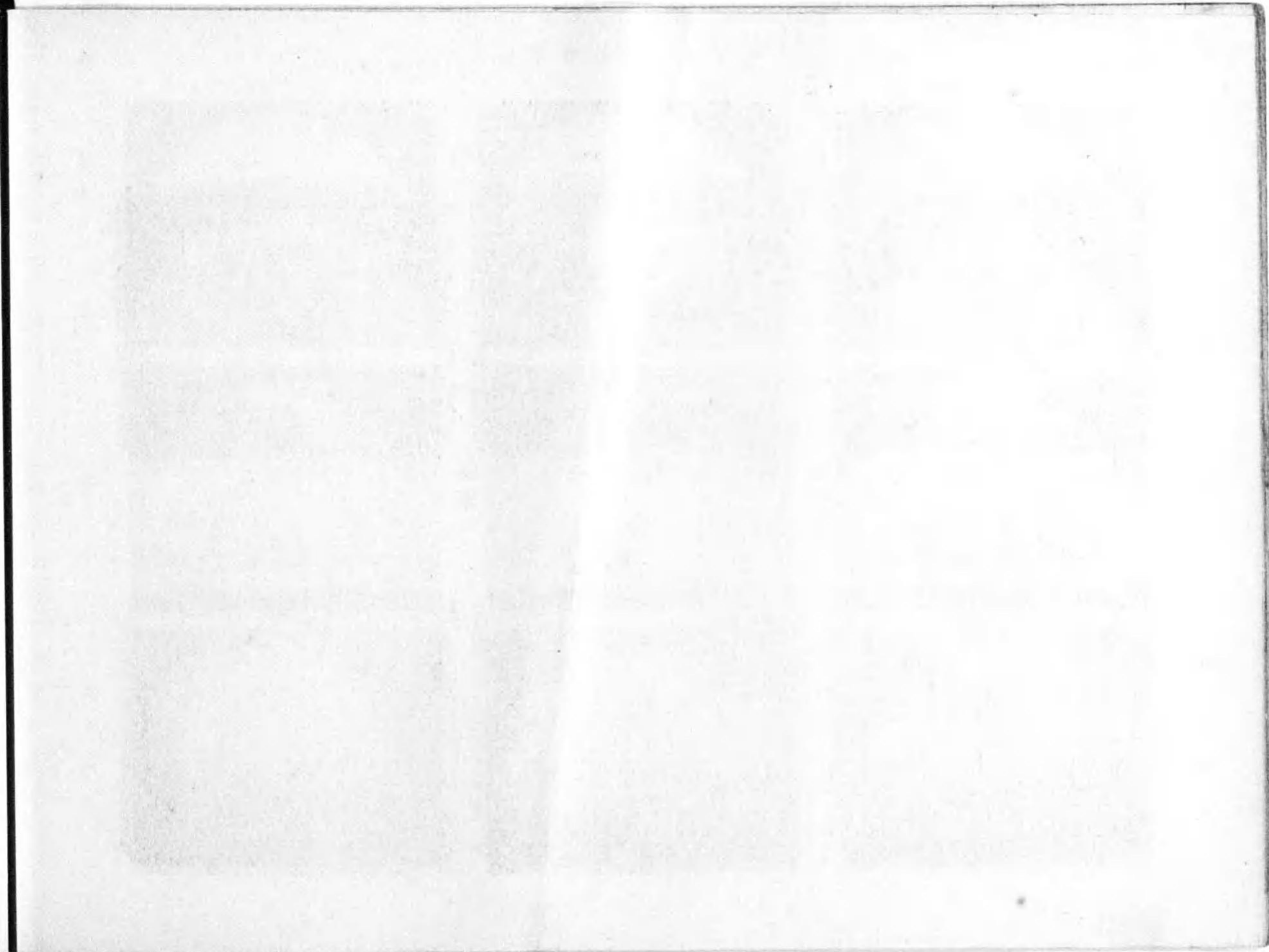
人位 古今司 平林菊造



地位 花瀧波 此田富之助

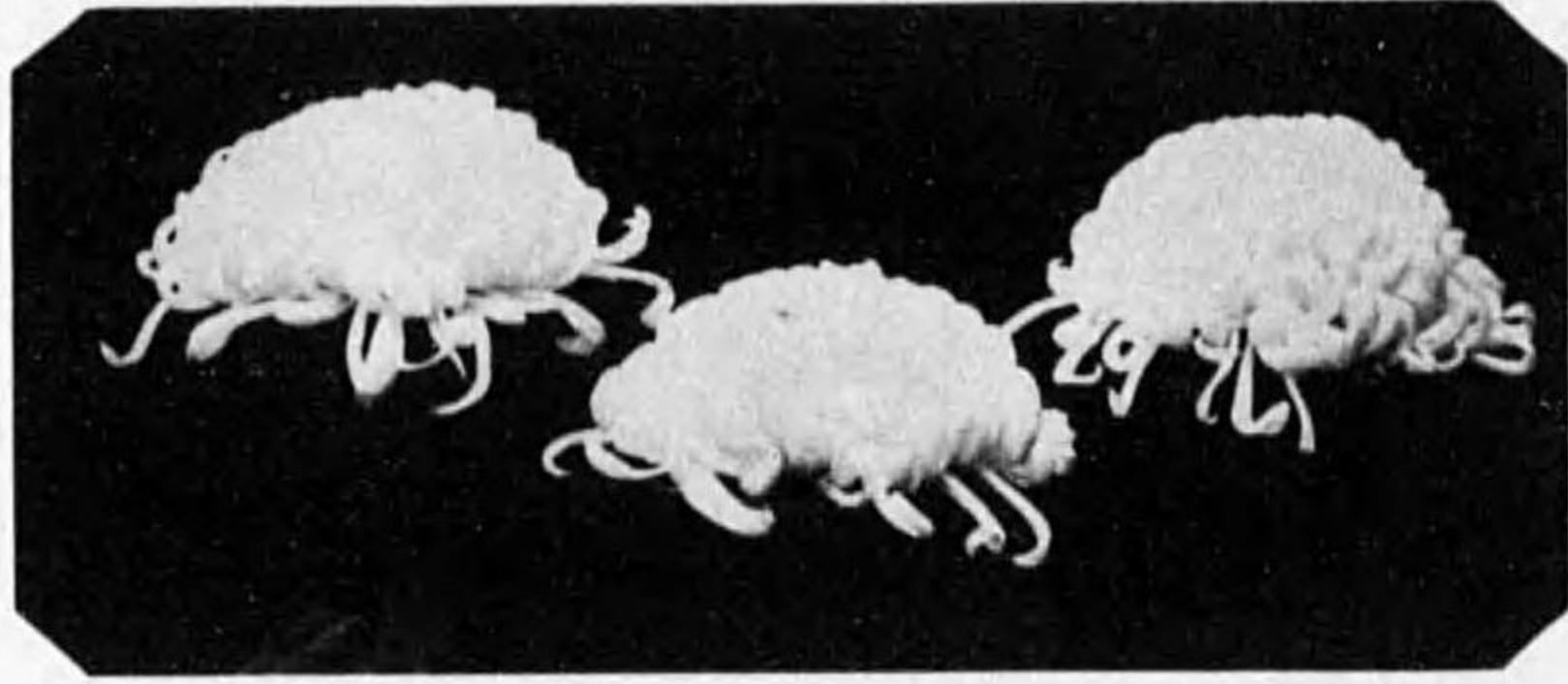


天位 谷間響 中根秀次郎

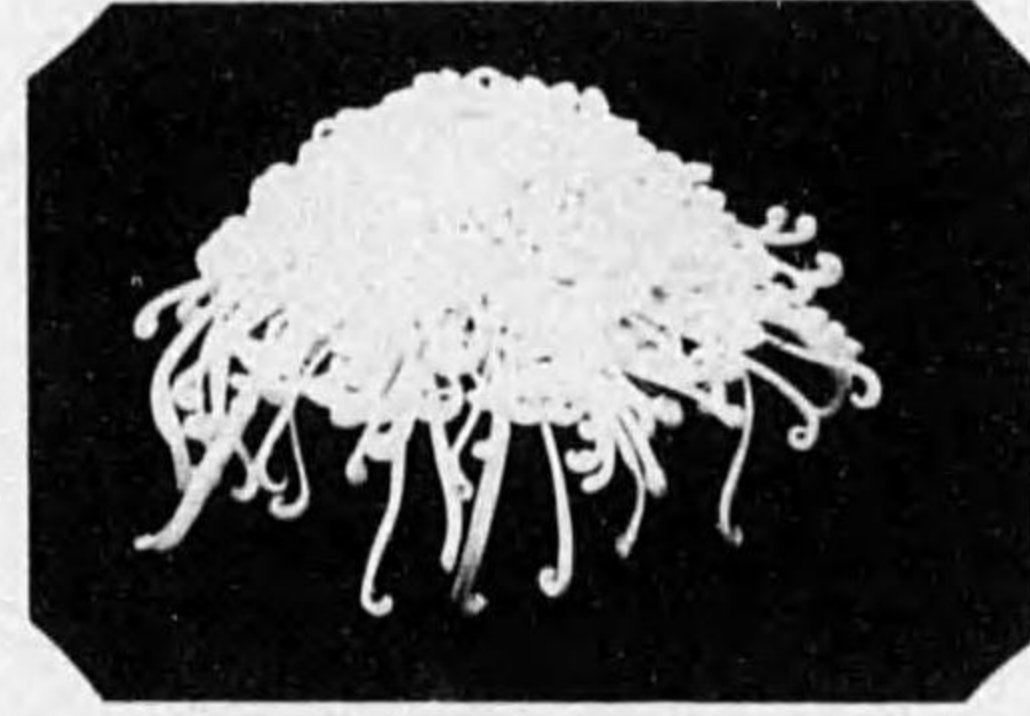


(日七月一十) 花養盆及花技競別特花切會評品部支井金小

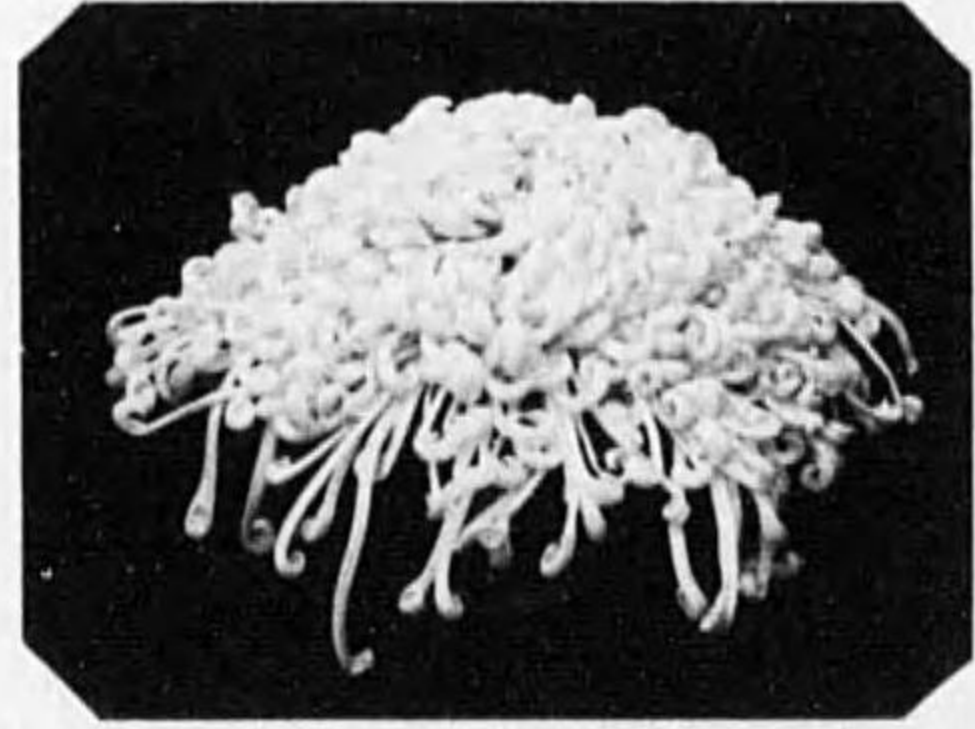
天位 白鳳冠
吉野源藏
(本部野田洋盛受賞)



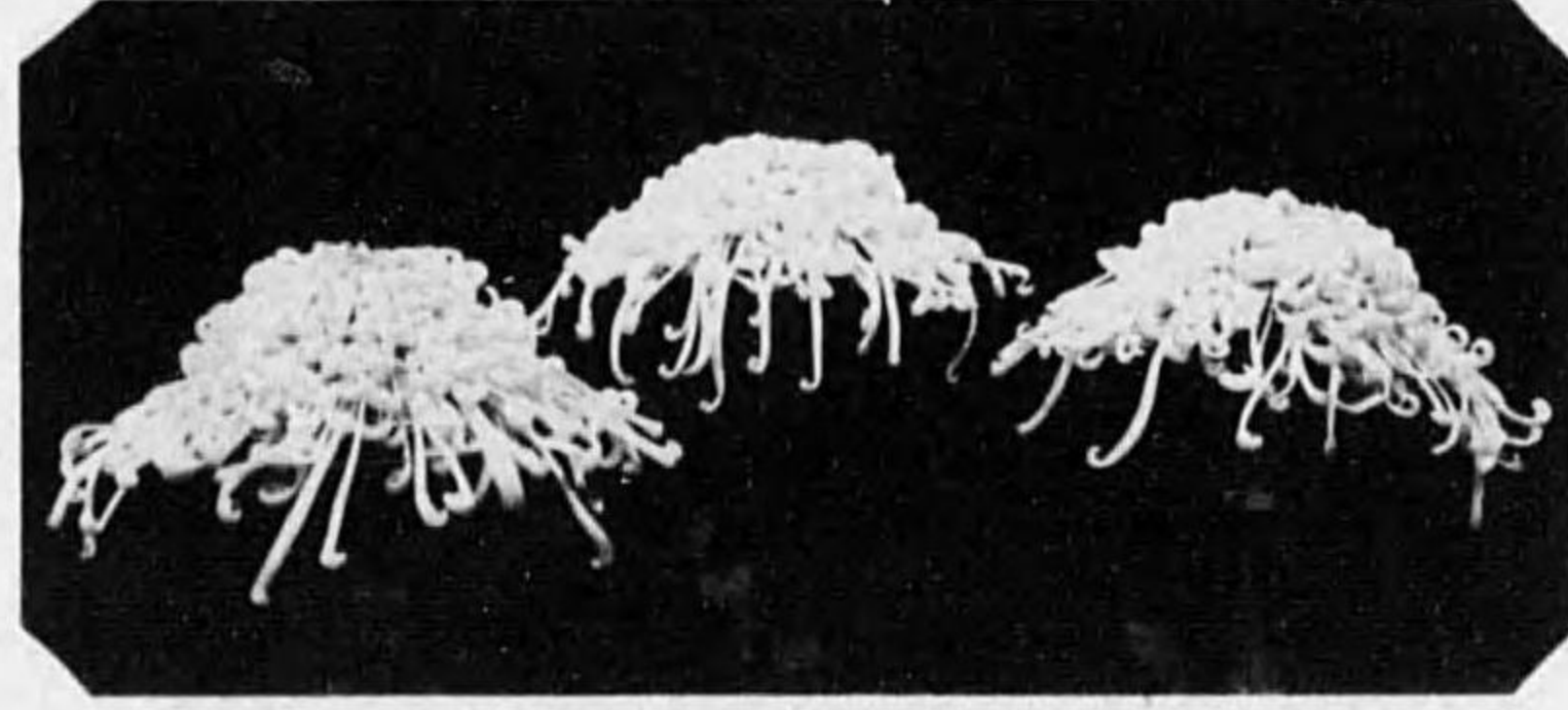
特別競技花
天位 春の海
野口誠十郎



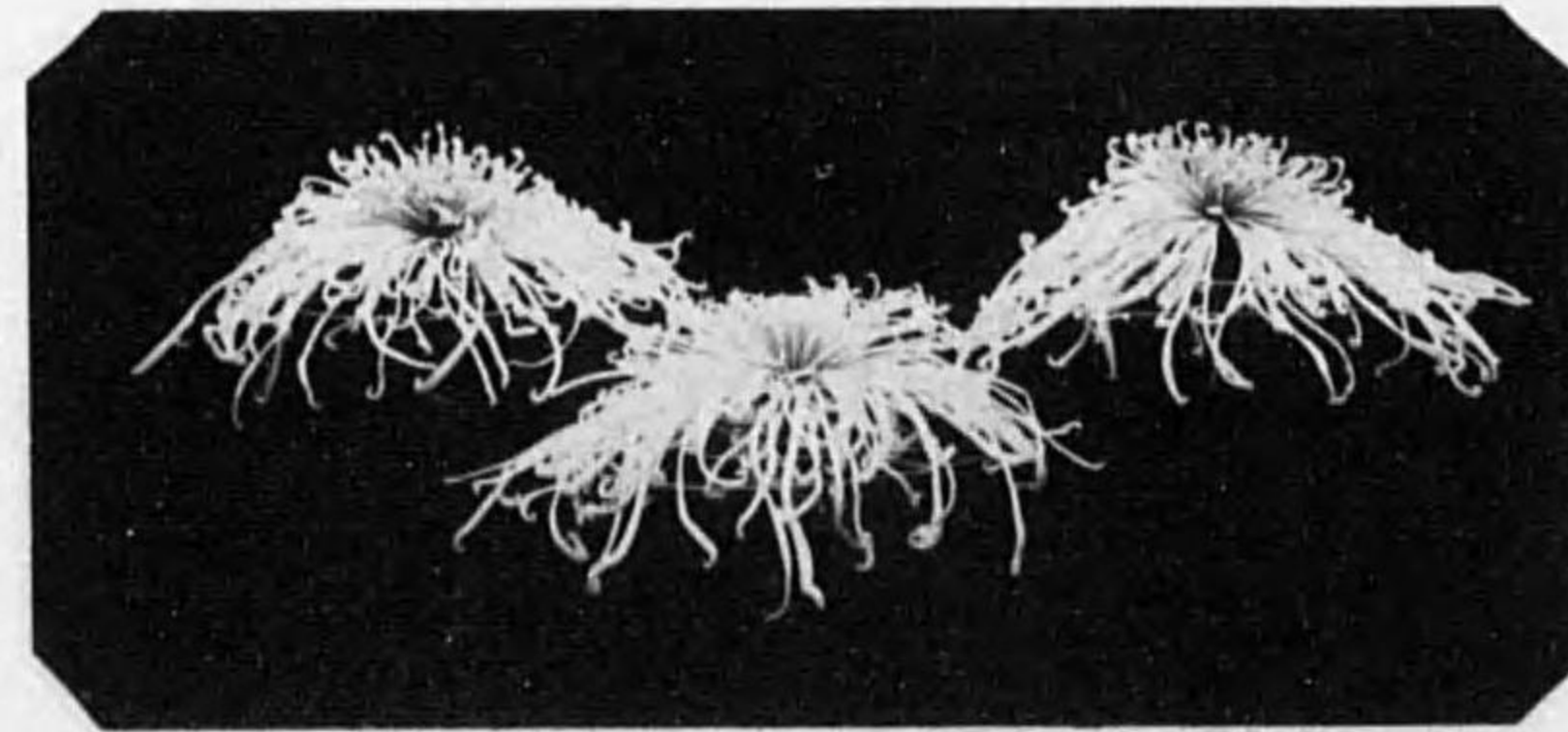
地位 競技花
春の海
桐本吉雄



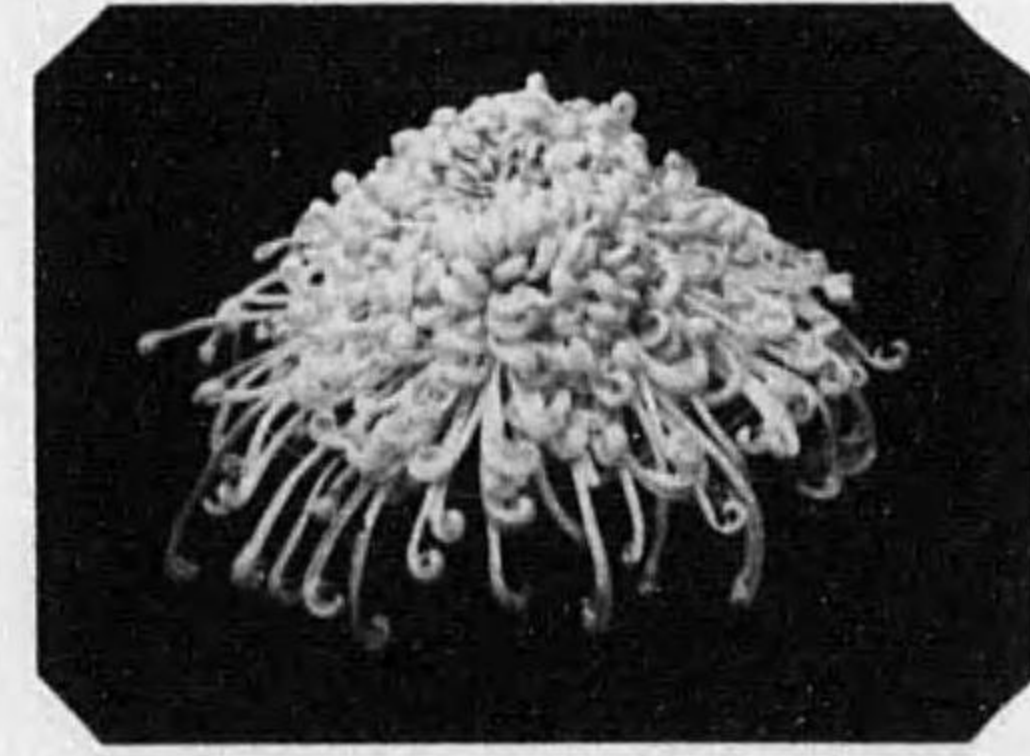
最優等 (本部野田洋盛受賞)
天位 春の海
野口誠十郎



天位 白梅光
星野甲子三郎

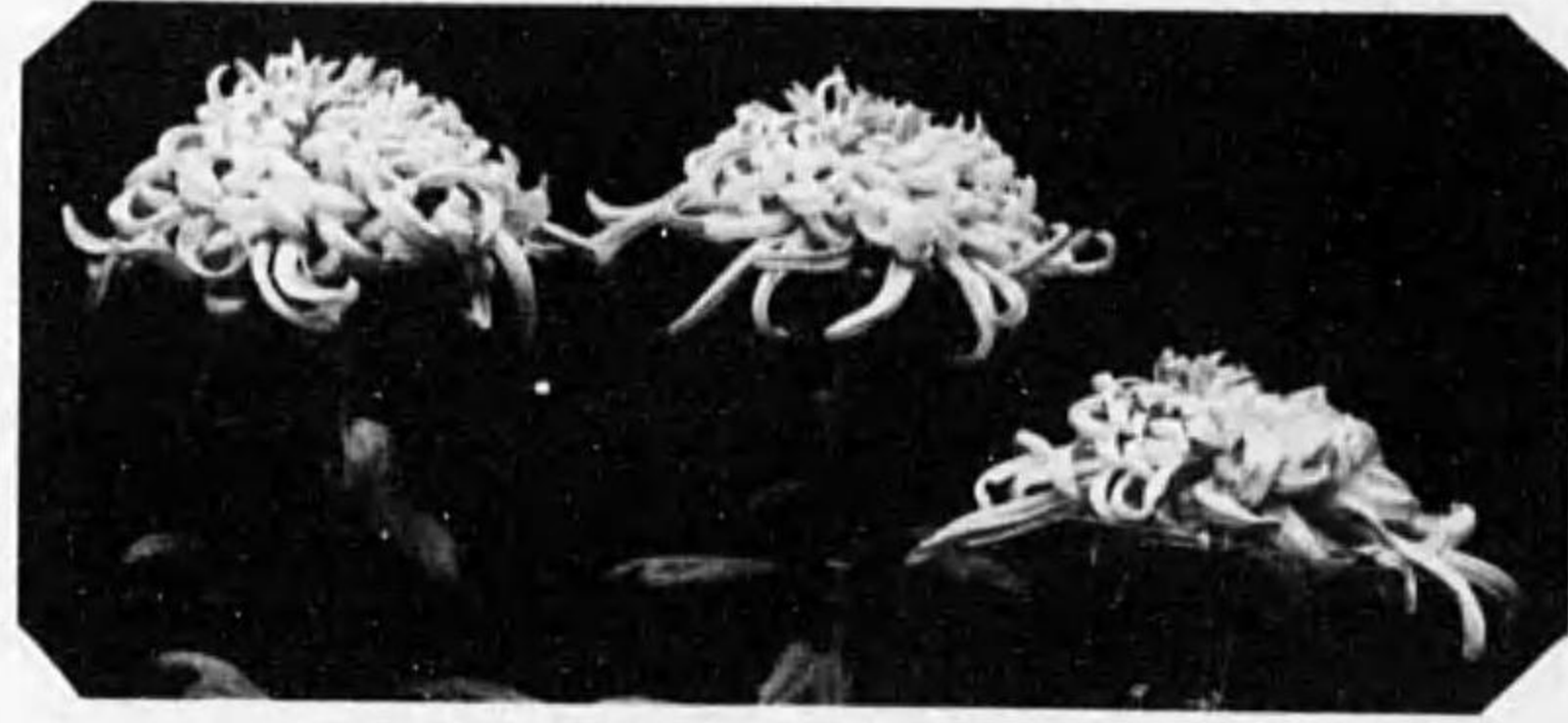


競技花
人位 春の海
星野甲子三郎

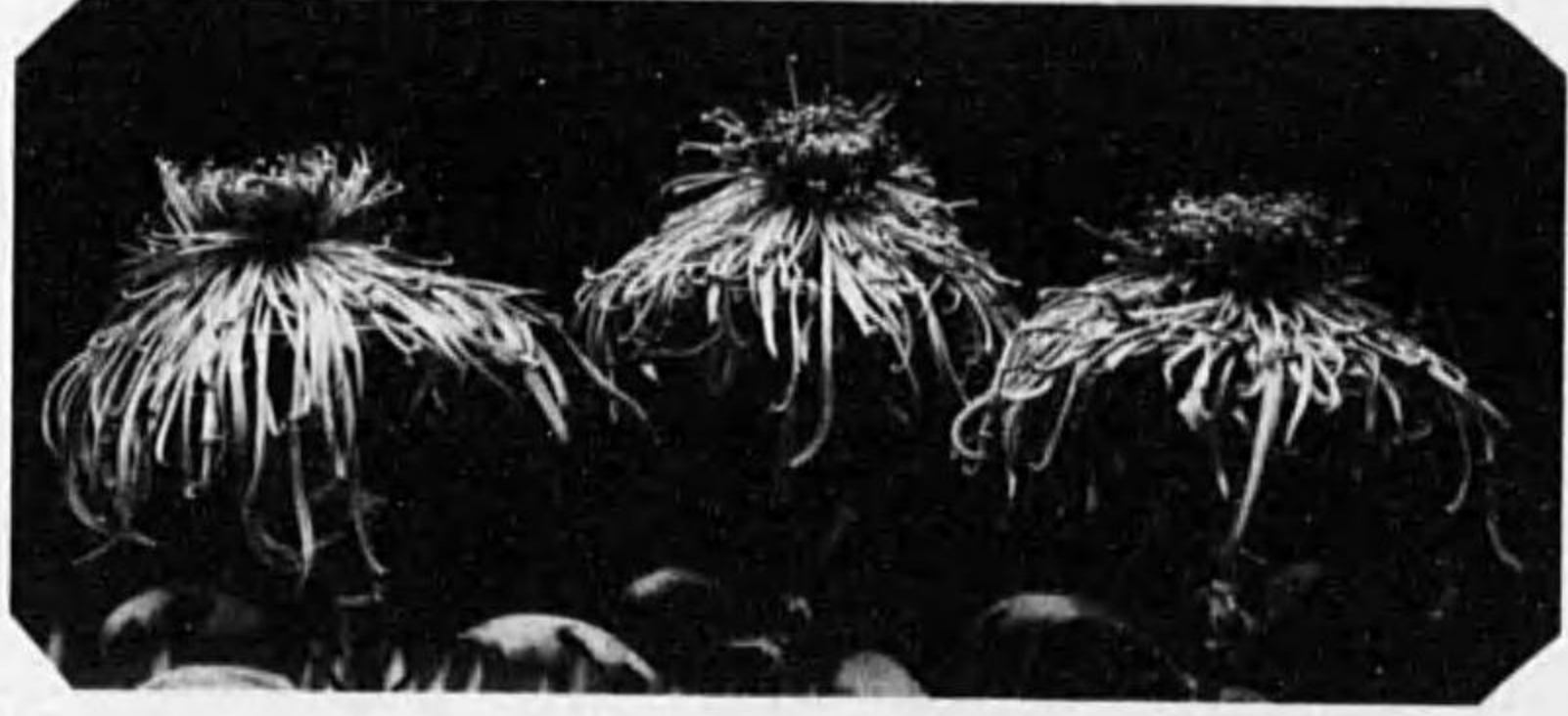


花養盆會評品園公山毛野部支濱横
 (査審同合日二十月一十)

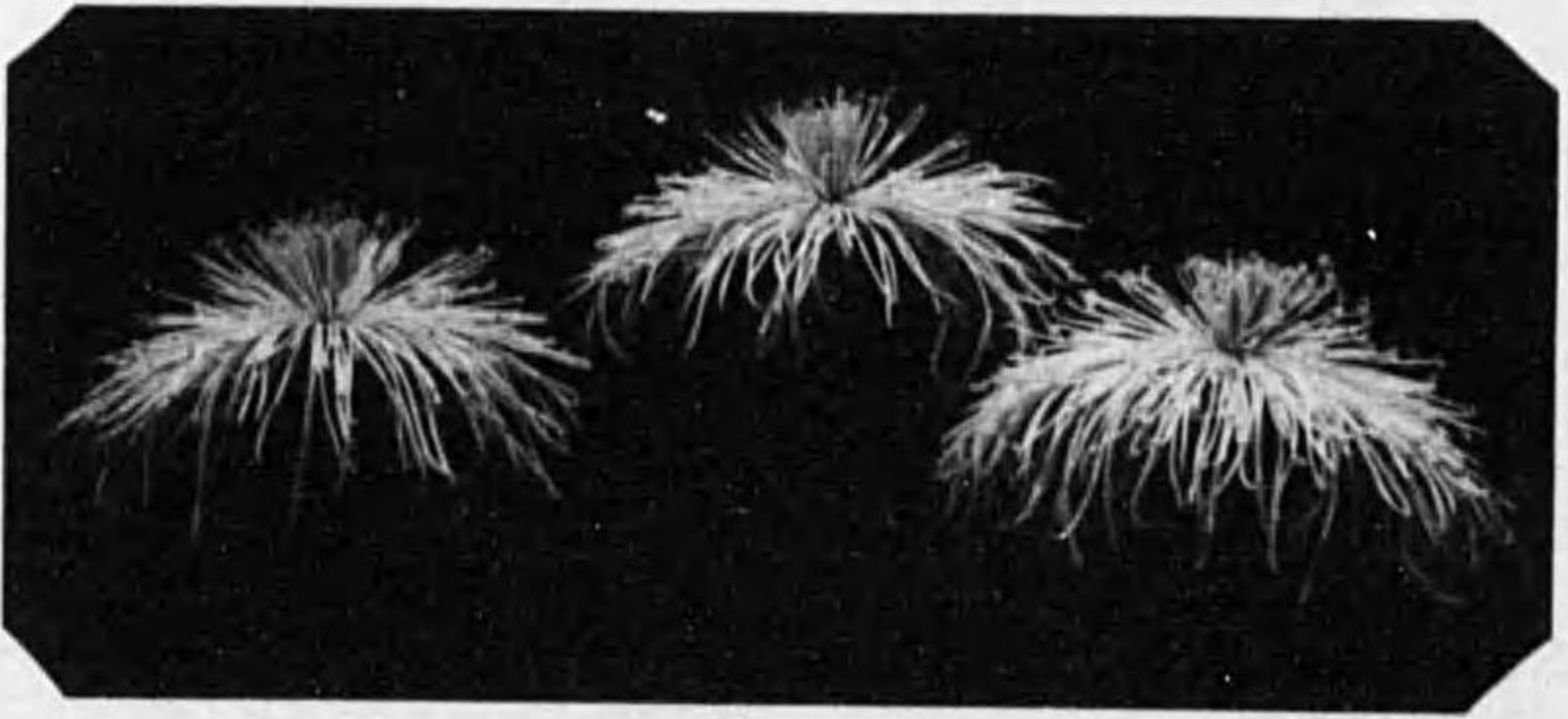
一等 無名 小野定志



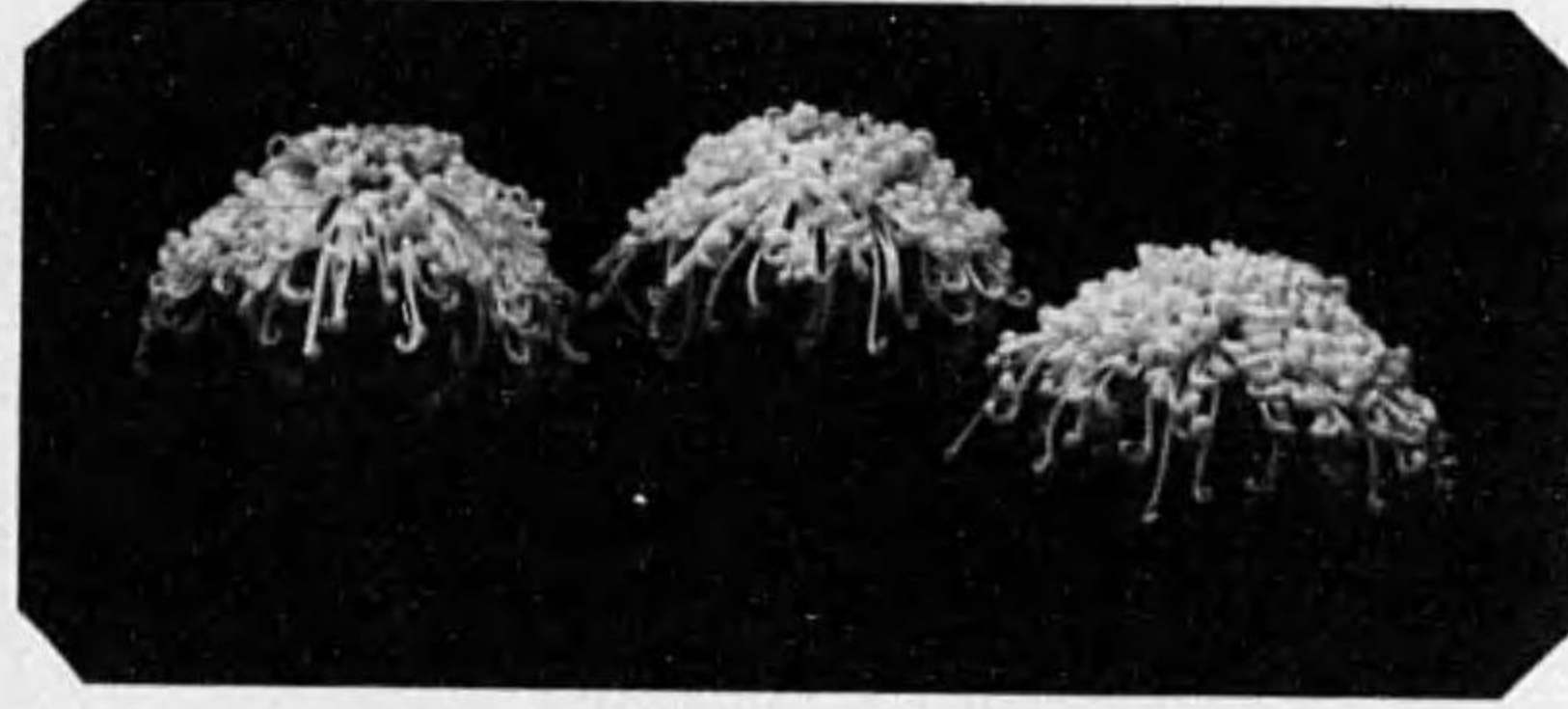
一等 二ばれ錦 石井吉藏



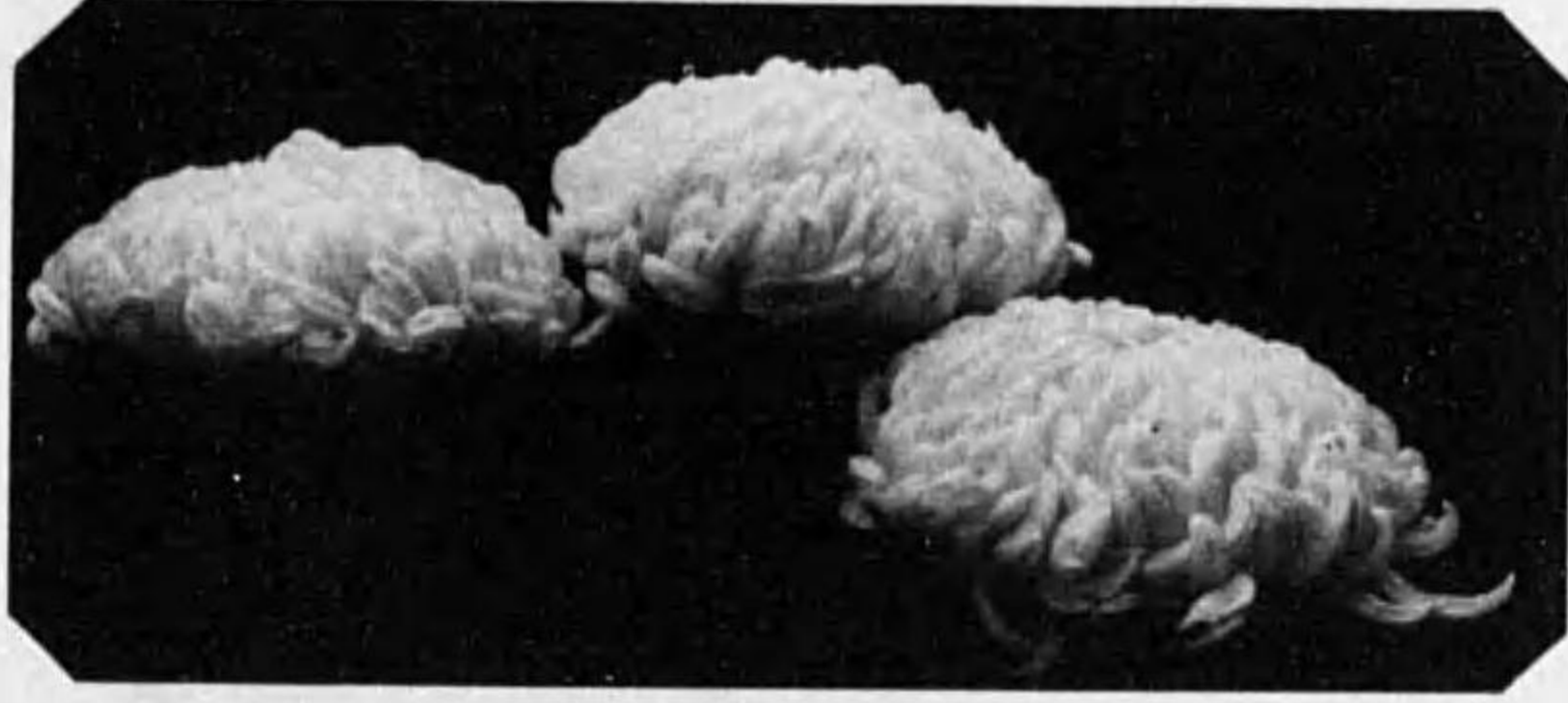
一等 花瀧波 高見澤幹一



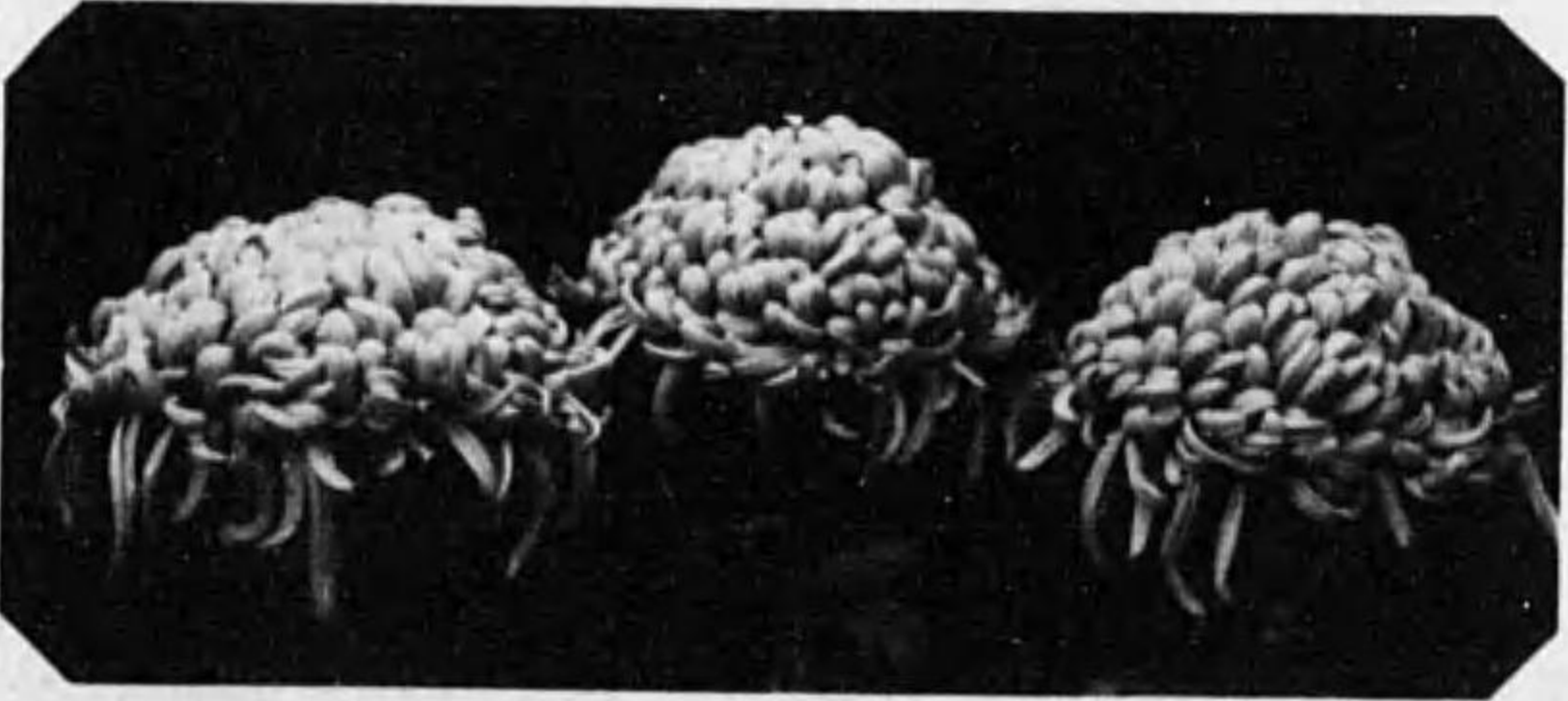
優等 春の海 川澄祐治
 (本部賞贈洋盃受賞)



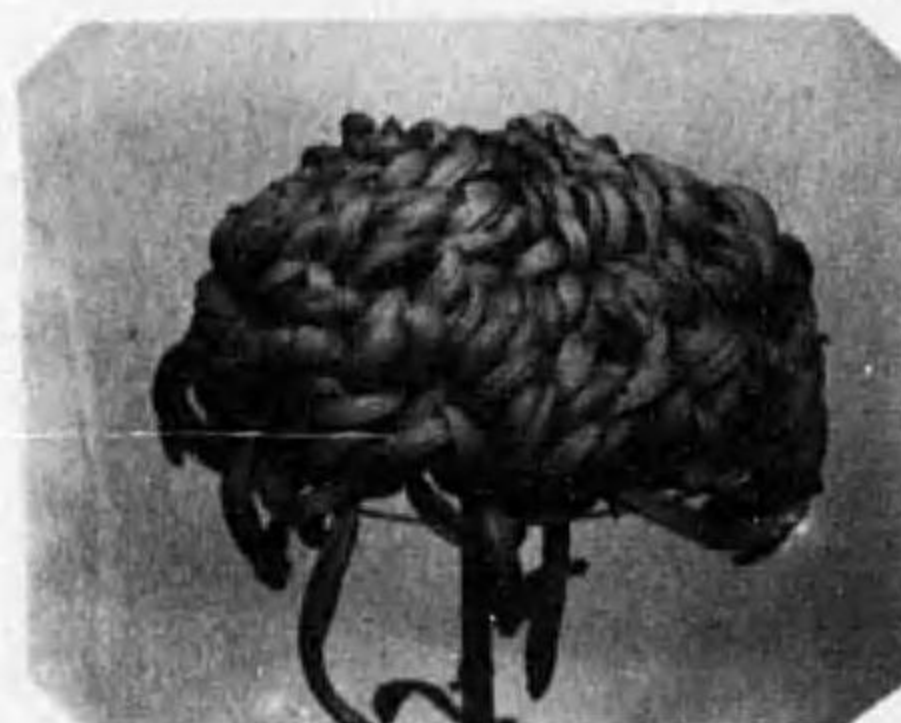
一等 八重霞 小泉由太郎



一等 金輝 清水清四郎



(日三月一十) 會花切會評品園公山毛野部支濱橫



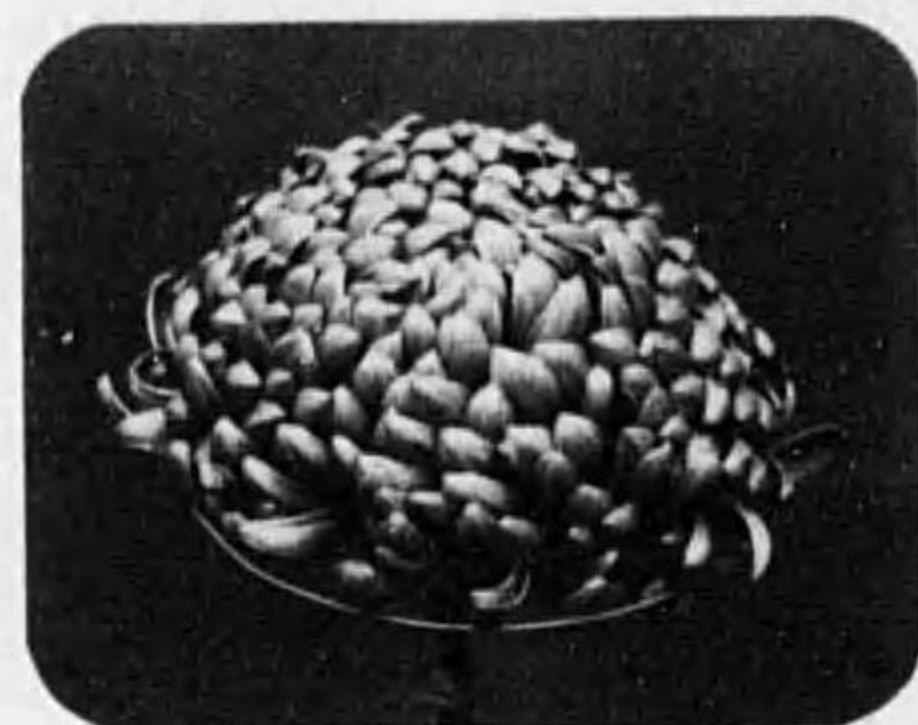
人位
金輝
下山
茂



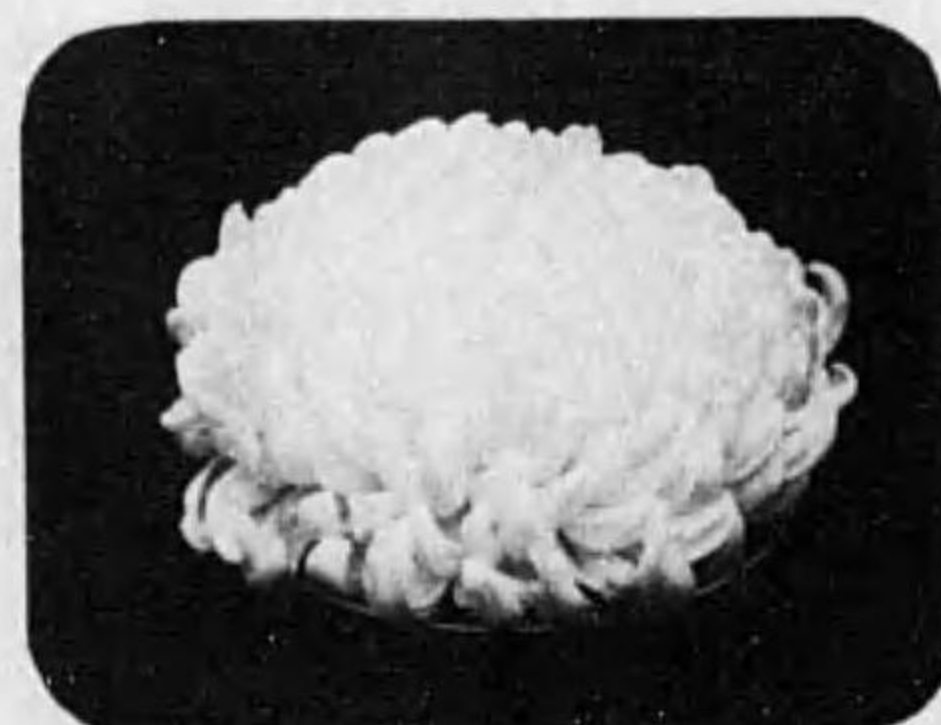
地位
金輝
小野
定志



特別競技花
天位
金輝
清水
清四郎



人位
春興殿
下山
茂



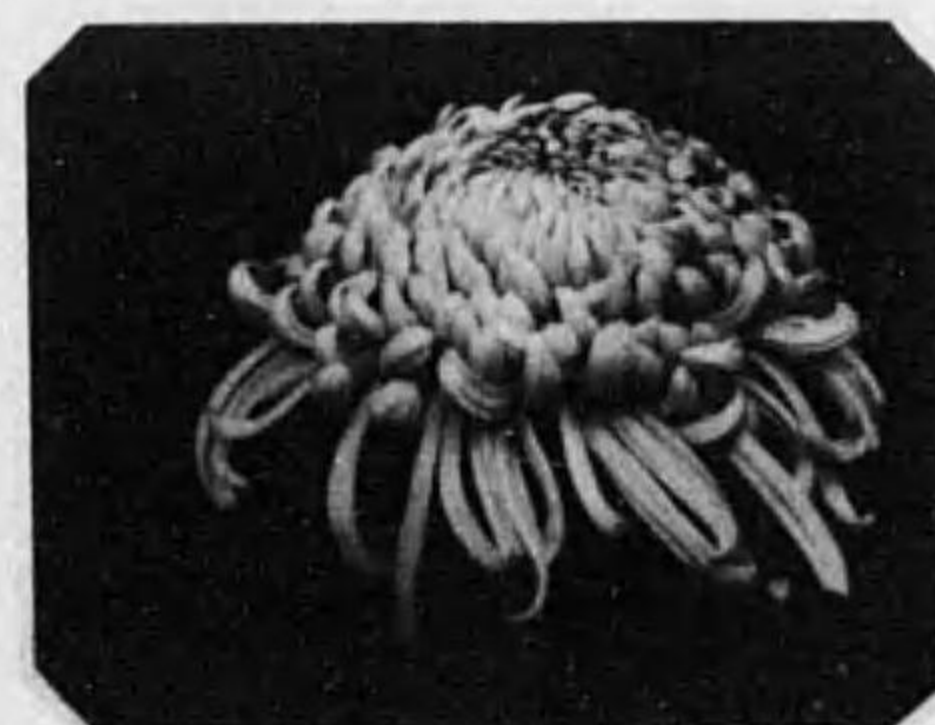
天位
孤村月
下山
茂



人位
越の波
清水
清四郎



地位
歸去來
下山
茂



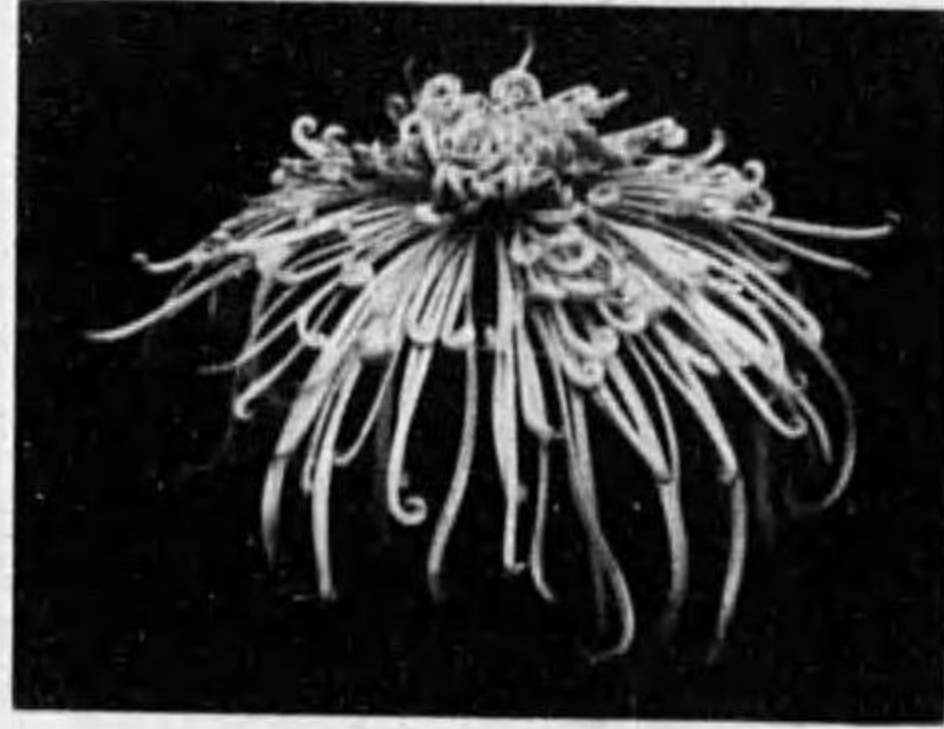
厚物咲走付
天位
歸去來
林山
重次郎

(日三月一十)

會花切會評品園公山毛野部支濱橫



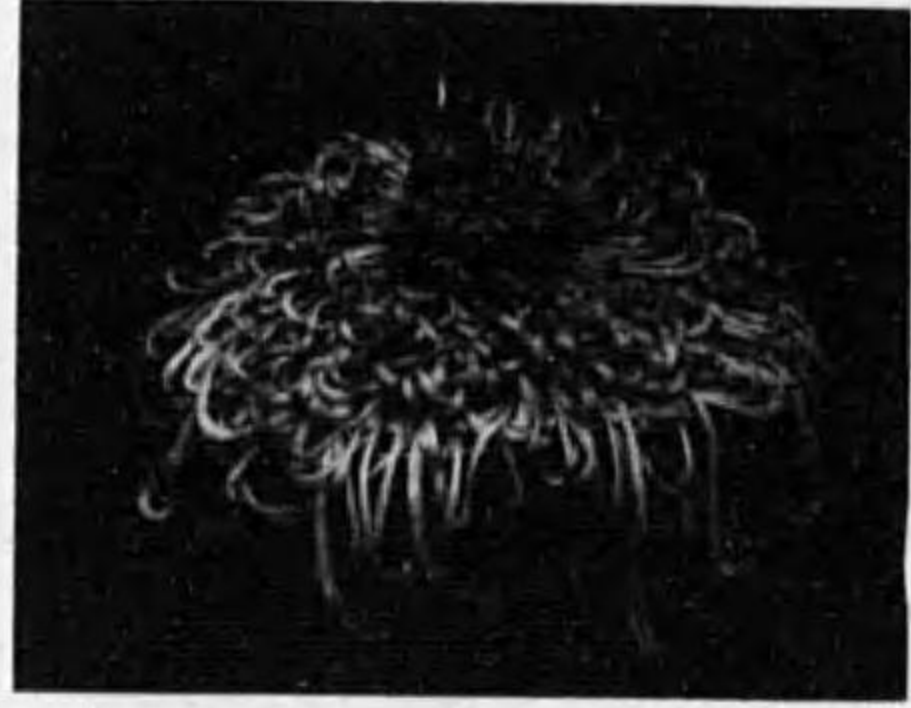
人位 紅葉山
淺野民之助



地位 紫宸殿
潮能儀平



天位 太管咲
月ヶ瀬 潮能儀平



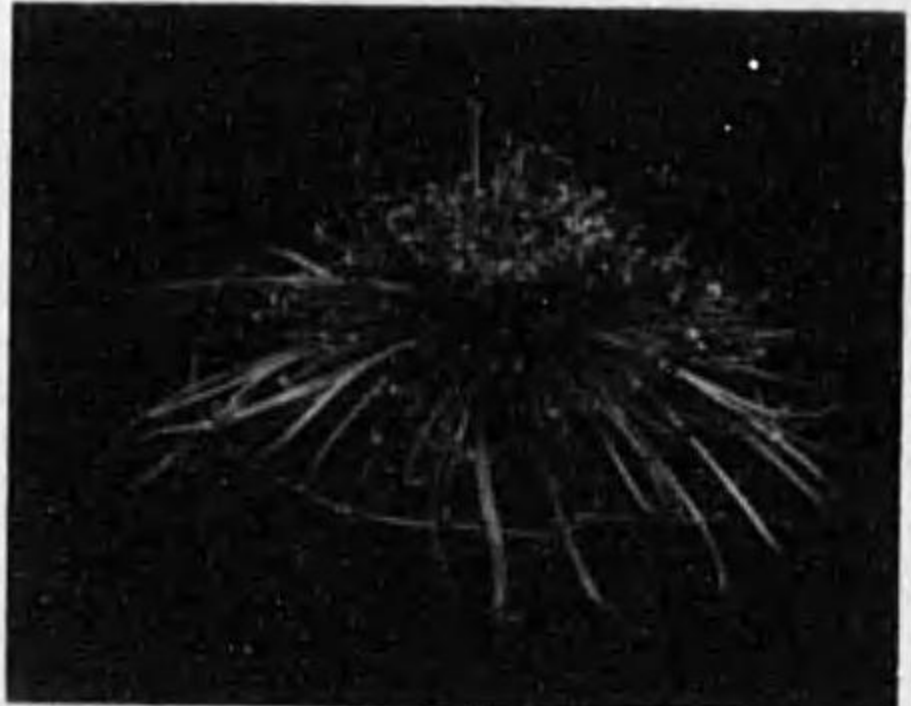
人位 麒麟舞
小高和吉



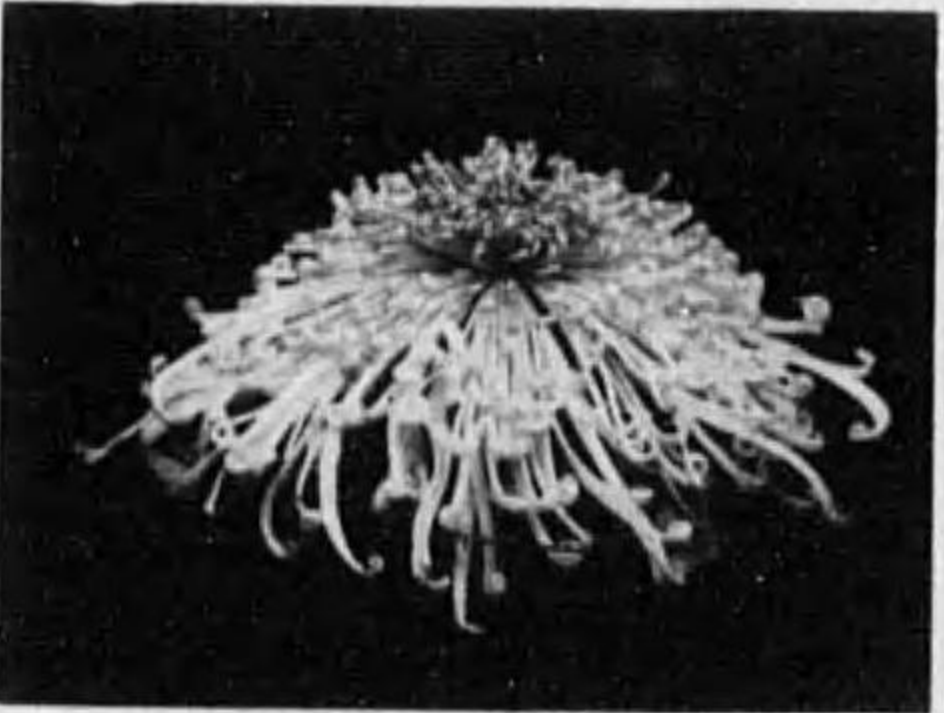
地位 金鳳舞
川澄結治
(本部寄贈メダル受賞)



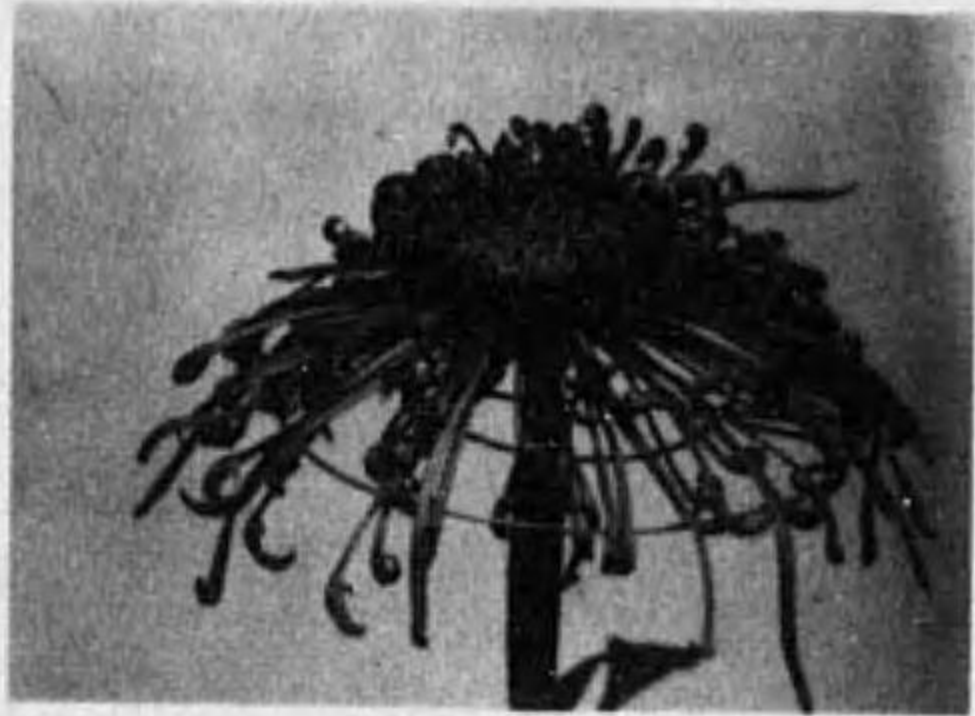
天位 間管咲
羽衣舞 淺野民之助



人位 錦光
八月厚一郎
(本部寄贈メダル受賞)



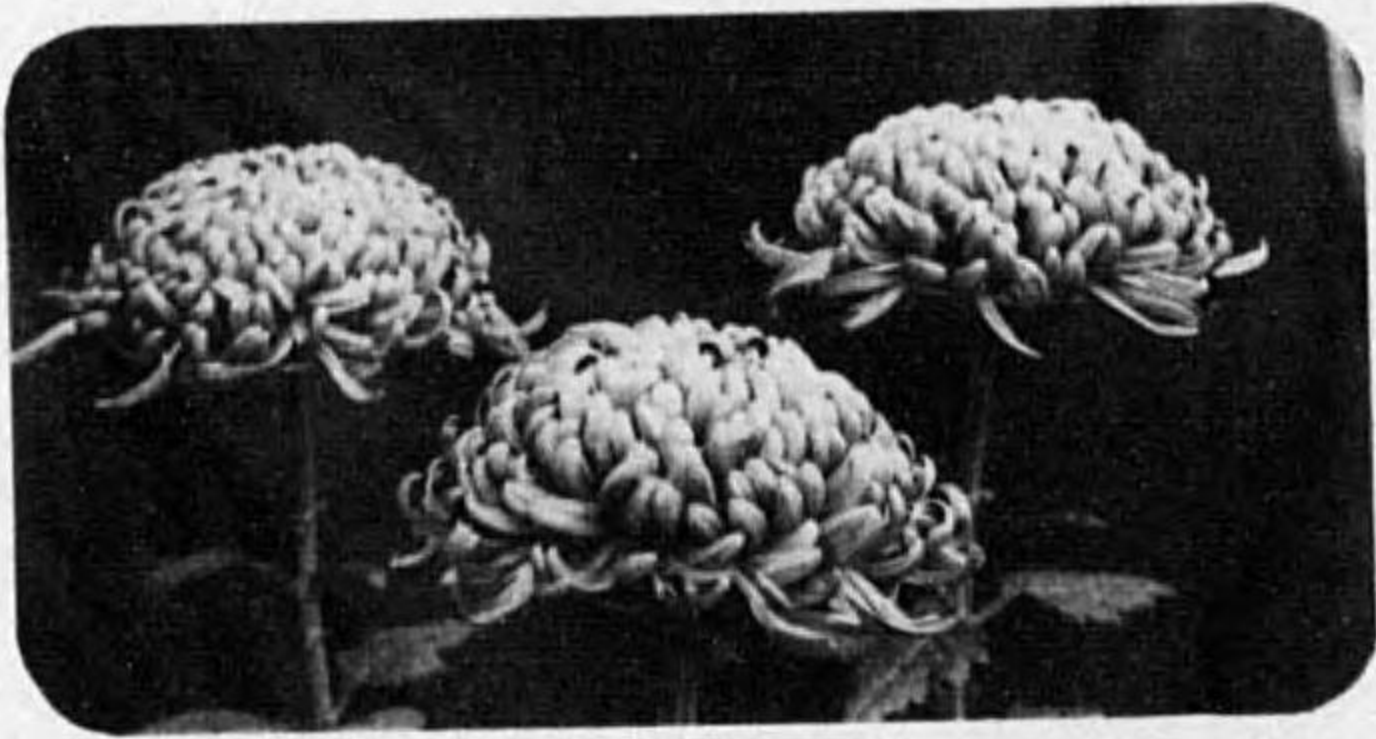
地位 千秋光
島山貞美
(本部寄贈メダル受賞)



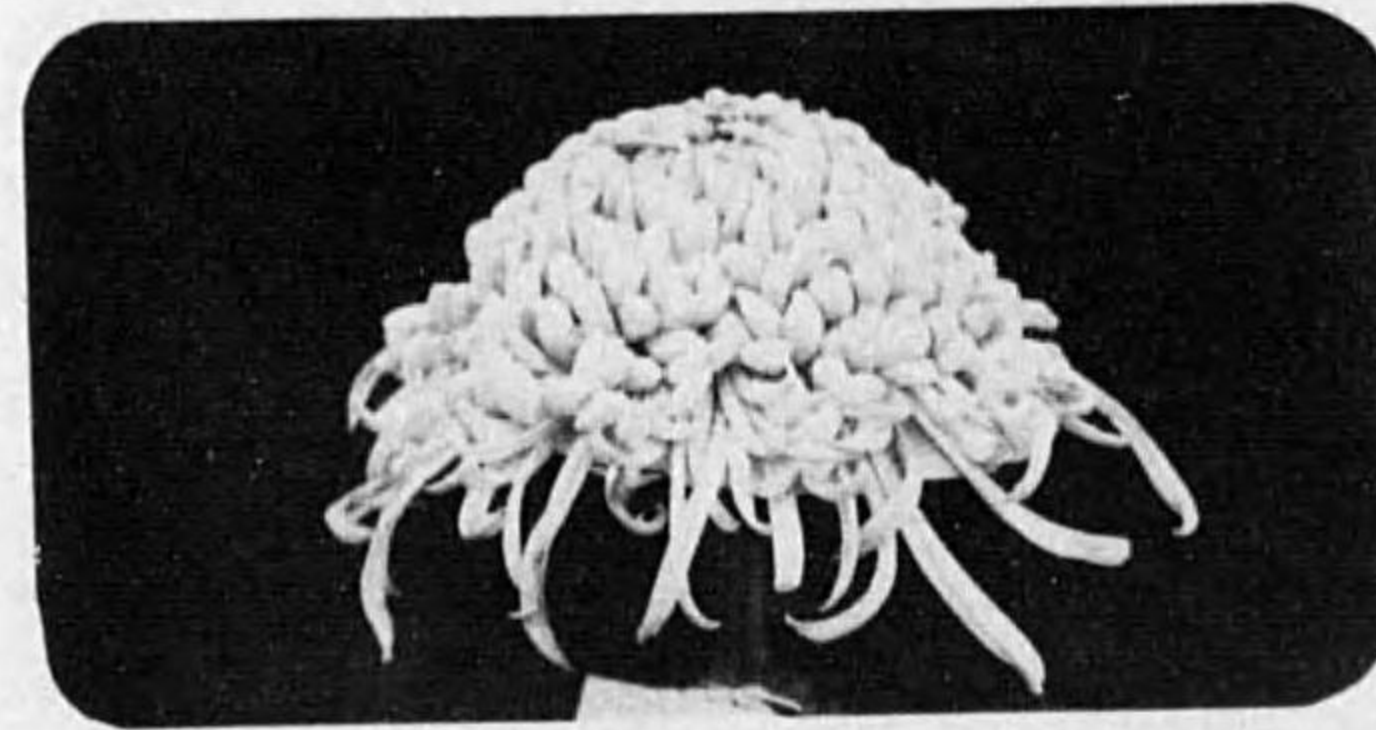
天位 細管咲
金鈴 小泉由太郎

花技競別特會評品部支倉鎌

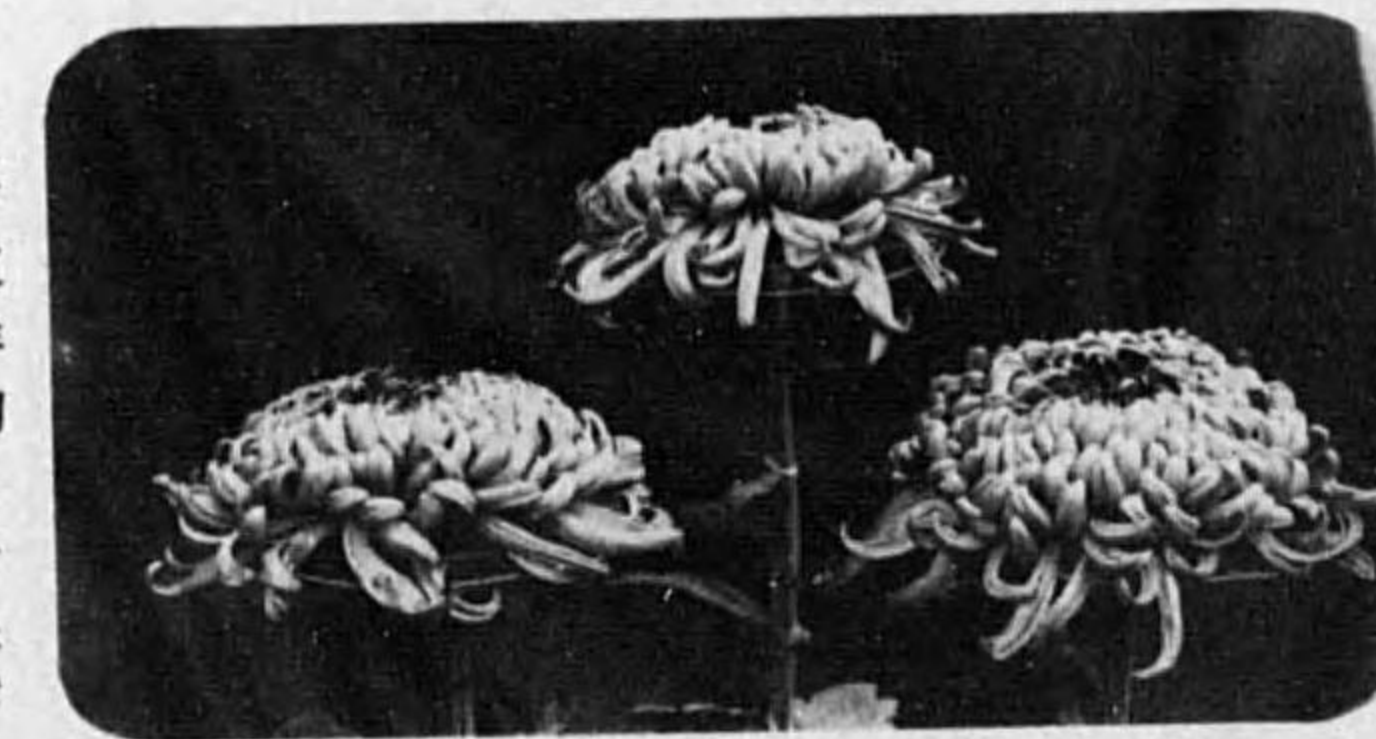
天位 東洋司 田中寅吉
盆養花 (十一月六日)



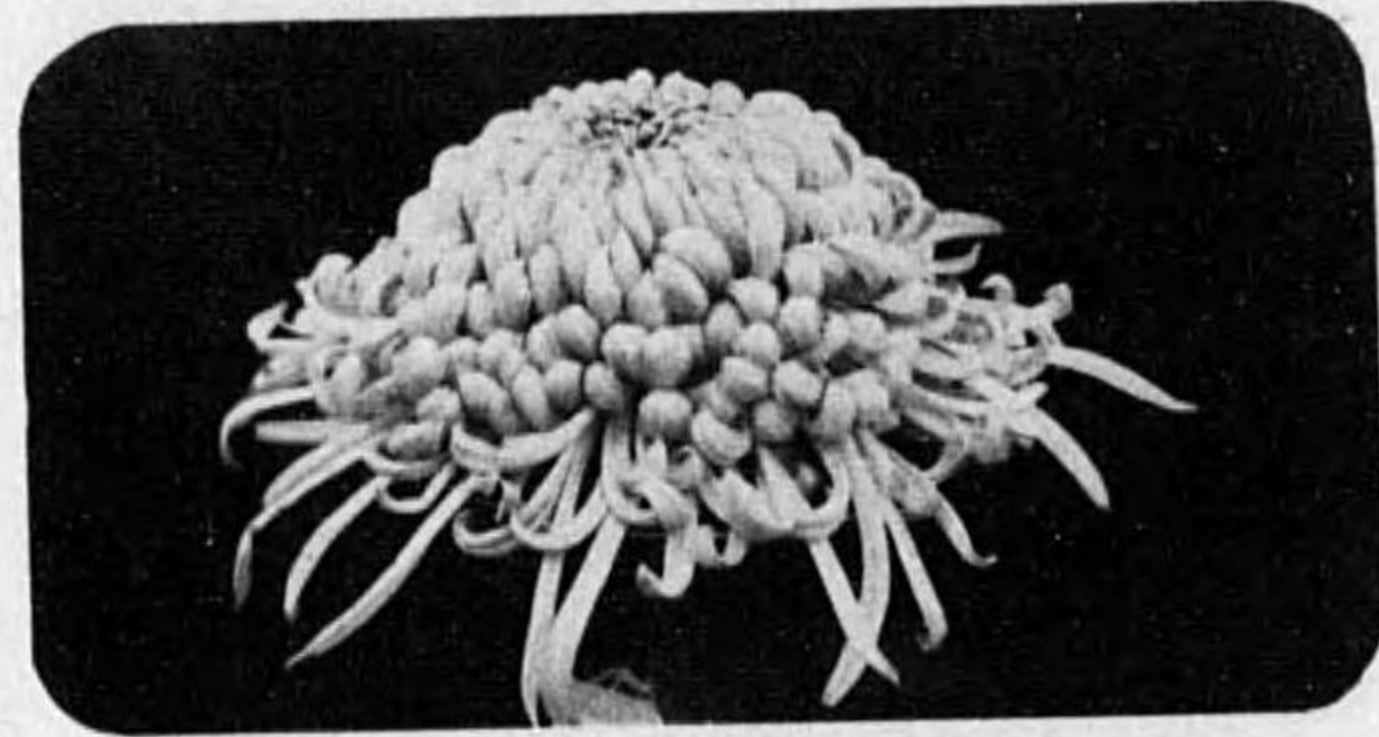
地位 御代榮 野間榮三郎
切花



人位 東洋司 大村辰造



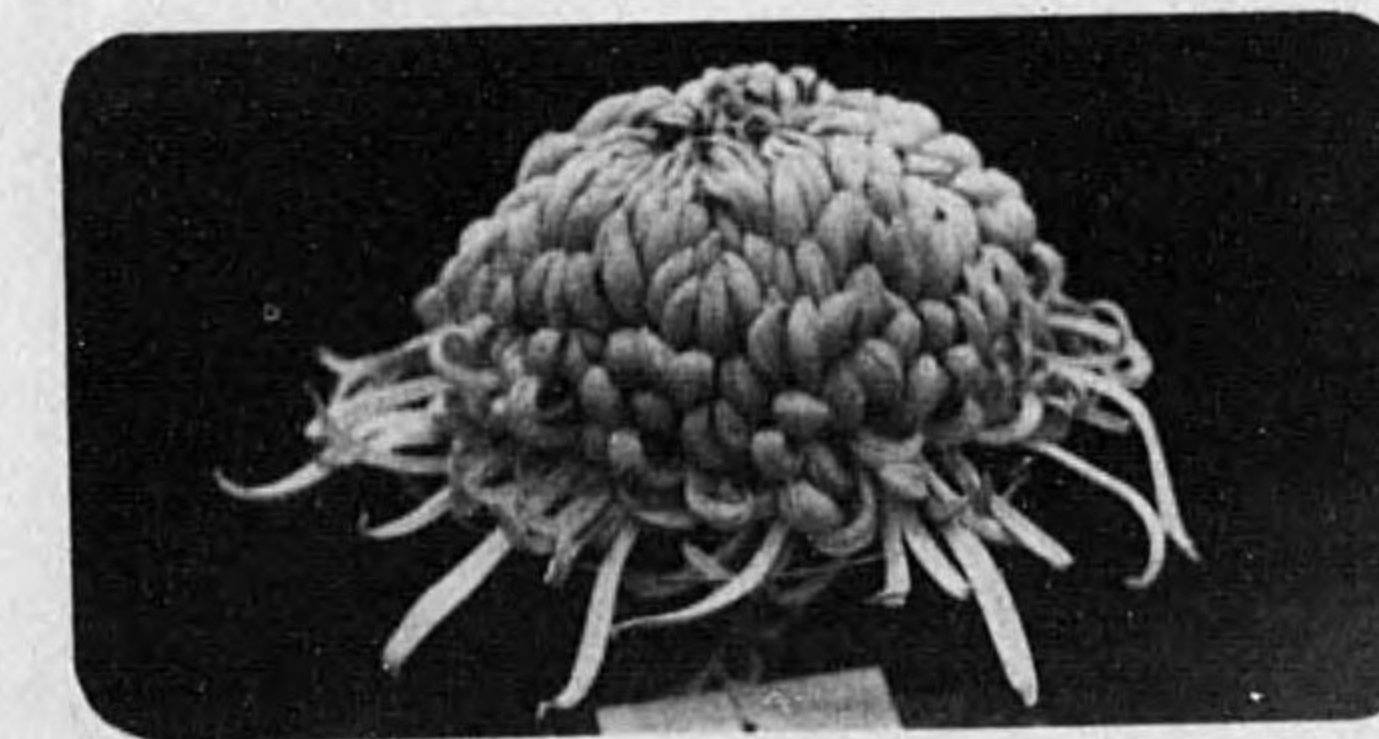
切花 (十一月八日)
天位 御代榮 大村辰造



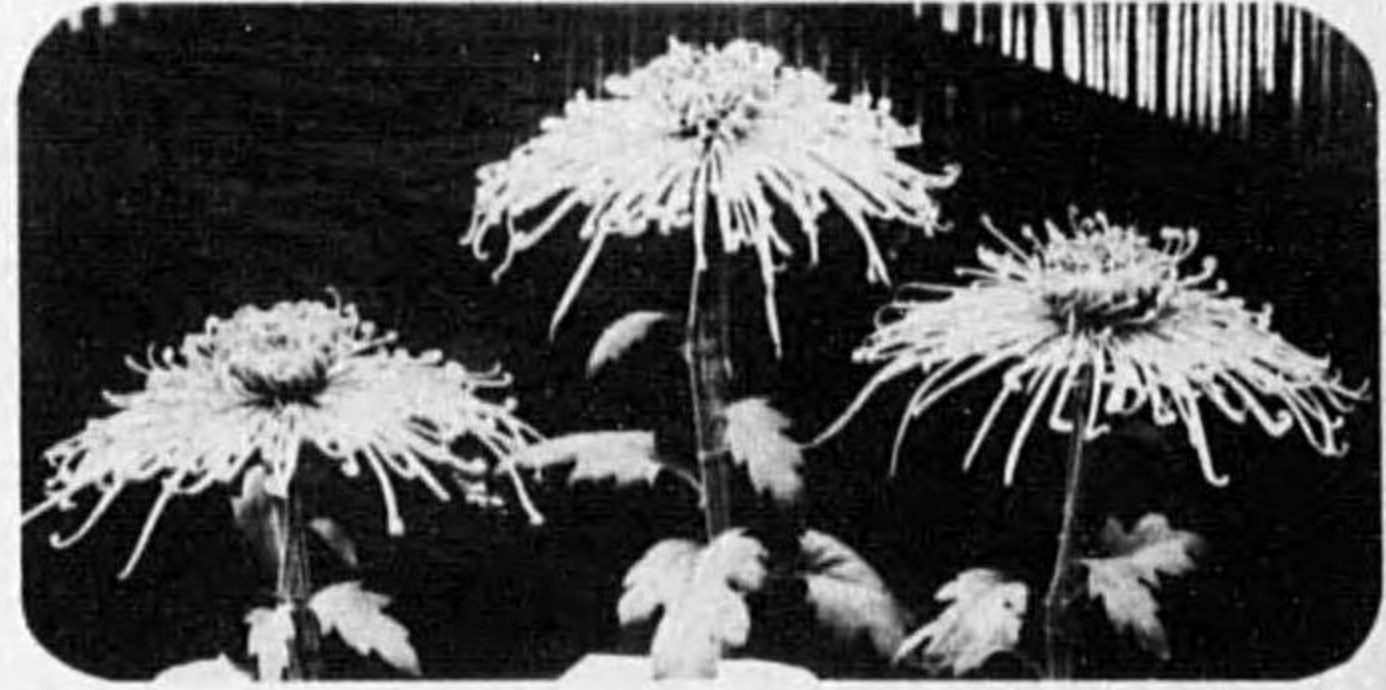
地位 東洋司 多摩次



切花
人位 御代榮 多摩次



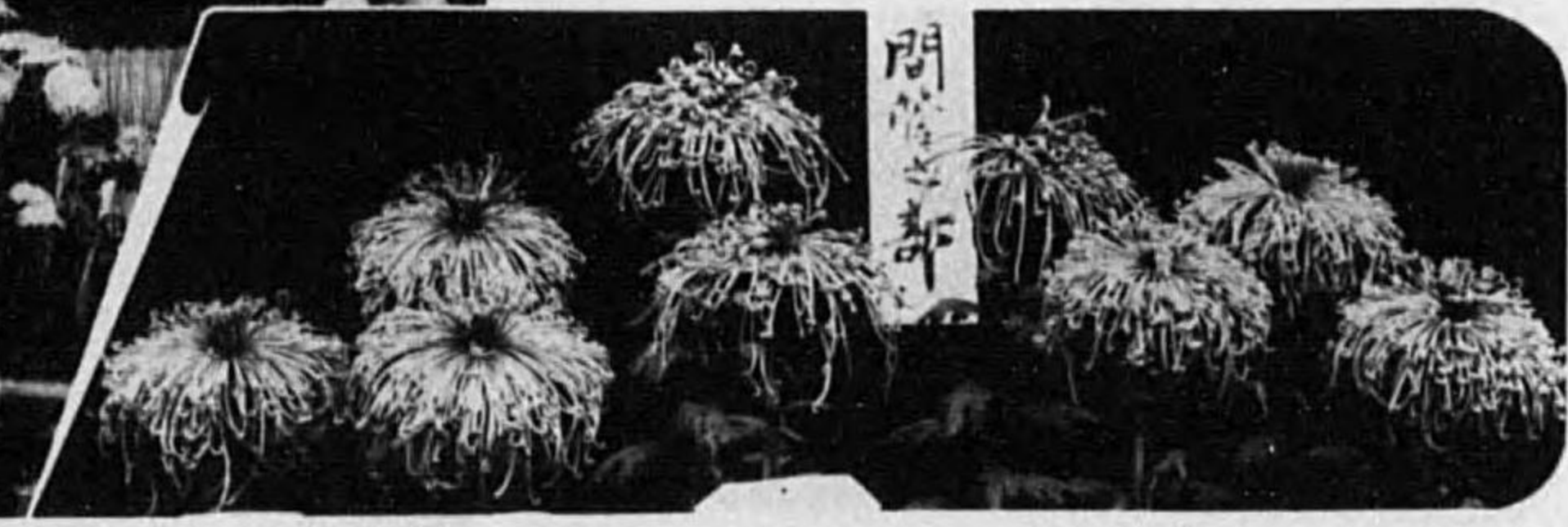
宇都宮支部分品評會



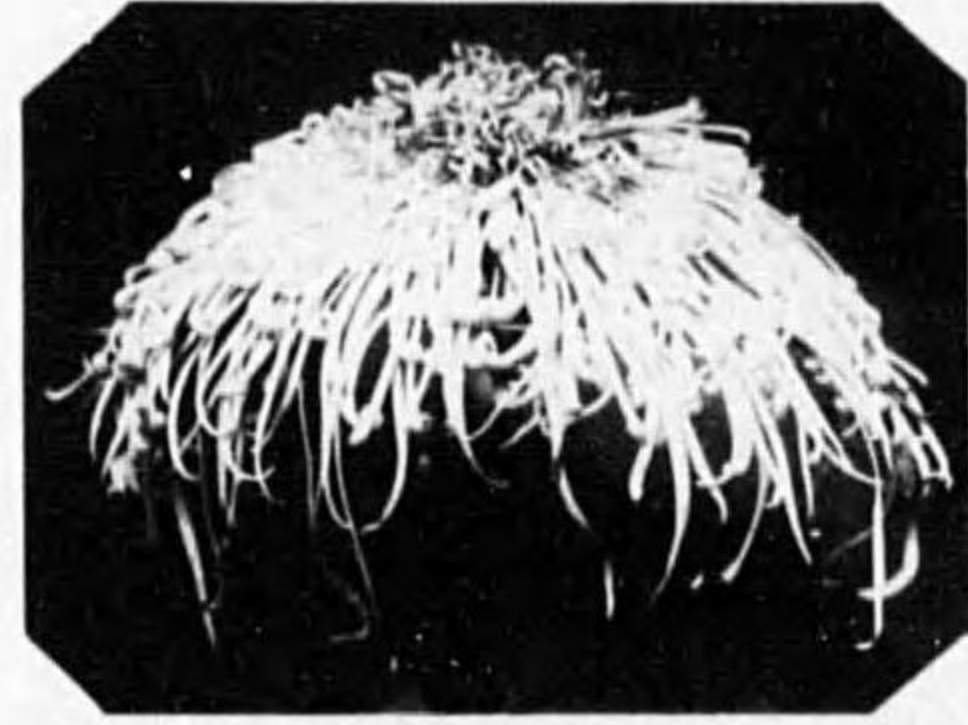
賞品授與式



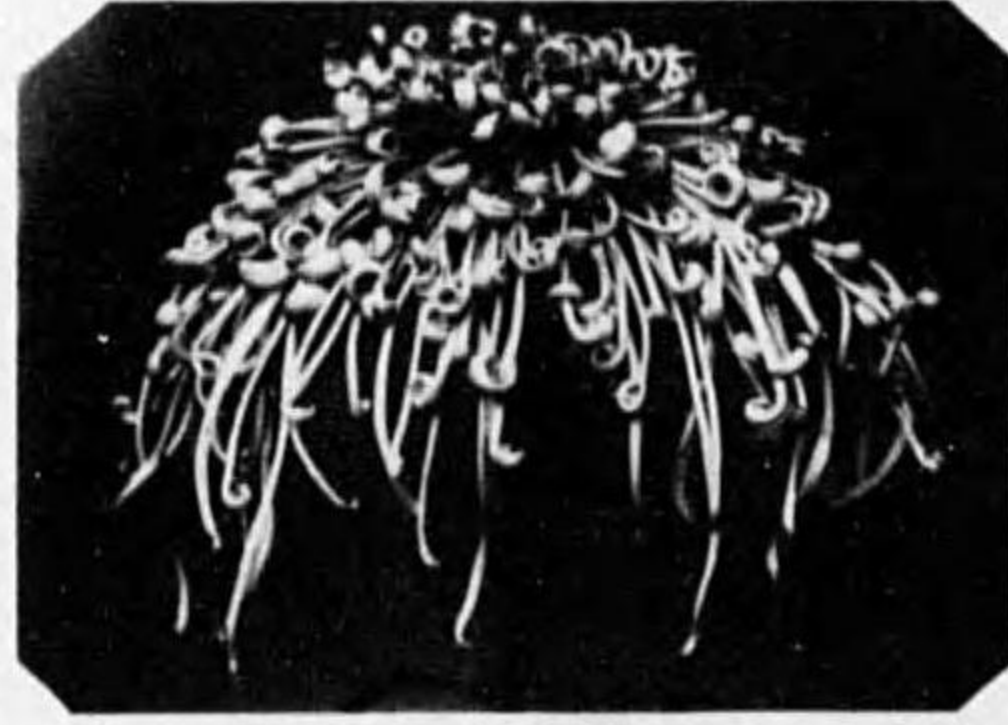
品評會場の一部



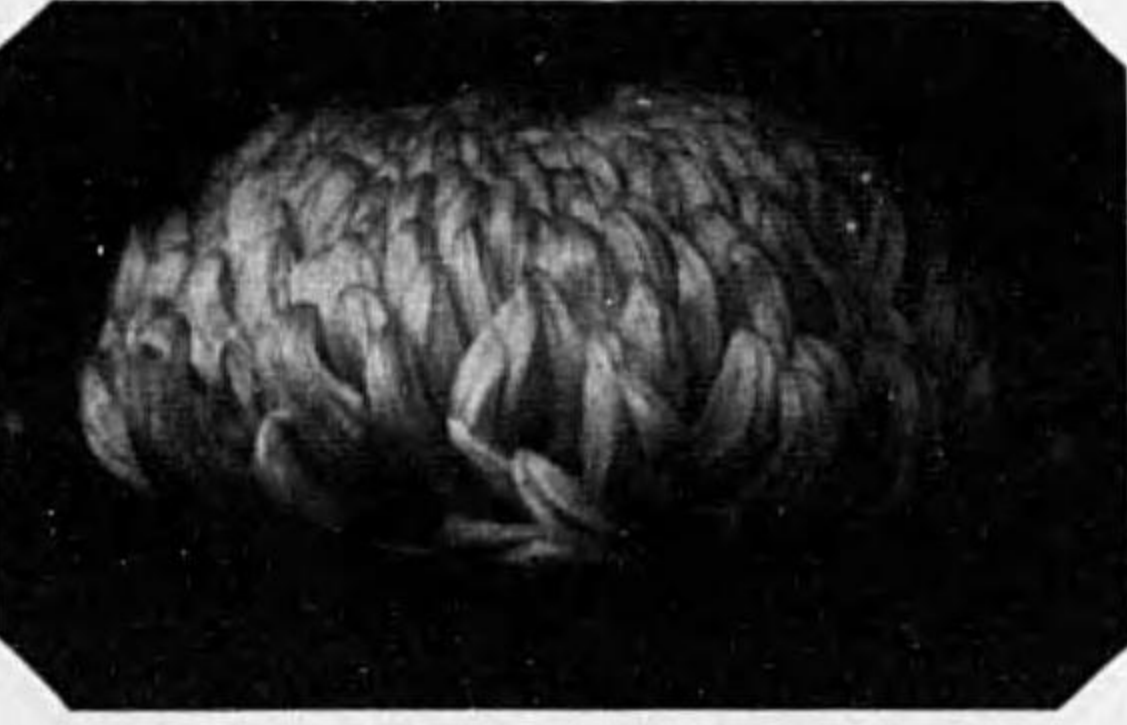
鹿沼支部品評會 (十一月七日)



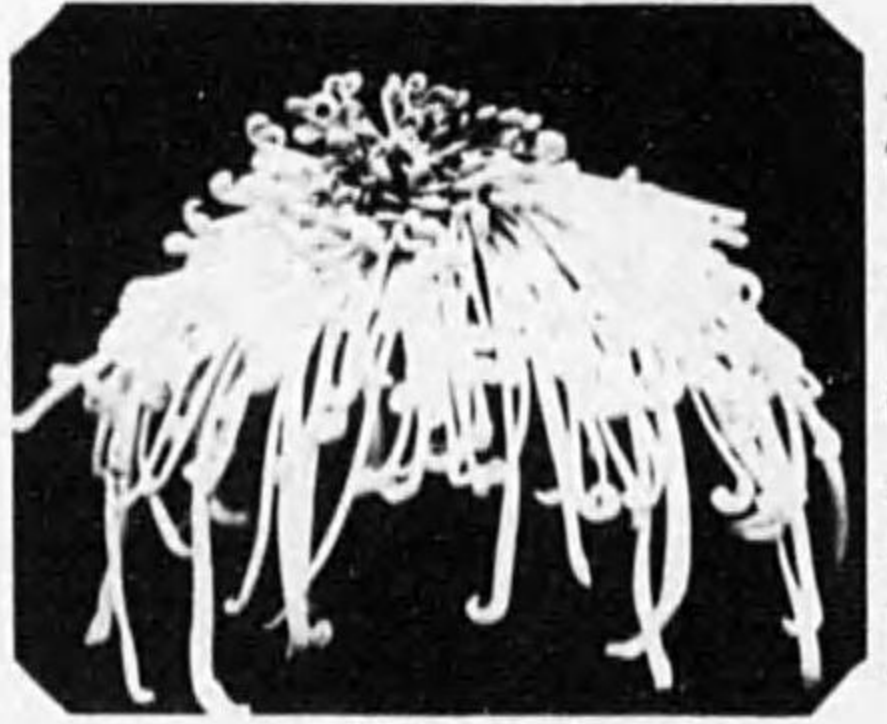
人位 香露曙 橋田 秀吉
(本部寄贈メダル受賞)



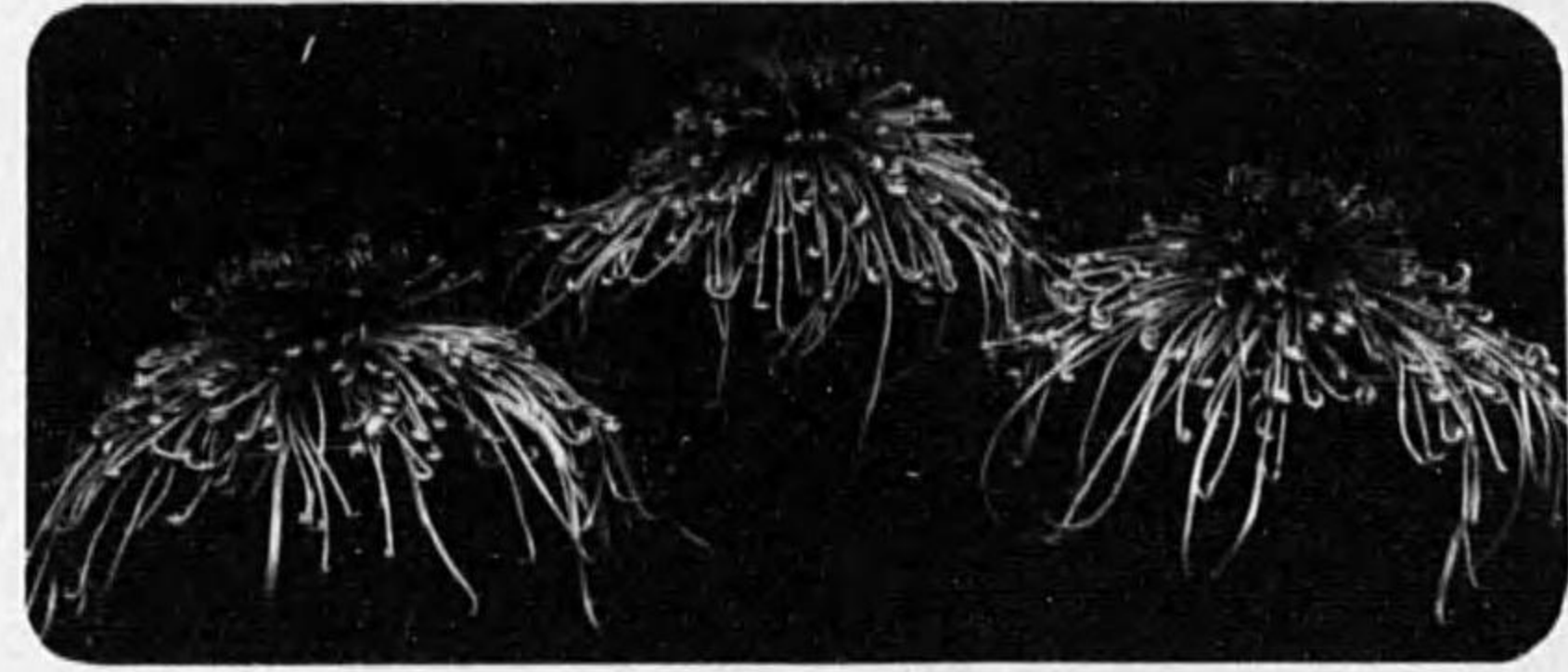
天位 斑女 小谷 三平
(奉祝切花會(本部寄贈メダル受賞)



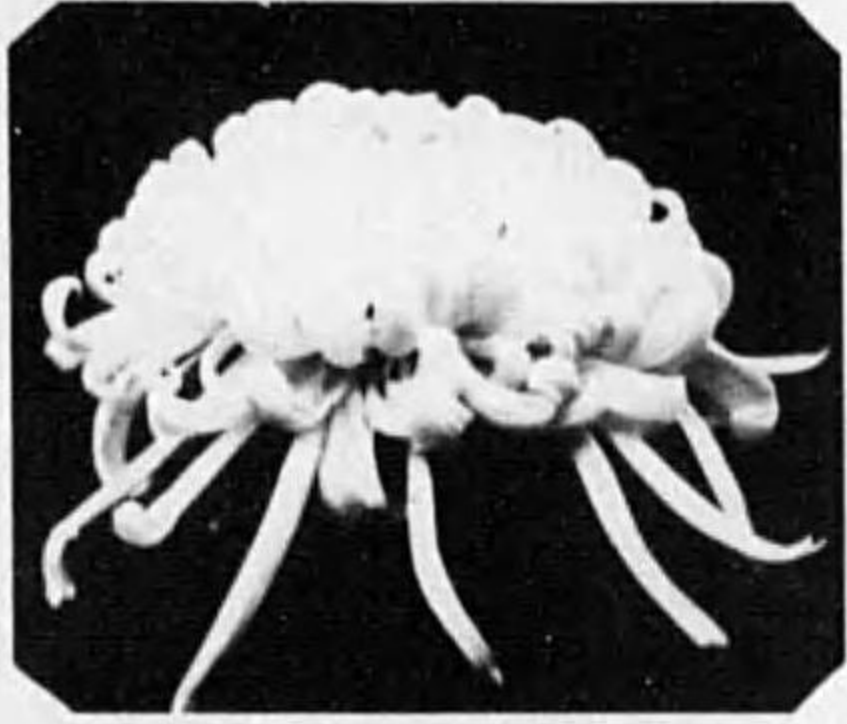
特別競技花(盆養)
天位 孤村月 編笠千代之助



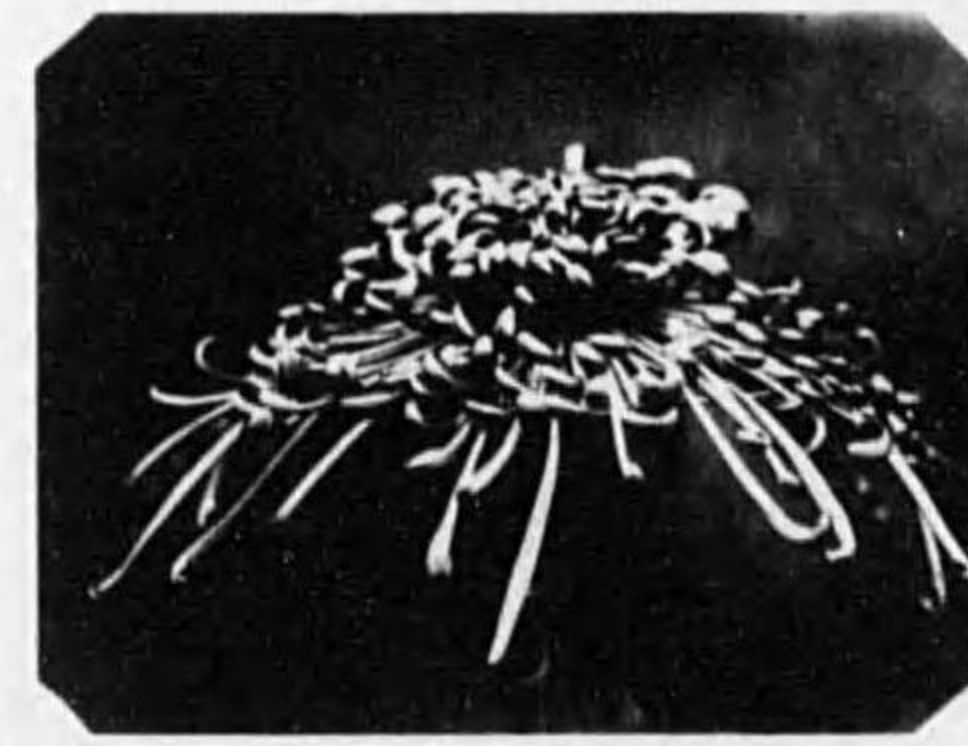
人位 月ヶ瀬 新島貫一



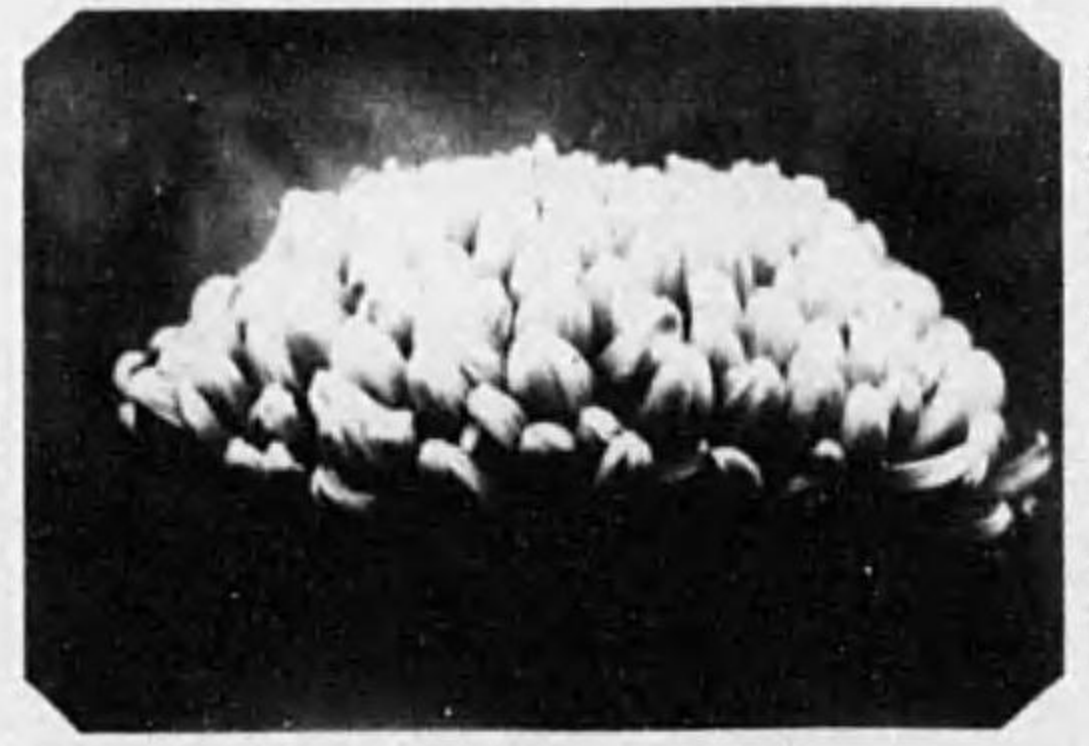
天位 越後獅子 柳 禮一郎
(本部寄贈メダル受賞)



地位 平和 野中 醇二



地位 蓬萊山 山口 賢平



天位 日東光 原 清太郎

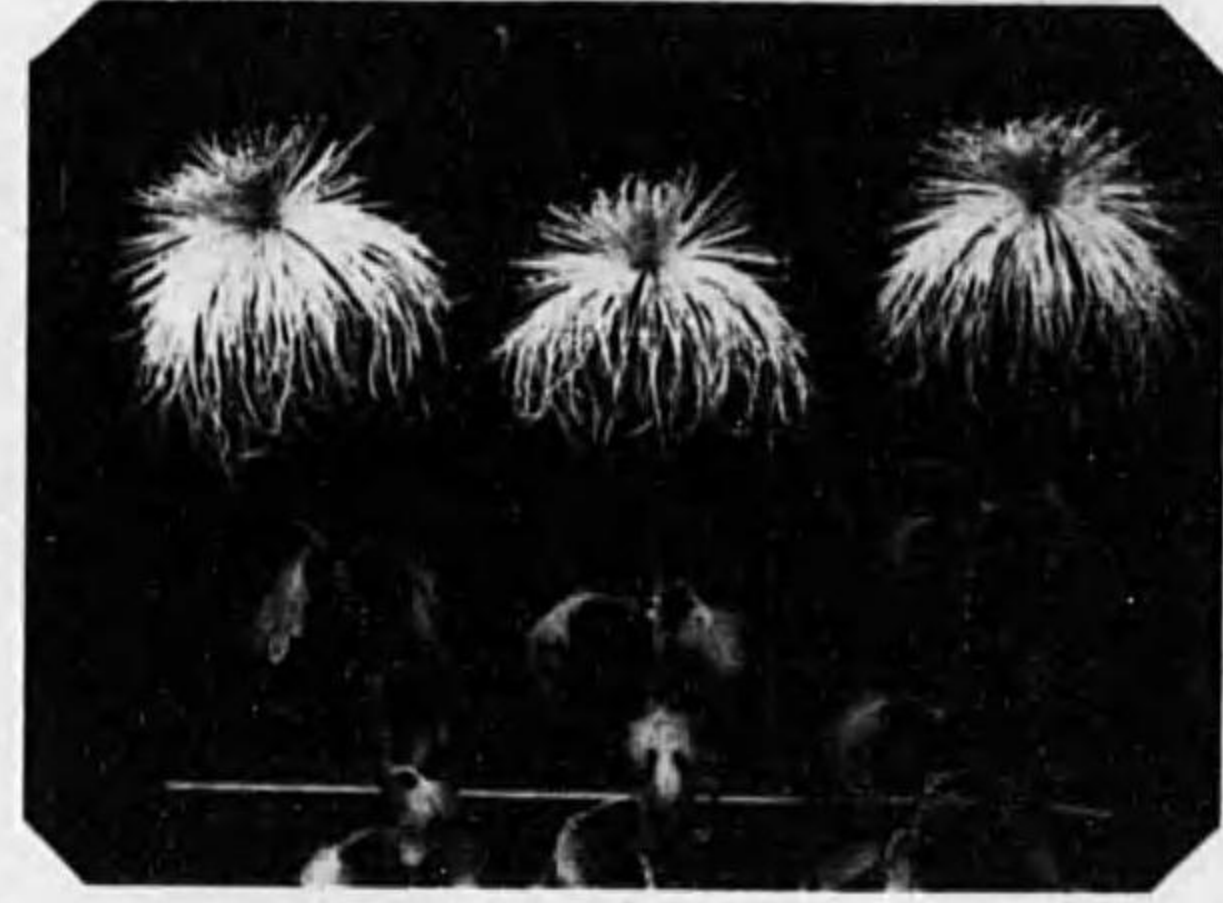


特別競技花(盆養)
天位 斑女 齋藤金太郎

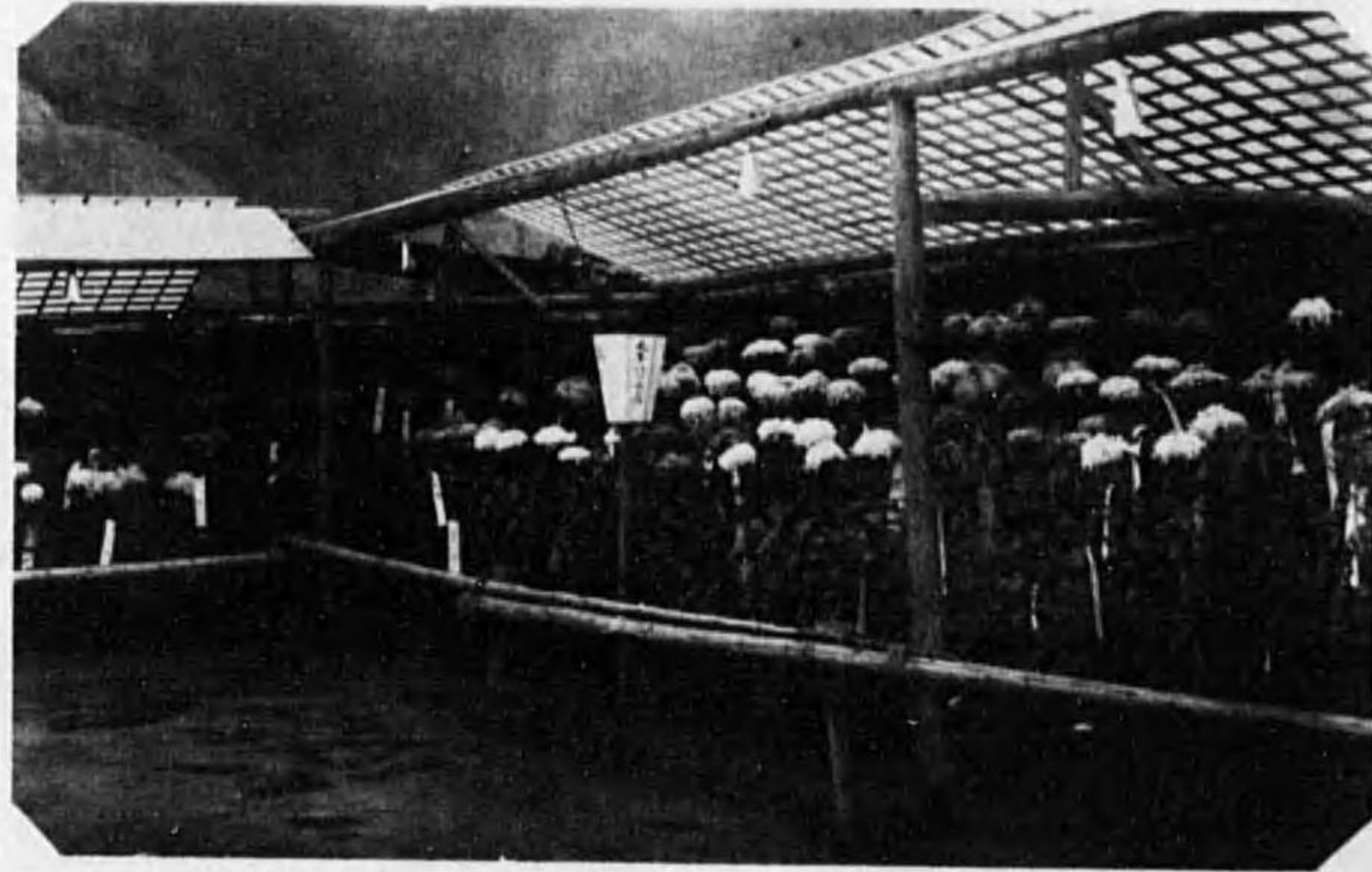
湯本支部分品評會盆養花



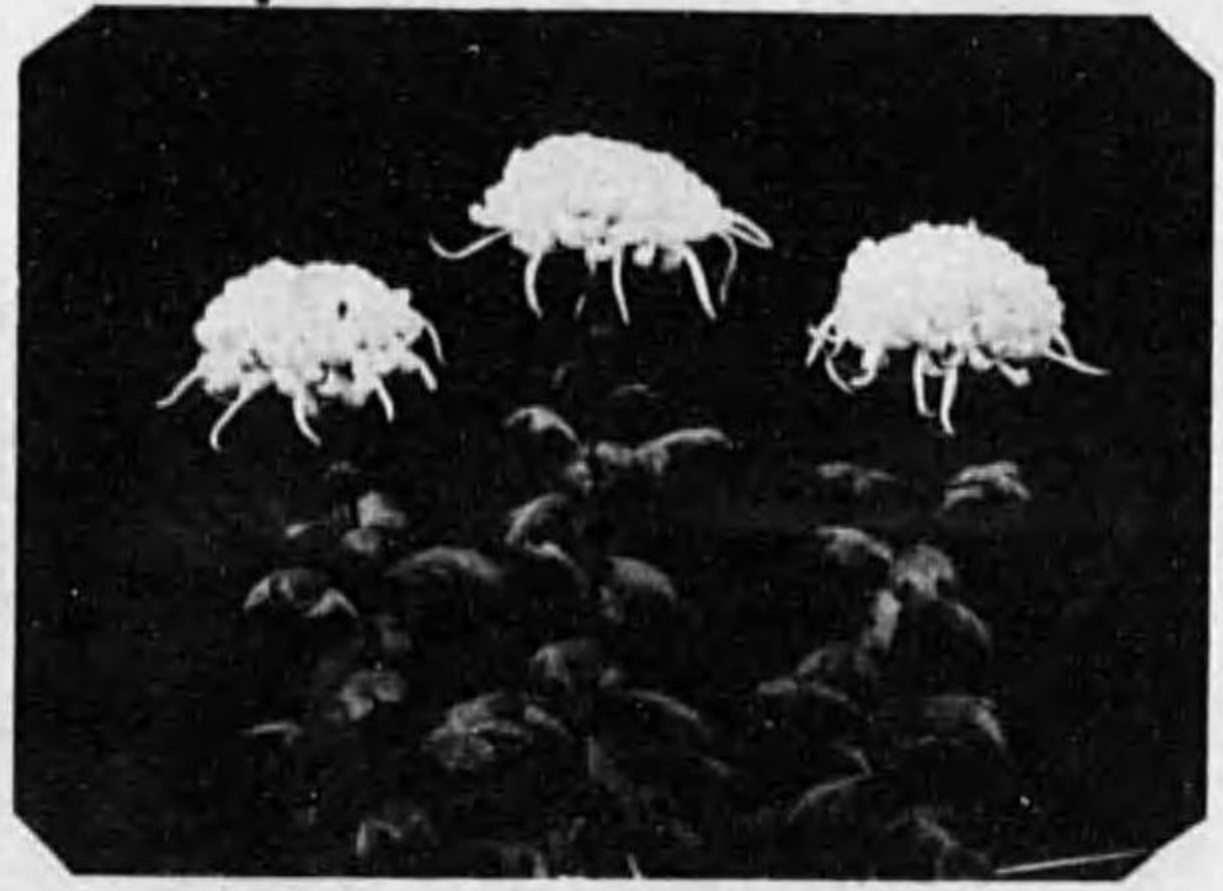
二等 小忌衣 石川 徳壽
(本部寄贈メダル受賞)



最優等 (本部寄贈洋盃受賞)
一等 不夜城 植松 淳



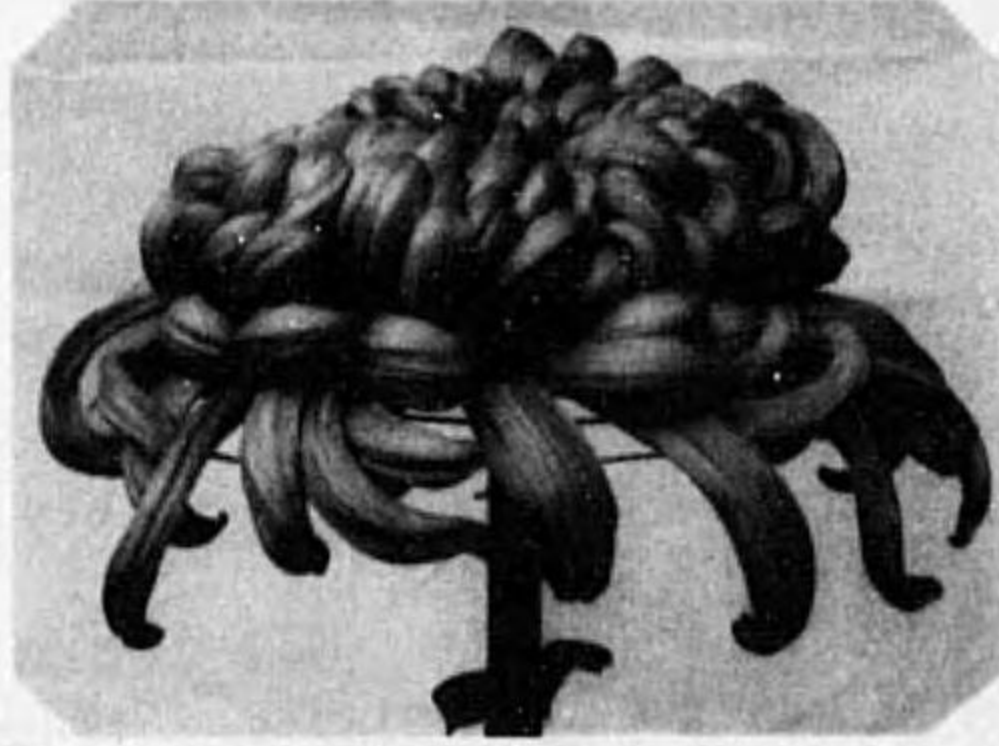
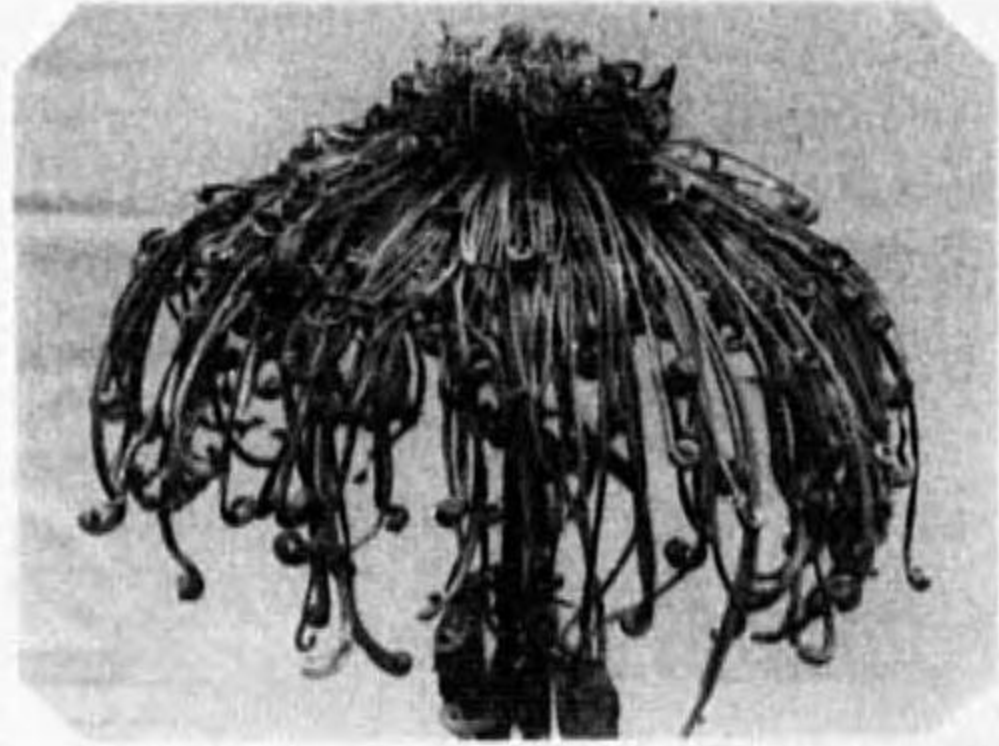
花壇の一部



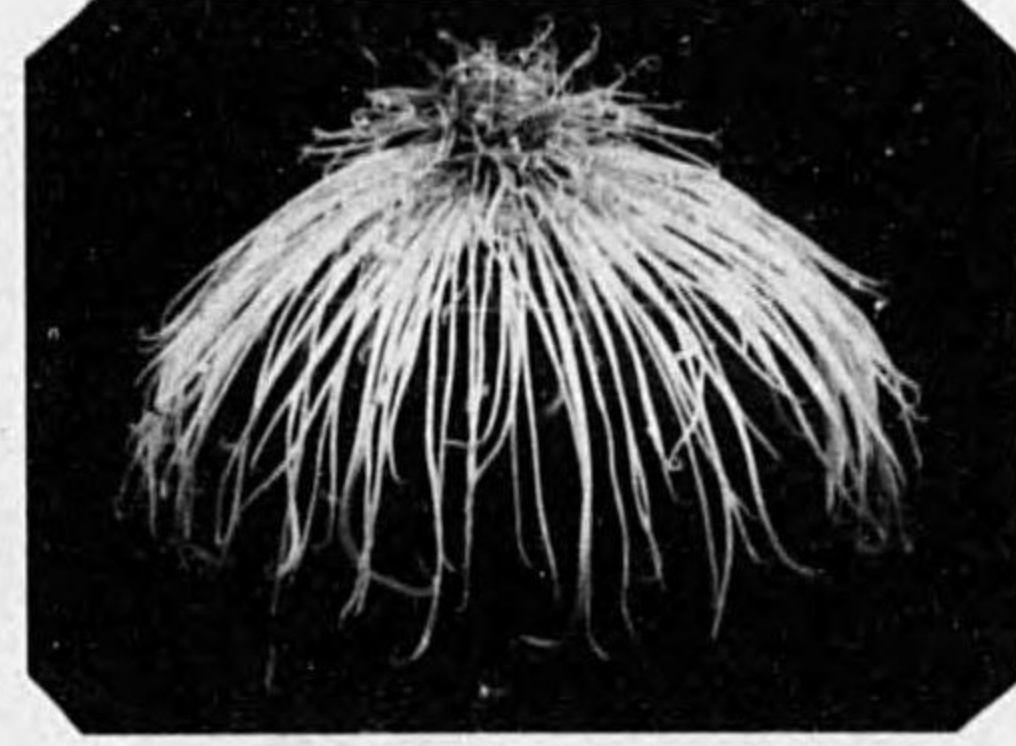
(本部寄贈メダル受賞)
三等 平和 今野清三郎

新發田支部品評會

入位 麟風 稻田甫吉

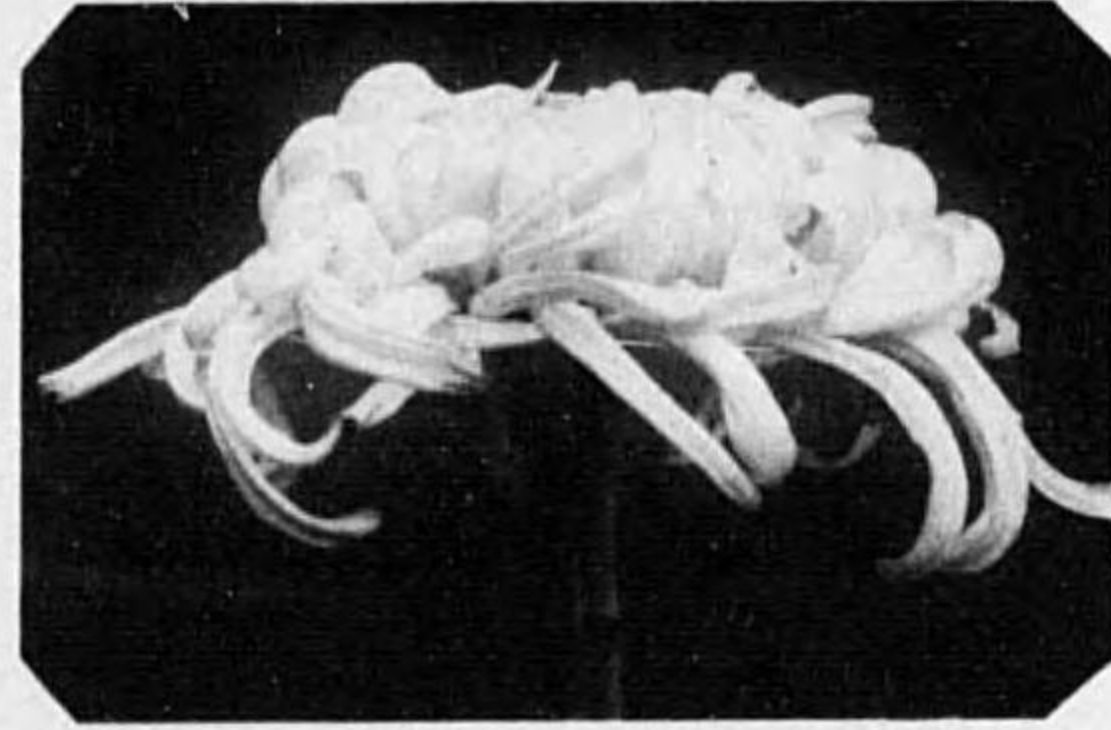
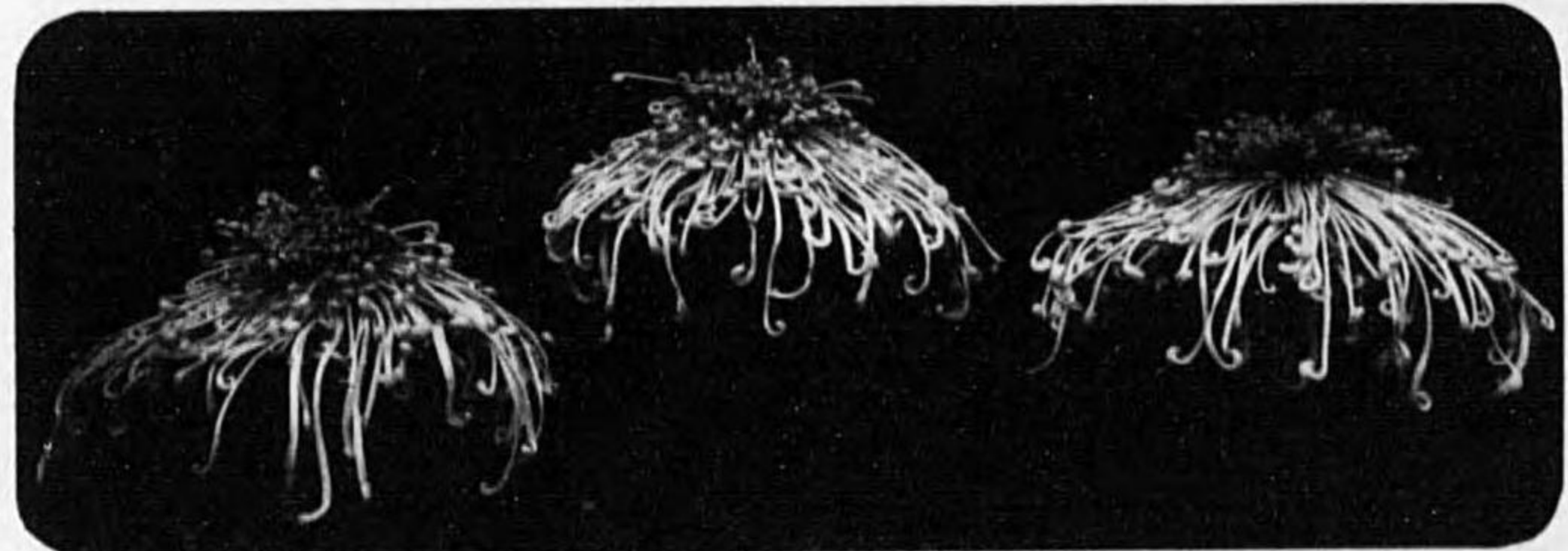


地位 金寶冠 田中貞三郎



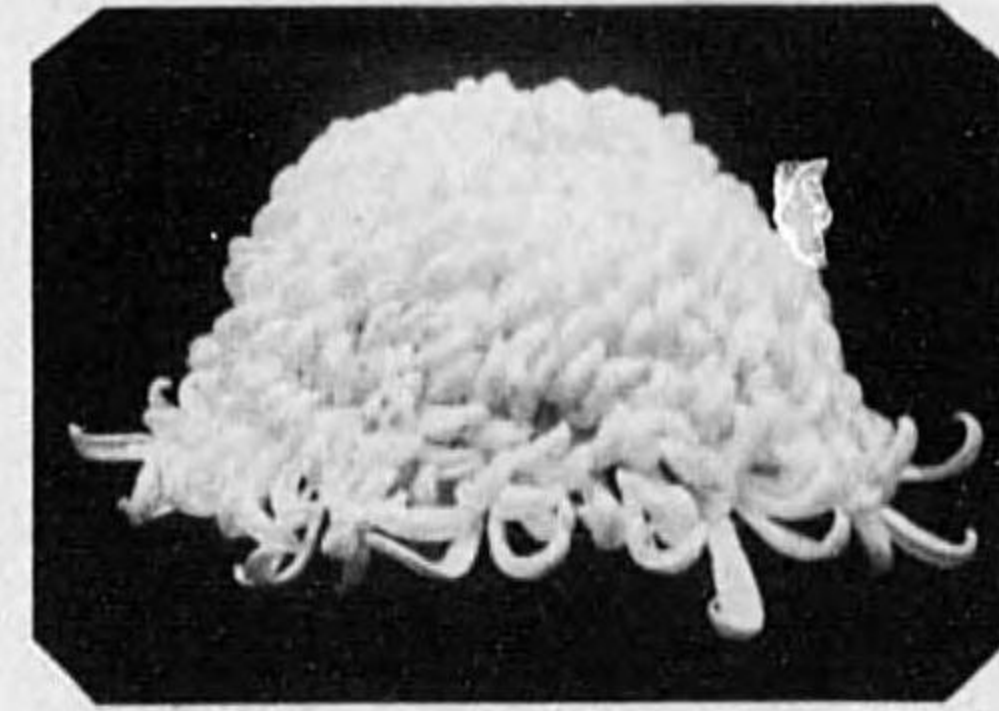
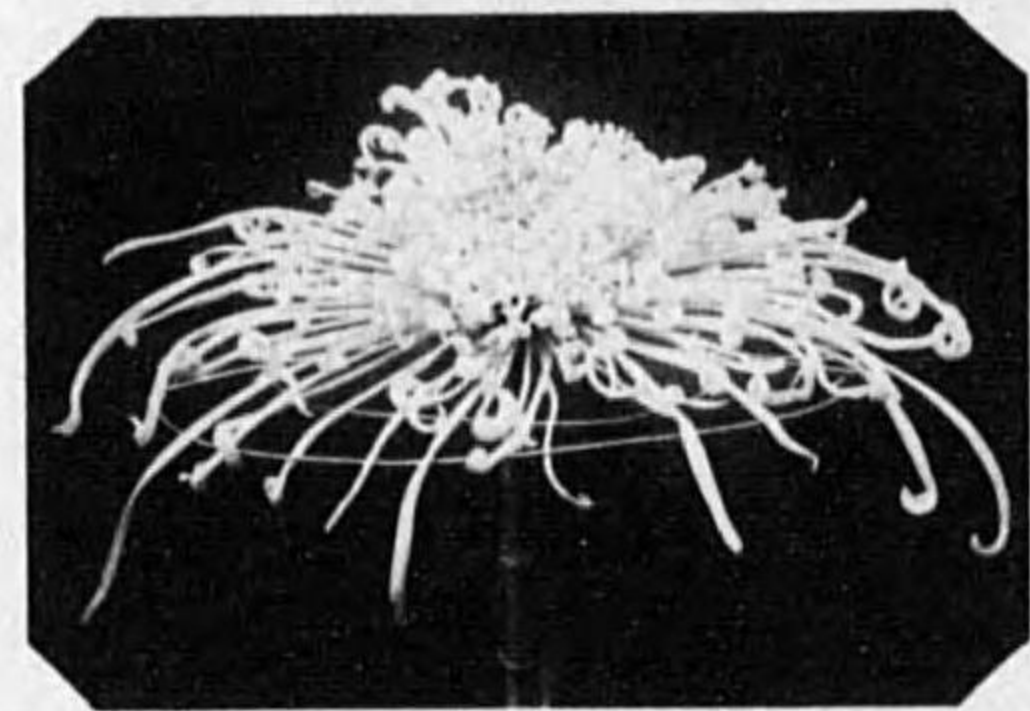
天位 翠簾風 市島貞三
(本部寄贈メダル受賞)

天位 月ヶ瀬 越水重之助
最優等 (本部寄贈銀盃受賞)

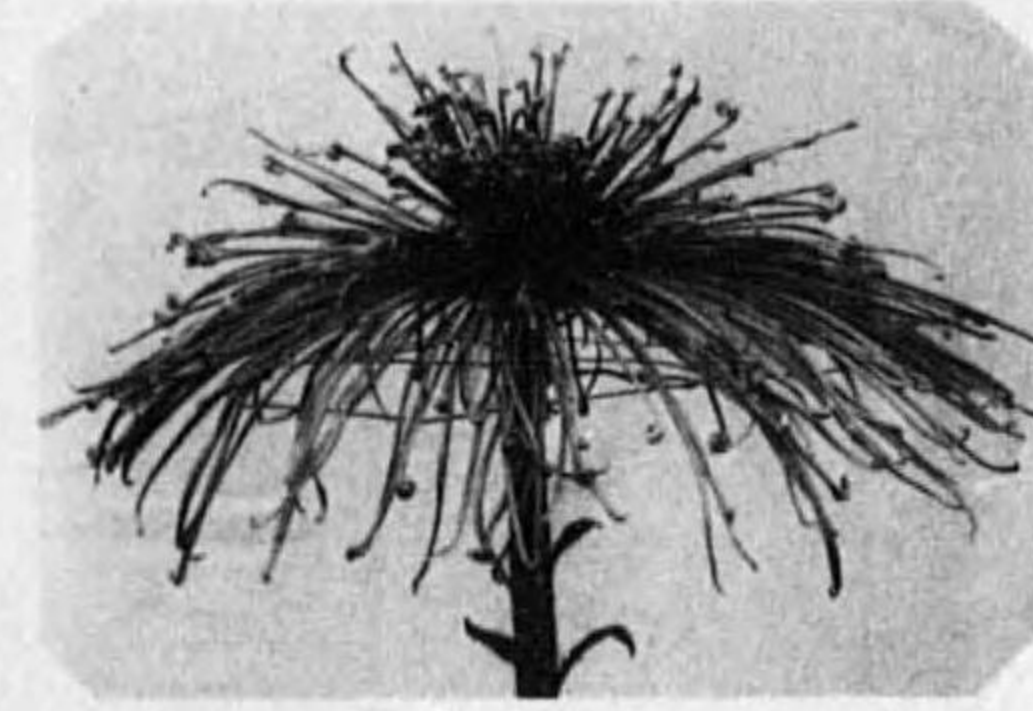


暁天鶴 高橋虎五郎

入位 萬城樂 新保雄次郎

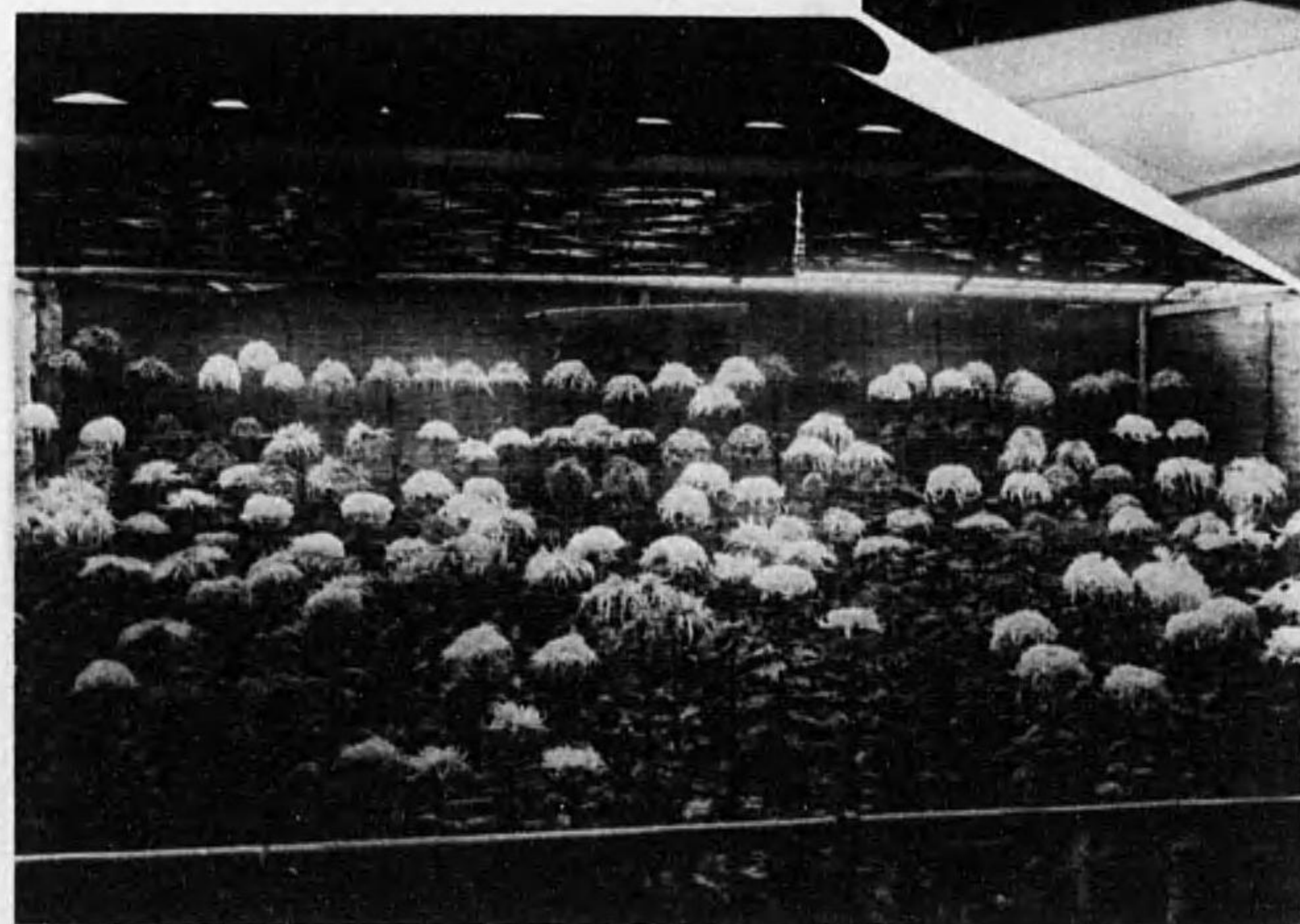
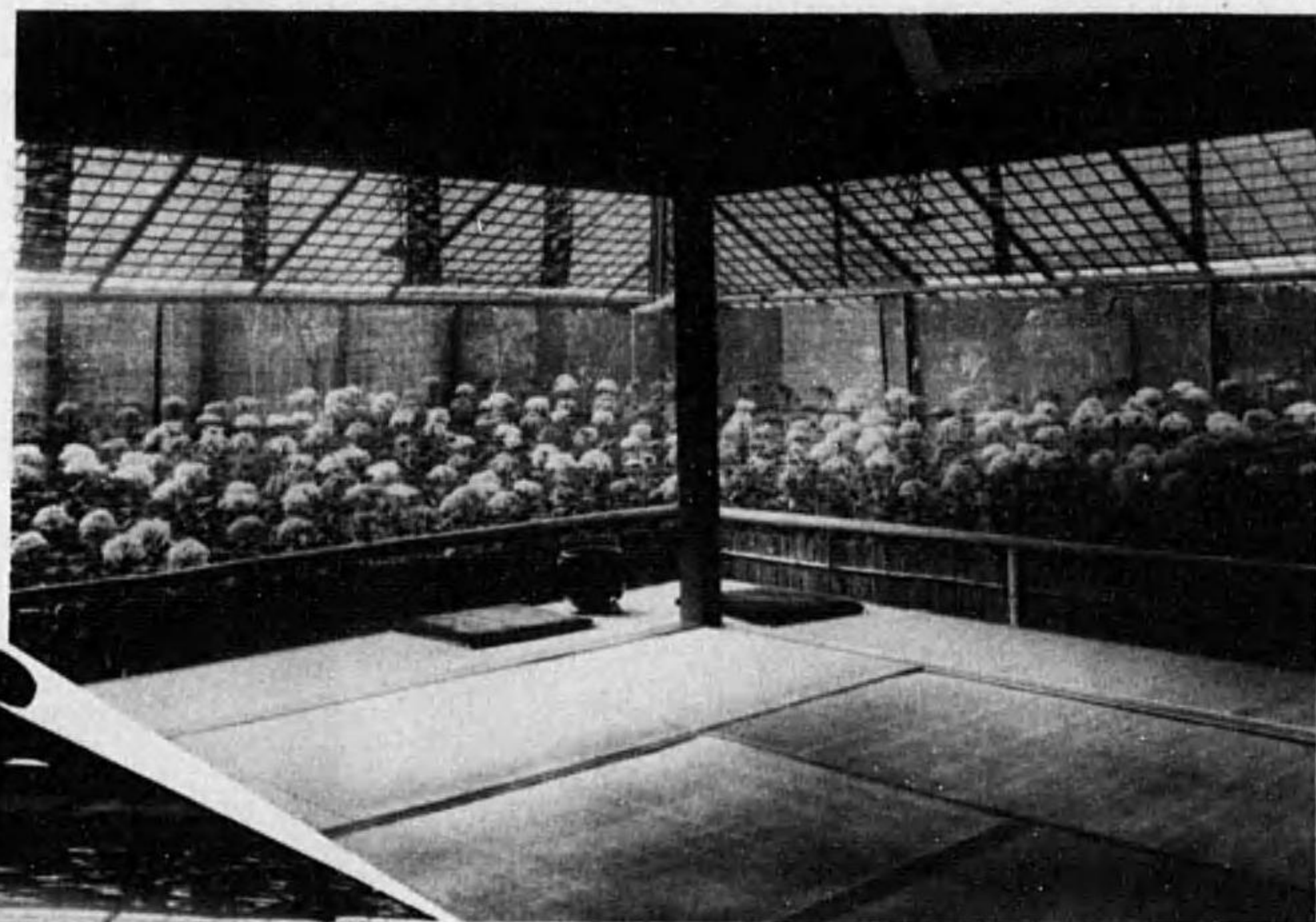


地位 九重花 竹田省三郎



天位 村雨 鎌谷善兵衛
(本部寄贈メダル受賞)

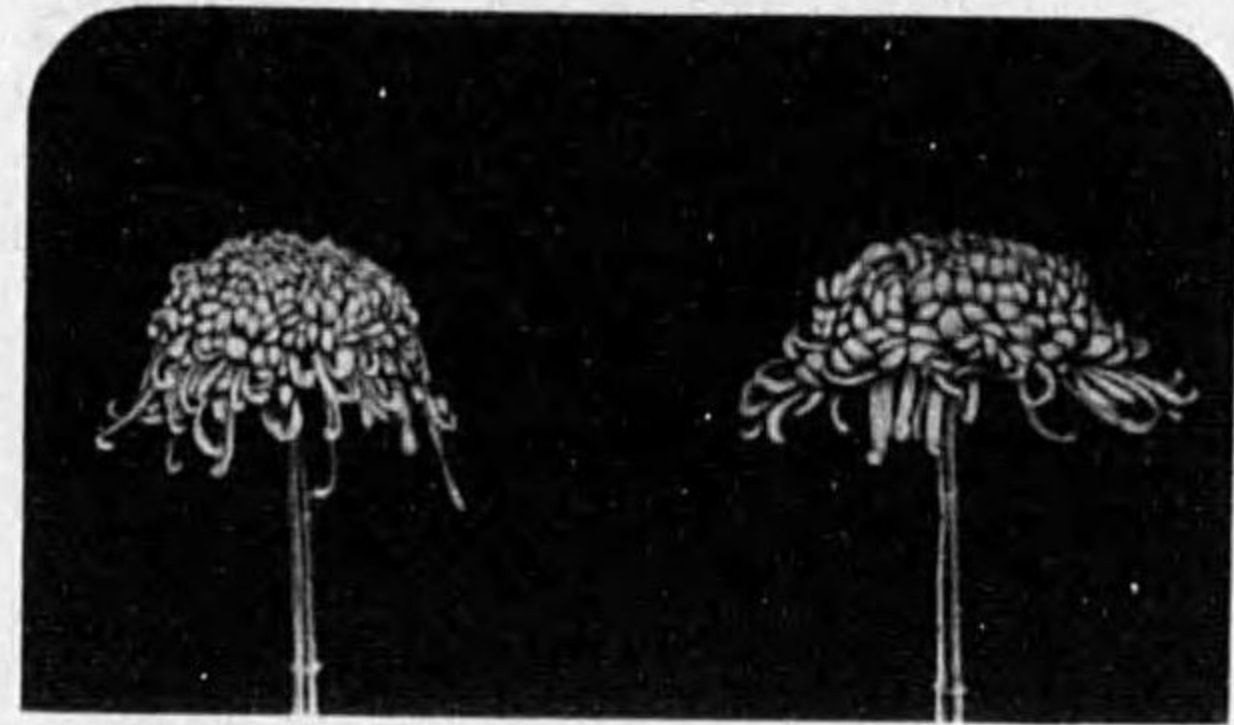
浪華支部分展會



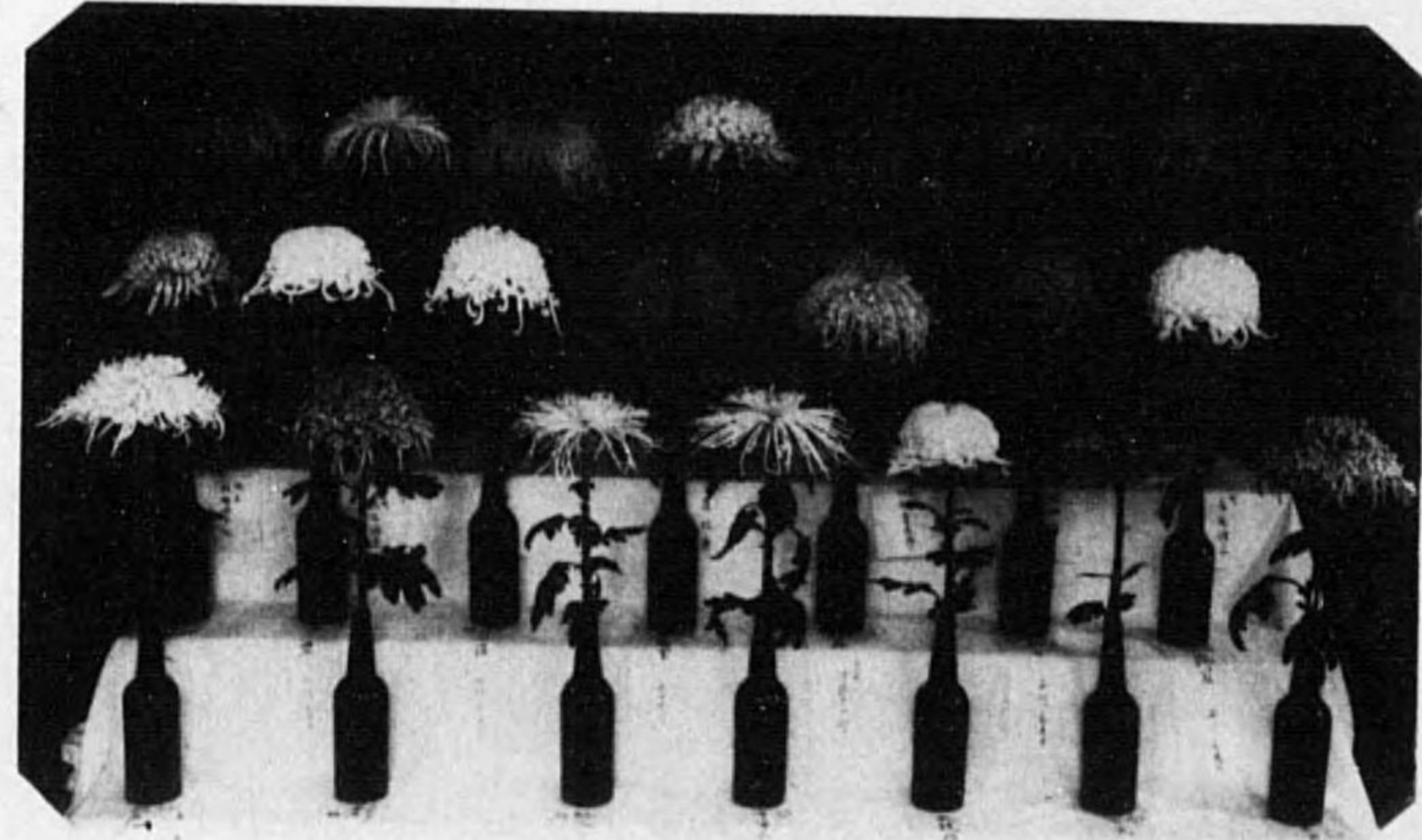
中村甘谷園花壇の一部

高知支部品評會

特選
春の海
西川壽恵吉



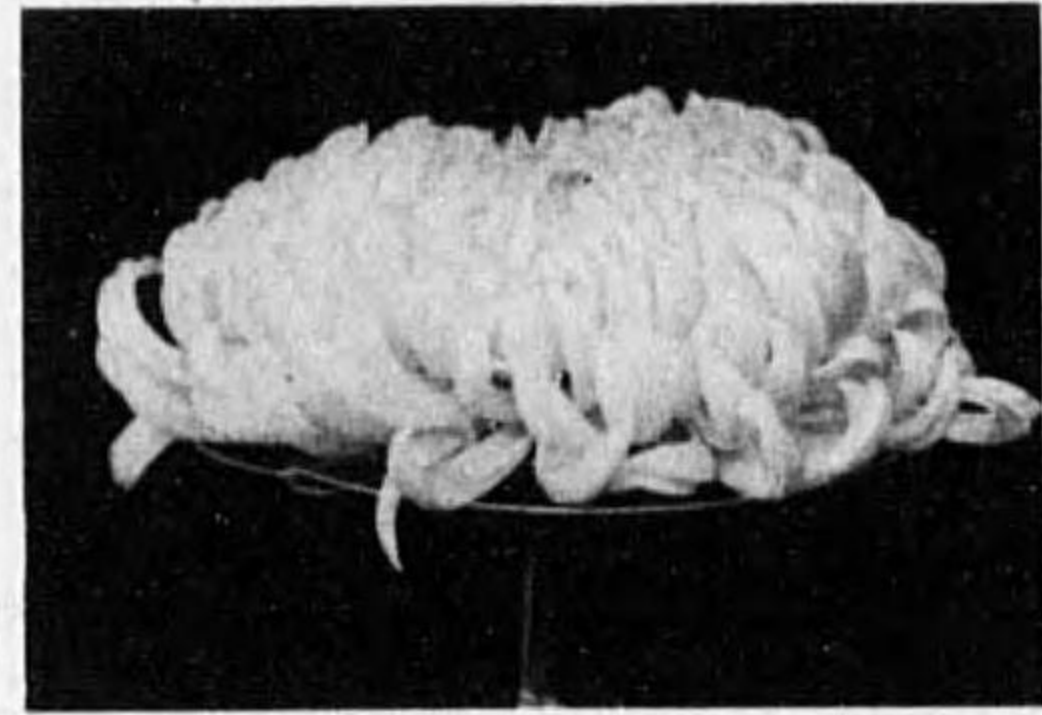
特選
歸去來
辻麻磨



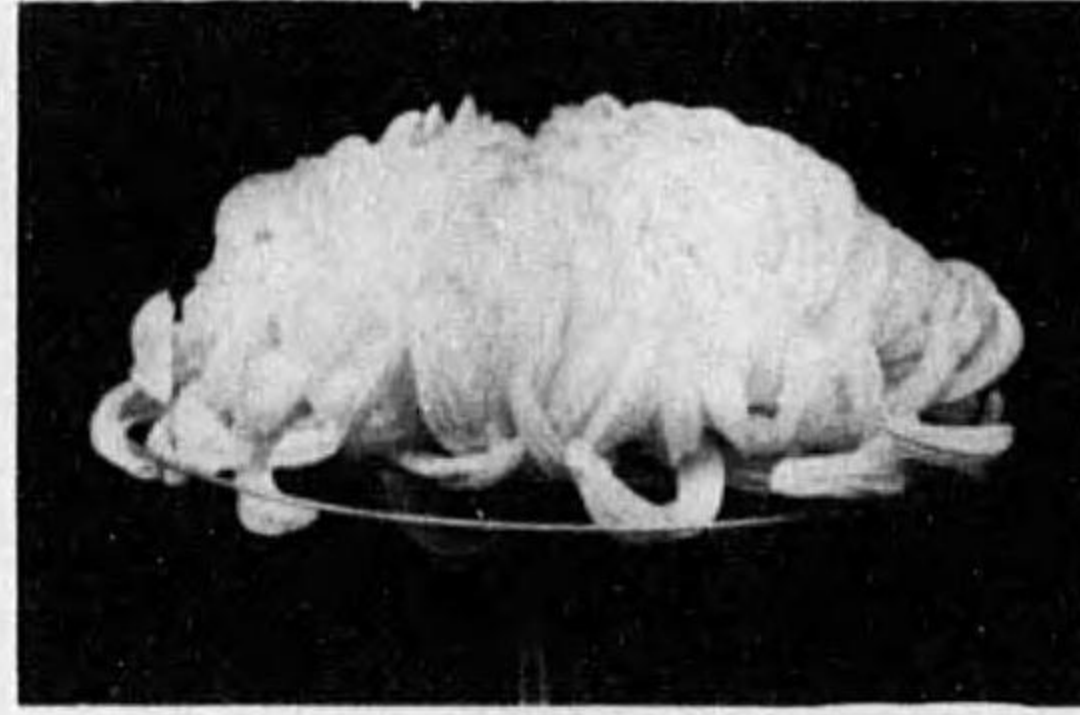
優秀花

會花切回一第會評品部支岡福

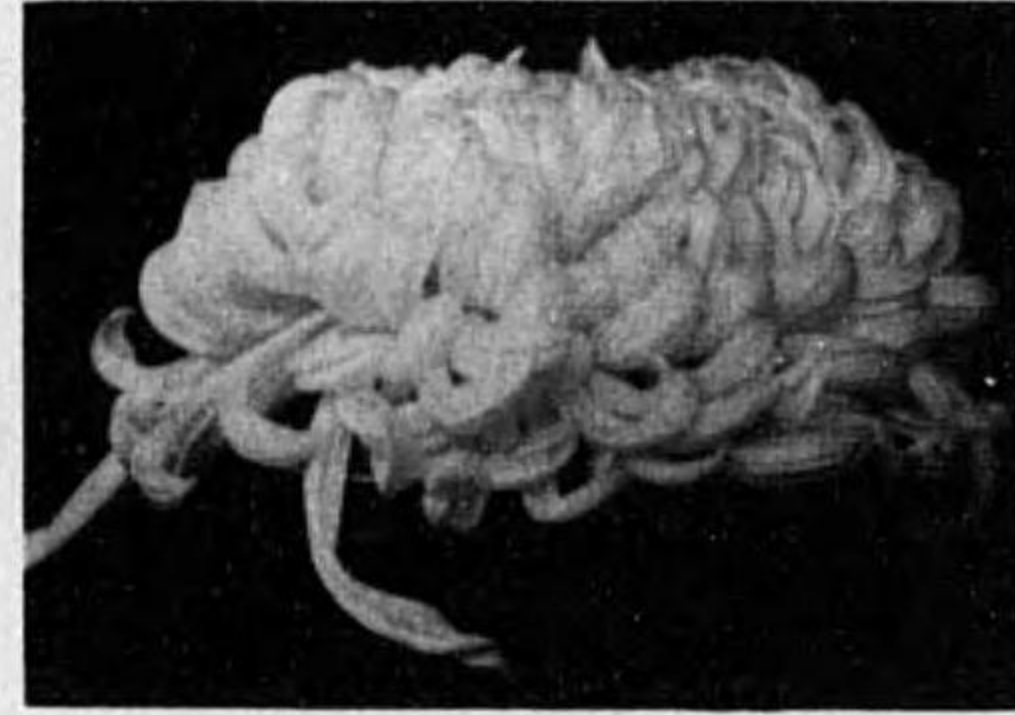
(種三花技競別特日三月一十)



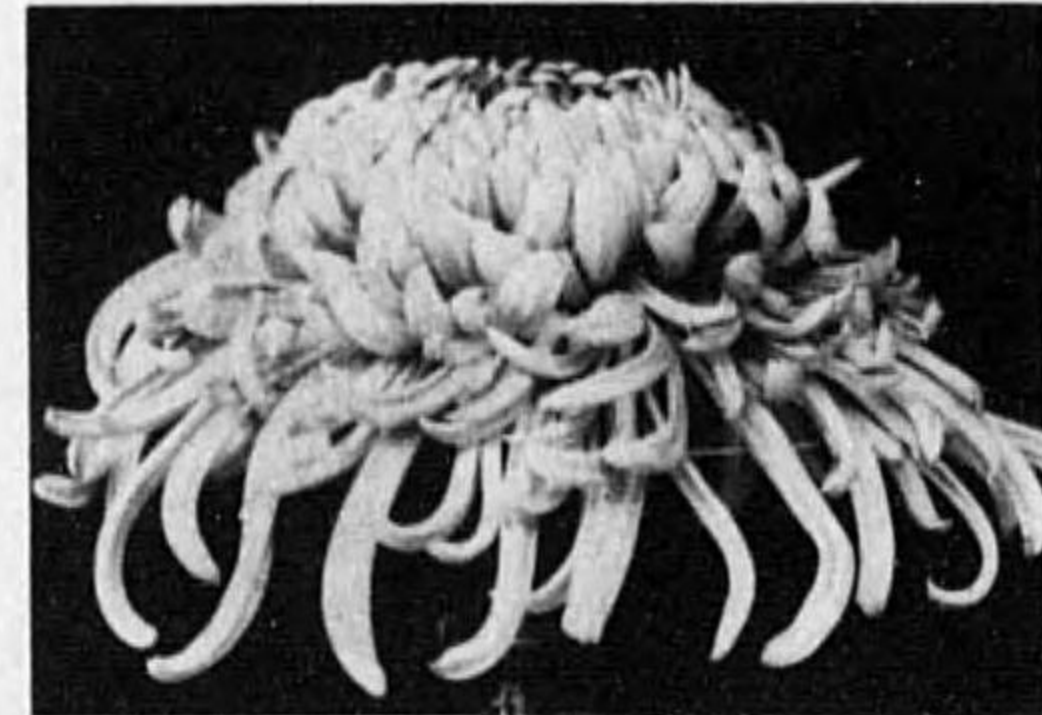
人位 八重霞 中田市次



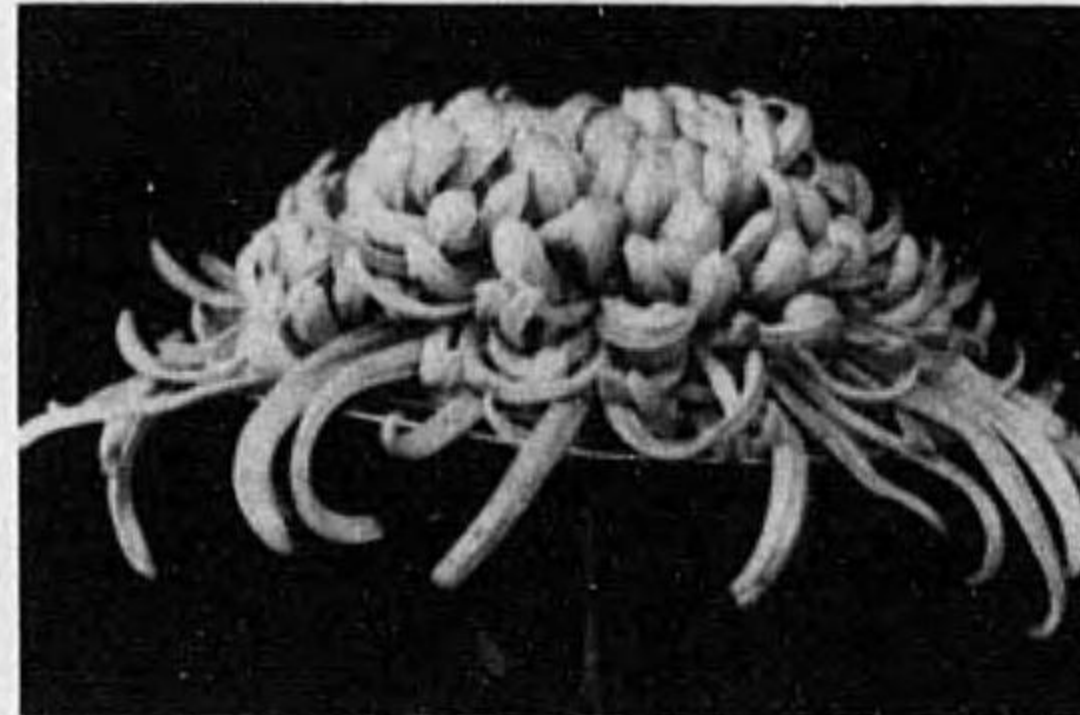
地位 八重霞 有田延



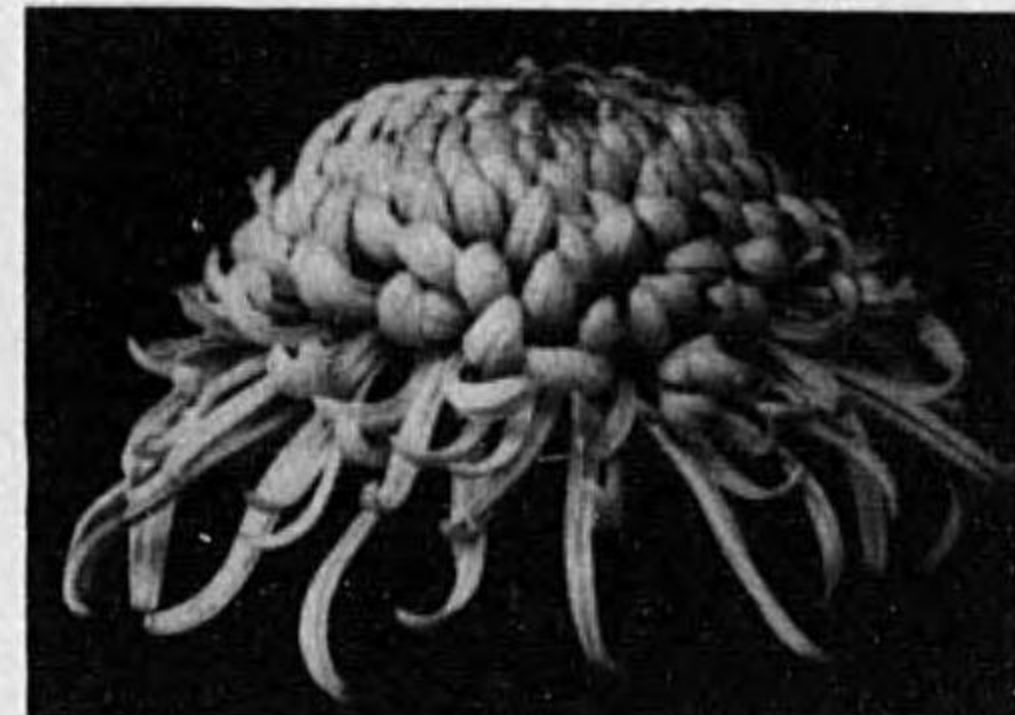
天位 八重霞 三瀬幸三郎



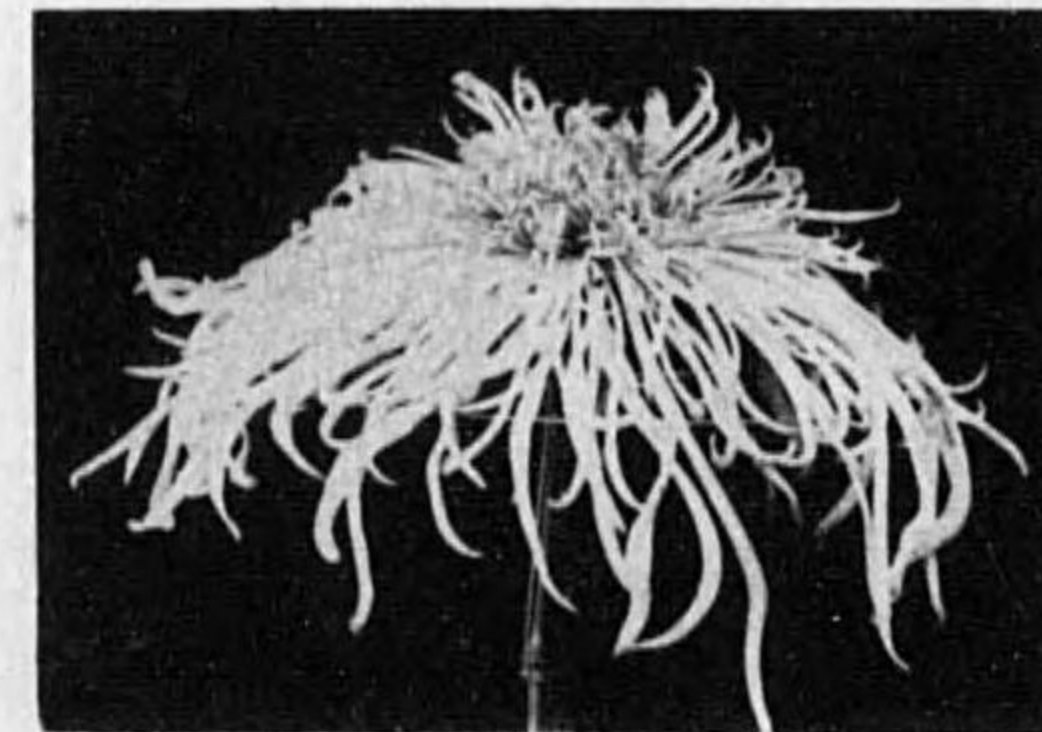
人位 歸去來 加藤春來



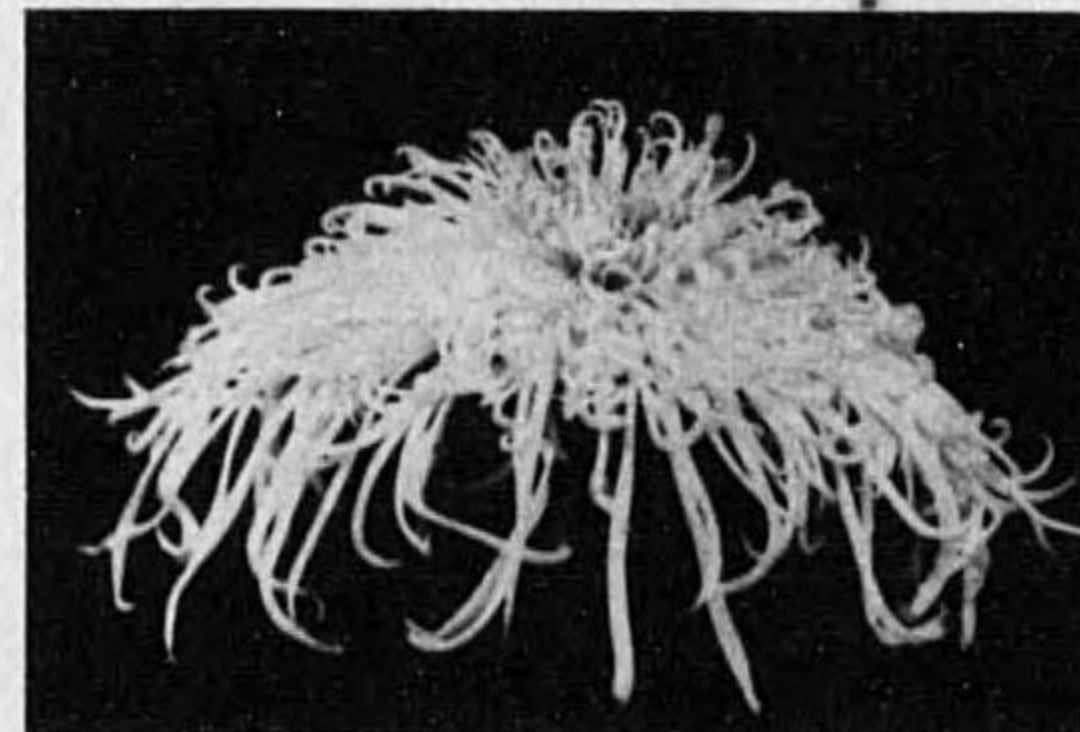
地位 歸去來 三瀬幸三郎



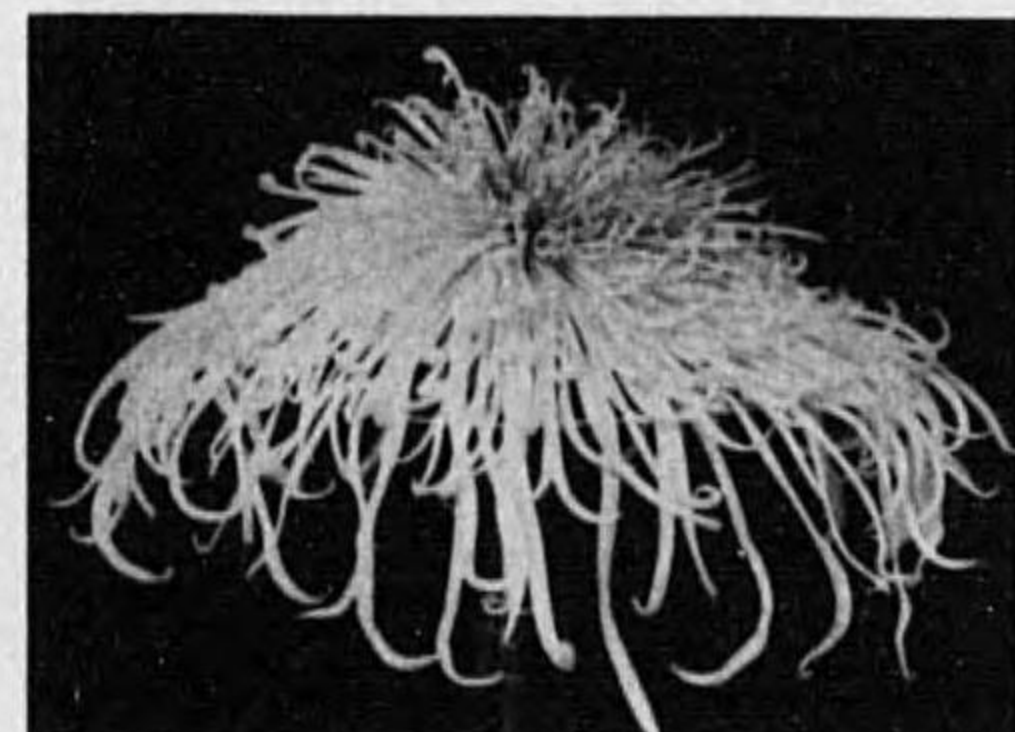
優等 (本部寄贈メダル受賞)
天位 歸去來 栗田隼丸



人位 瀧の響 磯野寅松

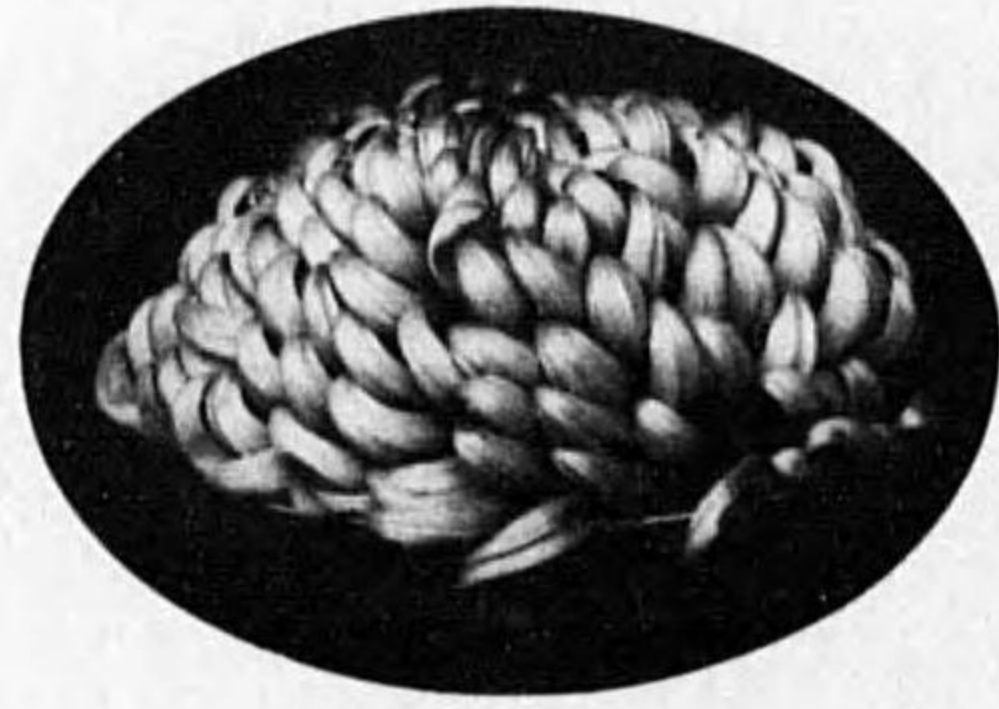


地位 瀧の響 三瀬幸三郎

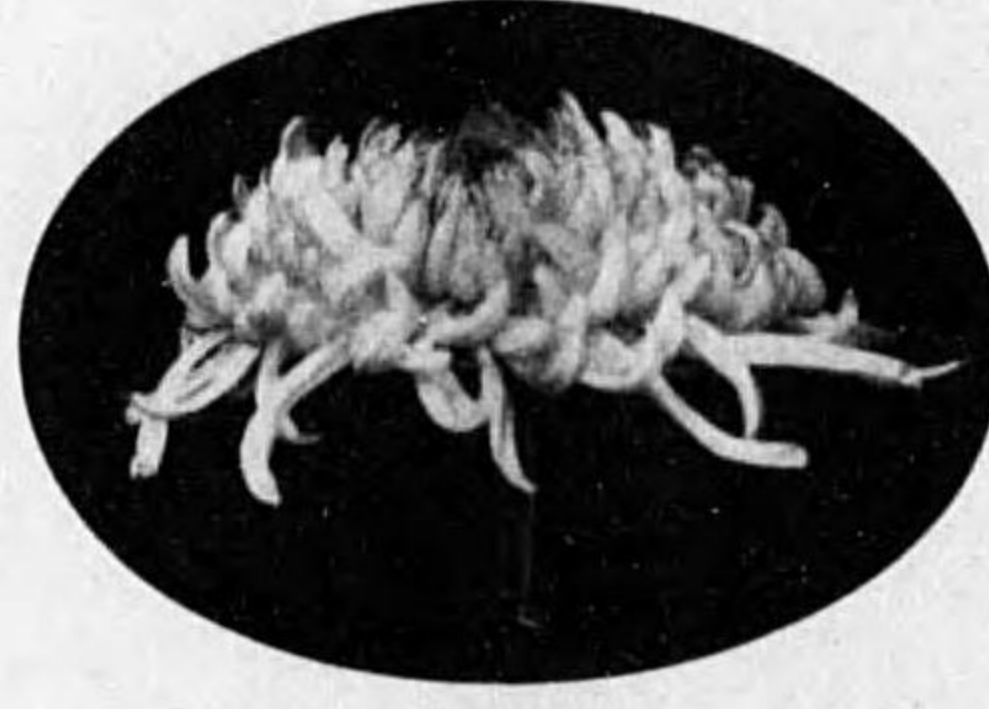


最優等 (本部寄贈銀盃受賞)
天位 瀧の響 三木徳重

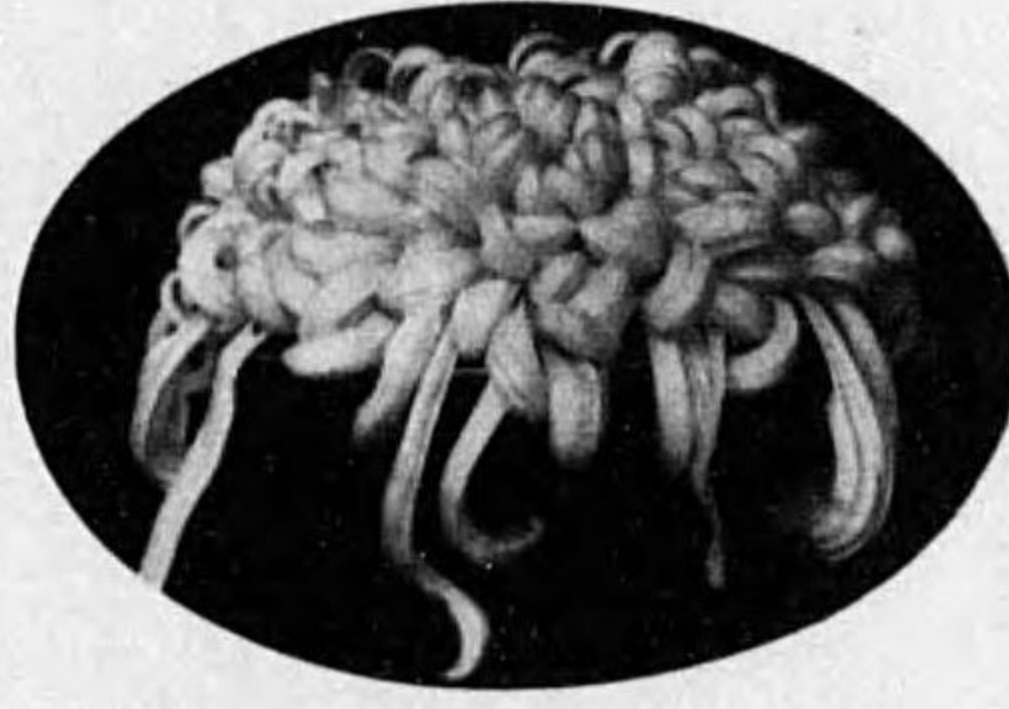
(日一十月一十) 會花切回二第會評品部支岡福



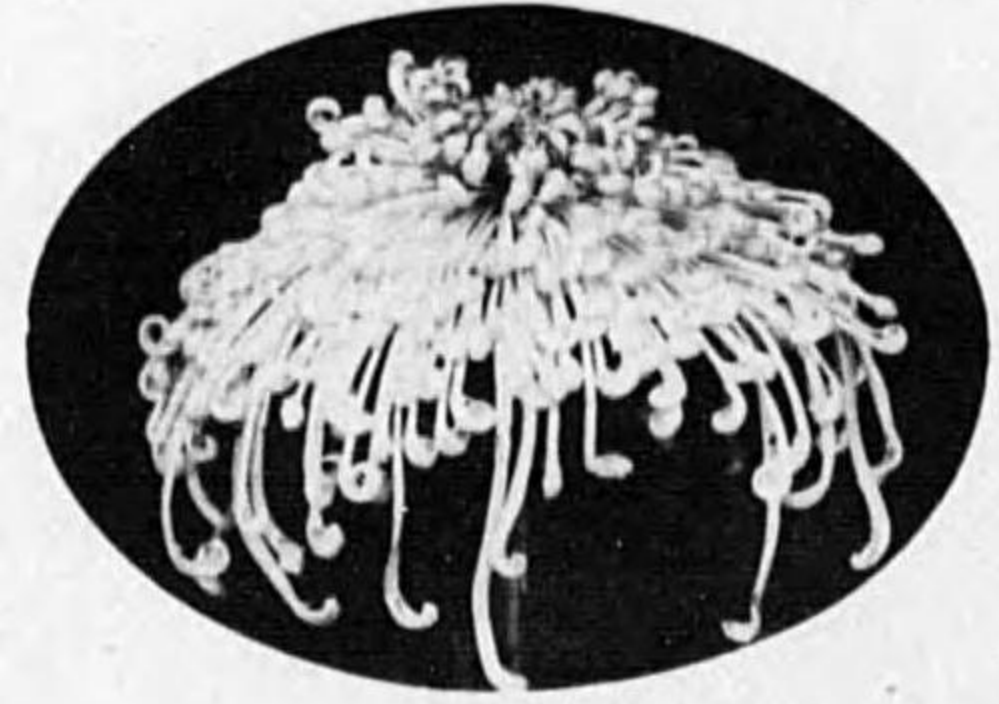
人位 千代光
磯野寅松



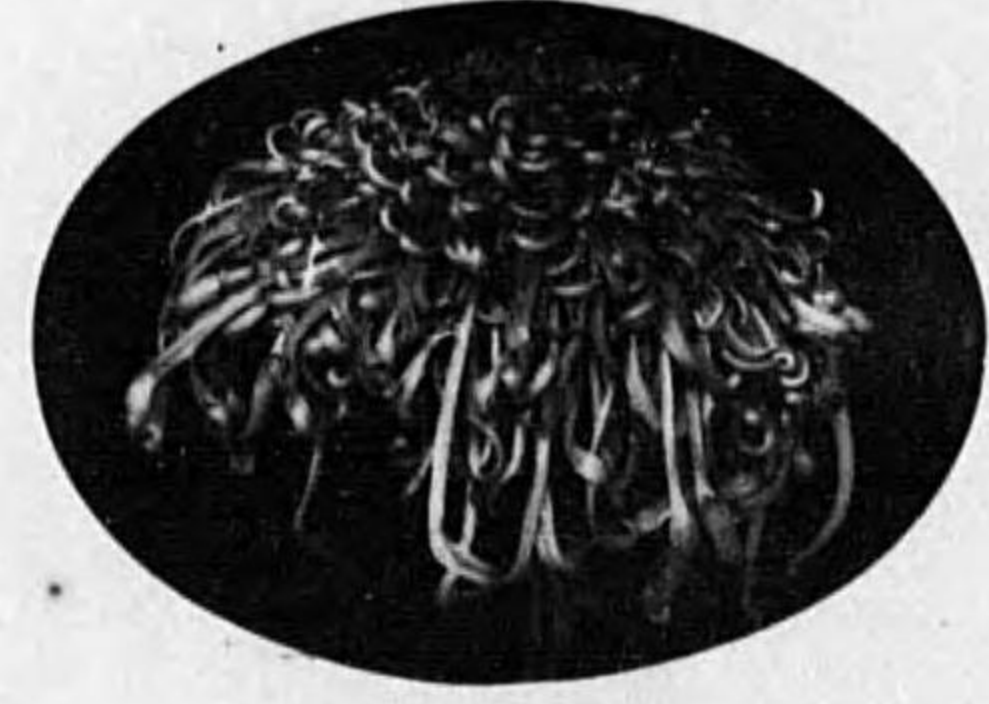
地位 雪曙
野中季雄



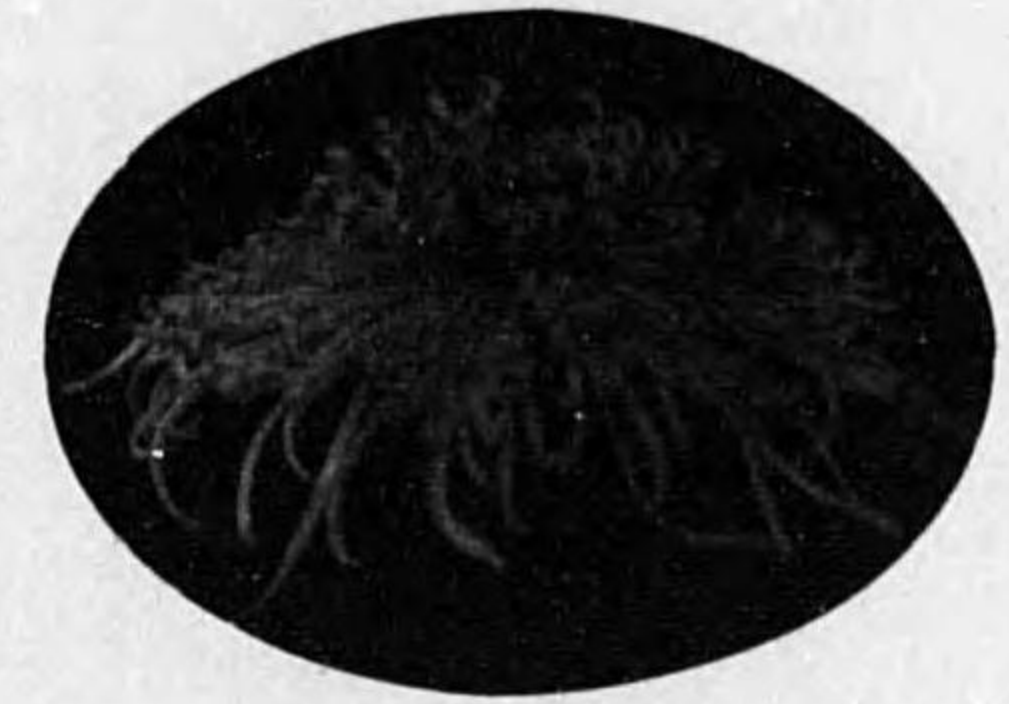
優等 (本部寄贈メダル受賞)
天位 嵐雪
野中季雄



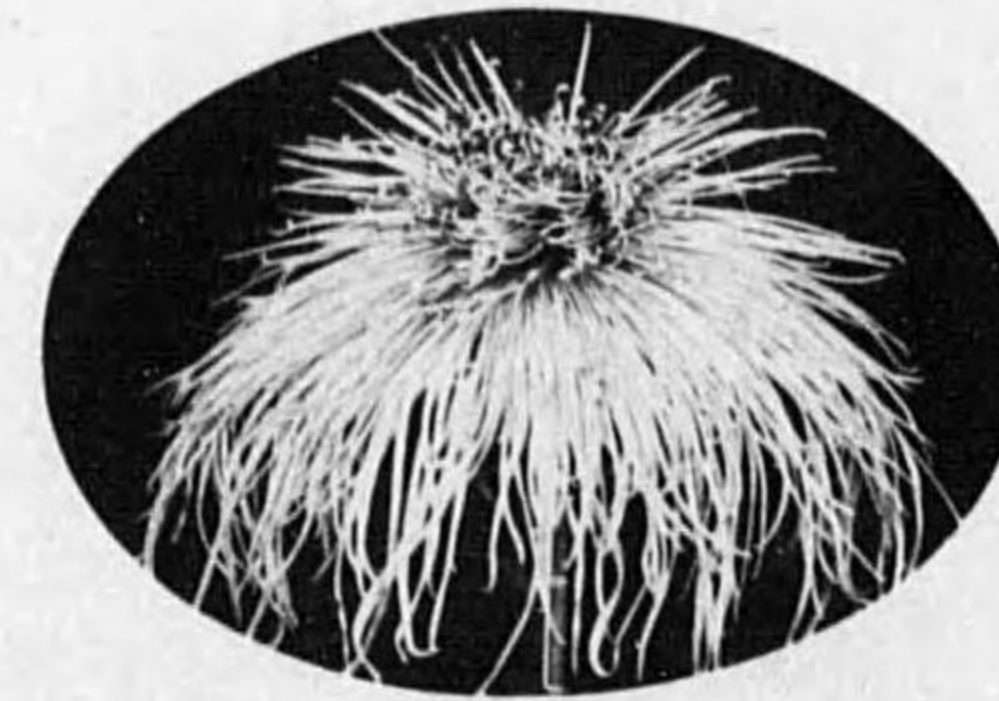
人位 月ヶ瀬
有田 延



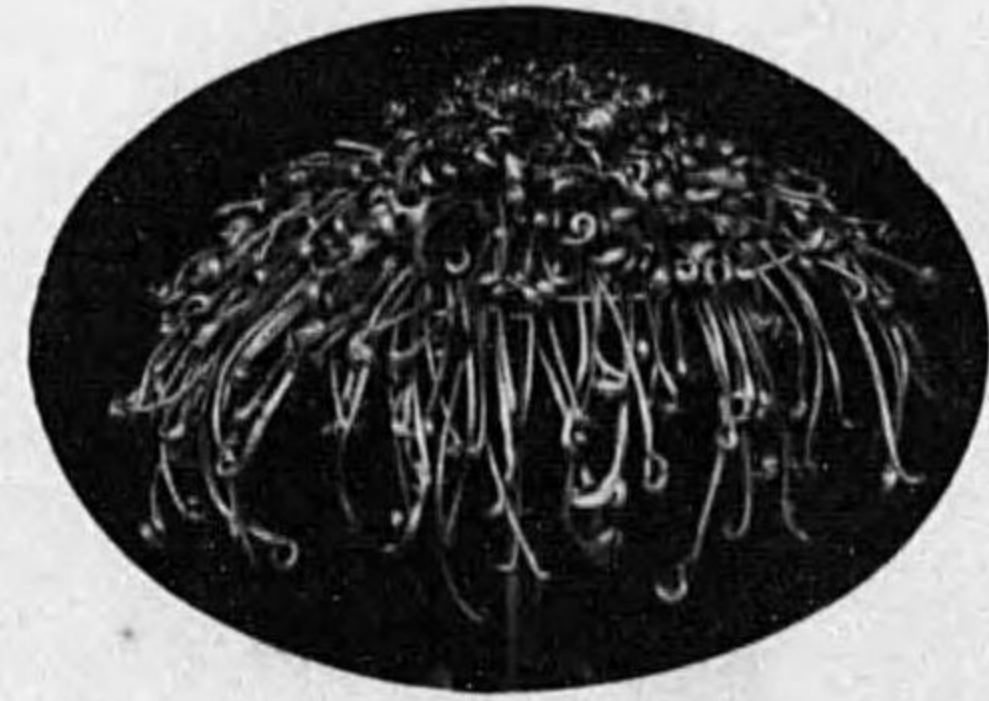
地位 金鳳舞
野中季雄



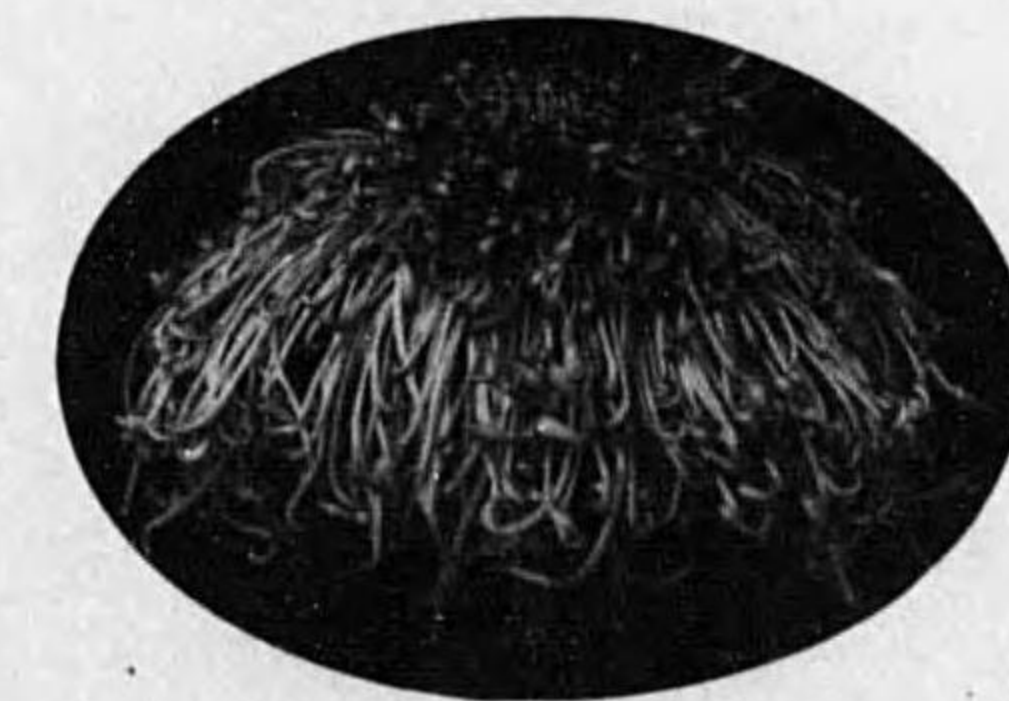
天位 秋光
三瀬幸三郎



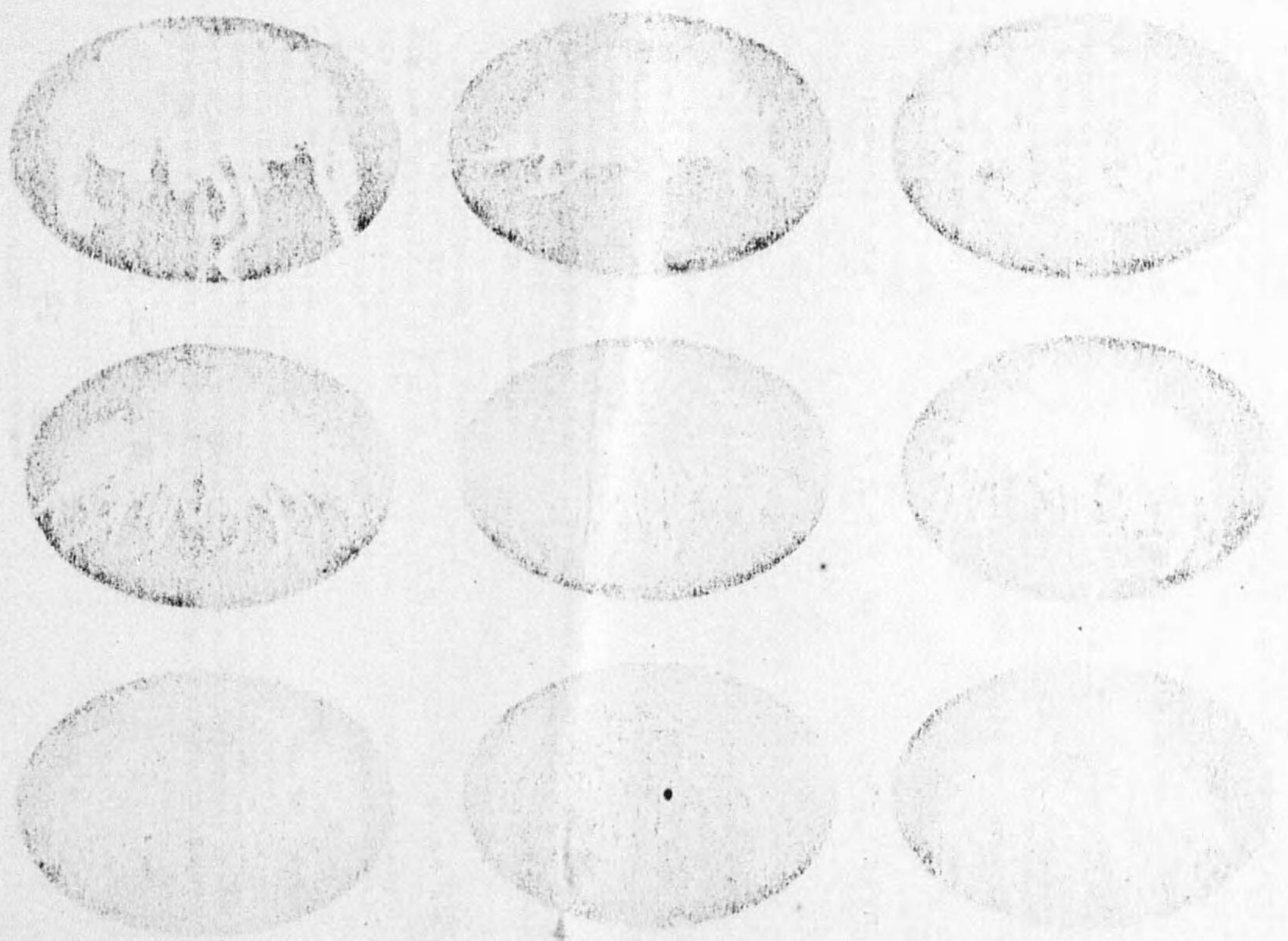
人位 不夜城
三瀬幸三郎



地位 鱗鳳
野中季雄



優等 (本部寄贈メダル受賞)
天位 紅葉狩
三瀬幸三郎



報 告 欄

◎ 第十一回會務報告

近年の發展により今や本會は斯界無比の大勢力となり益々隆盛に趣かんとする現状にあり。今第十一回會務報告をなすにあたり此の年にとり行はせ給へる御大禮の奉祝花壇を特設し多數會員愛培の逸品を蒐め、以て奉祝の微衷を致し併せて奉祝親會を催して一同 聖壽の高歳を壽き、聖代に生れあはせたる欣びを俱にし得たるを先以て特記せざるべからず。

會員の増加は前年來の加速度的趨勢を持続し本年度入會者實に八百五十名を超え現在會員數二千三百余に及び。本會支部は従來の大井、湯本、小金井、横濱、鎌倉、福岡、高知、平、新發田ノ九支部の外、宇都宮、鹿沼、浪華、水戸の四支部の設立を見、現在十三支部に達し、更に近々設立を見るべき藤澤支部あり、以て本會が如何に全國的勢力となりつゝあるかを知るべし。

本年の栽培成績に就ては五月下旬頃までは天候順調なりしも、入梅以來雨勝ちとなり六月中の雨量は實に四十五年振りの記録をなし、坪當り五石六斗二升、例年の平均二石八斗七升に比し約二倍に達せる程にて其後も兎角雨天の日多く、近來稀なる降り年なりし爲發育順調を缺き、下葉の脱落はげしく、殊に花容著しく亂れたり。

十二月下旬（昭和二年）左の書類を全會員に配布す。

- 一、昭和二年會報第十號（創立十週年紀念號）附録諸鑑
- 二、菊苗分譲に關する件
- 三、昭和三年度方面委員及各地方支部の主任者名簿
- 四、菊花栽培書（大菊の作り方）の發行會告

一月十六日（昭和三年）午后四時常務委員會を東京市本郷區白山坂上萬金樓に於て開會し左の通り協議決定す。

- 一、昭和三年度經常費支豫算案
- 二、特別獎勵賞の件
- 三、大典奉祝花壇設置の件
- 右三案 原案の通り承認

同日 午后五時同所に於て常務委員、參助委員、審査委員及方面委員の役員總會を開會す、出席者四十一、氏名及協議事項左の如し

深井、東海、寶開、笠羽、高橋、佐々木、竹内、折坂（以上常務委員） 渡邊、隈部、内田、泉川、高木、尾崎、石川、塚田、永井、今井、土屋（第）松本、生田（以上參助委員）

佐藤、花井、小松、工藤、徳田、持丸、橋、朝岡、宮岡（以上方面委員）

支部代表者、小倉、平林、村田（以上大井） 星野、吉野（以上小金井） 島山、小泉（以上横濱） 吉田、熊本、大村、今井（以上鎌倉）

一、奉祝紀念花壇設置に關する規約の件

一月二十日 鹿兒島支部及日立支部解散を承認す。

三月廿三日 會報第十號を編纂して全會員に配布す。

四月八日 午后一時三十分より本年度第一回研究會を東京市本郷區駒込津菜町五四榮松院に於て開會出席會員七十四名研究事項左の如し。

- 一、栽培上の諸準備
- 二、挿芽方法の實地解説
- 三、根分に就きて

五月一日 宇都宮及鹿沼の兩支部設立を承認す。

六月六日 午后一時三十分本年度第二回研究會を第一回と同じ場所に於て開會、出席者六十餘名研究事項左の如し。

- 一、六月より八月迄の栽培法
- 二、三本仕立苗の摘芯法
- 三、本植方法及注意

九月二十日 午後五時日比谷公園松本樓に於ける東京市の菊花大會協議會に常務委員笠羽清吉、寶開善教の兩氏本會を代表して參加す。右協定事項中本會に關するもの左の如し。

一、本會は本年十一月二日より十一月二十五日迄を會期とする東京市主催奉祝菊花大會（於日比谷公園）に參加す

【大管吹の部】
 平 藤川 敏三
 萩 栗山 政五郎
 春 山口 兒玉之輔
 同 尾崎 林次
 同 花崎 無能
 同 中川 長七
 同 清水 兼吉
 同 林徳之 助
 同 西尾 公一
 同 朝岡 和一郎
 同 塚田 菊次郎
 同 生田 甚太郎
 同 吉田 徳次郎
 同 高木 友吉

鉢植一本

仕立

審査十一月十三日 出品数七十四

【大管吹の部】
 珠の光 深井 清蔵
 同 竹内 榮太郎
 同 高木 友吉
 同 竹内 榮太郎
 同 中村 眞妙
 同 泉川 信之助
 同 生田 甚太郎
 同 車頭 定吉
 同 加藤 勇吉
 同 有江 鶴次郎
 同 清水 兼吉
 同 鈴木 熊次郎
 同 泉川 信之助
 同 高橋 節夫

【細管吹の部】
 秋野 與作
 紅葉 錦光
 田村 錦太郎
 十六夜 加藤 勇吉
 帝王冠 竹内 榮太郎
 松の聲 井上 一郎
 同 岩井 信之助
 同 泉川 信之助
 同 西尾 公一
 同 高橋 節夫
 同 鈴木 熊次郎
 同 高橋 節夫
 同 川合 庄吉
 同 田中 眞吉

【厚物吹の部】
 人 位 鈴木 熊次郎
 地 位 今井 彌七
 優等 位 田中 信吉
 一等 位 美玉王
 二 位 孤村 月
 三 位 エルベロン 小田 喜代治
 四 位 日東 光
 五 位 桃美玉王 荒井 源次郎
 六 位 八重 霞 小田 喜代治
 七 位 以下(十四點略)

鉢植二本

仕立

十一月十三日 出品数二百六十二

【大管吹の部】
 三 位 白鳳冠 鈴木 國次郎
 四 位 白鳳冠 佐藤 泰次郎
 五 位 白鳳冠 栗山 政五郎
 二 位 以下(十四點略)

【細管吹の部】
 人 位 玉芙蓉 泉川 美恵
 一 位 古今集 露木 卯之助
 二 位 紅葉錦 佐藤 泰次郎
 三 位 紅葉錦 中村 美代
 四 位 前代未開 中村 美代
 二 位 以下(二點略)

【参考花の部】
 地球 深井 清徳
 源氏供養 同
 精興光 同
 珠の光 同
 昭和光 同
 阿房宮 同
 紫雲峯 同
 龍壽殿 同
 久寶殿 同
 孔雀殿 同
 鳴海 同
 瑞鳳 同
 松の光 同
 春の海 同

【参考花の部】
 地 位 孤村 月
 人 位 花の冠 池田 六蔵
 優等 位 桃美玉王 佐藤 泰次郎
 同 位 桃美玉王 中崎 七郎
 同 位 桃美玉王 田中 長蔵
 一等 位 美玉王 大竹 佐吉
 二 位 黄華玉王 中村 竹次
 三 位 八重 霞 大野 泉太郎
 四 位 八重 霞 佐藤 泰次郎
 五 位 八重 霞 小倉 三郎
 六 位 八重 霞 生田 甚太郎
 七 位 八重 霞 天野 福太郎
 八 位 八重 霞 植野 謙蔵
 九 位 八重 霞 田舎 寛吉
 十 位 八重 霞 日東 光
 十一 位 八重 霞 エルベロン 八田 武治
 十二 位 八重 霞 以下(四十點略)

【参考花の部】
 地 位 朱雀台 富澤 保之助
 人 位 牛 西島 善太郎
 優等 位 牛 生田 甚太郎
 同 位 牛 富澤 保之助
 同 位 牛 泉川 信之助
 一等 位 廣古賀 大竹 佐吉
 二 位 歸去來 朝岡 和一郎
 三 位 朱雀台 中村 眞妙
 四 位 朱雀台 西川 都留
 五 位 朱雀台 西川 美恵
 六 位 朱雀台 石田 信吉
 七 位 朱雀台 田中 信吉
 八 位 朱雀台 田中 信吉
 九 位 朱雀台 田中 信吉
 十 位 朱雀台 田中 信吉
 十一 位 朱雀台 田中 信吉
 十二 位 朱雀台 田中 信吉
 十三 位 朱雀台 田中 信吉
 十四 位 朱雀台 田中 信吉
 十五 位 朱雀台 田中 信吉
 十六 位 朱雀台 田中 信吉
 十七 位 朱雀台 田中 信吉
 十八 位 朱雀台 田中 信吉
 十九 位 朱雀台 田中 信吉
 二十 位 朱雀台 田中 信吉
 二十一 位 朱雀台 田中 信吉
 二十二 位 朱雀台 田中 信吉
 二十三 位 朱雀台 田中 信吉
 二十四 位 朱雀台 田中 信吉
 二十五 位 朱雀台 田中 信吉
 二十六 位 朱雀台 田中 信吉
 二十七 位 朱雀台 田中 信吉
 二十八 位 朱雀台 田中 信吉
 二十九 位 朱雀台 田中 信吉
 三十 位 朱雀台 田中 信吉
 三十一 位 朱雀台 田中 信吉
 三十二 位 朱雀台 田中 信吉
 三十三 位 朱雀台 田中 信吉
 三十四 位 朱雀台 田中 信吉
 三十五 位 朱雀台 田中 信吉
 三十六 位 朱雀台 田中 信吉
 三十七 位 朱雀台 田中 信吉
 三十八 位 朱雀台 田中 信吉
 三十九 位 朱雀台 田中 信吉
 四十 位 朱雀台 田中 信吉

【雙花の部】
 人 位 春の海 久保 嘉代
 優等 位 金鳳の舞 大谷 繁二
 同 位 春の海 生田 甚太郎
 同 位 春の海 加藤 勇吉
 一等 位 春の海 生田 甚太郎
 二 位 春の海 生田 甚太郎
 三 位 春の海 生田 甚太郎
 四 位 春の海 生田 甚太郎
 五 位 春の海 生田 甚太郎
 六 位 春の海 生田 甚太郎
 七 位 春の海 生田 甚太郎
 八 位 春の海 生田 甚太郎
 九 位 春の海 生田 甚太郎
 十 位 春の海 生田 甚太郎
 十一 位 春の海 生田 甚太郎
 十二 位 春の海 生田 甚太郎

第一回切花會

審査十一月三日 出品三百五十六

【細管吹の部】
 十三 位 月ヶ瀬 關口 兒玉之輔
 二 位 以下(四十二點略)

【大管吹の部】
 地 位 谷間の響 宮川 國太郎
 人 位 獅子頭 中村 眞妙
 一 位 獅子頭 中村 眞妙
 二 位 獅子頭 中村 眞妙
 三 位 獅子頭 中村 眞妙
 四 位 獅子頭 中村 眞妙
 五 位 獅子頭 中村 眞妙
 六 位 獅子頭 中村 眞妙
 七 位 獅子頭 中村 眞妙
 八 位 獅子頭 中村 眞妙
 九 位 獅子頭 中村 眞妙
 十 位 獅子頭 中村 眞妙
 十一 位 獅子頭 中村 眞妙
 十二 位 獅子頭 中村 眞妙
 十三 位 獅子頭 中村 眞妙
 十四 位 獅子頭 中村 眞妙
 十五 位 獅子頭 中村 眞妙
 十六 位 獅子頭 中村 眞妙
 十七 位 獅子頭 中村 眞妙
 十八 位 獅子頭 中村 眞妙
 十九 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十一 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十二 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十三 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十四 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十五 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十六 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十七 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十八 位 獅子頭 中村 眞妙
 二十九 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十一 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十二 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十三 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十四 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十五 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十六 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十七 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十八 位 獅子頭 中村 眞妙
 三十九 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十一 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十二 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十三 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十四 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十五 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十六 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十七 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十八 位 獅子頭 中村 眞妙
 四十九 位 獅子頭 中村 眞妙
 五十 位 獅子頭 中村 眞妙

【新花の部】
 優等 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 同 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 一等 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 二 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 三 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 四 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 五 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 六 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 七 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 八 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 九 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 十 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 十一 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 十二 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 十三 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 十四 位 大地壽 伊藤 榮一郎
 十五 位 大地壽 伊藤 榮一郎

【厚物吹の部】
 地 位 孤村 月
 人 位 花の冠 池田 六蔵
 優等 位 桃美玉王 佐藤 泰次郎
 同 位 桃美玉王 中崎 七郎
 同 位 桃美玉王 田中 長蔵
 一等 位 美玉王 大竹 佐吉
 二 位 黄華玉王 中村 竹次
 三 位 八重 霞 大野 泉太郎
 四 位 八重 霞 佐藤 泰次郎
 五 位 八重 霞 小倉 三郎
 六 位 八重 霞 生田 甚太郎
 七 位 八重 霞 天野 福太郎
 八 位 八重 霞 植野 謙蔵
 九 位 八重 霞 田舎 寛吉
 十 位 八重 霞 日東 光
 十一 位 八重 霞 エルベロン 八田 武治
 十二 位 八重 霞 以下(四十點略)

【厚物吹の部】
 地 位 孤村 月
 人 位 花の冠 池田 六蔵
 優等 位 桃美玉王 佐藤 泰次郎
 同 位 桃美玉王 中崎 七郎
 同 位 桃美玉王 田中 長蔵
 一等 位 美玉王 大竹 佐吉
 二 位 黄華玉王 中村 竹次
 三 位 八重 霞 大野 泉太郎
 四 位 八重 霞 佐藤 泰次郎
 五 位 八重 霞 小倉 三郎
 六 位 八重 霞 生田 甚太郎
 七 位 八重 霞 天野 福太郎
 八 位 八重 霞 植野 謙蔵
 九 位 八重 霞 田舎 寛吉
 十 位 八重 霞 日東 光
 十一 位 八重 霞 エルベロン 八田 武治
 十二 位 八重 霞 以下(四十點略)

一等 千代壽 西川 寛
 二等 古今集 吉野 源蔵
 三等 高峰の雪 村田清次郎
 四等 緑の玉 西川 寛
 五等 青山白雲 生稻吉太郎
 六等 孔雀戲 此田富之助
 七等 夕紅葉 寶閣 善教
 八等 孔雀戲 寶閣 善教
 九等 天女の舞 伊藤栄一郎
 十等 玉芙蓉 吉田庄次郎

◎ 第二回切花會

審査十一月十一日

出品二百八十一點

十二席 綾の舞 寶閣 善教
 十三席 玉芙蓉 多 庫治
 十四席 千代壽 鈴木 吉次
 十五席 夕紅葉 西川 都留
 一等 以下 (五十九點略)
 【細管吹の部】
 天 位 越後獅子 西郡 早平
 地 位 水品園 小倉 三郎
 人 位 松の聲 雨多 庫治
 同 三席 雨多 庫治

一等 雨 原田 勝芳
 二等 不夜城 武藤 要蔵
 三等 梅の白妙 伊藤 栄一郎
 四等 松の聲 吉田 庄次郎
 五等 櫻時雨 高橋 節夫
 六等 同 泉川 信之助
 七等 薄化粧 今村 吉太郎
 八等 藤戸の春 富澤 保之助
 二等 以下 (二十六點略)

【特別競技花の部】

十六夜
 天 位 中山 清
 地 位 西川 寛
 人 位 鈴木 熊次郎
 優等 一席 鈴木 運治郎
 二席 鈴木 榮太郎
 同 三席 生稻 榮太郎

【間管吹の部】

天 位 白梅光 伊藤 栄一郎
 地 位 精興の光 寶閣 善教
 人 位 同 龍山 祐秀
 優等 一席 同 原田 勝芳
 二席 富貴集 神原 雄吉
 同 三席 紫式部 神原 雄吉

一等 以下 (十三點略)
 【新花の部】
 優等 一席 輝(青白) 伊藤 栄一郎
 二席 輝(青白) 吉田 庄次郎
 同 三席 輝(青白) 小崎 道
 一等 以下 (十三點略)
 【文字吹の部】
 天 位 國の光 中山 清
 地 位 星の海 中山 清
 人 位 國旗 小崎 道

三席 勝 岡 山本 喜太郎
 四席 黃美玉 小倉 三郎
 五席 光 明 鈴木 運次郎
 六席 勝 岡 鈴木 熊次郎
 二等 以下 (十三點略)
 【厚物吹走付の部】
 天 位 業 平 吉田 庄次郎
 地 位 長生殿 村田 清次郎
 人 位 平 和 石丸 清太郎
 優等 一席 同 石丸 清太郎
 二席 同 石丸 清太郎
 同 三席 同 石丸 清太郎

一等 以下 (三十一點略)
 【細管吹の部】
 天 位 忠勇の玉 村田 清次郎
 地 位 紫光星 田中 清次郎
 人 位 同 柳 機一郎
 優等 一席 越後獅子 柳 機一郎
 二席 不夜城 柳 機一郎
 同 三席 同 柳 機一郎
 同 四席 同 柳 機一郎
 同 五席 同 柳 機一郎

一等 以下 (三十五點略)
 【厚物吹走付の部】
 天 位 半 藤 西川 寛
 地 位 半 藤 西川 寛
 人 位 半 藤 西川 寛
 優等 一席 同 西川 寛
 二席 同 西川 寛
 同 三席 同 西川 寛

一等 以下 (四十二點略)
 【間管吹の部】
 天 位 紫式部 西川 都留
 地 位 同 西川 都留
 人 位 同 西川 都留
 優等 一席 同 西川 都留
 二席 同 西川 都留
 同 三席 同 西川 都留

一等 以下 (四十七點略)
 【細管吹の部】
 天 位 松竹梅 植野 瀧藏
 地 位 同 植野 瀧藏
 人 位 同 植野 瀧藏
 優等 一席 同 植野 瀧藏
 二席 同 植野 瀧藏
 同 三席 同 植野 瀧藏

◎ 第三回切花會

審査十一月十八日

出品三百五十四點

【特別競技花の部】

春の海
 天 位 石黒 又吉
 地 位 平林 菊造
 人 位 今村 吉太郎
 優等 一席 山本 喜太郎
 二席 渡邊 忠次
 同 三席 高橋 辰二
 同 四席 村田 清次郎
 同 五席 大村 辰蔵

【間管吹の部】

天 位 紫式部 西川 都留
 地 位 同 西川 都留
 人 位 同 西川 都留
 優等 一席 同 西川 都留
 二席 同 西川 都留
 同 三席 同 西川 都留

一等 以下 (四十六點略)
 【新花の部】
 優等 一席 月下水人 横堀 辰男
 一等 實生無名 磯貝 唯吉
 二席 錦 繪 竹内 ツヤ
 三席 實生無名 山本 百合
 二等 以下 (十二點略)
 【文字吹の部】
 天 位 國の光 中山 清
 地 位 國旗 宮川 國太郎
 天 位 日東光 岡部 輝治
 地 位 日東光 岡部 輝治
 人 位 日東光 岡部 輝治
 優等 一席 日東光 岡部 輝治
 二席 日東光 岡部 輝治
 同 三席 日東光 岡部 輝治

優等 三席 千代光 鹽田 豊方
 同 四席 日東光 小倉 三郎
 同 五席 勝 岡 渡邊 忠次
 一等 以下 (三十五點略)
 【厚物吹走付の部】
 天 位 半 藤 西川 寛
 地 位 半 藤 西川 寛
 人 位 半 藤 西川 寛
 優等 一席 同 西川 寛
 二席 同 西川 寛
 同 三席 同 西川 寛

一等 以下 (三十七點略)
 【細管吹の部】
 天 位 玉 葛 荒 松五郎
 地 位 松の聲 高橋 節夫
 人 位 白梅の露 寶閣 善教
 優等 一席 同 寶閣 善教
 二席 同 寶閣 善教
 同 三席 同 寶閣 善教

一等 以下 (四十六點略)
 【新花の部】
 優等 一席 月下水人 横堀 辰男
 一等 實生無名 磯貝 唯吉
 二席 錦 繪 竹内 ツヤ
 三席 實生無名 山本 百合
 二等 以下 (十二點略)
 【文字吹の部】
 天 位 國の光 中山 清
 地 位 國旗 宮川 國太郎
 天 位 日東光 岡部 輝治
 地 位 日東光 岡部 輝治
 人 位 日東光 岡部 輝治
 優等 一席 日東光 岡部 輝治
 二席 日東光 岡部 輝治
 同 三席 日東光 岡部 輝治

優等 三席 千代光 鹽田 豊方
 同 四席 日東光 小倉 三郎
 同 五席 勝 岡 渡邊 忠次
 一等 以下 (三十五點略)
 【厚物吹走付の部】
 天 位 半 藤 西川 寛
 地 位 半 藤 西川 寛
 人 位 半 藤 西川 寛
 優等 一席 同 西川 寛
 二席 同 西川 寛
 同 三席 同 西川 寛

一等 以下 (三十七點略)
 【細管吹の部】
 天 位 玉 葛 荒 松五郎
 地 位 松の聲 高橋 節夫
 人 位 白梅の露 寶閣 善教
 優等 一席 同 寶閣 善教
 二席 同 寶閣 善教
 同 三席 同 寶閣 善教

◎ 明治神宮例祭奉納菊花出品報告

白鳳冠 村中 眞雅
 歸去來 同 眞雅
 金重錦 同 眞雅
 八重錦 同 眞雅
 八重冠 同 眞雅

春の海 佐藤 泰次郎
 八重冠 同 眞雅
 同 眞雅
 同 眞雅
 同 眞雅

孔雀鏡 高橋 節夫
 越路の月 同 眞雅
 紅葉鏡 同 眞雅
 八重冠 同 眞雅
 紫雲殿 同 眞雅

遺愛寺	田中直吉	御田節	同	孤村月	中川長七
花見車	同	羽衣舞	同	同	清水惣次
無名殿	同	夢浮橋	同	同	同
黃雲殿	同	業平橋	同	同	同
須磨櫻	同	白鳳冠	同	同	同
如雲閣	同	鳴海美	同	同	同
八重霞	同	優美	同	同	同
桃色エルベロン	同	優美	同	同	同
廣古賀	同	優美	同	同	同
白鳳冠	同	優美	同	同	同
新國寶	同	優美	同	同	同
時雨錦	同	優美	同	同	同
珠の光	同	優美	同	同	同
昭和美	同	優美	同	同	同
天渥秀	同	優美	同	同	同

本出品は最寄方面の會員にて擔當し、陳列其他の幹旋を同方面の常務委員高橋節夫、佐々木榮次郎兩氏に依頼せり兩氏の多大なる盡力により幽遠の神苑に會員奉納の傑作を以て奉養の誠を致し得たるは本會の欣幸とするところにして又數萬の敬虔なる参拜者に都座を蒙らざるその清麗を賞せられたる菊花は亦正にその所得たるを喜べなるべし、こゝに附記して出品會員並に兩委員の勞を謝す。

◎ 昭和二年度收支決算報告

收入之部	支出之部
一金五千九拾九圓五拾八錢也	一金四千九百八拾七圓四拾八錢也
内 譯	内 譯
金 拾 六 圓	金 貳 千 百 四 拾 錢
金 四 千 貳 百 壹 圓	會費(千五百三十八人分)
金 四 百 六 拾 貳 拾 錢	會費(千四百四拾錢)
金 四 拾 五 圓	會費(千四百四拾錢)
金 參 百 圓 五 拾 錢	會費(千四百四拾錢)
金 貳 百 參 拾 圓 參 拾 八 錢	會費(千四百四拾錢)
差引殘金貳百拾貳圓拾錢也	會費(千四百四拾錢)
右殘金次年度へ繰越候也	會費(千四百四拾錢)

◎ 昭和三年度寄附金品報告

金 五 圓	大連市 齋藤 秀 郎 氏	陶製金 徑三寸菊花模樣	福井 千尋 氏
金 貳 圓	新潟市 中村 福 章 氏	三寸菊花模樣	
金 貳 圓	茨城縣 福田 章 氏		

◎ 會員異動報告

本年度に於て左記會員死亡せらるるに謹んで哀悼の意を表す。
 吉田 清一郎 大山 肇 吉 栗津 一郎 岡田 孝平
 中村 庄三 雨宮 清 近藤 醫之助 奥谷 小治郎

◎ 菊苗寄贈者芳名

深井 清徳君	折坂 友之君	寶 閣 善 教 君	竹内 榮太郎君
高橋 節夫君	佐々木 榮次郎君	東 海 三 郎 君	笠 羽 清 吉 君
隈部 米熊君	中村 眞妙君	泉 川 信 之 助 君	塚 田 菊 次 君
生田 甚太郎君	伊 東 幸 君	田 中 信 吉 君	石 川 清 見 君
深井 清藏君	秋谷 惣左衛門君	池 田 賢 造 君	八 代 透 君
武藤 要藏君	澤 八太郎君	土屋 幸治郎君	三 島 薰 君
渡邊 忠次君	西 川 寛 君		鈴木 熊次郎君



研究欄

◎大菊の栽培要領

緒言

菊花栽培はその由来遠く、普及天下に汎し、しかも尙園藝中の難技とせらる。蓋し培養の期間永くその間一念の油断を許さざるが故なり。然れ共現在にありて其培養に要する技能は決して特殊なるにあらず耐忍持久只管丹精を勤むを以て足れりとす。但し只管丹精を勤むと雖栽培には大體の目標なかるべからず。而してこゝに此要領を掲ぐる所以は此の大體の標準を示さんが爲に外ならず。初心之士と雖此標準によりて常に注意を怠らず丹精を凝さは普通以上の作品を得べきこと疑なけん。

各説

以下記載の暦日は東京地方の季節時を標準にしたるものなれば他の地方に於ては其土地の寒暖に應じ時季を勘へざるべからず。

【一月乃至二月】

一、栽培土の製造

(イ)材料及配合率

- (甲)黒土若くは腐葉土 三
- (乙)腐熟植物質 六
- (丙)腐熟炭若くは燐炭灰 一

(ロ)製法

(甲)黒土とは地表普通の畑土の謂にあらず土工事等の場合地中に層をなして往々発見さるゝことある俗稱「黒ボク」のことなり。かゝる土を得がたきときは植物質の腐熟したる畑土の成可く粉化せざる小粒結晶のものを選り用ゆ。
(乙)腐熟植物質は糞、糞、糞等の如き堅き厚き木葉若くは炭俵、(草草其根根に使用せる茅藁最可なり)などを堆積して充分腐熟せしめたるものを六、七分目の篩にかけて使用する。
(丙)腐熟炭若くは燐炭灰を作るに燒きすぎで白化せしむるはよろしからず、熱ゆるに從ひ軽く水を濯ぎ黒湯きの程度にて用ふる可とす。

以上の材料は何れも充分に日光に曝し中に潜める虫類、その卵予及び菌類等を死滅せしむ。但消毒の完全を期すには日光乾燥の代りに「石灰燻素」若くは「ホルマリン」消毒をなす可とす。然れば肥料を損失せずして尤も完全に速に殺虫殺菌消毒をなすを得べし。かくして出来上りたる材料は前記の分量にて割合し、濡れざるやう又虫などの再び巢はざるやう貯蔵す。

二、肥料の製造

(イ)種類

(甲)乾燥肥料

(乙)水肥料

(ロ)材料及製法

(甲)乾燥肥料とは随時使用に便する爲肥料を腐熟せしめ後乾燥したる固形ものを云ふ。材料には鱈粕干魚乃至油粕の仕立には吹き直しをなす可なり。
(乙)中幹種の苗 根分苗の發育よきものは概ね五月十日頃摘心して吹直しを採り三本仕立とす。此場合切り落しは芽挿にして三本仕立となす可とす。
(丙)長幹種(伸びよき)の苗、成可く短きものを根分し、五月二十日頃摘心し吹き直しを採りて三本仕立となす。切り落しを挿芽となすは前項に同じ。一本仕立は主として(此種に限らず)挿芽を採る。
(丁)萎れ弱りたる苗の處理
遠方より持ち来るか、又は其他の理由によりて萎れたる苗は全體を清水中に浸して日蔭に置き、其充分に活き運るを待ちて大小種類に従ひ前各項に準じ適宜に處置す。

二、殺虫、灌水、施肥

根分移植に際しては葉茎を硫酸「ニコチン」三百倍水若くは萬歳殺虫劑の五十倍水に約一分間浸して殺虫消毒す。
根分をなし仕立鉢に植ゑたる後は表土の乾きに應じ如露にて毎日一二次の灌水を爲し、尙發育遅れたるものには薄き水肥料を施す。但し五月初迄は伸長四、五寸以下に止むる可とす。若し伸び過ぎの憂ある時は細根を切りつめ徒長を制す。
鉢植の菊は直接に地上に置くときは降雨の際葉に泥土を受け、或は害虫に害はるゝ憂あるのみならず、根腐れを生じ易きを以て、植木藁を作りて列ぶるを良とす。此藁は通常高さ一尺二三寸より一尺五六寸幅は一尺五六寸より二尺五寸位を適當とす(幅の廣きは後に三本仕立を二列に置き得る爲)。

【四月】

一、冬期根分苗を仕立鉢に移植

四月初旬に至れば前年十二月初旬の根分苗(冬期根分)の假植したるものを抜きとり培養土を用ひて四、五寸鉢に移植す。此際長根は約一寸に切約む但毛根少なきものは二三寸に止むりして四五日後薄き水肥料を施す。

三、植木藁の準備

鉢植の菊は直接に地上に置くときは降雨の際葉に泥土を受け、或は害虫に害はるゝ憂あるのみならず、根腐れを生じ易きを以て、植木藁を作りて列ぶるを良とす。此藁は通常高さ一尺二三寸より一尺五六寸幅は一尺五六寸より二尺五寸位を適當とす(幅の廣きは後に三本仕立を二列に置き得る爲)。

【五月】

一、挿芽

(イ)一般的な注意

(甲)挿芽 挿芽は前以て成るべく日光に充て葉茎を強健にし害虫を驅除し薄き水肥料を施し置くを要す。
(乙)時期 挿芽は品種によりて活着に遅速あり。速きも十日過ぎは二十日を要す。加之挿し方の巧拙によりても亦遅速の差を生ず。故に爰に(芽挿にて)一般的な時期を示す、各人の技術によりて實際には多少加減せざるべからず。

三本仕立 一本仕立

- 短幹種 五月初旬 六月初旬(入梅前)
- 中幹種 五月十日頃 六月 十日頃
- 長幹種 五月二十日頃 六月 十五日頃
- (丙)挿芽に用ゆる芽 は切りとるや否や直に清水に没入し、充分に水揚をなましむ。殊に遠方より到来のものなどにして萎縮したるものは一日乃至二日全く水中に浸し置くべし。
- (丁)鉢及土 五六寸の土鉢(七八本挿し)用土は肥料分少き砂土に少量の腐炭を加へたるものを使用し、挿芽の切口に赤土を附着するときは活着容易なり。
- (戊)挿芽後の注意 挿芽後は晝間は樹木の日蔭に置き又は晝黄或は大なる鉢を以て掩覆し、日光の直射と風通しを避けし

何れを用ふるも製方には變りなし但その効力は等しからず。即ち各材料一貫匁中三要素の含有量左の如し。

肥料種類	窒素	燐酸	加里
油粕	五、〇〇	二、〇〇	一四、〇〇
干魚	八、八〇	三、七〇	七、〇〇
鱈粕	九、八〇	四、〇〇	七、〇〇

此成分の割合を見れば油粕の主要なる肥料成分は鱈粕の略半量なり。故に鱈粕の乾燥肥料は油粕の半量にて足るなり。但加里少きが故に燐炭を加へて加里を補ひ米糠を加へて酸酵を助くるを良とす、今鱈粕を材料として造る普通の配合割合を示せば次の如し。

鱈粕七

米糠二

燐炭一

腐葉土一〇

(此配合に依りて燐炭三、燐炭二、加里一の割合となる)右の配合を爲し如露にて水を加へてよく混和し箱若しくは樽に容れて密閉酸酵せしむ、約二週間にして再び適度に水を加へ攪拌して酸酵せしめ貯蔵す。但し肥料は乾燥し過ぎるときはアンモニヤ性分發散して窒素分を減少する虞あるを以て注意を要す。

【三月】

一、根分

(イ)時期

根分の時期は十二月初旬(十二月初旬を過ぎては寒氣の爲枯死し易し)と春彼岸頃との二期とす。此二期の根分には各利害あるも寧ろ春分けを有利とす。

(ロ)根分苗の大きさによる處置の區別

適當の大きさの苗のみを得るは困難なり、されば根分後其處置を加減して以て大小を調節し、且各々其特性に從ひて處置せざるべからず。
(甲)一二寸のもの は最も適度の大きさとする。直に五六寸の仕立鉢に三四本宛培養土にて植ゆ。此時白根長ければ一二寸に切り約む。
(乙)三四寸以上伸びたるもの は三四葉を残して摘心し中鉢に植ゆ、而して摘みたる芽先は直に挿芽にす。
(丙)太り過ぎたるもの は摘心して中鉢(五六寸)に植ゑ薄き水肥料を與へて枝芽の發生を促し、枝芽一二寸に成長するを待ち抜き取りて挿芽とす。

(ハ)品種による根分處置の區別
幹葉の伸長する度合には甚たしき差異ありて各種皆一様ならず。(錦盤には各種に就き伸長の度合を表示せり)故に品種毎に當初より其處置を異にせざるべからず。
(甲)最短幹種の苗 此種のもの三本仕立にするには根分苗は發育中等のものを採り其仕立立つるを可とす。金光星、オレンジキキ等此部に屬す。
(乙)短幹種の苗 根分苗の稍小なるを採り其發育で三本仕立となす(五月上旬迄の芽挿も其儘三本仕立となすを得)一本

むること約十日間にして漸次弱き日光を受けしむるを可とす
(乙)灌水 最初の二週間は灌水の回数最も多く一日數回少しづゝ如露にて灌水すべし、然れ共降雨の際は直接雨に曝露せざるを良とす。爾後は漸次灌水の度数を減じ表土乾くか或は苗が萎るゝかするにあらざれば灌水をなす。
(丙)挿芽
挿芽に芽挿と葉挿の二法あり。芽挿は菊の穂先を二寸ばかりに切り(切るべき位置は葉下近く稍斜に)、七八分ばかり土中に挿入し、其根本は稍強く指頭にて壓し、風の爲に振り動かされざらしむること肝要なり。此注意を怠るときは活着難東なし。
葉挿は葉挿に比すれば活着早きも處置に多くの注意を要す何となれば葉挿苗は葉挿苗に比し葉數多く且つ柔軟なれば、根化しがたく虫害を蒙り易く、加之毛根の未だ出ざるうらも葉の養分にて芽先伸長を促くるが故に益々柔弱となり、併せて伸びて見苦しくなる憂あればなり。然れども葉挿の如く對生葉を生ずる憂なく、一時は挿せ伸びるも其後の發育生長は良し。故に活着(三週間)後には直に中鉢に移し水肥料を施して可なり。

(イ)必要及時
根分後苗の成長早きに過ぎたるを、苗芽細く堅く大成の見込なきとき、或は苗の増殖を必要とする場合には摘心して根元より新芽を出さしむ。之を吹き直し芽と云ふ。其時期は略挿芽の時期を以て標準とす。
(ロ)方法
「吹き直し芽」は多くは伸び過ぎたる苗を切りて適度の仕立苗を得る爲に採る方法なり。而して新芽は能ふ限り土際に近いものを採用する可とす。芽先を切るには厚物、太管は五六葉、間管、細管は七八葉を残し摘心す。餘り下部にて切斷する時は苗を枯死せしむ。枯死せしめざるまでも新芽の發育不良なり。芽先を切る前に二三回水肥料を施し置けば發

芽力強く土際にて新芽を得ること容易なり。若し上方にのみ發芽し下方に新芽を見るときは、上部の芽を早く掻きとり下部に新芽の出づるを促すべし。苗の増殖を要する時は此の切り落しを挿芽に用ゆ。

三、短幹種を鉢に移植
根分の儘にて吹き直し芽を採らざるものは、初旬より順次に五寸鉢に培養土を以て移植す。之は三本仕立にするものなり。

【六月】

- 一、仕立鉢に移植
(イ)吹き直し芽の採定
芽は對生葉及不規則なる五生葉のものを避け正しき五生葉にて成るべく太き芽の曲らず横に走らざるものを選び。
- (ロ)吹き直し芽の移植
吹き直し芽の長さ約一寸に伸びたるものは新芽の附け日の直上にて舊き本葉を切り去り、培養土を用ひ本葉の切口が土中に隠るゝ程度に仕立鉢に移し植ゆ。此場合鉢内に走りたる根は二寸位に切りつめ芽は殺虫液に浸し消毒す。移植後三四日して水肥料を施し發育を助く。
- (ハ)挿芽の移植
活著して發育良好なるものは逐次仕立鉢に移植す而して三四日後水肥料を施すこと前項に同じ。
- 二、三本仕立の摘芯
- (イ)一般的注意
根分苗及挿芽苗の伸長三四寸に達すれば鉢にて苗の先端を摘芯す。三四寸以上に伸びたるものは摘芯に方りて葉腋の側芽に注意し、其最も發育良好なるものを最下位に定め其上に二葉(二節)を残して切るべし。但上部の芽のみ發育著しきものは適度の高さに摘芯し、葉の柔軟なる間に添竹と針金の鈎とを以て莖の上部を曲げ其勢力を下部に移し、三枝の均勢を圖るべし。かくて均勢を得ざる時は針金の鈎を以て強勢の枝を横に抑へ、絶えず牽制すれば遂に三枝の均勢を得ん。摘芯の前後には二三回薄き水肥料を施して發育を助くるを良とす。

(ロ)時期
摘芯の時期は品種性質によりて大に斟酌せざるべからず。即ち

- (甲)短幹種(開花時の伸長三尺内外を適度とするもの) 六月中旬
- (乙)中幹種(同四尺内外を適度とするもの) 六月中旬
- (丙)長幹種(同四尺五寸内外を適度とするもの) 六月下旬

(右の尺度は根元より花首に至る丈にして鉢の高さは算入せず、又右の時期を以て適當とすと雖苗の伸び過ぎて五寸以上になりても摘芯せぬは宜しからず)

三、一本仕立の挿芽

(イ)一般的注意
一本仕立には挿芽を最良とす。此挿芽苗には三本仕立摘芯の芽先を用ゆるを得と雖、三本仕立の摘芯は成る可く芽先に於て爲すを有利とするに、一本仕立挿芽には少くも芽先一寸以上を要する故に利害一致せず注意を要す。次に葉挿も全然不可なるにあらず。只發育約一週間遅るゝが故にそれだけ早く挿芽を要す。

(ロ)時期
(甲)芽挿の普通標準時期左の如し。

最短幹種 五月中旬
短幹種 六月一日頃
中幹種 六月十日頃
長幹種 六月十五日頃

(乙)葉挿は右より各約一週間早きを標準とす。

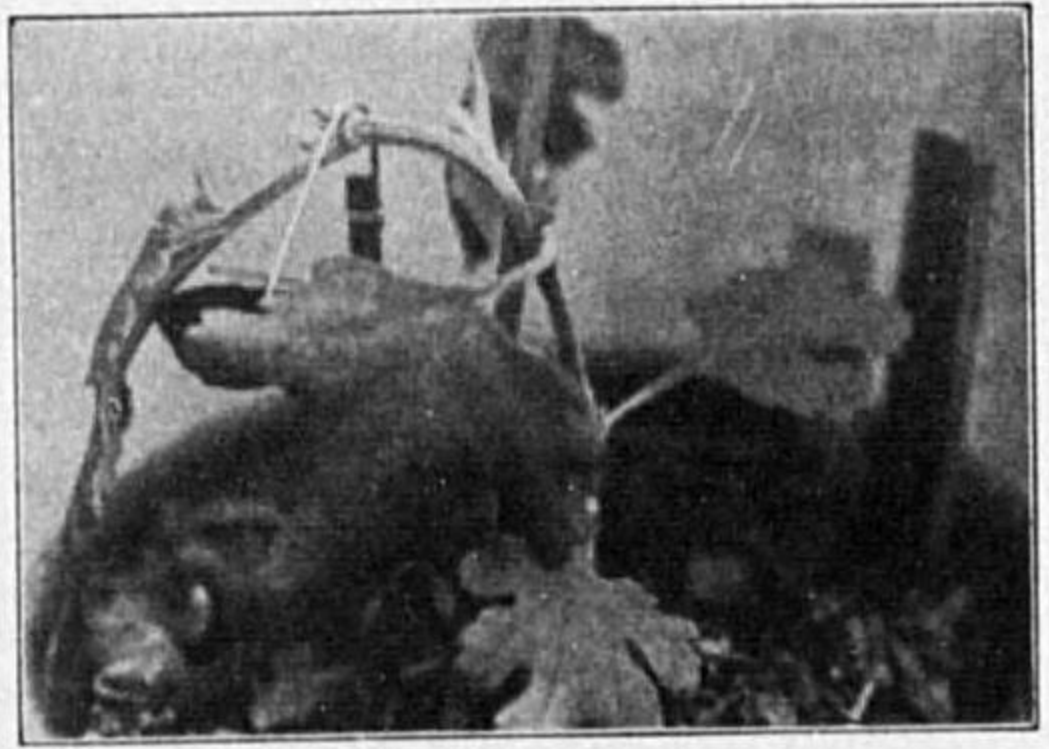
【七月】

- 一、本鉢に移植(本植)
- (イ)時期
(甲)三本仕立のもの 三枝の成長略均勢を得て各枝四五寸より六七寸に伸びたる時、又は三本に仕立てらるべき見込つきたるものは(乙)短くとも七月二十日頃より逐次九寸鉢に本植す。本植を遅くする時は三枝の下葉本葉の葉より良しく小くなり、葉も亦細く堅くなりて、其後肥培するも此部の發育充分ならず大成に影響するが故に、適當の時期には凡て本植し、本植の前後には水肥料二三回を施すを良とす。
- (乙)一本仕立のもの 成るべく遅くまで六寸鉢にて栽培し、凡そ一尺位に成長し伸びの附きたるとき八寸の本鉢に本植す
- (ロ)方法
鉢の排水孔を金網屑或は木炭にて被ひ、其周圍に木炭若くは指頭大の土塊(挿芽土の調劑)を七八分の厚さに敷き更に培養土を敷き其上に乾燥肥料の輕き半握みを撒布し、又その上に培養土を適度に敷き、然る後鉢より移したる苗を鉢の中央に置く。其高さは苗の三枝中の最下枝の分岐點を鉢の上縁より約五分の上方に定む(一本仕立は下葉の工合により適宜に定む)。位置定らば鉢の上縁より二寸位の處まで培養土を(此二寸の餘地は他日増土をなす爲に残し置くなり)満たし、其上に乾燥肥料約一合を撒布し薄く培養土を以て之を被ひ如露にて澆水す。

本植後も尙幼若くは假竹にて三枝の均勢を計るべし。三枝の均勢を保たしめんが爲己むを得ず高く摘芯したるものは本植の際深植せざるべからず。かゝる場合には増土の餘地を多く残し置き、其後の増土も一回に多量にせず、上根の見ゆるに従ひて徐々に少量宛三四回増土及追肥をなすべし。

【八月】

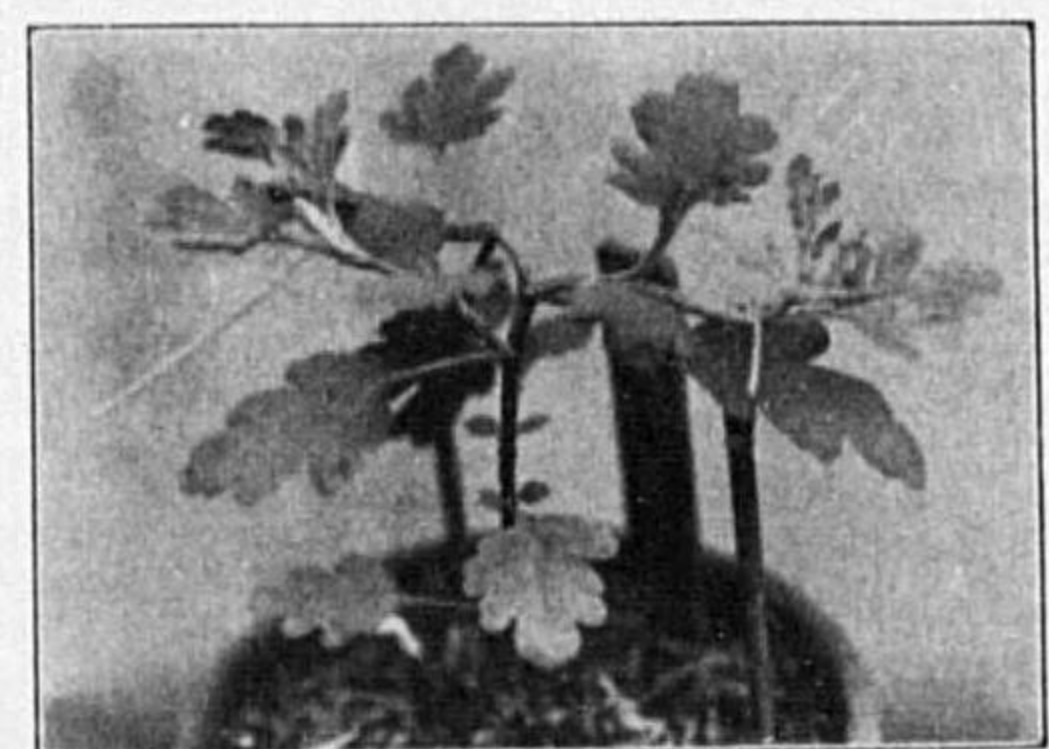
- 一、假竹の植立
先月より本月に亘り幹葉の成長に従ひ支柱として篠竹を植立し、幹葉の曲歪を矯正し、且三本仕立のものは三枝の高さを調節するの便に供す。摘芯立の位置は他日本竹を植立すべき地點を撰ぶべし。
- 二、追肥及増土
本鉢に移植(本植)後約二十日にして乾燥肥料約一合を鉢の上面に撒布し、培養土にて覆ふ。之を追肥及増土と云ふ。
- 三、三本仕立の整枝
三枝の成長均勢を失したる時は勢力強き枝若くは伸長大なる枝は成るべく下方に引下げる様に爲し、發育遅れたる枝は引上ぐる様に調整すること肝要なり。此整枝を怠る時は三枝の發育不平等となり、遂に開花の時期に早晩を來たし花徑の大小を生ずるに到るものなり。
- 四、柳芽の除去
- (イ)發生の徴候
本月十日頃より所謂柳芽の發生を見ることあり。其ときは側芽の發育特に著しく、莖の伸長一時止る様見ゆるものなり。かゝる徴候を呈せる時芽に注意すればやがて上部に蕾に似た



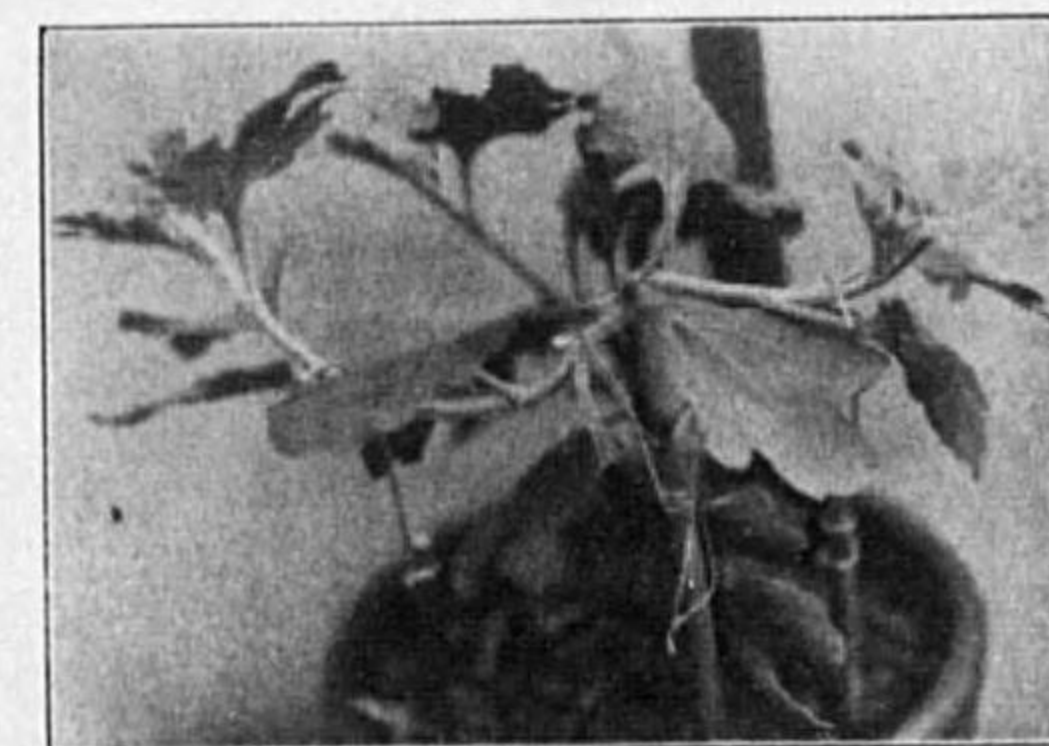
上部ニ芽ノ發育盛ナルヲ以テ初メテ牽制スル場合



上部ニ二芽ノ牽制不充ナルヲ以テ引續キ牽制スル場合



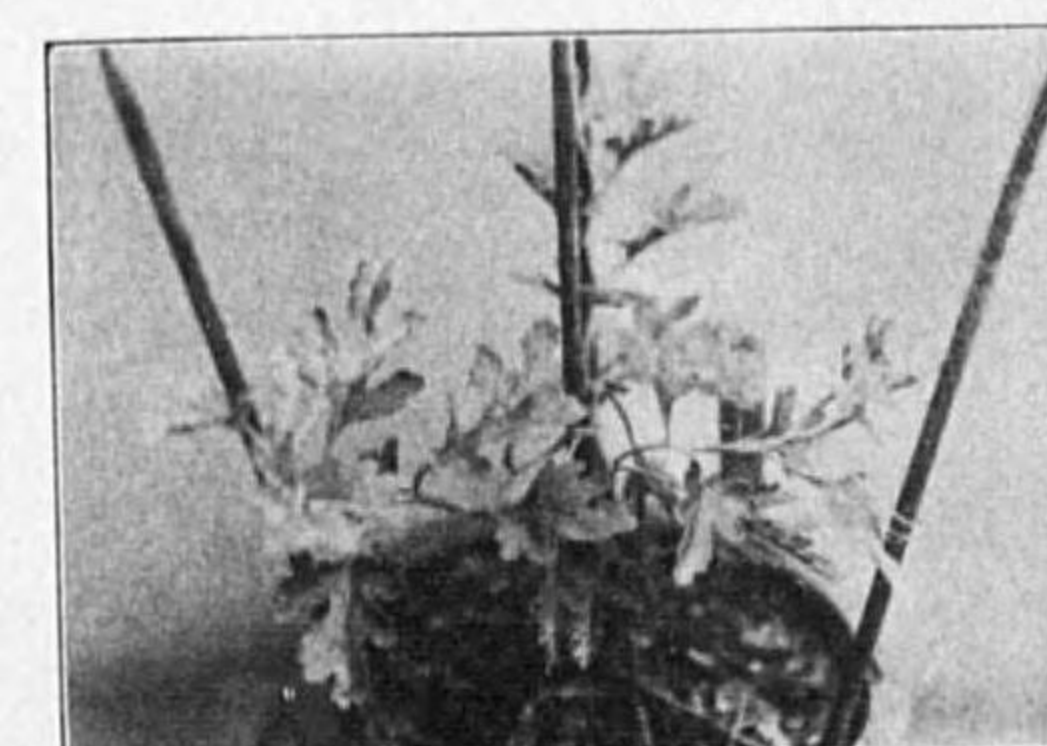
三枝ツ梢均勢ナラシムルヲ得タル場合



三枝均勢ノ際最モ勢力アル枝ヲ最モ多ク下方ニ牽制スル場合



三枝均勢ノ不充分ナルモノヲ本植ニナシ假竹ニヨリテ牽制スル場合



三枝均勢略出來上リタルモノヲ本植セン場合

る芽を持ち三又の状をなせるを見ん。

(ロ) 處置

柳芽の處置は決して急ぐべからず發生を見てより七日間位は其儘に放置し二三の側芽の長さ二三寸に至りて始めて葉間最も近き側芽一本を仕立て、心芽及他の側芽を除去すべし。

(ハ) 注意

六月以後の挿芽の外は通常一回(紅葉山、鳳舞等の如きは例外なり)柳芽の發生あるものにして、菊の品種及發育狀態によりて二回發生することあり、通常發育の著しく進みたる時、即ち未だ發育の時期にあらずして葉數三四十枚に及ぶものは概ね柳芽を生ず。

此月の下旬に至りて柳芽發生するときは九月に於ける發育の時期を遅からしむるの憂あり、故に八月以前の肥料は窒素性を多く用ひ、燐酸性を少くするを良とす。

五、早咲種の開花を遅くし晚咲種を早く開花せしむる方法

早咲を特に遅く咲かしめんには本月下旬に於て丈約二尺位の所にて幹葉を切斷して側芽を立つべし。然るときは發育開花を遅らしむることを得、之に反し晚咲を早く咲かしむるには午前中は日光を受けしめ、午后よりは日光を避け若くは暗室に入れ置き(夜間は外氣に當つる必要あり)日光を受くる時間を短縮すべし。

【九月】

一、止め肥料(最後の施肥)

本月初旬に乾燥肥料約一合(此時の肥料は陳粕を最良とす)を施して施肥の打切りとす。此肥料は花肥料にして色彩を良好にし花葉を伸長且豊富ならしむる爲に施すなり。

二、蕾の擷定

(イ) 一般的注意
發育の時期は八月下旬に於ける天候の狀態によりて差あり即ち此頃に冷氣(氣温下降し七十度前後に到る)を催すことあれば著しく早熟して間もなく發育するも、若し此時期に於て温度降下せず夏暑長きときは發育遅るゝなり。又種類による花期の早晚も天候によりて變化を蒙ることあり。即ち普通晚咲の品種にして早く咲き、早咲きの品種の遅るゝことあり。順當なる發育の時期及び其時期に發育したるものゝ花期は略々左の如し。

種類 發育の時期 満開の時期

- (甲) 最早咲 九月一日頃 十月二十五日頃
 - (乙) 早咲 同月五日乃至十日 十一月五日頃
 - (丙) 美玉系 同月五日乃至十日 十一月十日頃
 - (丁) 中咲 同月十日乃至二十日 十一月十日頃
 - (戊) 晚咲 同月廿日乃至廿五日 十一月廿日乃至廿五日
 - (己) 最晚咲 同月廿五日乃至卅日 十一月廿日以後
- 九月二十日頃に至るも發育の微候なきものは過燐石灰(速効肥料)を二三回施し發育を促進せしめざるべからず。其の使用法は茶匙一杯を水五合に溶解して、一鉢に約一合宛施すなり。

一般に蕾は彼岸に入りて初めて擷定するを可とす。決して急ぐべからず。兎角慣れざるうちは急ぎて失策し易し。早きにすぎれば擷定すべき蕾を傷け取返しの附かざるべからず。或は三本仕立の各枝の蕾を等一に發育せしむることあり。特種のもの即ち遠城樂(野守)、松帆浦(定家)、跡夜姫(竹取)雪嶺(胡蝶)、富岳雪、龍冠等は九月に入りては柳芽らしく見

ゆるも木蕾なることあり、其儘咲かしむるを良とす。而して側蕾は約五寸位伸びたるを切り採る。概して九月に入りて出でたる柳芽らしき蕾は開花するものなれば決して急ぎ摘み取るべからず。

(ロ) 擷定の標準

- (甲) 一般に花首五分以上に伸び蕾の大き豆粒位となりたる時二三個を残し他は除去し、更に指頭大となりて少しく色彩を認むるに及ぶ全く故障なきを見定め一個となすを安全なりとす。
- (乙) 形正しく整ひ、眼み良くして、横に平たく、黒色を帯びざるものを選ぶ。
- (丙) 三本仕立の場合 各枝共發育等一なる蕾を選定す。若し大小不揃ひなる時は大なる蕾を有する枝には多數の蕾を永く残し、三枝の蕾等一となりたるとき一個とす。
- (丁) 眞蕾(心蕾) 即ち中央の蕾は通常發育良好なれば一般に之を採用す。
- (戊) 側蕾(枝蕾) は發育早きものの花期を殊更に遅くするとき又は他の蕾と歩調を整へしむる必要あるとき特に採用す。
- (己) 開花を遅らしむる場合 是蕾を數多く永く存し置き、其中の遅き蕾を選ぶ。
- (庚) 晚咲の場合 晚咲を憂ふるものは眞蕾のみを採用す。又花首五分位にして直に他の側蕾を除去し眞蕾二個を限り存す此場合側蕾は豫備にして眞蕾の開花確實なるを見定めなば直に除去すべし。

【十月】

一、支柱(本竹)の植立

蕾の選定を終れば假竹を本竹に立替ふ。この假竹は爾後開花までの伸長を見込み長さを定む。竹には黒、エナメル、若くは黒、ニス、を塗るを要とす。假竹は常に葉の裏方に添へて植え、前方よりは見えざるやう心すべし。

(ロ) 立て方

- (甲) 一本仕立 には特別の方法を用ひず、唯假竹の穴に立つるやう心がべし。蓋し一本仕立には常に根元近く傾ゆるものなれば、穴を替ふるときは根を害する憂あればなり。
- (乙) 三本仕立 の立て方には相當の技巧を要す。即ち(イ)位置 鉢底と口との大きさの差少き筒形の鉢俗にツン鉢に於ては鉢の内縁に添へて立つ。口廣き朝顔形の鉢にありては口の擴がりの多少に應じ縁より五分乃至一寸内側に立つ。要するに竹は鉢底の隅(角)に脚を置き、先端は等分に少しく外方に開かしむ。開きの工合は花と花との間約一尺の間隔を得るを以て適當なりとす。
- (丙) 三本の配置 三柱は正三角形に置かず、次の如く配置す
A 一本高く二本低きものは高枝を後方にし、短き二本を前にして、前方の二本の間を約一寸廣くす。
B 一本低く二本高きか三本同高か或は三本不等高なるものは最も短き一本を前にして他の二本を後に配置し、後の二本の間を約一寸廣くす。

二、害虫驅除

盛夏一時衰へたる害虫漸く蕃殖し野虫(アブラムシ)盛に發生し来るを以て、絶えず殺虫液にて殺滅せざるべからず。殊に葉の周圍に群生する青色野虫は開花に先立ち數回殺虫液を用ひ絶滅し置かざれば、開花と共に花葉内に侵入し遂に全く驅除するを得ざるに至るなり。

三、輪葉の取付け

(イ)時期
輪葉は花容を護へ花葉を保護するに必要なり。之を取り付くるには満開を待たず、花葉の三四葉が初めたる頃を良とする。花葉の弱きもの、花首の傾けるを矯正する必要があるものには特に早きを要す。

(ロ)方法

輪葉は先づ柱頭に取り付く。即ち其脚にて柱頭を挟み(此脚の脚は竹の大小によりて或は擧げ或は挿めて加減す)上下二ヶ所を緊縛す。然る後之に花首を結付く。決して花首をも同時に縛ることを爲すべからず。而して取付くる位置は高きに過れば花葉を押し上げ、低きに過ぎれば花葉垂れて見悪くし。故に花の形状に應じ適當の位置を選ばざりて肝要なり。

【十一月及十二月】

一、根分

苗芽の成長に従ひ十一月初旬より十二月十日頃迄に随時根分を爲す。之を冬期分けと云ふ。芽の成長一、二寸に達せるものを採り、殺虫液に浸し消毒し、同種のもの五、六本宛五、六寸鉢に植へ、成は苗床を作り列植す。根分は必ずしも此期に於て必ず必要なし。寧ろ春三月彼岸頃を有利とす。如何となれば今日苗芽は一般に挿芽によるを有利なりと認められ、挿芽の爲には冬期根分を爲すの必要なければなり。殊に此期の根分は親株の勢を殺ぎ、新芽の数を減する虞あり。若し已を得ず根分せる場合には温室乃至「フレーム」に收容するか、又は完全なる霜除けを施さざるべからず。

通説

【一、栽培一般】

大意

菊は固より花を觀賞するものなりと雖、苟も一個の作品として完成を期せんには、全體の美を調和せしめざるべからず。花徑の大、花容の端麗は勿論、幹葉の雄美、葉狀の整調は缺くべからざる條件なり。如斯は培養の當初より心がくるにあらざれば成功を収むること難し。即ち給水の濃淡、肥料の加減、害虫の防護より、常に天候に意を用ひ發育の狀態を勘へ以て萬全を期せざるべからず。

苗の挿定

最初の腕試しなり。しかも若し之を誤れば爾後の丹精は徒勞に終るべし。優良の苗を得んには挿芽の技術に熟達せざるべからず。蓋挿芽の巧拙は直に苗の良否を決するが故なり。而して苗仕立には時機の鑑別最も肝要なり。方法に於て如何に巧妙なりと雖時期を誤らば全然失敗に終るべし。時期は苗の量 菊の品種に依て加減せざるべからず。(銘鑑参照) 水肥料は補助肥として随時用ゆるものなれば、施與の時期と量とを勘へざるべからず。一度に適量以上を施すと無益なるのみならず却つて有害なり。肥料の過ぎるに及ばざるに如かさること萬々なり。肥料過多の害は肥料そのもの分量より来るのみならず、排水の可否にも關係す。即ち排水不良なる時は普通適量の肥料も過多なることあり。故に排水思はしからざるもの及降雨甚だしきときは特に分量に注意せざるべからず。

甲、害虫

蚜蟲類(アリマキ) 種類甚だ多けれども體色により區別すれば赤、白、青、黒の四種となる。多くは翅を有せず。赤、青、黒の類は若葉幼芽に駐屯し、青白の類は葉裏に群集す。葉面に微細なる白點を見るは即ち此虫の糞にして、寄生の徴候なり。繁殖猛烈にして忽ち葉を枯死せしむ。下葉を失ふは多くは此類の害なり。又青蚜虫は芽先を襲ひて嫩葉を萎縮せしめ、或は蕾を侵して萼の寛開を妨げ、開花を待ち花中に入りては最早や如何ともなし難し。此虫の繁殖を調ふるに單性生殖なれば雌虫一定にて一回に約九十の仔蟲を生み、一年に十一代を経過するが故に、春初一定の雌虫より秋末迄には實に三、三、八九六兆を生ずる勘定なり。而して是等の雌蟲は晩秋には有翅の雌蟲を生むが故に、初めて兩性生殖はれ、その産下したる卵は越冬卵化して春初の雌虫となる。所謂世代交替の一種なり。

スリップ

其形體甚だ微小にして、注意すれば肉眼にて見るを得るも塵埃と見誤ること多し。此小動物は中々頑強にして嚴寒の候と雖土中に潜伏し死滅せず、繁殖力強く其害毒又深刻なり。體色は稍褐色を帯び、幼虫の間は葉の表裏細毛中に潜み、葉面に「アザ」の如き痕跡を残し、成長しては芽先の嫩葉を吸ひ、有毒液を分泌して芯芽を萎縮硬化せしむ。爲に芽先は灰褐色となり發育全く停止す。成虫は形稍大きく細長く之に觸るときは直に飛び敏捷に逃避す。

蚯蚓

は農耕上害虫と云ふべからずと雖、園藝上殊に鉢内に

仕立の場合のみならず常に注意を要す。殊に

發育と時期

との關係は尋常に附すべからず。如何に發育良好なりと雖時期に相應せざれば甲斐もなし。適當の時期に適當の大きさに育つるやう心がけざるべからず。概して厚物は伸び難く細管は伸び易し。太管間管はその中間にあり。故に伸長遅々たる厚物の類は苗仕立を早くして常に伸長を助長し、細管は遅くして徒長を防がざるべからず。太管間管等其の性に從ひて之に準ず。伸長は天候氣温に影響さるゝこと大なるが故に、常に

天候と氣温

に注意せざるべからず。概して盛夏暑氣酷烈の頃は伸長却つて衰ふるが如し。但し殘暑の候に至れば伸長頗る旺盛となり發育可良なるものは一日平均五分の伸長を見る。然れどもかく伸長旺盛を加ふるは時期のみによるにあらず、發育の度合又大いに之に係る。即ち或る一定の程度に達發育せしめ置かざるに於ては、秋冷を催すと雖も單に天候のみにては「伸び」のつかざるものなり。凡そ菊の成長には七十度内外の氣温最も適するが故に伸び難き最短幹種の如きは六月にして一定の程度に達伸長せしめ、盛夏には半日向若しくは霞黄張りにて培養するを可とす。殊に測定なる葉を有する品種は盛夏の烈日を避けざるべからず。之に反して間管、細管の如く細管小葉にして伸長易きものは盛夏と雖充分に日光に浴せしめ以て徒長を防ぐべし。天候不順なれば發育從つて不良なるは自然の數なり。晴雨偏頗なれば發育從つて整調を缺くは免れ難きところなり。かゝる場合には人為を以て天工を補ふの覺悟なかるべからず。

【三、給水】

給水 栽培に用ふる水は成る可くは「こなれたる」河水池水雨水を良とす。單純なる人工水、生硬なる井泉水の如きは好ましからず。已むを得ず如斯水を用ふる時は汲み溜めて大氣中に放置し、然る後用ふるを可とす。云ふまでもなく用水の温度は氣温と並行せしむべく、酷暑に冷水を施すが如きは甚だ宜しからず。殊に夏にありては池水雨水以外の水は「ひなた水」として用ふべし。

給水 天候によりて加減せざるべからず。晴天の日と雖も乾燥激しき日と然らざる日とあり。總じて好晴の日風強き日は乾燥激しきを以て、給水の度を増さざるべからず。又品種及發育の度合によりても加減するを要す。葉の大なる品種及葉數多きものには多量に給すべし。移植後根の未だ行き互らざる間は吸水少きを以て、給水過多に陥らざるやう心がくべし。日中の水は量多く夕方水は量少く給すべし。給水過多なれば徒長衰弱を來し、過少なれば發育を阻害す。

排水 給水の肝要なるは勿論なれども、排水の重要な又決して之に譲らざる。殊に況や排水は給水の如く随時加減し難きが故に、一度宜しきを失はばんか致命的障害を來すなり。此故に移植に際しては常に排水に對して深甚の注意を拂はざるべからず。

【三、施肥】

時期と品種 苗仕立中は水肥料を用ひ、乾燥肥料は本植に際して初めて用ゆ。故に水肥料には油槽の如き窒素多きものを選ぶべし。之れ早急に燐酸分を過多に施すときは苗木早熟硬化して大成し難く、且老衰を早やむる憂あればなり。發育旺盛にして却つて發育の遅ることあり、如斯ときは特に燐酸分を施して發育を促さざるべからず。

にありては害虫たるを免れず。即ち彼が棲息は鉢内の平和を亂し、其分泌物は有毒にして根を害ふなり。又彼は乾燥肥料を鉢内に食用消耗す。

小虫豆

恰も小豆の如き小虫にして、赤色黒色の二種あり七、八月頃夜襲して葉及芽先を喰ふ。芽先の如きは全く喰ひ盡さることあり。一度の夜襲にて致命的傷害を蒙ること不鮮。

夜盗虫

は日中土中に潜み夜間襲來して葉及芽先を喰ふ。翅なき黒斑點を有する長き虫なり。往々苗木を土際にて喰切り開花の季節に到りては花辨を喰切り吾人をして嘔然たらしむるは此虫の仕業なり。

菊吸

は雲に似たる昆虫にして髮切蟲の一種なり、頭部に赤き星あり。五六月頃日中飛來し、柔軟なる葉の周圍を嘯み樹液を吸ひ、該部に産卵し其卵後孵化して葉蝕に入り、漸次降下して葉幹を枯死せしむるに至る。

其他

象鼻に似て葉の主脈を喰喰する害虫あり。蛭蟻、蝸牛、蟻尺、類は葉を喰ひ、或害虫の幻虫は葉を巻き果を蝕みて芽先を喰ふ。

二、驅除法

蚜蟲類及スリップ 是種「ニコチン」三百倍液若しくは萬歳殺虫劑五十倍液を虫の密生せる部分に筆を以て塗布乃至噴霧器にて散布す。本液は芽先を害することなきが故に使用安全なり普通の洗濯石鹼の溶液を以てするも一法なり。即ち稍白濁を呈せる液を如露を以て葉の表裏に注ぐべし。然りと雖本液は柔軟なる芽先及鉢内の土に注ぐべからず。此二液前二者は藥液により二十秒内外にして全く死滅せしめ後者は口吻と膝門とを有蹄にて閉塞し窒息せしむべし。

蚯蚓

は「ムクロジ」の皮を煎じて其黄色液を更に水にて僅に黄色を帯ぶる程度に稀薄し、給水するが如く鉢内に注げば瞬間にして匍ひ出て死滅す。但し蚯蚓は用土の作製に際し火力又は日光にてその卵乃至幼蟲を乾燥殺するを安全なりとす。

其他の諸虫は來襲の時間をはかり捕殺すの外なしと雖葉葉を喰喰する害虫驅除の爲には硫酸鉛の溶液(水一升に三四匁の割)を葉葉全體に時々散布し置けば容易に且つ確實に効を奏す。

附言

以上は大輪菊栽培の一般的な目安なり。故に之に據るとよらざるは全く讀者の自由なり。本會の希望するところも諸君が之に拘束せらるゝことなく自由獨創の眼を以て新天地を開拓せらるゝにあり。希くは會員諸君と共に今後益々學理的基礎の上に新栽培法を確立せんことを。

◎大菊實生の要領

一、採種法

(甲)親花の選擇 一般に窒素肥料の利きて花葉の展びたるものよりも燐酸肥料の利きて形小なりともひき締りたる花を選ばし。花は充分日光に浴し咲き終りて成熟したるものとす。良種は良種の種子より生ずるものなれば親花は成る可く良種を選ばし。花容華はざるもの、花葉の抱へる力弱きもの玉巻の伸びたるもの、花葉の伸びる力足らざるもの、承咲等

(乙)一般的注意

(15)

は長二尺位に切りて花瓶に挿し屋内に入れて凍結を防ぐべし
 (丙)結實と日光浴の必要 結實には充分日光を當つるを必要
 なる條件とす。
 兎角十一月下旬よりは温潤なる天候多く温度も亦降下して
 葉草急速に凋落し營養衰へ易きを以て能ふ限り日光に當て、
 其衰弱を防ぎ葉草の蓄積せし榮養に依りて結實せしむるを肝
 要なりとす。
 (丁)害蟲驅除 害蟲は氣温降下すれば、花茎に入りて容易に
 死滅せざるを以て薬液にて消毒するを要す。

(ロ)方法
 十一月中旬より下旬に至れば花葉枯燥腐す。かく咬き終
 れるものより親花を選定し成るべく長く鉢植の儘にて日光を
 浴せしめ凍結するに至れば約二尺に切りとり花葉を脱落せ
 しめざる様注意して丁寧に切り花名札を附し深き花瓶若
 くは水瓶に挿入し水の減少に應じ時々補水するか若くは換水
 して花茎を以て成熟結實せしむ。一月中旬に至りて花茎を干
 室にむしりとり、種子の成熟せるものを採集し乾燥不充分な
 るものは充分に乾して花名を記せる袋に収め保存す。此時種
 子の成熟せるものは黒く未熟のものは淡褐色を呈せり。

二、播種法
 (イ)一般的注意
 (甲)時期 播種の時期は春彼岸後より四月末迄を良とす、此
 時期に播種せるものは其年花を見るを得。
 (乙)用土 肥料分少く真土と砂を半々に混合し少量の炭灰を

◎ 觀賞植物の殺菌劑

金澤市 松田太吉 郎

菊、バラ、朝顔等に寄生する野虫等の軟虫類には會の高炭
 殺虫液、ネオトン、ニコチン等の良薬が發賣されて何等の困
 難がありませんが、葉及花に初めは小斑點を生じ後は擴大
 して遂に觀賞價値を失ひ、一年の努力を空にするは趣味者
 堪えざる所でありませぬ。

此原因は天候、土、肥料、水の過不足に起因するも直接に
 は一様に菌に因るものであります。此の菌は植物の如何
 に依つて異なるも、總て銅鹽類に對して極めて抵抗力が弱
 き爲め農薬的には一般にボルドー液の形に於て使用され居り
 ます。之れは佛國ボルドー地方にて初めは道端の盜難除けと
 して清澄ボルドー液が案出されましたが、其の後ビツカリ
 ン氏に依りて清澄ボルドー液が案出されましたが、各種のボルドー液は蔬
 菜及觀賞植物には藥害の爲め發育を阻止され、果樹園藝者の
 みが使用して居りました。

一八九七年佛國のラベルタ氏に依つて創製され、大正九年
 五月我國へ紹介されました。銅石鹼は樹木に對する効果が思
 わしくないのと調製が困難なとの爲め餘り廣く一般に行き
 渡つては居りませんが、着色せざることを藥害の絶無なること
 却つて植物本來の發育を促すこと等の爲め一部農家に依つ
 て盛に使用されて居ります。(昭和三年農林省發行殺菌劑銅石
 鹼液の效果に關する試験成績報告書第二十號)参照、
 炭酸銅安母液(所謂銅安水)も銅石鹼と同様藥害絶無、植
 物本來の發育の促進等に之れは農家に於ては採集期に果實
 蔬菜及進歩せるガーターン經營者に使用されて来た銅鹽殺菌劑
 であります。チユリツツの如き破蕾直前に本劑か銅石鹼を充
 分に撒布せざるときは病菌が花に移りて早く腐ります。花屋
 のチユリツツをすかし見るときは斑々として病部が現か
 れます。

作れます。又殺虫劑はニコチン劑が一番でニコチン臭の高き
 ものは揮散するニコチンにて藥液の掛らるるもの迄死滅致し
 ます。
 銅石鹼と銅安水と全然同一効力であるが、噴霧器を使用す
 る場合に銅石鹼はピストンを吸着して撒布困難を感じることが
 往々あります。熱湯を以て銅石鹼を稀釋し、其後撒布する
 も葉は決して傷まぬ。此場合は噴霧器のピストンを吸着致し
 ません。泥狀のネオトンは殺菌劑に用いると凝集して撒布
 出来ませんが、ニコチンは自由な濃度で加用出来ます。

注意すべきことは銅石鹼や炭酸銅安母液は指定以上の濃
 度とすると殺虫劑の場合と異なり、時に藥害を來たすこ
 とがあります。必要以上に撒布する必要がありません。破散
 銅は其儘使用するときには水道水の消毒には實に貳萬分一

◎ ネオトン石鹼液に就て

一、概説
 「デリス」の有毒成分「ロテノール」は水及「アルカリ」に對し
 て極めて不安定にして調製法宜きを得ざれば効力減退し貯藏
 中變質して効力なきに至ることあり。故に之を特殊の方法に
 より魚油に溶解せしめたるものにして「バター」狀黄褐色を呈
 するものあり。かくすれば長期の保存に耐へ變質することな
 く石鹼水に良く混和す。一般的接觸劑として効力多く「アカ
 ダニ」に對して有効なる特性あり。最近液體「ネオトンの市
 井販賣品もあり。

二、配合量
 ネオトン 一五〇乃至二二五瓦(四〇瓦一六〇瓦)

石鹼 四五〇瓦(二〇〇瓦)
 水 一八〇三立(石)
 三、調製法 温湯五升位を用意し石鹼を細かに削りて溶き
 (煮湯溶解するも可なり)充分溶解したるときネオトンを投
 じ良く攪拌すれば數分時にして石鹼水と良く混合すべし。此
 藥液に不足の水を加ひ全量とす。若しくは「ネオトン」を布袋
 に入れ温湯石鹼水中にて揉み出すも可なり。
 四、使用上の注意 「ネオトン」の原液は保存上毒力不變な
 るも稀釋液は水く貯ふるときは効力を減す。

の微量にて人身に無害に菌を全滅することの出来る殺菌劑
 力が強いのであります。
 金澤醫大ガーデン主任安江技手は從來蓄積も決して花
 の咲かない洋草に殺菌劑を撒布して結實せしめたこと殺菌劑
 が如何に植物に必要であるかと感心して居りました。而も其
 の洋草は見掛上何等病害に罹つて居ないのであつたこと事
 あります。殺菌劑加用の殺菌劑を撒布するときは夏日菊の葉
 の裏面に不快な色調を現はす虫害を無くし常に光澤を有する
 青葉に接することが出来ます。ボルドー液と異なり藥は過度な
 軟味と充分に發育し、光澤を増すことは争ふことの出るぬ
 事實であります。此の點に於て藥液撒布のものは撒布せざる
 ものよりも落葉の有無に拘らず美しいのであります。

(ロ)方法
 鉢若くは木箱(深さ三四寸)の底に小炭若くは土塊(用土を
 篩ひたる塊)を敷きて前記の用土を入れ平に均し區劃を施
 し如露にて適度に土を濕し、一種類づゝ各區劃内に播種す。
 各區劃内には花名札を立つ。而して軽く撒水す。一二週間は
 「ガラス」板若くは厚紙を以て掩ひ温熱なる軒下或は「フレ
 ム」内等直接雨のかゝらぬ場所に置くべし。爾後表土の乾く
 を見れば如露にて灌水す、かくすること二週間に於て貝割
 を始め發芽を見る。

三、試育法
 (イ)發芽後の手當
 種子より根を生じ貝割を始めるを見れば日地を取り除け軽く
 灌水を繼續す。漸次發育を助く。
 (ロ)移植
 幼芽の發育二寸にして先づ五、六寸の仕立鉢に培養土を
 使用して二三本宛移植す。而して四五寸に伸長すれば畑地若
 くは他の鉢に移植すること差支なし。
 以上實生の大略を陳述せり、實生は其年は只花を見可否の
 見込をつけ得れば足れりとす。見込あるものは翌年本栽培を
 なす。本栽培に依りて花輪大となり花葉も亦豊富に花容極ひ
 初年よりは見違ふるばかりに善くなるものなり。尙注意すべ
 きは同園中に小菊山菊一文字咲等を共に栽培するときは優良
 なる實生種を得る事極めて困難なれば隔離するを要す。

大菊の作りか 味地實 引手地實

●口繪大菊原色寫眞●

栽培曆表

第一章 概説編

第二章 栽培概要(根分ち開花まで)

第三章 用土及用具編

第四章 栽培用具

第五章 肥料編

第六章 肥料の種類と成分

第七章 肥料の施與法

第八章 日當り

第九章 水

第十章 根

第十一章 芽

第十二章 吹かし芽

第十三章 植込み

第十四章 摘心(三輪立)

第十五章 本

第十六章 柳

第十七章 雷の選定

第十八章 支竹の植立

第十九章 輪蓋の取り付

第二十章 病害虫の預防と調劑

第二十一章 病害虫の預防と調劑

第二十二章 病害虫の預防と調劑

第二十三章 病害虫の預防と調劑

第二十四章 病害虫の預防と調劑

第二十五章 病害虫の預防と調劑

第二十六章 病害虫の預防と調劑

第二十七章 病害虫の預防と調劑

第二十八章 病害虫の預防と調劑

第二十九章 病害虫の預防と調劑

第三十章 病害虫の預防と調劑

第三十一章 病害虫の預防と調劑

第三十二章 病害虫の預防と調劑

第三十三章 病害虫の預防と調劑

第三十四章 病害虫の預防と調劑

第三十五章 病害虫の預防と調劑

第三十六章 病害虫の預防と調劑

第三十七章 病害虫の預防と調劑

第三十八章 病害虫の預防と調劑

第三十九章 病害虫の預防と調劑

第四十章 病害虫の預防と調劑

東 京 市 本 町 一 丁目 一 番 一 号
 會 秋 千
 金 三 五 六 八
 口 八 三 六 八
 座 番 六 八

溫交欄

◎横濱市の菊花大会に就て

東 海 生

年々審査員として本部から出張を命ぜられて居る關係上、横濱市主催の菊花大会に就て何か感想を書けと云ふことですが、實はこれと云ふ感想は何もないのです。其當時は何かあつたかも知れないが、お正月を迎へて、又一ツ輪を取つて水の冬、中關東名物の空ツ風に吹き飛ばされて居たせいか、それとも暮れの忘年会が案外効果をもたらしたせい、今となつて感想めいたことは何一つ選つて居ない。誠に申譯のない次第である。何でも平謝りに謝つては見たが、編纂部の方からは中々お救しがない。何しろ間もなく櫻も咲かうと云ふ時節になつては、如何な菊狂ひでも重陽の季節とは何もうも感じがよくはない。時節錯誤である。一體會報などはいつと早く……

……オット脱線。其處でと……まよ、何でも與太を書き擲つて責めを免れることに度胸を決めてみる。先づ第一に横濱行と云ふことを考へて見る。これは最早兩三年繼續して居るが、正直なところ、自分にとつては少なからぬ苦痛である。年が年中菊の爲に生活の半以上を犠牲にして、やつと開花のシーズンに達した頃と云ふものは、菊作りにとつて實に一刻千金の價で置いた斯ういふ時期に自家の花壇を草葉同様のまよに打撿して置いて、二十里先きの他國まで勞役を求めに行くとも云ふことは、全く會の爲なればこそである。中心不平等ながらも、根が正直者のごとく、所定の時間迄に駆付けて見ると、まだ當事者さへもお出ましになつて居ない。本會代表の審査員としては同地の島山君と自分である。一昨年申合せた様に足を怪我したのも何かの因縁であらう。島山君は中々の論客でもあり事務もどしどしと運ぶ人であるから、自分はたゞの客に供はあつて居れば可い譯でもある。やつと顔の揃ひは正午真際である。維新の文明は何んでも此の近邊から這入つて來た様に物の本で習つたのであるが、時代の推移は恐ろしいもので、時間の觀念などは全く地方的になつて居る。それから悠々と打合會が始まる。打合事項の十數條は可いとして、花壇の割當が六ヶ敷い。賞品配當の件で論戰が始まる。主催者側の割當では元來公園課で培養した作品を陳列するが本體で、他は随伴であるとのこと。寧ろ公園課の培養を廢止して其豫算を各會に配當した方が、市民の歡迎するところではないかとの説が出る、いやそれでは傳統に反すると云ふ。こんなところにも民衆と官僚との争ひがある。これは打合會のことであるが、擬て審査當日には又審査事項に就て意見の相違はされる。それでも昨年あたりは各會の意見に委ねられたのであるが、最初の年などと云ふものは、兩々相持して居なかつたのである。審査の標準が分類的であつて、曰く培養、曰く容姿、曰く葉色、曰く花容、曰く色澤、曰く何、曰く何、曰く表土、此の表土に至つては、審査員一同唖然たるを得なかつた。修身、國語、漢文、地理、歴史……圖書、體操、合計、平均點と云つた具合で、恰も學年試験の格である。至れり盡せりの審査法ではあるが、何しろ數百點の菊を僅か小

◎湯本支部へ出張の所感

隈 部 末 熊

本部からの強請にて湯本支部展覽會の審査に出掛けました所今度は所感を書けと強請せられ柄にもない事ばかりで實に閉口頓首乍ら是も運命と諦め所感を赤裸裸に述べて見ませう。有體に白狀しますれば展覽會の設備は會員の少なき割合には豪氣のもので、其御熱心の度には敬服の外はなかつたのであります。又陳列數の多きも一驚を喫した譯であります。所が内容品は日比谷に比較すれば其の距離は決して僅少ではないので、勿論其管で、東京では多數會員中而も飛切り特製天狗、大中小天狗、木葉天狗、如何様天狗、の方々が培養せられた澤山の中より、精探に精探せられたものであります。湯本支部の出品は中々固い、而も培養の總てが掻き集められてある様ですから彼此比較するのが却て野暮かも知ませぬ。とは云ふもの、夫れが却て會員諸君の熱心に且つ研究培養せられたる眞の價値を觀察する事が出来私に取りては審査以外に大に裨益したので感謝に堪へぬ次第でした。此の如き展覽會は見世物的價値は多少減少するも、趣味と培養研究上には大に價値あるものと信じます。主催者も其意味で行はれたるものにはあるまいかと存じます。何となれば原因を探求し得又得ん得心掛けてこそ進歩も致しますが、只漠然として得たる美花藝葉は浮雲同然で將來必ず同一好果を望まれぬのであります。前陣の心腹を前提として私は内心下の如き希望を抱きました。即ち生物は嚴密の意味に於ては其土地の特産物でありますから東京と湯本支部とは氣候風土が異なるに從て同一の花を咲かせようと思つたらば培養土も肥料も灌水も湯本地方に恰適する様更に一段の研究を重ねたいのであります。假に湯本地方にて鉢内の土温を昇さんが爲め砂若くは腐植土を増加せんか硝化菌培養は流出の恐あれば安母爾亞態又は有機體の態

形にて施與したのであります。又裕に云ふ機廉粉多き培養土なれば燐酸の吸収力が強いから培養の初期より施しても差支ないばかりでなく、土が肥へて居れば通過比が減少して菊の「エネルギー」を無益に消費せず、却て良のであります。砂土多ものは含水量は少く蒸發量も少く、吸濕係數と養測係數の差少く、土若くは粘土は其差次第に増加するを以て含水量も増加せしめねばなりません。右の様な譯であれば菊に適當の土温を與ふるが爲め、培養土を作れば肥料も灌水も之に應じて變更する事は自然の結果でありますから、一概に地方の異なる大家の培養土や肥料や又其施肥法等を其健弱存に實行する事は甚だ間違を生じます、古人も申す通り江南の橘之を江北に移せば積となるのもありませぬ。

湯本支部では培養種數が余りに單調に傾きはしないか考へました科學的培養の趣味を兼ねれば夫も澤山でしょうが折角天然が織り成せる千姿萬容色彩光輝を他花に見出す事の出来ぬ菊花に對して敬愛を失ふは是れあるまいか。

本部から審査に行く様に申された中は内心びく／＼しましたが支部會員諸君の御丁寧なる取扱や菊花に對する御熱心に動かされ知らず／＼赤裸裸に所感を申述べた次第です。差し障りの御方へは前以て御詫し置き茲に筆を擱きます。

◎鹿沼支部出張の所感

竹 内 榮 太郎

若輩未熟の私が今年度の栃木縣鹿沼支部の審査に出張を命ぜられました。その品評に就ての感想に先立って思ひ浮ぶのは此地方と私の作菊との因縁であります。私が栃木縣宇都宮で初めて大菊を見たのは明治四十三年頃で、同市の所々に實に見事なる大菊を見て菊もこんなに咲くものかと驚嘆し、どうかして此の種の大菊を手に入れ培養して見たいと心ろ掛たる結果紹介を得て同市の或る一人に禮を厚くして、種苗の分譲を願ひ、翌年四月頃漸く三芽程の分苗を得て鬼の首でも取つた様に喜び勇んで培養致しました。今年の天長節にはとても大きな菊を咲せて會で自分が驚嘆したと同じ様に衆人を驚かせんものと密かに微笑しながら培養してゐましたが、扱いたのを見れば衆人を驚かす所か自分自身が驚かされた程大菊ならざる菊が咲いたのであります。

さて不肖私が大正九年千秋會の事務所を御預り致してから逐年會員の増加は實に目ざましいものがあります。私の思出深い宇都宮方面は一向に會員の増加も無く、如何した事でも有らうと思つて居りました。思ふに去る頃私の嘗てた様な時代をくれの封鎖主義で苦しんで居る同好の士が澤山ある事として、如何にせばかかる情弊を脱し萬事開放のにして毅然として斯界に覇を唱へしつゝある吾が千秋會のあることを同地方一般に知しむる事が出来るかと常に思つて居りました。所、偶大正十五年鹿沼町の橋田秀吉氏より書を送られたるを機會に橋田氏と會ひ、千秋會の培養法と菊苗十數種を御分ち致しました。其年の橋田氏の菊はなかなか見事な出来で好評鹿沼町全町に鳴り渡り、今迄眠つた居た此町の菊花界を目覺めしめた感がありました。これが動機となつて同町の同好の士は其秋より大分に油が乗り、其の翌昭和二年千秋會會員僅かに六名なるも、會の苗の外か小生の持苗十種を送り、大奮起を望みたる所果して同年の秋は同町今宮神社境内に同志相寄り陳列會を催したる所異常のセンセーションを起したのであります。

以上の様な經歷を持つた鹿沼町同好の志は、千秋會に入會し此所に一躍二十五名の團體となり、昭和三年より千秋會鹿沼支部となり、今回此所に千秋會支部として第一回の品評會を開くに至り不肖私が審査に出張を命ぜられたる次第であります。審査の結果は本年會報で明かでありませぬが、昨年よりは一般的に向上したるも一部の作品は降雨多かりし爲め、此の土地特有の害虫發生の爲め、昨年より大分劣りたる様であります。然し一般的に規則的の菊の培養法を實行してより一二年の研究よりなれたる團體の品評會としては實に其の長足の進歩は驚異に値しました。欲養の葉の美しさ、姿の清潔なること、帝都の檢の木舞臺へ持出して引けを取らぬ技群の培養も大分ありました。鹿沼の中にあらまき委が日々やつれ行く日比谷公園の出品花を見て居る私の目には、清々しい氣分を禁ずる事が出来ませんでした。此如地の利を得葉の美しさを保ち、花の艶も充分出る様な場所では陳列の出来得る方は幸福で、黄蘗萬丈の都會の中で作居る私どもから見れば羨望にたへぬ次第であります。これは餘談であります。よく耳にする所でありませぬが先輩の教へて呉れた通り肥料も水も與へたるも好結果を得ぬ、何か秘傳が外にあるのであらうなどと吾が千秋會では秘傳と稱する如き事は既に培養書に公開してあるものであります。要するに菊の個性を知り肥料、日光、給水等大切に研究すれば必ず或る程度の作品を作出する事は難くないので、土地氣候の關係で培養費と全々同一とはまへりませぬが大體培養書に標準を置き心に菊の日の發育を眺めながら加減に留意して、更に一層來秋の當鹿沼支部品評會の盛大ならむ事を願ひてやまぬ次第であります。

◎通信

新潟縣五泉町 小 見 晃 藏

貴會が逐年異常なる隆盛を來たしますことは貴會のため將斯界のため誠に慶賀の至りに堪えません。之折貴下並に會の先輩諸氏の獻身的御盡力の致す所と存じます。昨冬創立十周年記念號巻頭に於て廣く天下に向て宣言せられたる如何にかつたでせうか。寔にむべなる哉その會員數の他會に比し斷然頭角を現はせる。然して會報に於て又陳列會場に於ける品種並に培養成績の異彩を放てる。殊に昭和二年十二月號號の堂々たる等しく之斯界の驚異たるを失ひませぬ。嗚呼我等會員は僅々三回の會費を以てか、特權に浴し得るの光榮を有する喜亦何にかたふべくもありません。謹而感謝致します。此の上の希望も潜越ですが、錦上更に花を添ふることにもならんかと思ひます。會報に質疑應答欄をお設け下さること及び、研究欄に今少しの御努力を願ひ度く存じます。又會員中にもその他にも未だ銘鑑に御載なき秘藏種が數々あること存じます。斯した天下の珍種の寫眞を可及的に會報に御紹介下さらば會員の利する所大ならんかと愚考致します。尤も出來得ることなら會報のほかに毎月三十錢内外の雜誌を御發行下さらばとも望んで居りますが尙早でせうか。次に私は今年大切な時期に當町の三分の一を焼盡した例の大火災に遭遇し(右様で類焼はまぬかれました)一時培養の腰を折られましたが、どうやら例年並の花を見ることが出来、又當町の菊花會(晚香會)も十一月五日より六日間競技大會を催し、大

地位同 秋元良平 地位 夕紅葉 此田富之助
 地位同 石黒又吉 地位 水晶園 村田清次郎
 地位同 一等(以下略) 地位 一等(以下略)
 【開管咲の部】
 天 位 水晶園 秋元 爲吉 天 位 谷間響 中根秀次郎
 奉祝花【文字咲の部】田口吉太郎以下十二名出品

◎湯本支部【福島縣湯本町日渡 菅野彌助方】

當支部昨年度は當地所在入山炭礦社内に労働争議勃發し數ヶ月の久しきに渉り支部員の大部分同社關係者でありました爲に其影響を蒙り止むなく休會僅かに四、五の同好者により培養を繼續するの狀態でありましたが本年は同社も舊態に復し殊に菊花満開の時季に於て御大典を舉行せらるゝ國民千歳一週の年なれば大花壇を設置し大々的奉祝の意を表したき希望を以て經費其他に關し補助方入山會社へ申出ましたところ同社は「人生常に自然を離れて生くる能はず之と親むる路は菊花培養の如き最も可、殊に殺伐なる労働に従事する當社従業員等に菊花の培養を普及するは一面思想善導の資ともなることなれば可成廣く社内に歡誘せられたし、會社は此趣旨に基づき相當經費の補助は勿論其他總ての便宜を計るべし」とて絶對の援助を與へらるゝこととなりました爲に當支部各員異常なる緊張を帯び熱心培養に従事致しました、然るに本年當地方は發育最も旺盛なる七八月の候に於て連日降雨涼氣相繼き殆ど日射を見ざること約一ヶ月に及びました之れが爲か諸障害續發培養上頗る困難致しましたが各員の努力は此難關をも突破致し優秀花多數を見るに至りました。

出品評會記事

於茲十一月三日明治節の佳辰を卜し御大典奉祝菊花大展覽會を開催大典當日たる十一月十日迄一般の觀覽に供しました。其間十一月六日には本部審査員により審査を受ける旨前以て公表致しました然るに當地方に於て斯道大家の審査を仰ぐは本部を以て嚆矢とするので之れが結果を見んものと當日審査の終るのを待ち兼ねて入場者殺倒し會場内雜踏するに至りましたので整理上當審者を増員するの盛況を呈しました。

出品成績

- 一等 不夜城(本部寄贈銀洋杯受賞) 植松 淳 四等 紅玉殿
 - 二等 小忌衣(同) 銀メタル受賞) 石川 徳壽 四等 三笠山
 - 三等 平 和(同) 同 今野 清三郎 五等 萬 歳
 - 四等 小忌衣(同) 同 菅野 彌助 六等 金鳳の舞
- 戸來 勇太郎
塚本 善八
橋本 清太郎
池 清

總會記事

十一月十九日午後五時より秋季總會を開催昭和三年度會計決算收入總額金六百拾壹圓六拾陸錢支出總額金五百八拾六圓四拾貳錢差引金四拾五圓四拾八錢差引金六百拾壹圓六拾陸錢報告の通り滿場異議なく承認並に本報告を決定し引續き來年度試作方法其他事項を協議し午後十時閉會せり。

◎小金井支部【東京府北多摩郡小金井村梶野 吉野源藏方】

十一月十九日午後五時より秋季總會を開催昭和三年度會計決算收入總額金六百拾壹圓六拾陸錢支出總額金五百八拾六圓四拾貳錢差引金四拾五圓四拾八錢差引金六百拾壹圓六拾陸錢報告の通り滿場異議なく承認並に本報告を決定し引續き來年度試作方法其他事項を協議し午後十時閉會せり。

十一月二十日 午後一時武蔵小金井駅前小金井家に於て春季臨時會を開く協議事項左の如し。
 一、本年度菊花品評會は十一月三日より十一月十五日迄十三日間昨年總會決定通り園分寺停車場附近に於て開催のこと會場位置は該地方役員に一任のこと。
 一、切花競技花として春海を選定品評日を十一月七日とし可成會員全部出品するやう地方役員に於て勸誘すること。

一般概況

委員會及總會
 一月二十日 午後一時武蔵小金井駅前小金井家に於て春季臨時會を開く協議事項左の如し。
 一、本年度菊花品評會は十一月三日より十一月十五日迄十三日間昨年總會決定通り園分寺停車場附近に於て開催のこと會場位置は該地方役員に一任のこと。
 一、切花競技花として春海を選定品評日を十一月七日とし可成會員全部出品するやう地方役員に於て勸誘すること。

一、切花は競技花以外は一人に於て何本出品するも支差なきこと。
 一、盆養花搬入は十一月一日とすること但し花壇は限りある爲め三本仕立各部一鉢宛に制限すること即ち一人五鉢以内出品のこと。
 一、右協議事項決定後茶話會に移り盛會裡に散會す
 六月十日 午後一時支部長星野甲子三郎氏宅に於て第一回研究會を開く。
 本部より深井常務委員來場せられ一般菊花栽培上に就き懇切に説述せらる會する會員多數に及び盛會を極む。
 十月二十日 午後一時支部長宅に於て委員會を開く協議決定事項左の如し。
 一、菊花品評會に關する件。
 イ、審査員派遣方を本部に交渉すること。
 ロ、審査法は本年度より本部に準ずること。
 ハ、賞品購入方を常務委員吉野源藏氏に託すること。
 十一月七日 午前十時より本部派遣の審査員高橋節夫、佐々木榮次郎兩氏品評會出品盆養花切花競技花普通切花(別項参照)審査を行ふ。
 十一月九日 午後一時品評會場(常務委員星野秀吉氏宅)に於て本年度總會開會出席會員二十三名總會次第左の如し。
 一、會務報告(常務委員星野甲子三郎氏)
 一、決算報告(常務委員吉野源藏氏)(別項参照)
 一、役員改選(會員投票による)(當選氏名別掲)
 一、協議 昭和四年當支部品評會に就き左記の通り決定。
 イ、開催場所を武蔵境停車場附近に選定の事。
 ロ、切花競技花を白鳳冠とす。
 ハ、賞品賞品授與
 右總會終り後懇親會を開き午後五時散會。

昭和三年度收支決算表

一、總收入	金壹百六拾圓也	會費	九〇圓〇〇
二、總支出	金壹百七拾圓參拾六錢也	會議費	三八圓四六
差引	金拾圓參拾六錢也	備品費	二四六〇
收入の部	不足	賞品費	二四四五
一金壹百六拾圓也		通信運搬費	八四九四
内 費	一三五四〇〇	雜費	五四八一
有志寄附	二五四〇〇	右の通り決算報告候也	
支出の部	會員四十五名分	昭和三年十一月九日	
一金壹百七拾圓參拾六錢也		千秋會小金井支部常務委員	
内 譯		會計 吉野源藏	

出品報告

會場 園分寺停車場星野秀吉方
 切花 (審査十一月七日)
 【競技花の部】
 春の海
 天 位 野口誠十郎
 地 位 網本吉雄
 一人 位 星野甲子三郎
 同 位 大坂長徳
 同 位 谷合庄平
 同 位 吉野源藏

【厚物咲の部】
 天 位 野口誠十郎
 地 位 網本吉雄
 一人 位 星野甲子三郎
 同 位 大坂長徳
 同 位 谷合庄平
 同 位 吉野源藏

【細管咲の部】
 天 位 千原松
 地 位 池田權藏

【木管咲の部】
 天 位 星野秀吉

【細管咲の部】
 天 位 玉琴音
 地 位 紫光星
 天 位 池田權藏
 地 位 星野甲子三郎
 天 位 不夜城
 地 位 野口誠十郎

盆養三本仕立 (審査十一月七日)

Table listing members and their roles in the 'Sanbon Shidate' (Three Main Stand) category, including names like 白美玉王, 吉本錦司, and 野口誠十郎.

昭和四年度小金井支部常務委員

Table listing the Executive Committee members for the 1949 Choshi Branch, including 星野甲子三郎, 吉野源藏, and 津野徳七郎.

横濱支部 (横濱市神奈川區青木町松本一五四九 鳥山貞美方)

概況 本支部の発展は除々たりと雖も健實に其歩を進め會員一同の熱心は野毛山公園菊花大会の成功を來たし將來の大成功し

一、四月三日 支部事務所にて第一回懇談会を開催し出席者約二十名にして苗の撰定法根分法挿芽の方法等に就て

一、九月三日 支部事務所にて第三回懇談会を開く出席者二十三名にして苗の撰定法支竹の立て方止め肥料の造り

昭和三年度收支決算報告

Financial report table for the 1948 fiscal year, showing income (収入) and expenses (支出) with various sub-items like 金百六拾四圓八拾錢 and 金七拾參圓.

盆養花成績 (合同審査) 出品點數九十一

Table of cultivation results for various flower types (e.g., 厚物咲, 薄物咲, 切花) categorized by grade (優等, 一等, 二等) and listing the names of the growers.

役員

Table listing the roles and names of the branch officers, including 常務委員 (Executive Committee), 庶務主任 (Secretary), and 方面委員 (Regional Committee).

鎌倉支部 (神奈川縣鎌倉町雪の下二八〇 吉田庄次郎方)

概況

一月廿日 午後一時事務所にて總會を開き左の事項を決定す。 1 本年十一月は今上陛下御即位の大禮を京都に於て行はせらるゝに付當支部に於ては奉祝の爲新らしき花壇を新調

十一月四日 盆養搬入、午後四時終了、總數百〇六鉢。
十一月六日 盆養の審査をなし直に發表す。
十一月八日 切花品評會開會午前受附正午締切總數九十八點。
同日 審査直に發表。
同日 午後四時より事務所に於て賞品授與式を行ふ。
十一月十八日 右大會閉會し出品撤去返還せり。
開會中は連日來觀者殺到し非常なる盛會に終りたり。

昭和三年度鎌倉支部決算書

Table with financial data for the Kamakura Branch, including income (収入) and expenses (支出) sections with various sub-items and amounts.

盆養の成績

Table showing the results of the pot raising competition (盆養の成績), listing names and their respective positions.

切花の部

Table detailing the cut flower department (切花の部) results, categorized by different types of flowers and participants.

昭和四年年度常務委員

Table listing the members of the Executive Committee for the 1929 fiscal year.

高知支部 [高知市北力町 辻琢磨方]

概況
當地方に於ても近年千秋會を認むるもの多くなり目下會員數八十名を算し逐年盛大に赴きつゝあるは欣快に耐えざる所なり又栽培に對する研究熱度も次第に昂りつゝあるは頗る我意を強くする處にして特に昨年は廣古の御大禮に刺戟されてか一般の緊張振り目覺しきものありて培養上には過温不作の年なりしにも拘らず良好の成績を示せる會員多かりしは確に一段の進歩を示せるものと云ふべし、元來當地方には土佐作りと稱すべき獨特の栽培法ありて其趣向とする所は六、七寸の小鉢に三輪立として小盆栽に仕立て床間に飾りて樂むと云ふ風なりしが形彩色共に貧弱を免れず大菊の本性を發揮すること能はざりしが五、六年前辻氏が東京より歸郷して千秋會と其栽培法を宣傳したる結果今日では殆ど皆其の風に靡き茲に栽培

上劃期的變化を出現するに至れるものなり、唯だ遺憾とするは未だ實生の發達せざる一事なるも此頃弗々之を試みる向もあれば追々其熱心家も出來て新種の創作も實現し他日本部へ逆輸出をなすの盛況を見る事も滿更夢想のみにはあらざるべきか。
一、切花展覽會、會員の増加に伴ひ會員分布地域の關係等より本年は高知市と佐川町の二ヶ所で展覽會を催す事となり十一月八、九、十日其第一回を佐川町公會堂に開きたるが該地方には始めての事とて且ツ一方志士遺墨展覽會などの催もありたる爲め近郷よりの觀覽者も加はりて非常なる盛況を呈したり、出品點數切花百五十余及盆養三輪立五十余鉢に達し小地域の催としては案外の成功なりき。
次で十二月二十四の三日間其第二回を高知市高知新聞社講堂にて同社後援の下に開催せり、出品點數切花三百余點に及び頗る盛會を極めたり。
一、二回共會員一般投票に依り優秀花を選抜したる結果左の如し。
第一回佐川町にて
(特別花)
一 等 歸去來 武政 徳夫
二 等 羽衣舞 結城固守郎
三 等 鳳 舞 西川壽恵吉
三 等 新日光 野並 金重
(普通花)
一 等 歸去來 武政 徳夫
二 等 春の海 西川壽恵吉
三 等 白鳳冠 同 琢磨
三 等 歸去來 辻 琢磨
四 等 綴の錦 同 琢磨
五 等 不夜城 西川壽恵吉
以上
第二回高知市にて

福岡支部 [福岡市新大工町一二有田 延方]

十一月三日 明治節の佳辰をトシ第一回切花會を催す、競技花は歸去來、八重霞及瀧の三種として昨年の總會に於て決定通知したるものなり、會員は各種一本宛出品し得ること、而て最高點者に本部寄贈の銀盃を、次點者にメダルを賞與することとしたれば一般の意氣込みは在來會で見ざる程なりき出品總數八十八點。
十一月十一日 第二回切花會を催す、今回は花種を特定せず、會員各自は厚物及厚走の内二本、太管及間管の内二本、細管二本、合計六本を出品し得ること、これは上出花せんとするものは總て参考花に編入す、参考花は審査を行はず、又本年度到來の新種として苗數少く會員五名以上に分配し得ざりしものは品評花として出品することを得ざれどもこれが培養者は参考花として可成出品し全會員に新花を紹介することとせり。第二回の分に對しては本部寄贈のメダル二個を當てたり。出品總數九十三點。
又十一月十一日より二十三日迄福岡市役所の懸壁に依り御大典奉祝の意を表する爲め支部員の盆養花を同市通俗博物館に陳列して「御大典奉祝、千秋會福岡支部切花大會」なる大看板を掲ぐることとなり、突如の思立ちなれども會員競りて出品し大菊百餘點、懸崖十餘點を集め得たるは意圖外的好成绩なりき、又第二回切花も亦審査終了直ちに同館に陳列せり、これ本部支部員の作品を公衆の縦覽に供したる初回なりとす、博物館の出品に對しては一切審査を行はざることとせり。

第一回切花會成績 (出品總數八十八點)

Table showing the results of the first cut flower competition (第一回切花會成績), listing names and their positions across various categories.

第二回切花會成績 (出品總數九十三點)

Table showing the results of the second cut flower competition (第二回切花會成績), listing names and their positions across various categories.

◎宇都宮支部

宇都宮市内には晚香會並に菊評會ありて、何れも會員百五十名以上を有し、毎年二荒山裏地及び花屋敷にて菊花品評會を開催し來りしも、新種少なきを慮り昭和三年四月千秋會宇都宮支部設立を企畫し、有志に談合したる處二十五名の同志を得たり、依て規約を作り常務員、代表者事務所等を定めて設立承認を得たり。昭和四年度當支部役員及品評競技左の如し。

昭和四年度役員

- 常務委員 支部長 河津 宇平 常務委員 黒後 寅吉
庶務主任 北條 濱吉 會計主任 阿部 光祐
同 佐藤 近之介 同 横堀 龍男
同 猪俣 藤八 同 石田 徳太郎
同 坪山 治三郎 同 黒後 金平
同 市村 金藏 同 馬場 福太郎

◎浪華支部

一、昭和三年十一月三十日附を以て支部設立の承認を得。
一、昭和四年一月十三日(日曜日)を下して支部設立報告總會を三島郡茨木町字西の丁一六六〇番地鈴木濱藏方に於て開く。出席者二十有余名にして、會務諸般の重要事項を協議し、併せて支部規約及び會員名簿等の印刷物を會員一般に配布す。支部會員現在数は四十四名にして、尙入會締約者多数あり。故に近き將來に於て大に發展の見込みなり。
一、昭和四年一月二十八日當支部特有の菊花銘鑑及び苗木分譲請求書用紙を支部會員一同へ配布せり。

昭和三年度收支決算

Table with columns for '収入之部' (Income) and '支拂之部' (Expenditure). Total income is 1,040 yen, total expenditure is 1,040 yen.

◎水戸支部

- 昭和四年度役員
常務委員 高橋 純 常務委員 後藤 武雄
同 掛札 豊彦 同 野田 利夫
同 中村 久吉 同 結城 秋治郎
同 和知 忠禮 同 高橋 純

◎藤澤支部

- 昭和四年度役員
常務委員 櫻本 豊次 常務委員 佐野 董司
會計主任 常盤 嘉十郎 同 寺田 忠義
同 市川 瀧藏 同 根村 保
同 清水 久吉 同 高松 貞夫
同 神田 芳藏 同 落合 三雄
同 木下 鐵太郎 同 和田 文七
同 三橋 善吉 同 櫻井 兵四郎

公告欄

◎特別獎勵賞豫告

昭和四年度の特別獎勵賞左の如し
(イ)切花特別競技花
白鳳冠 (十一月三日) 三才花(三) 實物大寫真額附(三) 一等花 繪葉書(四十組)
(十一月十日) 三才花(三) 實物大寫真額附(三) 一等花 繪葉書(四十組)
(十一月十七日) 三才花(三) 實物大寫真額附(三) 一等花 繪葉書(四十組)
(イ)實生新花(昭和三年及同四年の實生に限る)
優等花(一〇) 銀洋五(五) 銀 五(五)
一等花(一〇) 金 牌(一〇)
(ロ)切花競技花(三回)(但一人には各回同一賞品一個限りのこと)
三才花(五四) 銀 五(五四) 優等花(五四) 輪 台(五四) 一等花 繪葉書(三百六十組)
三才花(三五) 銀 五(三五) 優等花(三五) 輪 台(三五) 一等花 繪葉書(三百六十組)
(ハ)盆養三本仕立(但一人には同一賞品一個限りのこと)
三才花(二五) 青銅製一輪挿花瓶(一五) 優等花(五〇) 九寸鉢(五〇)
優等花(一五) 銀 五(一五) 一等花(五〇) 九寸鉢(五〇)
(ホ)盆養一本仕立(但一人には同一賞品一個限りのこと)
天位(五) 青銅製一輪挿花瓶(五) 地位、人位(各五) 銀洋五(一〇)
優等花(一五) 銀 五(一五) 一等花(五〇) 八寸鉢(五〇)
總計 青銅製花瓶 二〇 實物大寫真額附九 銀洋五 一五 銀 五 八九 金 牌 一〇
九寸土鉢 五〇 八寸土鉢 五〇 輪 台 六三東 繪葉書 四百八十組

◎栽培用品の購入

本會は會員の便益の爲栽培用品の共同購買を致します。昭和四年度の購買品目、代價及申込期限等は左表の通りであり、希望の方は申込期限に遅れないやうに申込下さい。申込を取り纏めて注文するので、申込期限後の申込は、お断りしなればなりません。送附を要するものは代金到着順に発送します。又前金拂込なきものは送附しません。

Table with columns for '品目' (Item), '仕様又ハ名稱' (Specification), '申込單位' (Application Unit), '價格' (Price), '申込期限' (Application Deadline), and '備' (Remarks). Items include fertilizer, pesticides, and various types of pots and containers.

◎ 希望通りの苗を得るには

最新優良なる菊苗を潤澤に配分することは本会の理想の一であり、本会はその爲に他の會では思ひも寄らない研究と努力をして居ます。役員一同は文字通り苦心慘慮して居ます。それは會員が多いので五本や十本の親苗があつても申込に應ずるだけの數に殖すのは容易の業ではないのです。秋の末から寒中を通して役員一同は新苗増殖に全く専心がありません。それでも申込通りの苗が完全に潤澤に行き互れば誠に満足ですが、何しろ種類に依つては冬中に一種千五百本にも殖さなければならぬものがあります。事によると代用種を送らねばならない現状であります。會の方では何とかしてそんなことのないやうにと努力して居るのであります。會員の増加が急激なものですから、役員だけの手では容易に追いつくことが出来ません。これは是非會員全部の協力に依つてはならないのであります。

元來吾々の千秋會と云ふものは多數の個人が有無相通する爲の機關として存在するのですから、吾々は十本の苗が欲しければ先づ自らも十本の苗を提供してかかるのがほんとうの課であります。さうして初心の方又は特別の事情のある方でない限り手元有り合せの苗を十本や十五本會へ寄附することとは全くないことでもあります。殊に秋花がすんで直ぐならば苗も丈夫であり氣候も良好ですから送るにも手数がかかりません。それで會員諸君が幾何の勞を惜まれず、手元

◎ 殺 虫 劑

帝國大學農學部教授佐々木林太郎氏ノ數年來研究サレタル殺虫劑ヲ昨年吾等製作リノ爲メニ分譲實際ニ使用シタル効果ヲ逐一同氏ニ報告滿一ヶ年種々改良ニ改良ヲ加ヘテ結果殺虫劑ガ出來上リマシタ。

昨年ノ製劑ハ長ク保存シ居ル内ニ幾分變質スル結果効力ノ退化ヲ發見シマシタノデ今回製劑ノ萬歲液ハ如上ノ欠點ヲ改良シ單ニ殺虫ノミナラズ殺菌力モ大ニシテ葉裏ノ斑點(カビ)ナドニ有効ニシテ葉害ハ勿論絶對ニ無ク油虫ノ如キハ六七十倍デ死ニマス。本液ノ効力試験ヲ四ヶ原農事試験場へ出願致シタトコロ殺虫劑研究デ全國的ニ有名ナ同所技師農學士尾上哲之助氏ヨリ油虫ニハ二百八十倍迄有効也トノ證言ヲ得、其ノ他ノアナル害虫ニ就テノ試験ノ結果ニ就テ最近同農事試験場カラ證明書ヲ得ル事ニナツテ居リマスカラ使用上參考ニナルト思ヒマス。

殺虫ノ目的ヲ完全ニ達スルニハ二回又ハ三回連続的ニ撒布スルノガ有効デス。一回ノ撒布デハ藥ニ對シテ強イ生殘リノ虫ノ爲メニ僅カニ二三日ヲ又澤山ノ油虫ガ生ジマス。

に有合せの苗を十本でも二十本でも各自に本會へ寄附して下さるならば苗の配給の問題は立所に解決致します。その際於て役員の方では新種の作出増殖に全力を注げば全く以て千秋會は鬼に金棒、思ふ存分の苗が手に入つて會員諸君方々歳であります。これは一つお互の爲に是非共實行しなければなりません。

それで會員各位から苗の寄附を頂くとして、その寄附された苗は、その種類を持たない他の會員に配られるのですから、次の通りの御注意を願ひたいのであります。つまり御寄附下さる苗は次のやうにして頂きたいのであります。

イ 其年の銘鑑に書いてある通り色や瓣の太さの花の咲いた鉢のからとつた苗に限りませす。

ロ 苗の名札は同種のものでもなるべく一本一本に布又は木札をしつかり付けて置いて下さい。

ハ 種類は大菊と一文字ならば何んでも構いません。又一種何本でも結構です。

ニ 荷造りは簡単な木箱或は竹筒の中へ濡れた水苔又は紙を入れてその中へ苗を入れて下されば大丈夫です。冬至前ならば荷造りは全く簡単です。近所ならば紙袋に入れて送られても構いません。

何らか此秋からどしどし御寄附下さることを會員一同に爲り代つて會員御一同に御願ひ致します。

萬歲殺虫液ノ創製ノ由來ト効能ヲ紹介シテ會員各位ノ御試用ヲお願い致シ、ソノ上忌強ナキ御批評ヲ得マシテ更ニ改良ヲ加ヘ經濟的ニモ吾々ノ理想通りノ殺虫劑ヲ作りタイト思ヒマス。

調 劑

東京府下世田ヶ谷池尻
藥劑師 佐藤 長藏

取次販賣所

東京市本郷區森川町一番地裏四號
千秋會事務所
竹内榮太郎白
電話小石川七五五八番
振替口座東京六五三六番

會 則 及 名 簿

會 則
會 員
會 役 員
各 地 支 部
支 部 設 立 規 約
審 査 細 則

◎會 則

(大正十四年十一月改正)

第一章 總 則

第一條 本會ハ千秋會ト稱ス
 第二條 本會ハ會員相互ニ扶助督勵シテ大輪菊花栽培ノ研究及練達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
 第三條 本會ハ會員ノ請求ニ應ジテ萌芽ノ蒐集頒布諸材料ノ共同購入ヲナシ其他適宜ノ方法ヲ講シテ會員ノ便益ニ資ス但シ發達ヲ要スル萌芽及諸材料ノ送費ハ會員ノ負擔トス

第二章 役 員

第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

常務委員	若干名
參助委員	若干名
審査委員	若干名
花銘調査委員	若干名
方面委員	若干名

第五條 常務委員ハ常務委員會ヲ組織シテ一般會務ヲ處理ス
 第六條 常務委員會ハ庶務及會計ノ主任者ヲ同委員中ヨリ選任ス
 第七條 參助委員ハ臨時常務委員ノ職務ヲ輔翼ス
 第八條 參助委員ハ現ニ協議乃至事務ニ從事セル限り其權限ニ於テ常務委員ニ異ルコトナシ
 第九條 審査委員ハ品評會出品ノ優劣ヲ審査シ及之ニ伴フ一切ノ事務ヲ擔當ス
 第十條 花銘調査委員ハ品評會出品ノ系統部別ヲ調査鑑別シ及菊花銘鑑ノ編纂ニ從事ス
 第十一條 方面委員ハ當該方面會員ノ便利ヲ圖リ栽培上ノ指導萌芽ノ分讓交換諸材料購入ノ幹事等ヲナス
 第十二條 常務委員、參助委員、審査委員、花銘調査委員ハ毎年定期總會ニ於テ改選ス
 方面委員ハ毎年度始ニ於テ囑託ス

第三章 會 員

第十三條 大輪菊花栽培ニ趣味ヲ有スルモノハ常務委員會ノ認諾ヲ經テ本會會員タルコトヲ得
 第十四條 本會會員ハ本則所定ノ會費ヲ繳出ス
 第十五條 本會會員ハ本會會員トシテハ其作品ヲ營利ノ用ニ供スルコトヲ得ス
 第十六條 本會會員ハ相互ニ萌芽ノ分讓交換ヲ行ヒ栽培ニ關スル知識技能ノ練達ヲ裨補ス
 第十七條 本會會員ハ第三條ノ施設ヲ利用スルコトヲ得
 第十八條 本會會員ハ研究會ニ出席シ乃至其作品ヲ品評會ニ出陳スルコトヲ得
 第十九條 本會ハ本會ニ特別ノ功勞アリタル會員ニ對シ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ表彰ス
 第二十條 地方在住ノ會員ハ其地方ニ於テ支部ヲ設立スル事ヲ得

第四章 總 會 及 役員 會

第二十一條 毎年一回十一月中ニ總會ヲ開キ諸般ノ報告及重要事項ヲ審議ヲシ兼テ會員相互ノ親睦ヲ圖ル
 第二十二條 研究會ハ之ヲ臨時總會ト看做ス
 第二十三條 役員會ヲ分テテ委員會及役員總會トス委員會ハ各種委員毎ニ之ヲ組織ス

但シ參助委員ハ獨立ノ委員會ヲ組織セズ

第二十四條 常務委員會ハ便宜上或事項乃至期間ヲ限リ其職能ヲ一人乃至數人ノ常務委員ニ委託スルコトヲ得
 第二十五條 總會及役員會(常務委員ヲ除ク)ハ常務委員會ノ決議ヲ以テ召集開會ス
 常務委員會ハ自ら選任シタル特定ノ委員之ヲ召集ス
 本條ノ會合ハ出席數ヲ以テ決議權ヲ有ス

第五章 研 究 會 及 品 評 會

第二十六條 研究會ハ毎年四月、六月、九月ニ各一回之ヲ開キ懇談、質難應答、研究報告及其他ノ方法ヲ以テ栽培知識ノ普及向上ニ資ス
 第二十七條 前條ノ研究報告ニシテ科學的乃至實驗的ニ優秀ナルモノハ賞品ヲ呈シテ其功勞ヲ表彰スルコトヲアリ
 右研究報告ノ審査ハ特別ノ委員ヲ選任シテ之ニ委託ス
 第二十八條 毎年一回十一月中ニ會員ノ作品ヲ出陳シテ品評會ヲ開ク
 品評會ノ會場開會日及會期ハ臨時總會ニ於テ議決ス
 前項以外ノ品評會ノ開催及本會ノ名ニ於テ行フ贊同出品ニハ總會ノ承認ヲ要ス
 第二十九條 品評會ノ出品ハ東京市及其隣接町村ニ於テハ本會ニ於テ之ヲ運搬シ其ノ費用ハ本會之ヲ負擔ス
 第三十條 品評會開會後ノ出品ハ參考花トス
 但シ常務委員會ニ於テ特別ノ決議ヲナシタルトキハ此限りニアラス
 第三十一條 品評會ノ出品ハ鉢植一本仕立、鉢植三本仕立及切花仕立ノ三種トシ各々左ノ五部ニ分ツ

一、厚 物 咲 走 付 咲
 二、厚 物 咲 走 付 咲
 三、太 管 咲
 四、間 管 咲
 五、細 管 咲
 但シ切花仕立ニアリテハ右五部ノ外一文字咲ノ一部ヲ加フ
 第三十二條 品評會ニ於テハ前條所定ノ外特別競技花及新花ノ出陳品評ヲナス
 特別競技花ハ前年ノ定期總會ニ於テ選定シタル種類ニ就キテ特別ノ品評ヲナスモノトシ一種ヲ以テ一部ヲナス
 特別競技花ニ選定サレタル種類ノ作品ニシテ競技花ト同一仕立ノモノハ凡テ競技花ノ部ニ編入ス新花ハ其年及其前年ノ實生トシ之ヲ左ノ二部ニ分ツ

一、厚物咲、厚物咲走付、太管咲

二、間管咲、細管咲
 同一種ノ新花數點アリタルトキハ就中最優秀ノ一點ヲ採リ他ハ參考花トス
 第三十三條 鉢植出品ハ其高さ鉢共三尺以上五尺五寸以下トス
 第三十四條 審査ノ結果ハ最上級ヲ優等トシ優等被ヨリ天位、地位、人位ノ三才花ヲ選ビ左ノ稱呼及順位ヲ以テ之ヲ表示ス
 天位、地位、人位、優等、一等、二等、三等

終

